

小学館版

少年少女

学習まんが

日本の歴史

監修/児玉幸多 学習院大学名誉教授

② 飛鳥の朝廷

●古墳(大和)時代 ●飛鳥時代

決定版





●まんが
あおむら 純

1941年、山口県に生まれる。アニメーションの作画などをへて現在にいたる。
歴史まんがの分野で大活やくし、少年少女のファンも多い。

2巻にご協力いただいた方がた

●監修
児玉幸多（学習院大学名誉教授）

●まんが
あおむら純
●シナリオ
西原和海

●考証
石井謙治（日本海事史学会名誉会長）
小泉和子（生活史研究所代表）
高田倭男（高田装束研究所所長）
玉井哲雄（千葉大学名誉教授）

●指導（教育現場の立場から）
高山博之（京都教育大学名誉教授）

●指導・執筆・協力
猪熊兼勝（京都橘大学名誉教授）
上原 和（成城大学名誉教授）
岡田威夫（共立女子高校）
黒沢 浩（南山大学人文学部教授）
たかしよいち（久留米信愛女学院短期大学名誉教授）
森 浩一（同志社大学名誉教授）
高橋千麹破

●取材協力
出雲大社 大阪城天守閣 大阪府教育委員会
広隆寺 国立飛鳥資料館 子持村教育委員会
五色塚古墳 埼玉県立さきたま資料館 神宮司庁 関ヶ原町歴史民俗資料館 高槻市教育委員会 近つ飛鳥博物館 中宮寺 東京国立博物館 奈良県高市郡明日香村 日本刺繡館 法隆寺 薬師寺

●イラスト・作画協力
うすいしゅん 大岡龍二 かたおか修壱
河合秀和 小山春夫 制野秀一 中西立太
深山のぼる
●装丁・レイアウト
功野真矢 佐野恒雄（C S J）
スタジオWOW！ 成澤哲夫（N E D）

●版下
大山デザイン 昭和ブライト タナカデザイン

●編集協力
エディトリアル・プランニング 銀杏社
真英社 鈴木多津子 風人社
●編集担当
柏原順太 宮部良雄 八巻孝夫
(五十音順・敬称略)

小学館版

少年少女

学習まんが

日本の歴史

2

あすか ちょうてい

飛鳥の朝廷

●古墳(大和)時代●飛鳥時代



この巻の歴史年表

●この巻には、青色の部分の時代・年代が、かかれています。

巻数	時代	年代
1	旧石器 (岩宿)	前3万
2	縄文	前1万
3	弥生	前1000
4	古墳	紀元1
5	飛鳥	100
6	奈良	200
7	平	300
8	安	400
9	鎌倉	500
10	南北朝	600
11	室町	700
12	戦国	800
13	安土桃山	900
14	江戸	1000
15		1100
16		1200
17		1300
18	明治	1400
19	大正	1500
20	昭和・前期	1600
21	昭和・後期～平成	1700

日本のおもなできごと

時代・文化

西暦

世界のおもなできごと

西暦

このころ、大和政権が中心となり、各地との連合が広まる。

古墳がきずかれ、埴輪がつくられる。

渡来人が、はたおり・鉄器づくりの技術・漢字などをつたえる。

倭王讚（仁徳天皇？）宋に使いをおくる。

前方後円墳がさかんにきずかれる。

倭王武（雄略天皇？）宋に使いをおくる。

磐井戦争がおこる。

百濟の聖明王が仏教をつたえる。

任那、新羅にほろぼされる。

多くの渡来人が大陸文化をつたえる。

蘇我氏、物部氏をほろぼす。

●ササン朝ペルシアがさかえ

る。



●589 ●476 ●395 ●386 ●375 ●313

隋が中国を統一する。

ローマ帝国、東西に分裂する。

北魏ができる。

ゲルマン民族が大移動する。

高句麗、朝鮮半島に勢力をひろげる。

西ローマ帝国がほろぶ。

古墳時代

古墳文化

●587

●562

●538(552)

●527

●478

蘇我氏、物部氏をほろぼす。

倭王武（雄略天皇？）宋に使いをおくる。

磐井戦争がおこる。

百濟の聖明王が仏教をつたえる。

任那、新羅にほろぼされる。

多くの渡来人が大陸文化をつたえる。

蘇我氏、物部氏をほろぼす。

倭王武（雄略天皇？）宋に使いをおくる。

磐井戦争がおこる。

百濟の聖明王が仏教をつたえる。

任那、新羅にほろぼされる。

多くの渡来人が大陸文化をつたえる。

蘇我氏、物部氏をほろぼす。

●589 ●476 ●395 ●386 ●375 ●313

飛鳥時代

白鳳文化

飛鳥文化

●701

●694 ●684 ●673 ●672 ●670 ●668 ●661 ●663 ●658 ●652 ●645 ●642 ●607 ●604 ●603 ●593

大宝律令を制定する。

律令政治がはじまる。

藤原京に都をうつす。

八色の姓が制定される。

飛鳥淨御原で大海人皇子が即位する。(天武天皇)

大海人皇子、大友皇子をほろぼす。(壬申の乱)

庚午年籍が作られるはじめる。(671)

中大兄皇子が即位する。(天智天皇)

都を大津京にうつす。

日本百濟救えん軍、白村江で唐・新羅連合軍に大敗する。

班田収授の法が行われる。

有間皇子、むほんの罪によりころされる。

中大兄皇子・中臣鎌足、蘇我氏をほろぼす。(大化の改新)

蘇我入鹿・勢力をふるう。

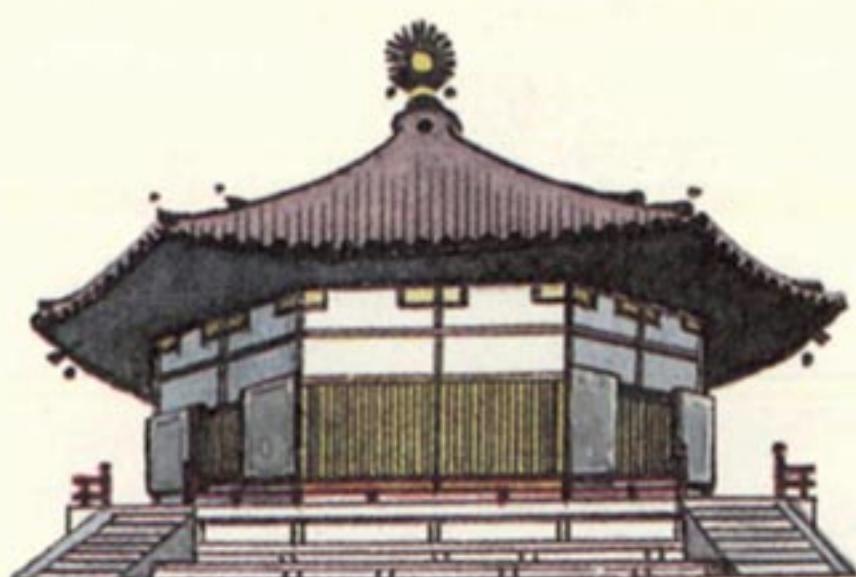
小野妹子を隋におくる。法隆寺がたてられる。

憲法十七条を制定する。

冠位十二階の制をつくる。

聖徳太子、推古天皇の摂政となる。

天皇中心の国づくりをめざす。



●698

●668

●661

●629 ●618 ●610

渤海ができる。



高句麗がほろぶ。

イスラム帝国が確立する。

隋がほろび、唐がおこる。
玄奘三蔵がインドに旅立つ。

はじめに

おおきみとうじょうてんのうちゅうしんせいじ 大王の登場から天皇を中心とする政治へ



◆クニグニのまとまり

第一卷では、旧石器（岩宿）時代から弥生時代にかけて、人びとがどのような生活をおくつてきたかを見てきました。

そして、時代は古墳時代へとうつります。

4世紀のころ、日本はまだ、いくつもの小さなクニにわかれています。それらのクニを支配していたのは、豪族たちでした。

やがて近畿地方で、こうしたクニグニを一つにまとめようとする動きが生じてきました。その中心となつたのが、「大王」とよばれる豪族です。

5世紀から6世紀にかけ、大王は力をのばしていきました。大王は、のちに「天皇」とよばれるようになります。

◆聖徳太子の登場

みなさんも、「聖徳太子」という人の名は聞いたことがありますね。

「うん。法隆寺をたてた人だよね。」
「大天才だつたんでしょう。」

「一度に、何人もの人が話すことを聞き分けられたんだって……。」

——そう。みなさん、よく知っていますね。

聖徳太子は、7世紀のはじめ、飛鳥時代に活やくした人で、仏教を守り育てるのに力をつくしました。そのため、今日でも、太子は多くの人びとに尊敬されていますし、その一生にまつわる伝説も少なくありません。

しかし、太子がもつとも努力したのは、天皇を中心とする政治をおし進め、この国をしつかりとまとめていきたいということでした。

◆大陸からの文化と新しい政治

聖徳太子はまた、すぐれた外交家でもありました。隋(今の中華人民共和国)との国交をもとめ、大陸の文化や制度を学ぼうとしたのです。

仏教も、6世紀のなかばに朝鮮半島から伝わってきたのでしたが、この第二卷であつかう時代(4~7世紀)の日本は、政治や文化の面で、中国や朝鮮半島とたいへん深いかかわりをもつていました。

今も全国各地に残っている古墳(豪族の巨大な墓)をつくる技術にも、大陸からの影響がうかがわれます。漢字も、海のむこうから渡ってきたのでした。東アジアの大好きな歴史に動かされつつ、中大兄皇子や中臣鎌足による大化の改新、壬申の乱をへて実施された天武・持統天皇による律令体制強化などによつて、日本という国も育つていくのです。

もくじ

- この巻の歴史年表
- はじめに
- おもな登場人物



第3章



第2章



第1章

大海人皇子、吉野へ
蘇我氏の悲劇
有間皇子の悲劇
さかえる蘇我一族

大化の革新

聖徳太子の政治
大陸への使者・遣隋使
大画面・飛鳥の法興寺

佛教、百濟よりつたわる
蘇我氏と物部氏の争い

聖徳太子と佛教伝来

古墳づくりにかりだされる人びと
古墳ができるまで
大画面・古墳をきずく
磐井戦争

大王と古墳

2

飛鳥の朝廷

●古墳(大和)時代●飛鳥時代



第4章

大海人皇子、兵をあげる
瀬田川の戦い
大画面・藤原宮
律令政治の幕あけ

壬申の乱

おもな登場人物

※この巻に登場するおもな人物を
紹介します。登場人物をくわしく
知るための事典として、役立たせ
てください。

第2章



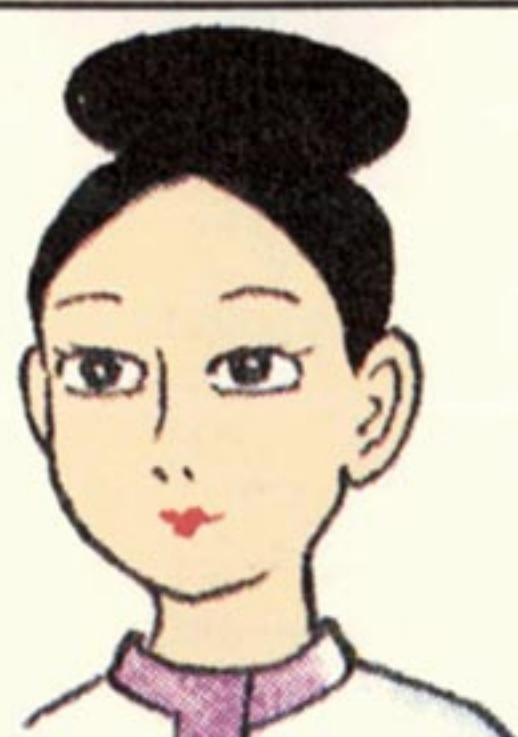
冠位十二階を定め、憲法十
七条をつくる。遣隋使を派遣
して仏教を深く信仰した。

第1章



繼體天皇(男大迹王)

推古天皇



わが國最初の女帝。欽明天皇の皇女。聖德太子を攝政にして政治に新しい試みを行う。

小野妹子



聖德太子の命令で遣隋使として隋の国へ派遣され、文化の交流に大きな役割を果たす。

蘇我馬子そがのうまこ



蝦夷の父。^{えみし}敵対関係にあつ
た物部氏をたおして、^{ちか}
^{ものべし}法興寺^{ほうこうじ}
(飛鳥寺) を完成させる。

九州の豪族・磐井を鎮圧し、
大政権(朝廷)の国内統一を
おしすすめる。

筑紫國の豪族として九州に大きな勢力をもち、大和政權と対決し、ころされる。

継体天皇など五代の大王に
大連としてつかえ、大きな勢い
を持った中央豪族。

韓(朝鮮半島中・南部地方の昔のよび名)の國の渡來人。土木工事の技術を日本に伝える

磐井



(?~?年) 大伴金村

韓の国の技術者



第4章

大友皇子と戦い、天皇とな
る。淨御原律令を制定し、天
皇中心の律令体制をかためる。



天武天皇
(皇子)
(六八六年)

唐の長安をまね、わが国は
じめての都城藤原京をつくる。
辺境の地にも仏教を広める。



持統天皇
(六四五~七〇二年)

天智天皇の長男。おじの大
海人皇子と王位をあらそい
(壬申の乱)、やぶれる。



大友皇子
(六四八~六七二年)

七世紀後半の『万葉集』最
大の歌人として活やく。『柿本
朝臣人麻呂歌集』をのこす。



柿本人麻呂
(?~?年)



第3章

蘇我氏をほろぼし、大化の
革新を行う。近江令を公布し
て戸籍(庚午年籍)をつくる。



中大兄皇子に協力し、蘇我
氏をたおす。藤原の姓をあた
えられ、藤原氏の祖となる。



天皇にかわって国政をとり
強力な蘇我氏の勢力を背景に
思うままの政治を行う。



山背大兄王の一族をほろぼ
す。大化の革新で、飛鳥板蓋
宮で暗殺される。



天智天皇
(中大兄皇子)
(六二六~六七一年)

藤原(中臣)鎌足
(六一四~六六九年)

蘇我蝦夷
(六四五~六年)

蘇我入鹿
(六四五~六年)

小学館 eBooks

だい しょう
第一章

おお きみ こ ふん
大王と古墳
—古墳時代—

* 大王：古代の天皇の呼び名。

そのころ（四世紀）の日本の様子については、よくわかつていませんが、奈良盆地では、*大王を中心には豪族たちがまとまって政治を行つていたようです。これを大和政權といいます。

奈良盆地か。

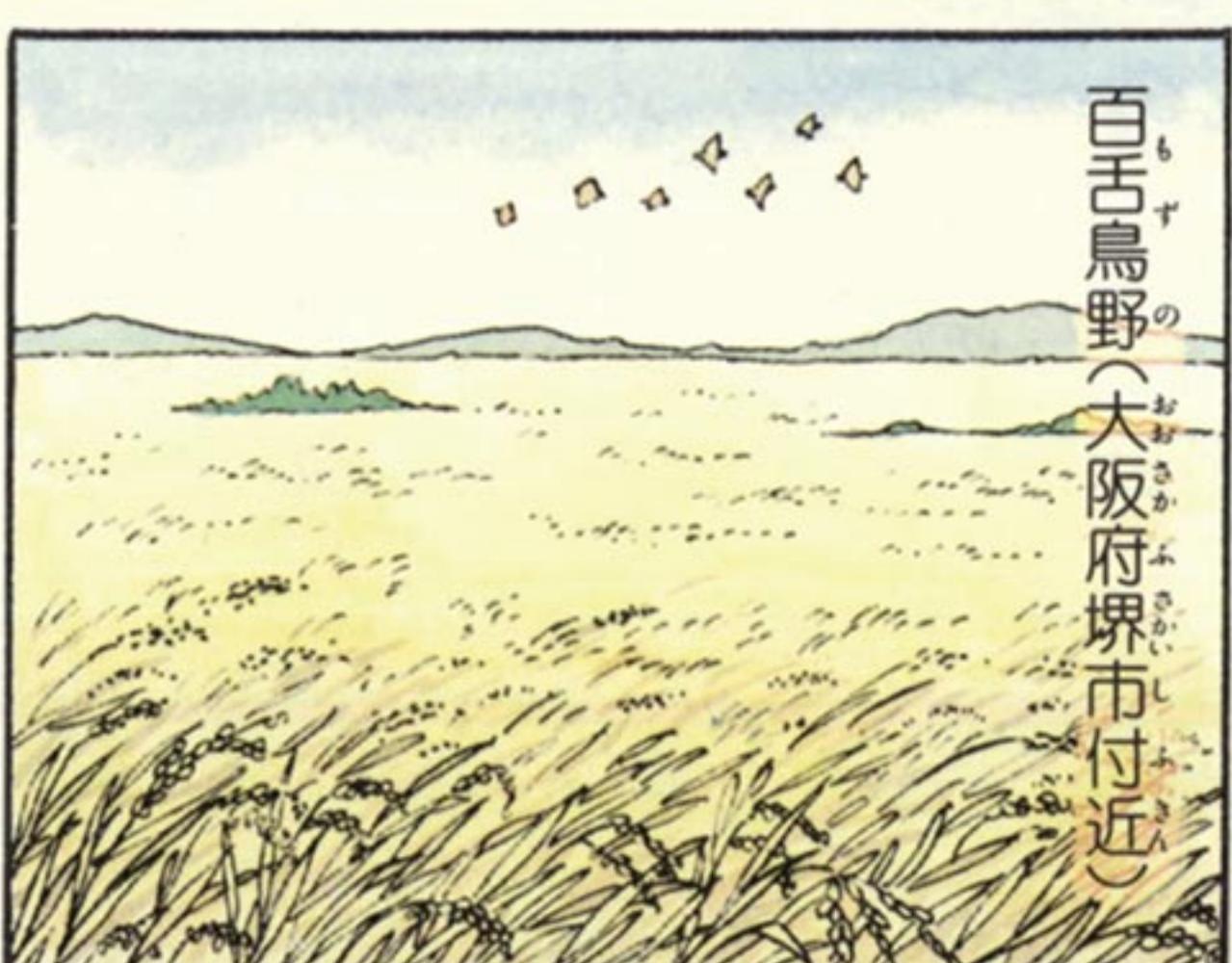
* 二上山：奈良県と大阪府の境にある山。「にじょうさん」ともいう。

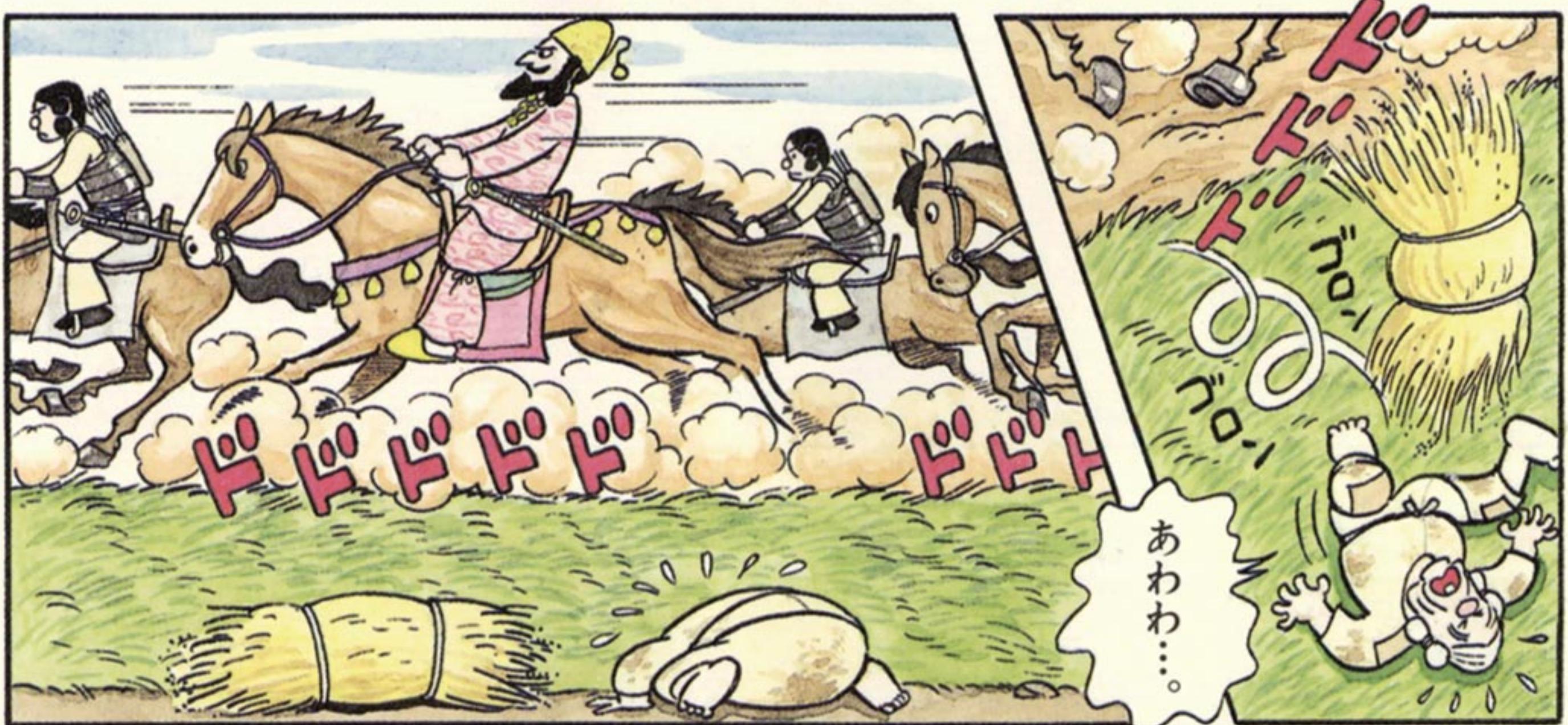
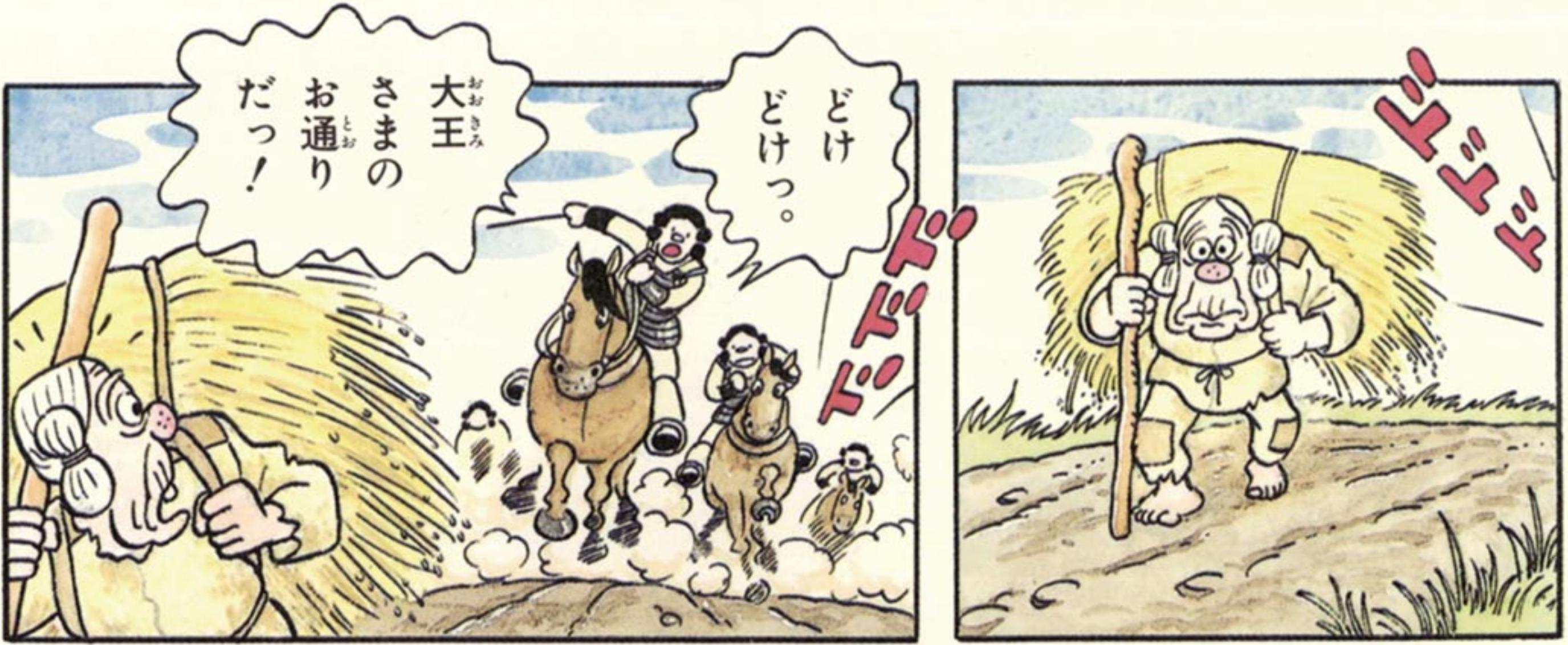
大和政權は、五世紀になると、まわりの豪族をしたがえて、各地に勢力を広げていきます。

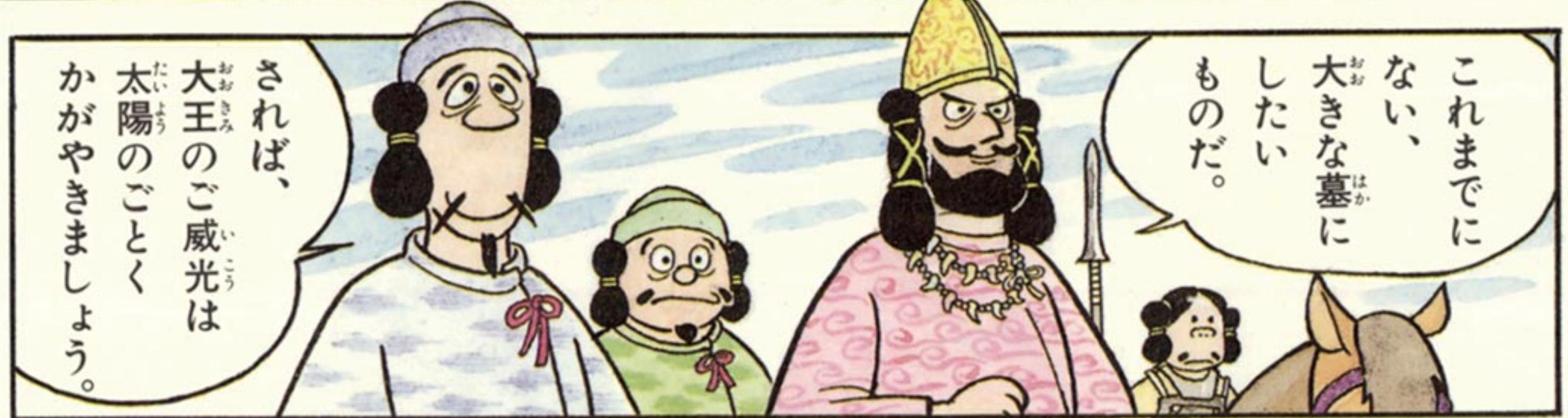
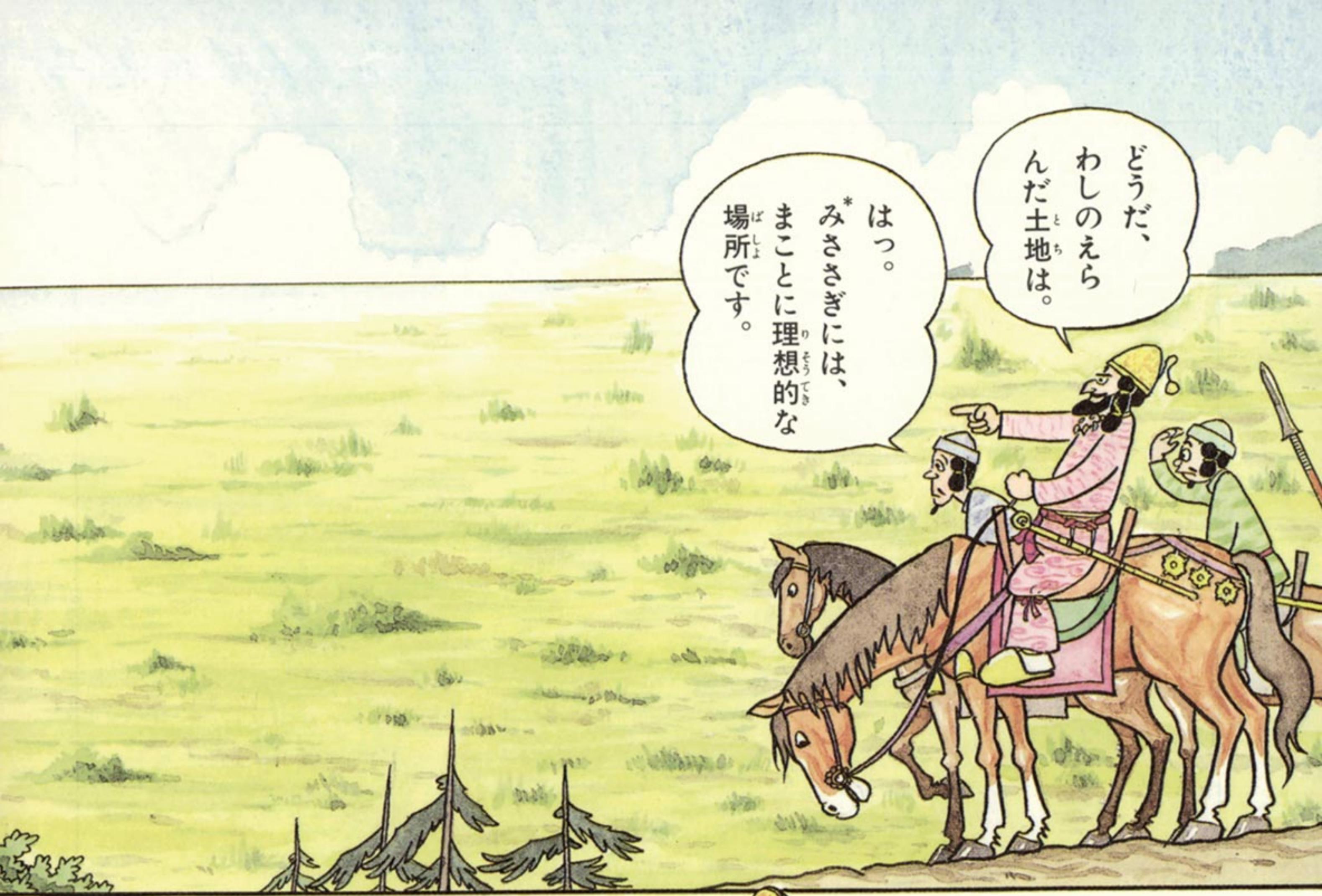
*二上山の向こうは大阪平野。

さあ、もうひとだぞ。
がんばり

百舌鳥野（大阪府堺市付近）







*みささぎ…天皇や皇后の墓。

ここでは大王の墓。



おおきみの墓。

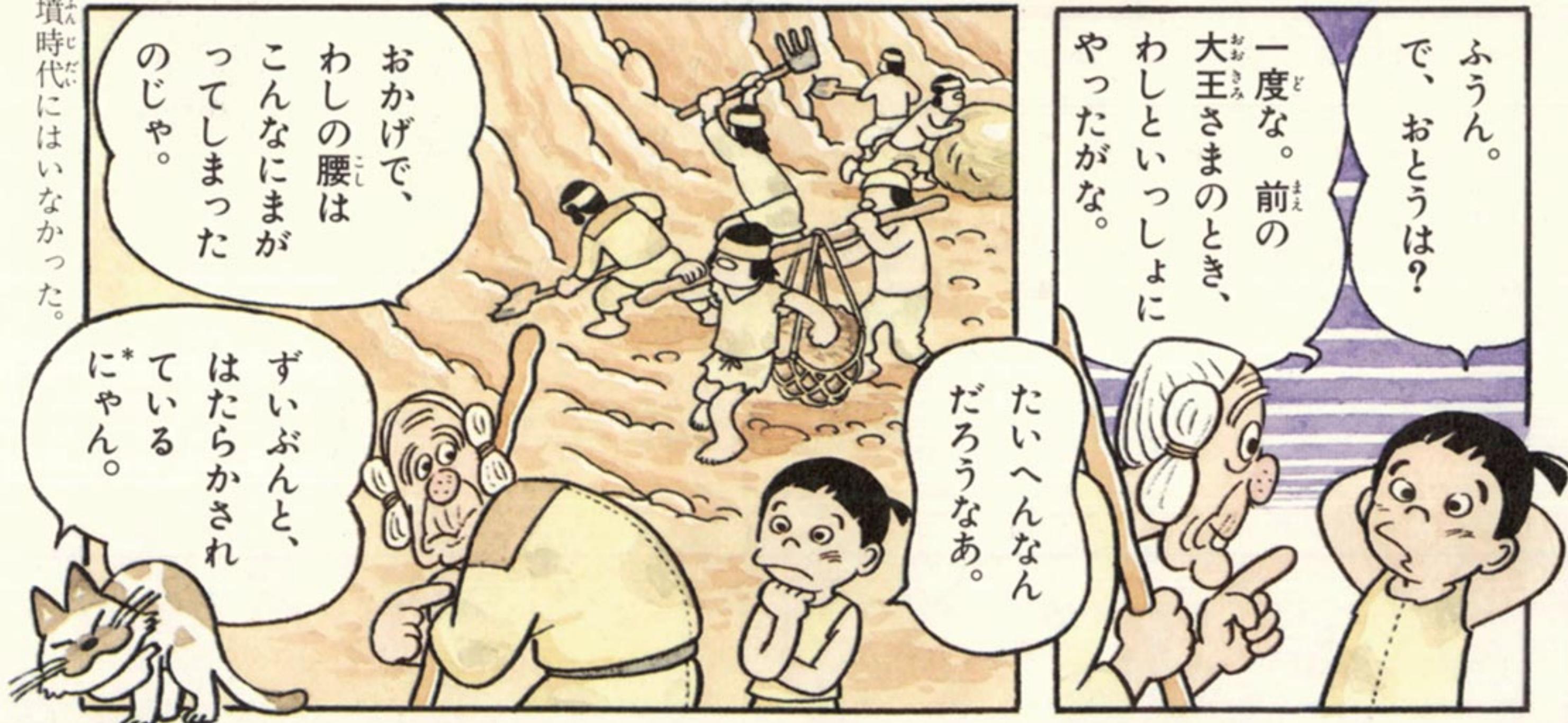




*ムラ長：ムラのかしら。



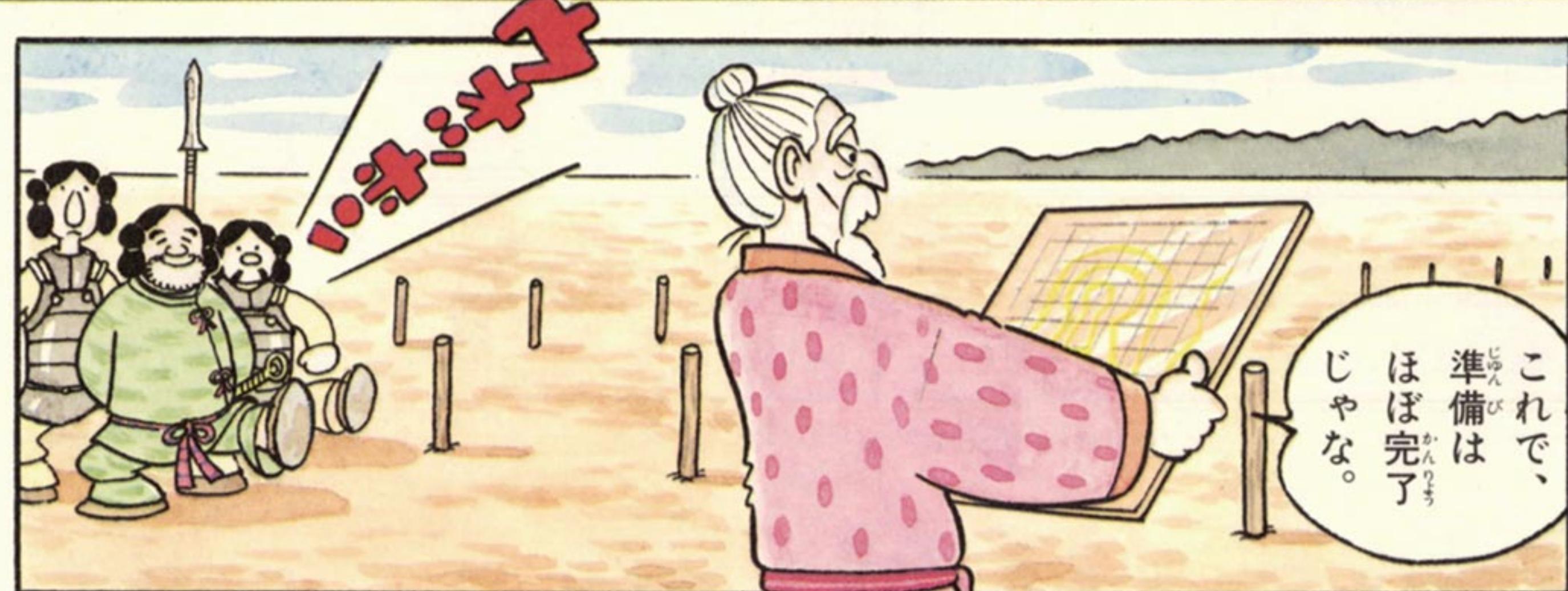
* 実際には、ネコは古墳時代にはいなかつた。



しばらく後のち

ここに、
みささぎが
つくられる
んだね。
広いなあ。

だいぶ、
はかどつて
おるな。



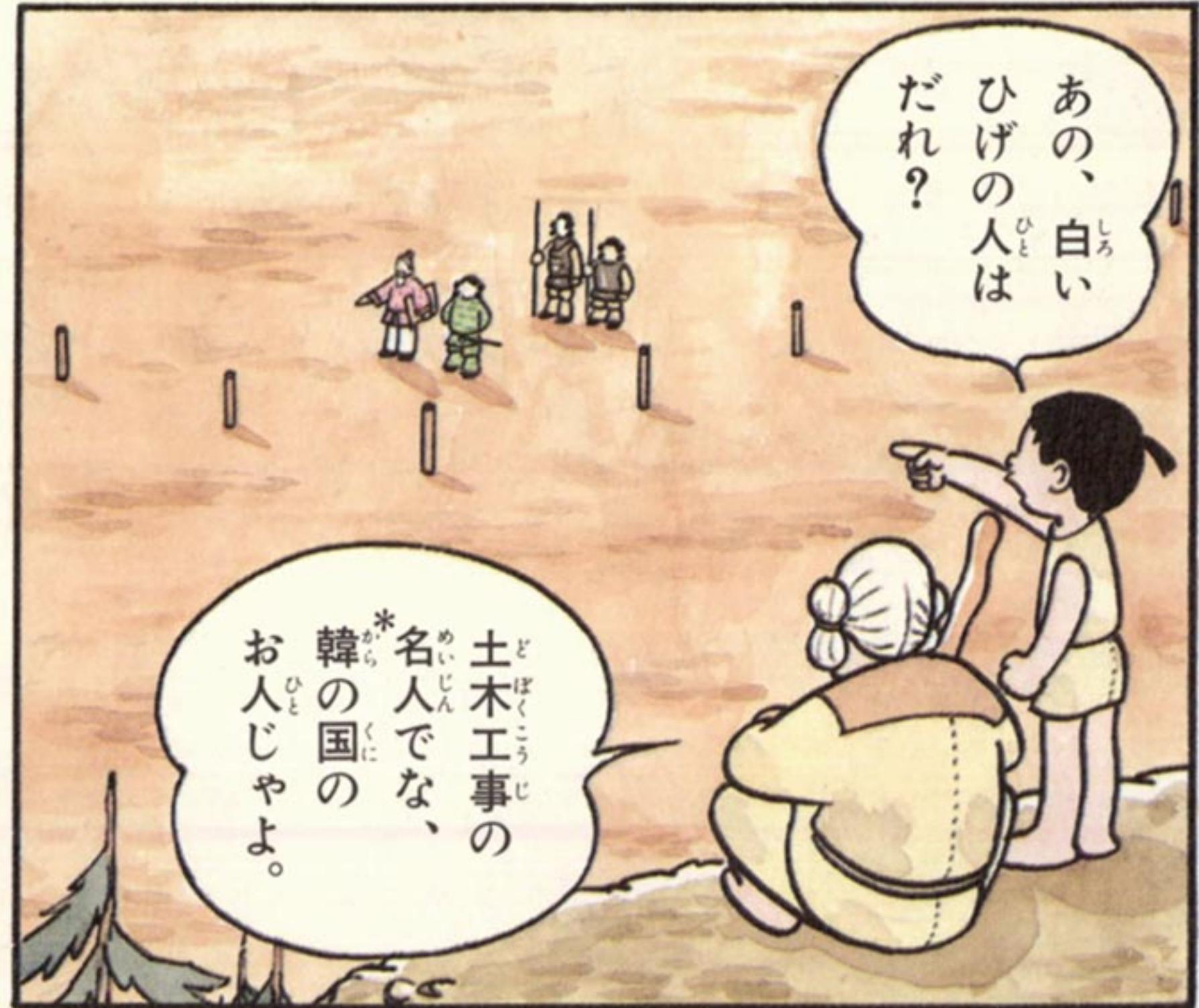
*土師部…土器や埴輪を作る人びとの集団。

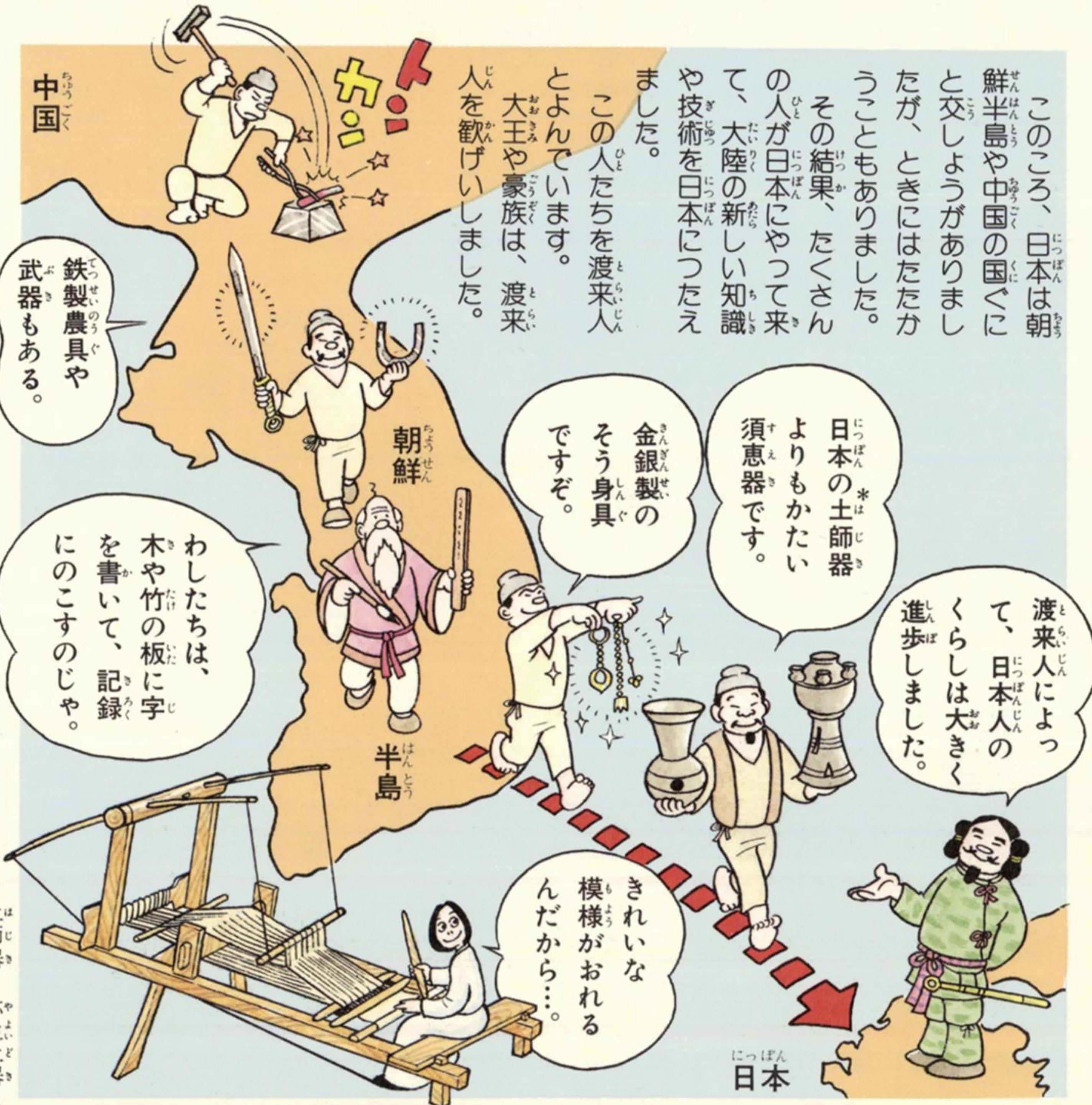


*埴輪…ねん土で作って焼き上げた家や馬や円筒など。

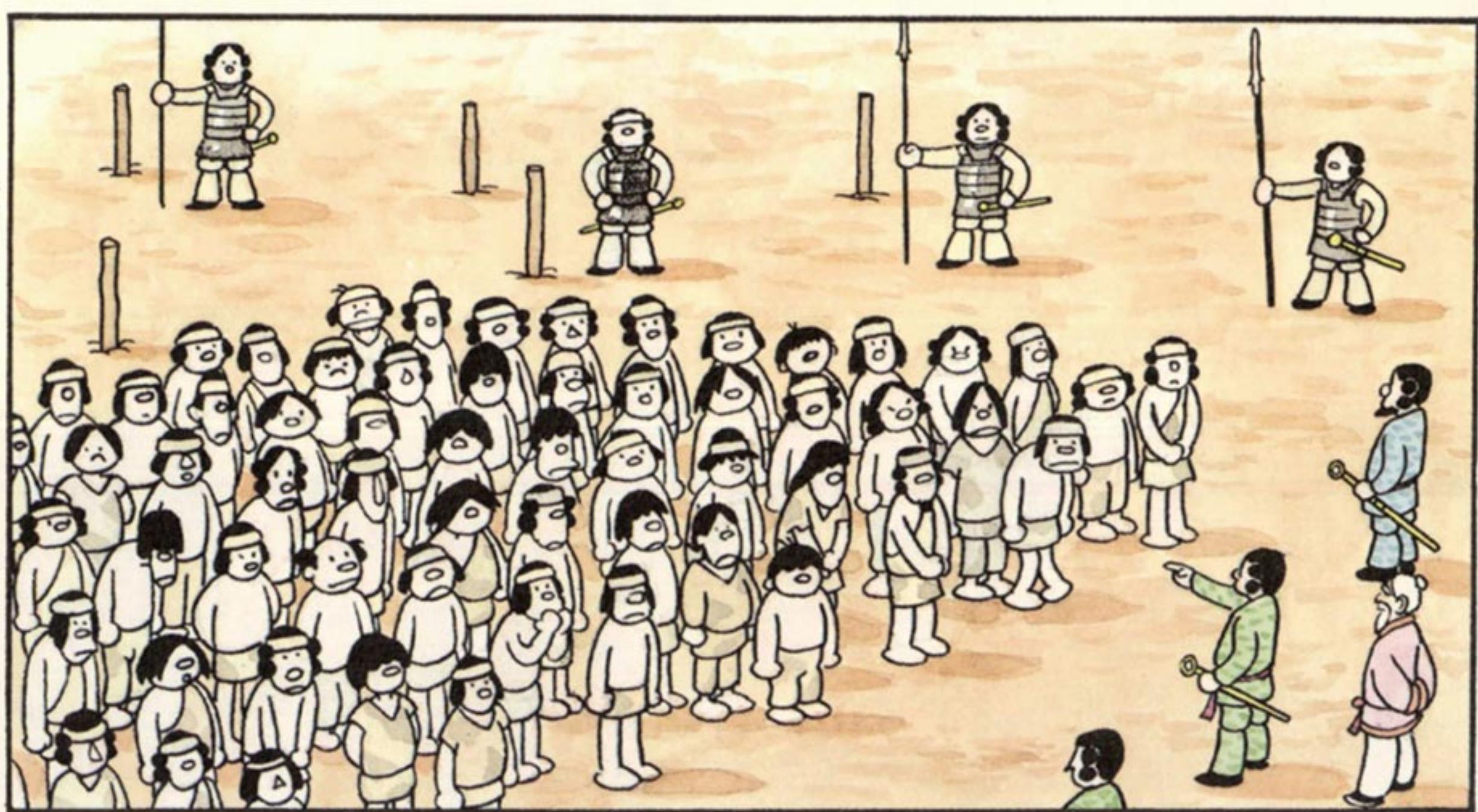


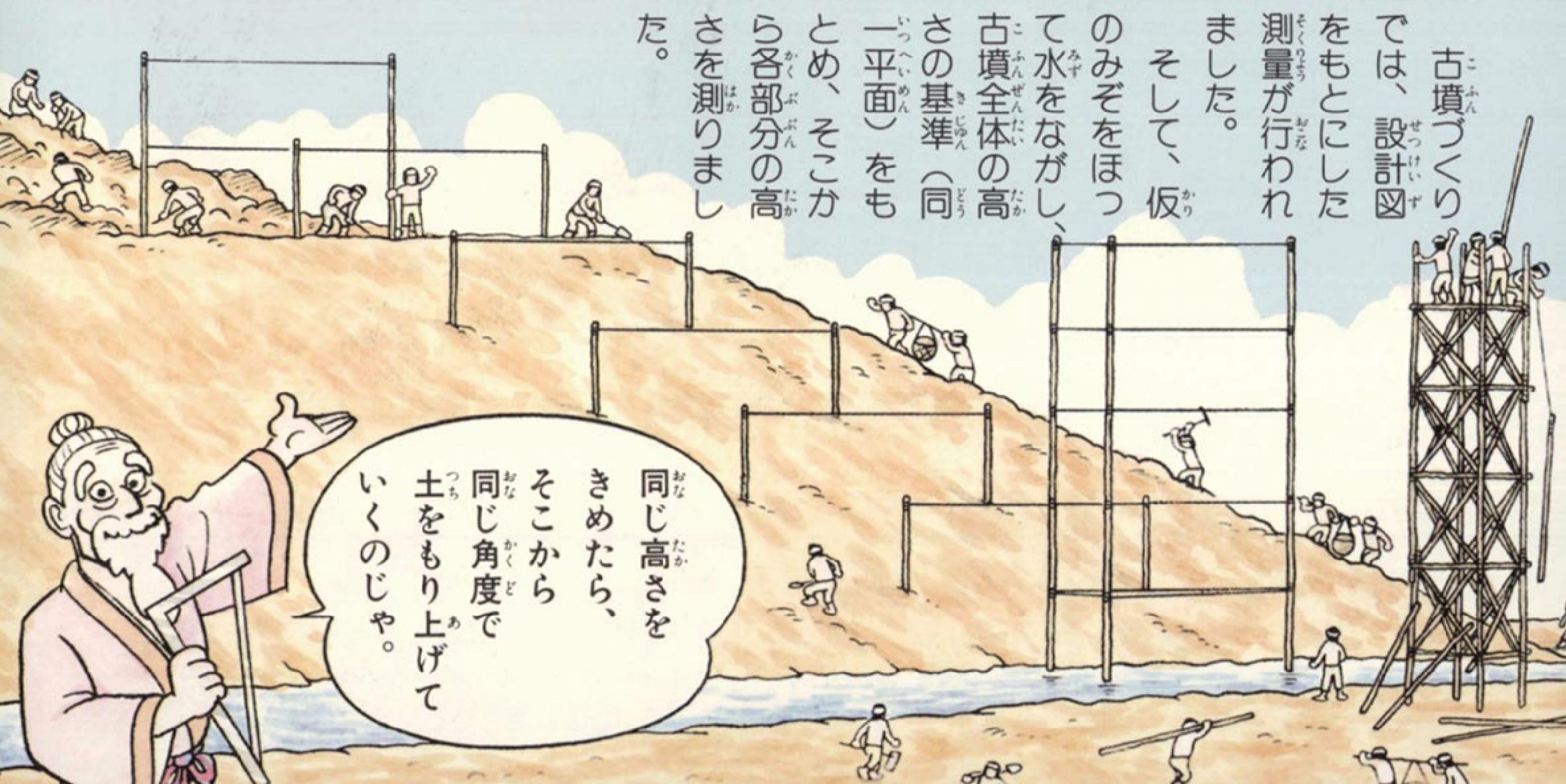
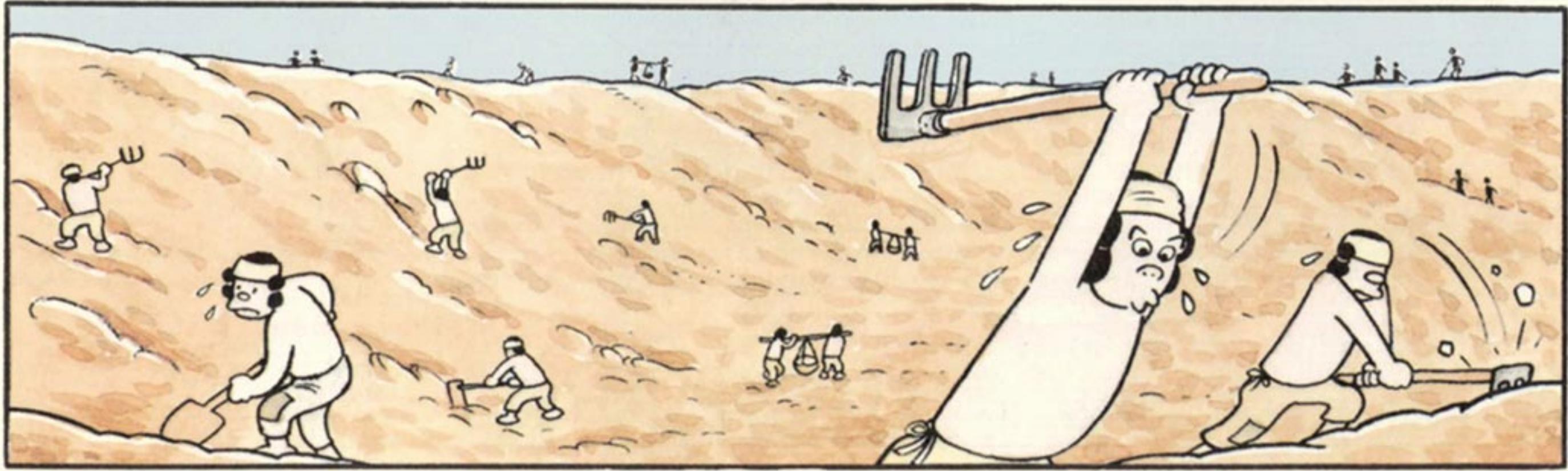
*韓…朝鮮半島中・南部地方の昔のよび名。

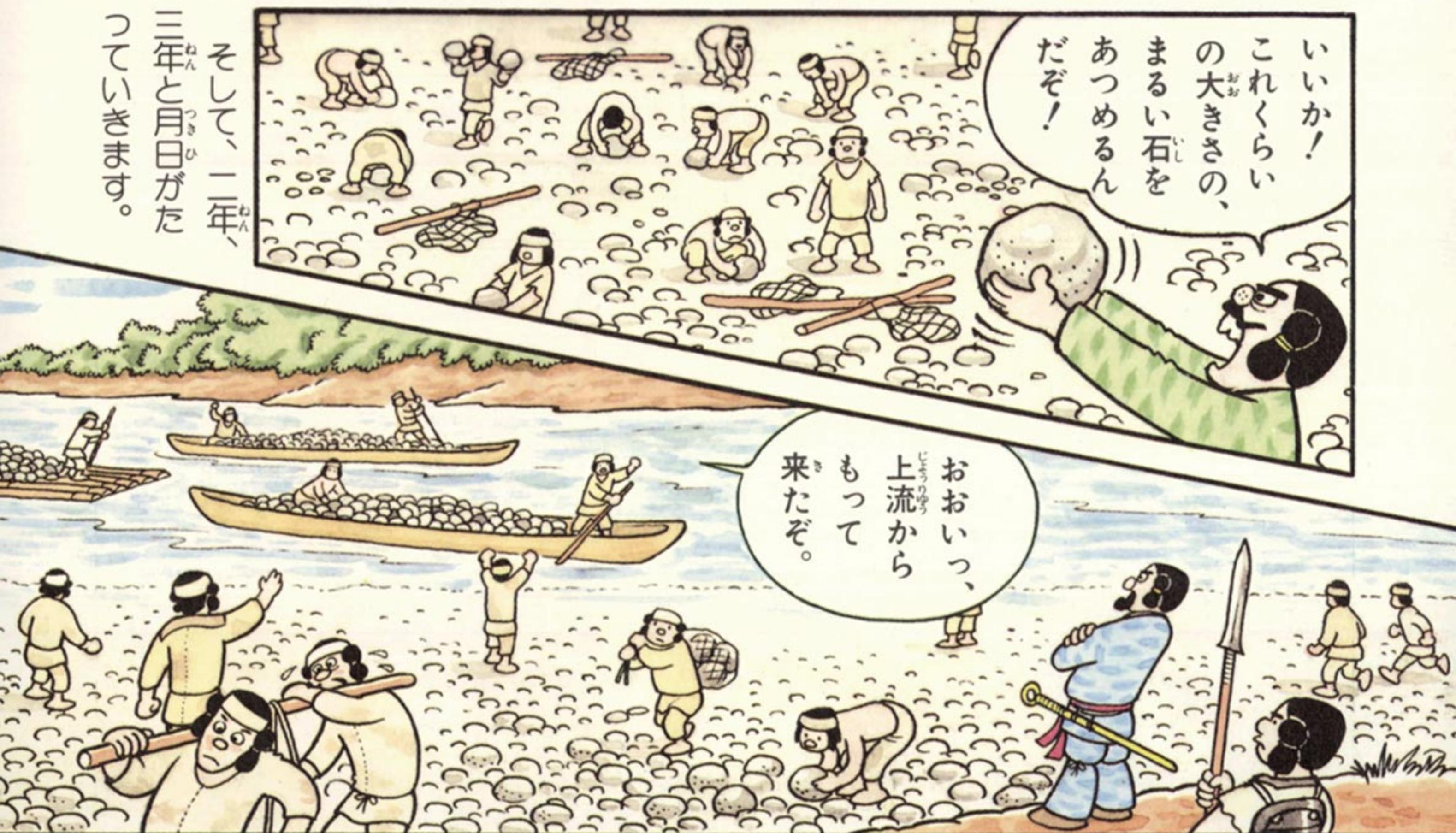
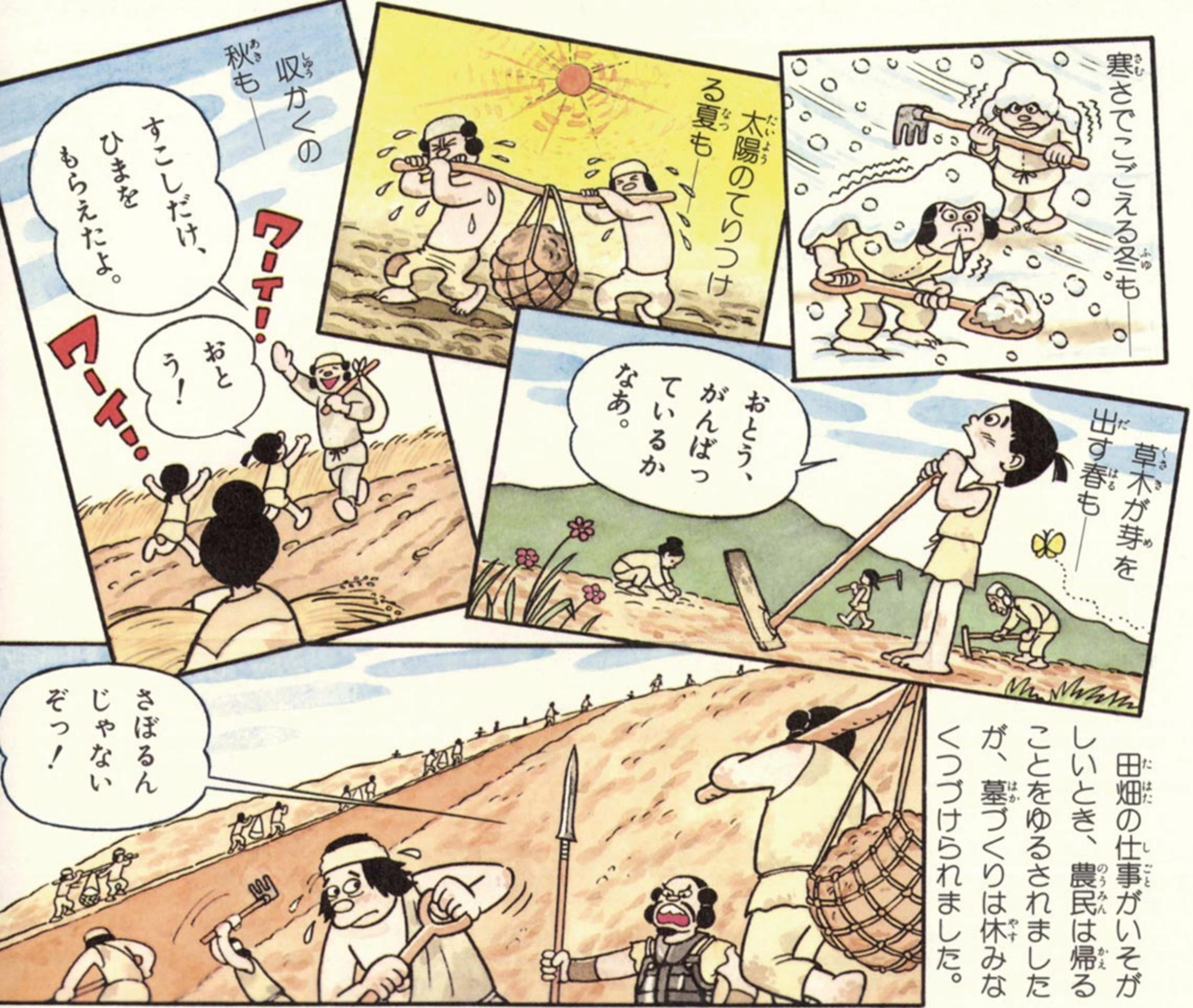




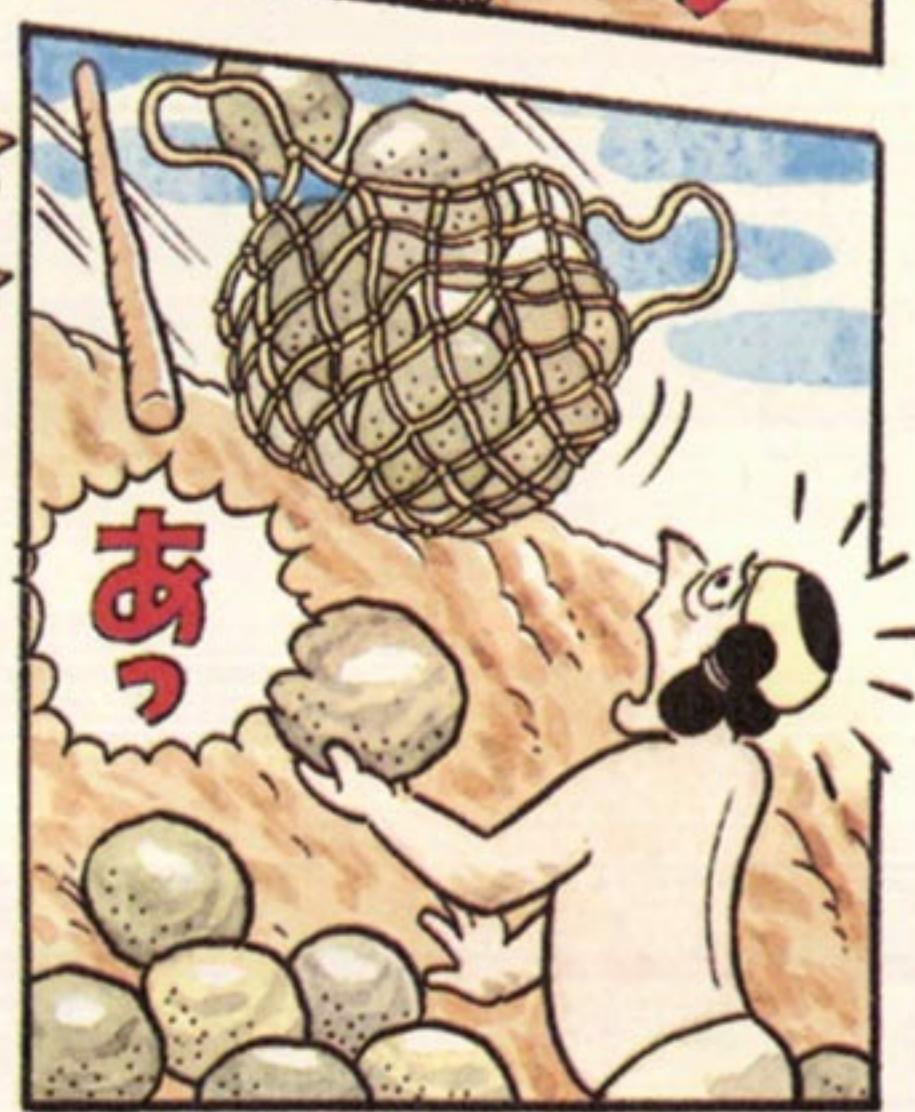
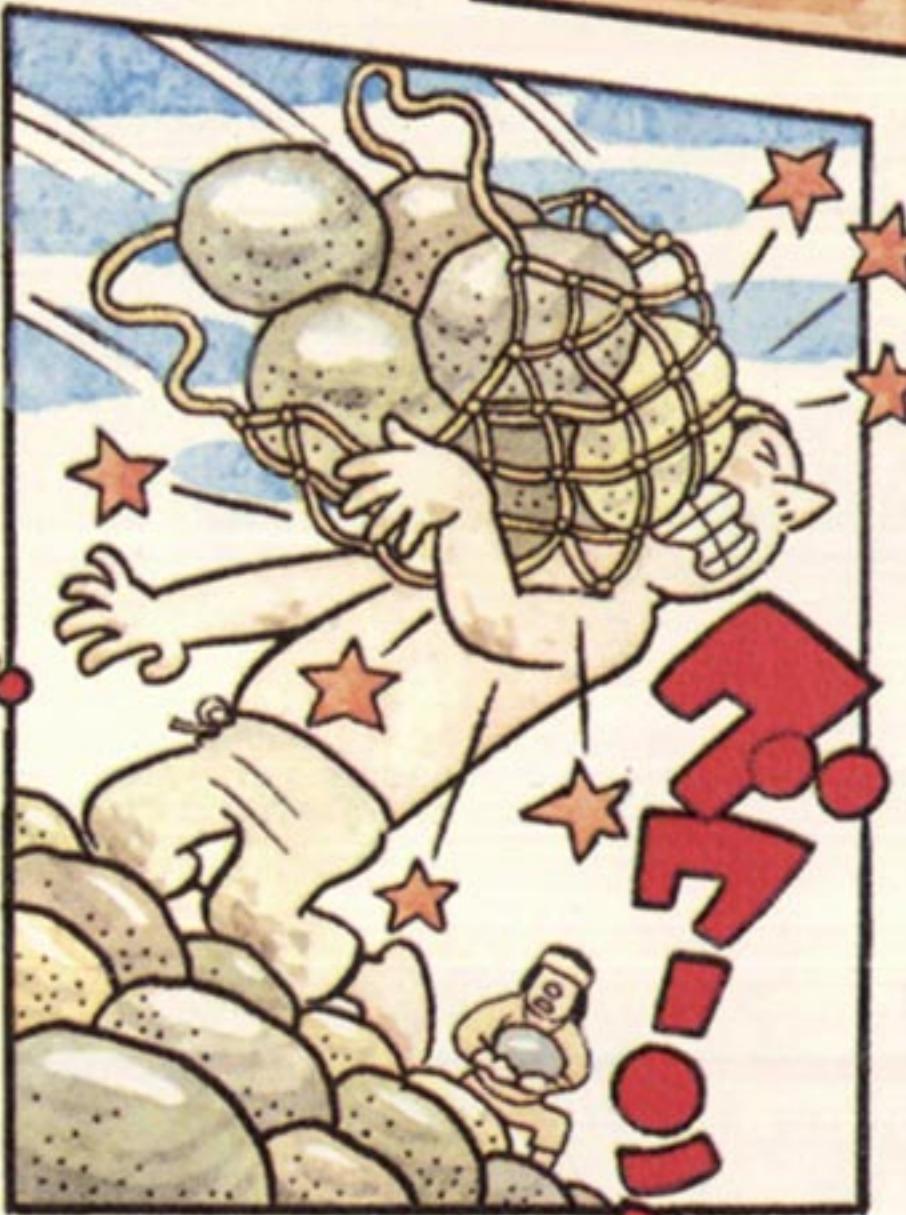
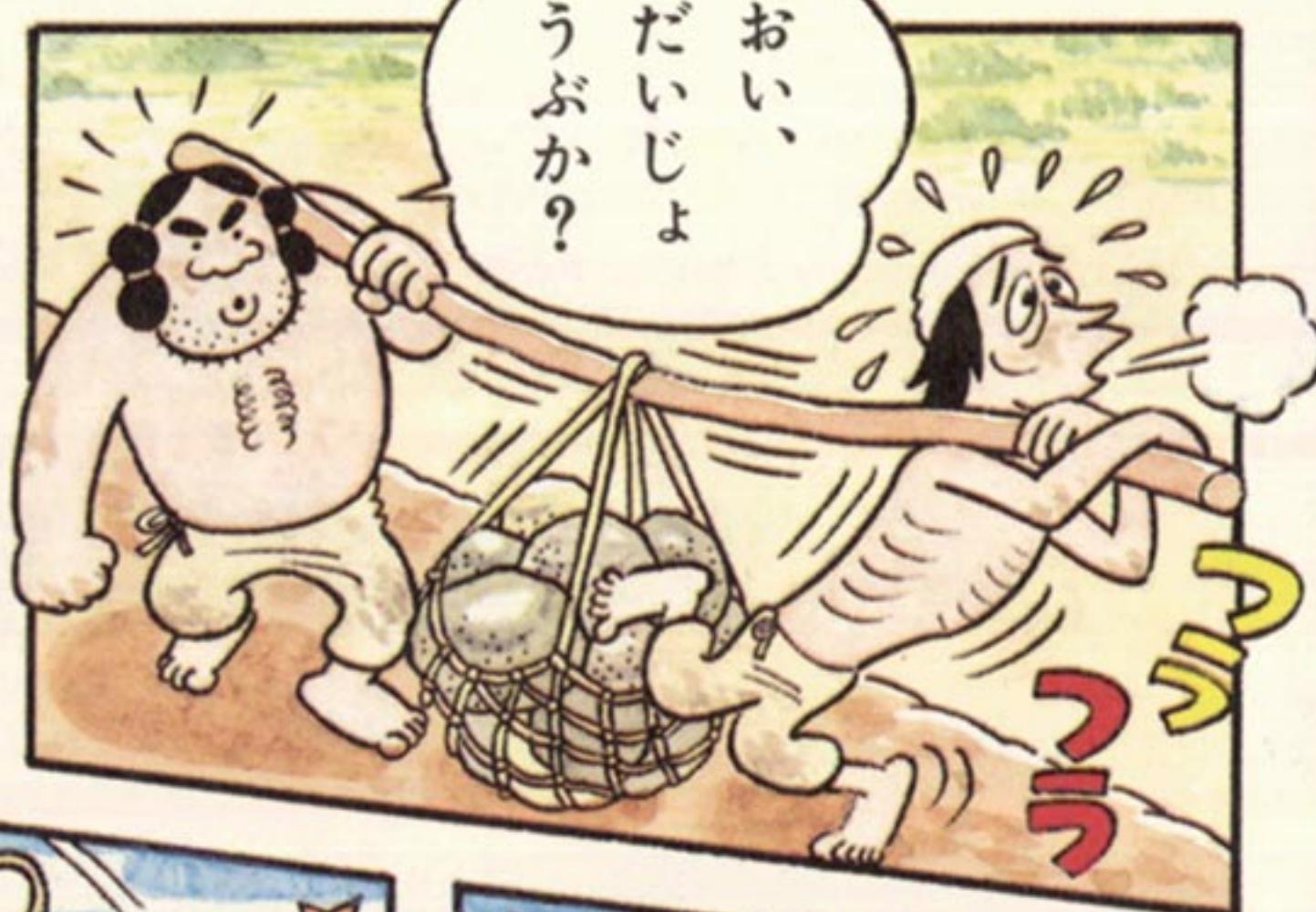
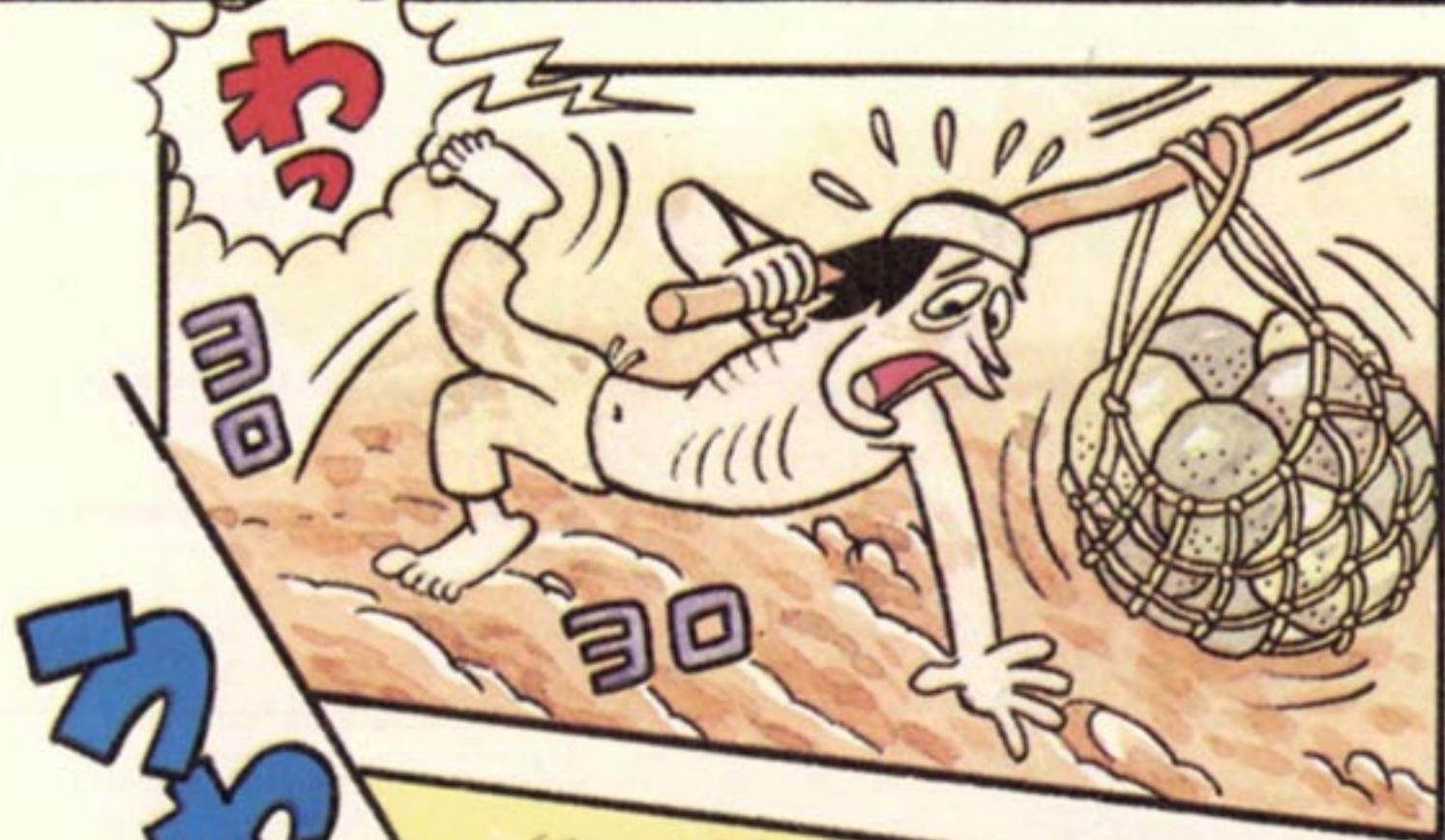
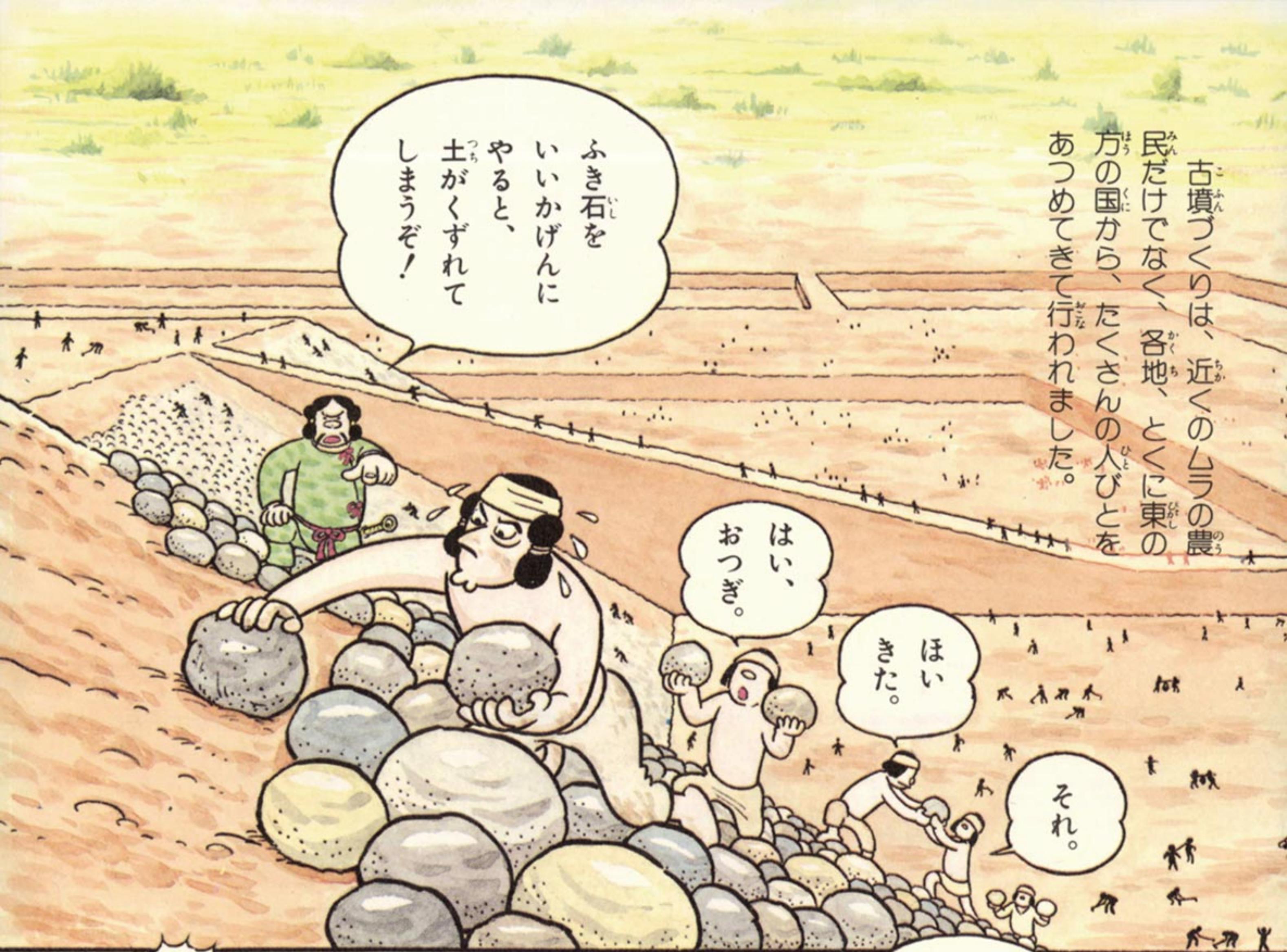
*土師器：弥生土器につづいて四世紀ごろから作られた土器。

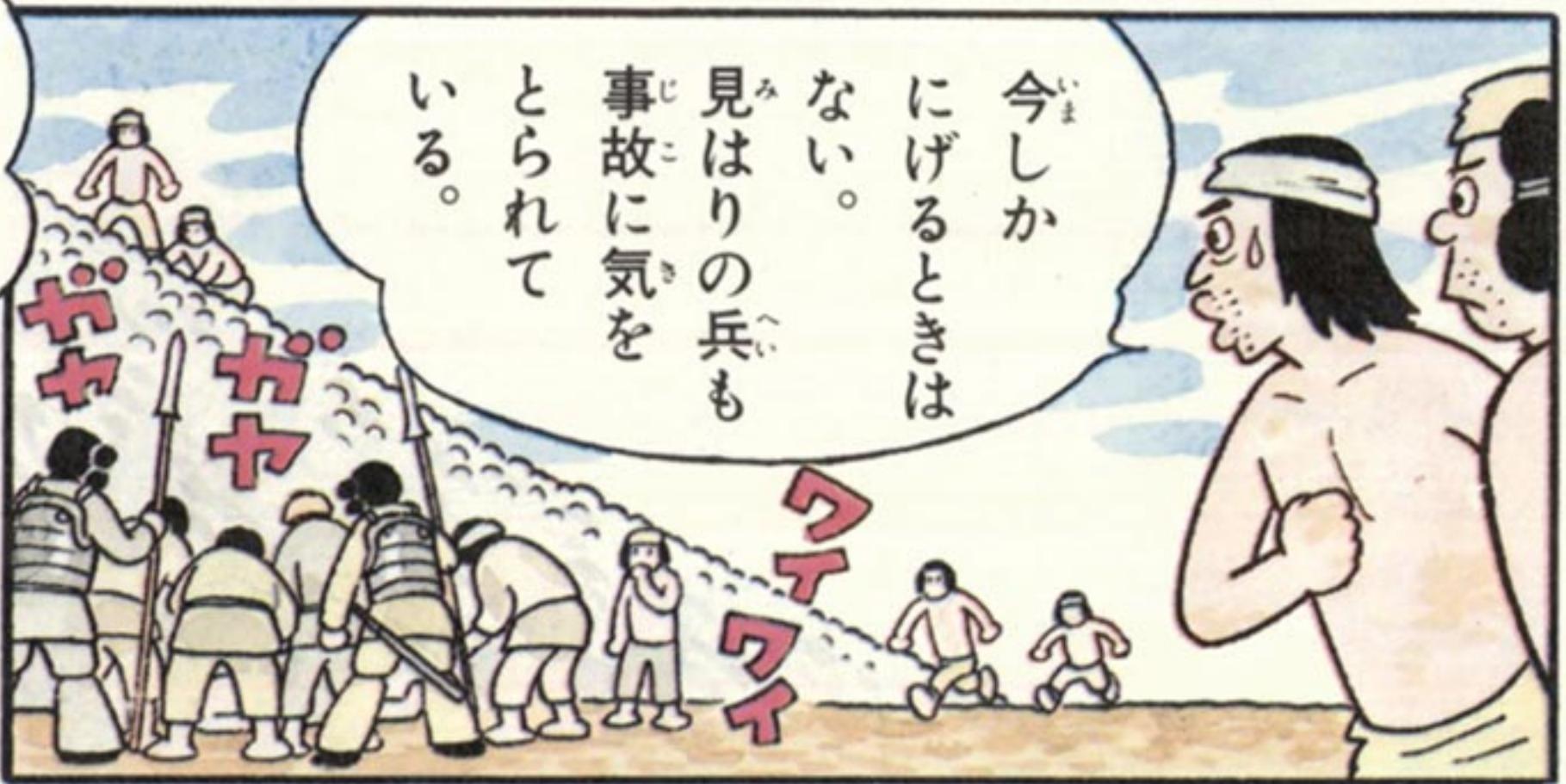
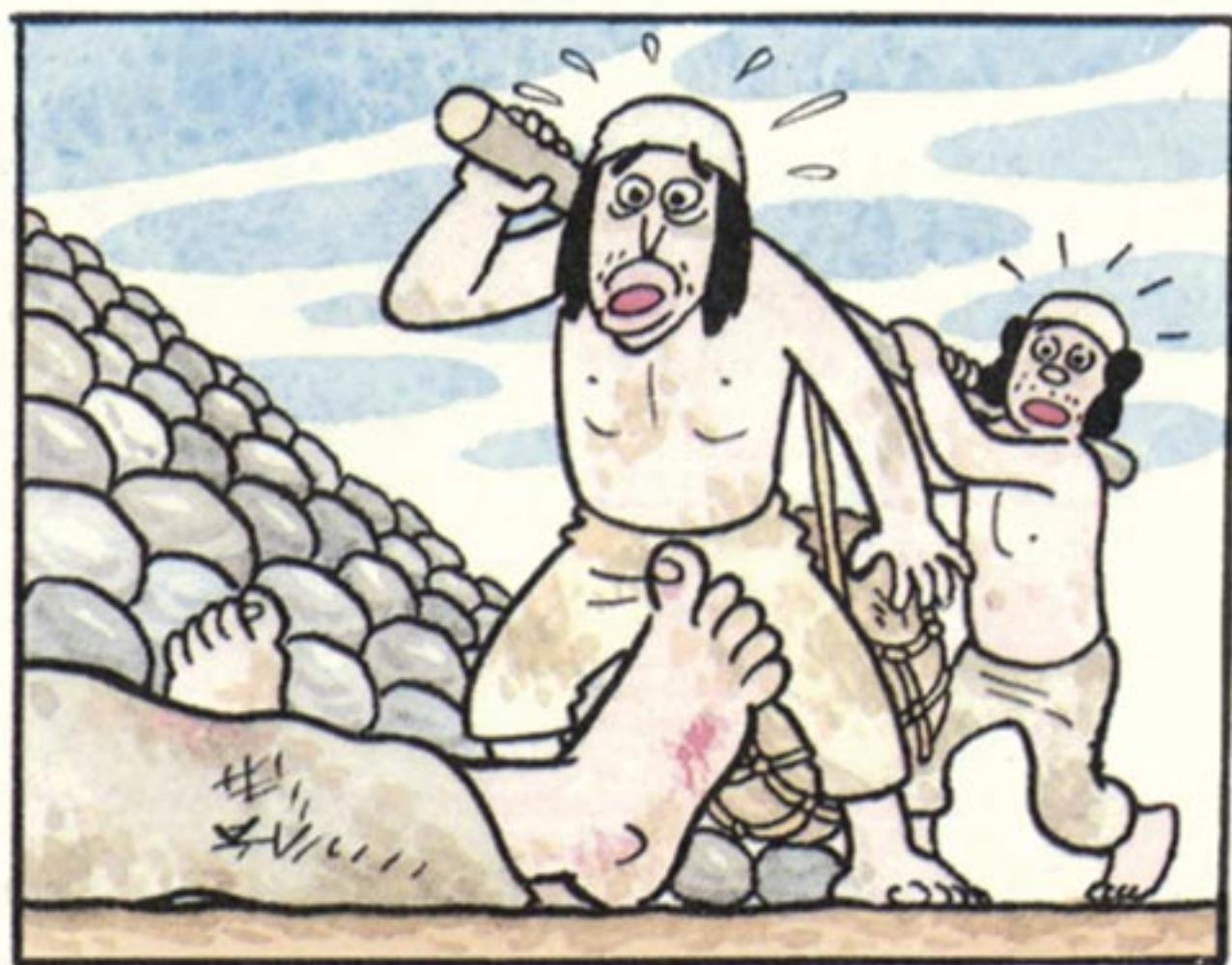






古墳づくりは、近くの△の農民だけでなく、各地、とくに東の方の国から、たくさんの人びとをあつめてきて行われました。





このように、けがをしたり、病気になりましたつたり、にげ出したりする人もいましたが、人びとの労働は、くる日もくる日もつづけられました。

すでに、数年の月日がたとうとしています。



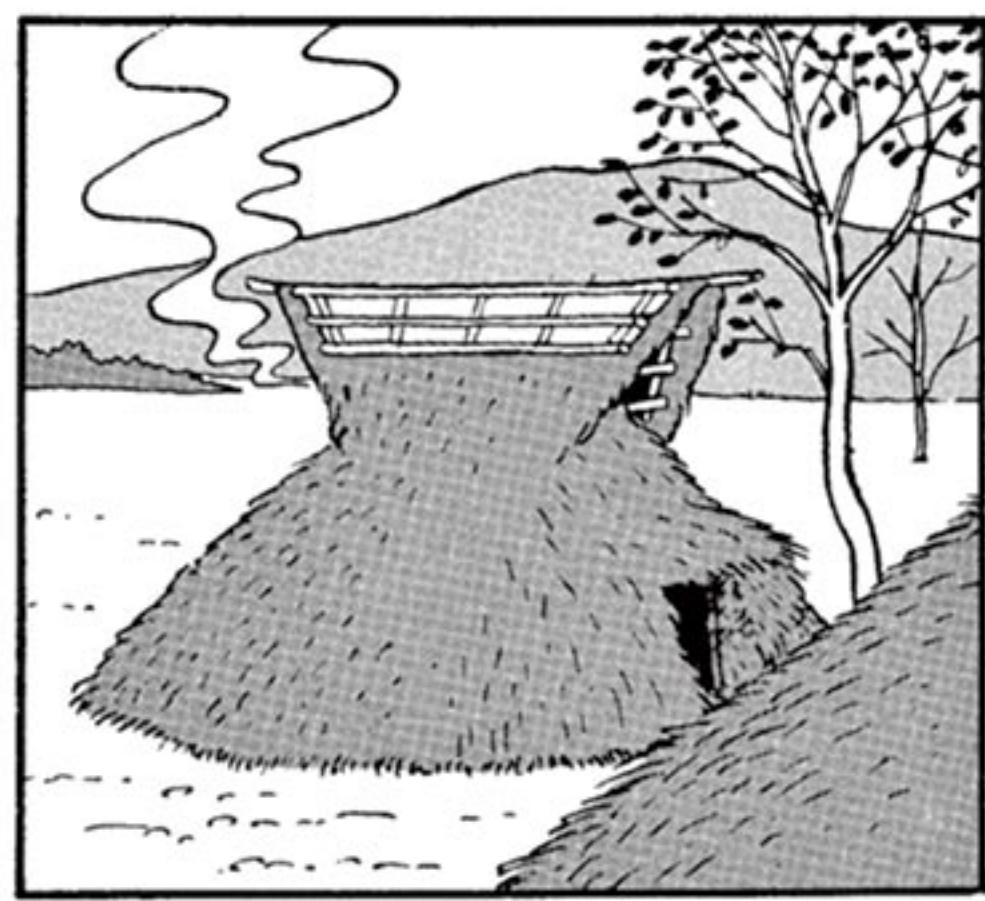
仕事場
士師部の
ここは、

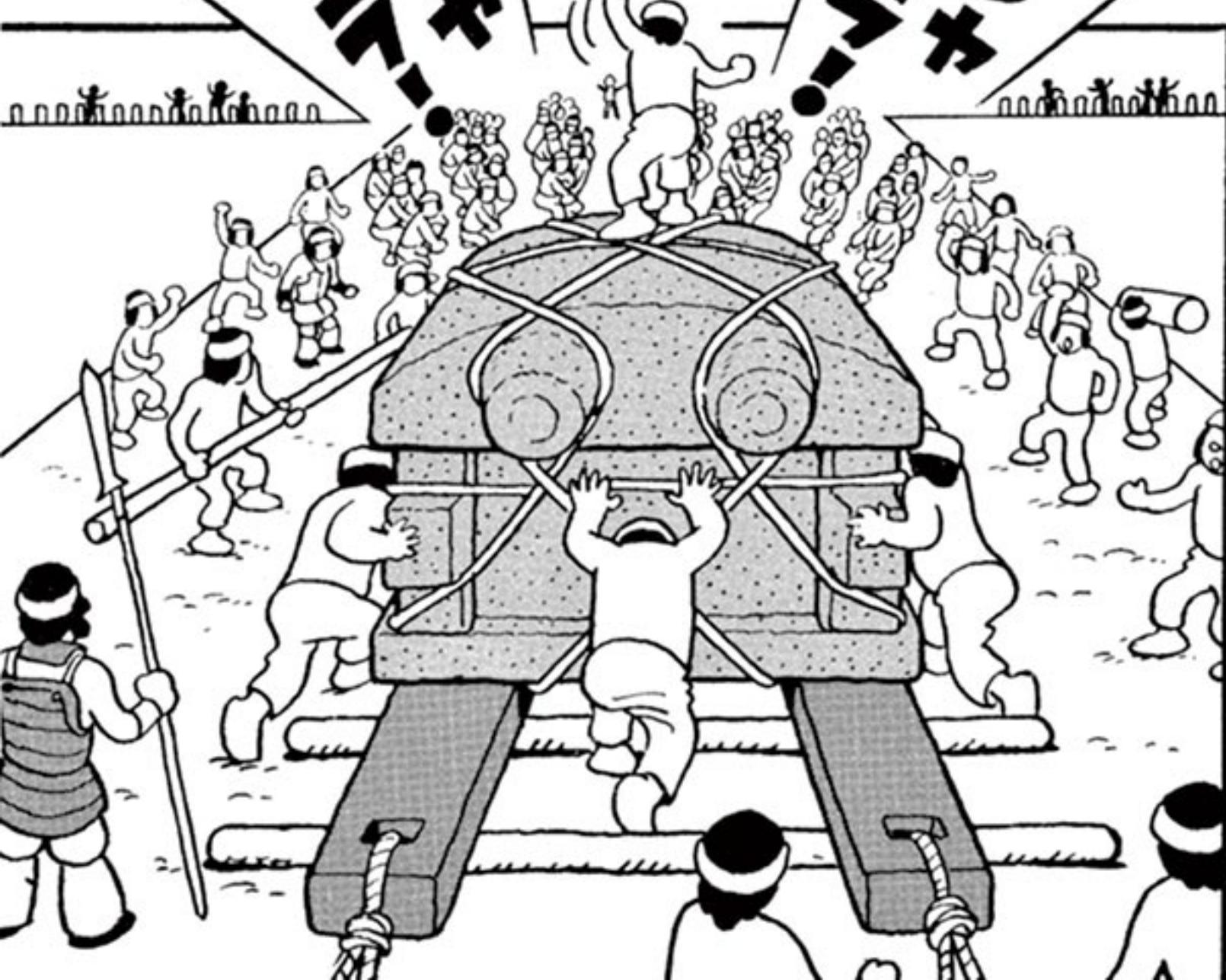
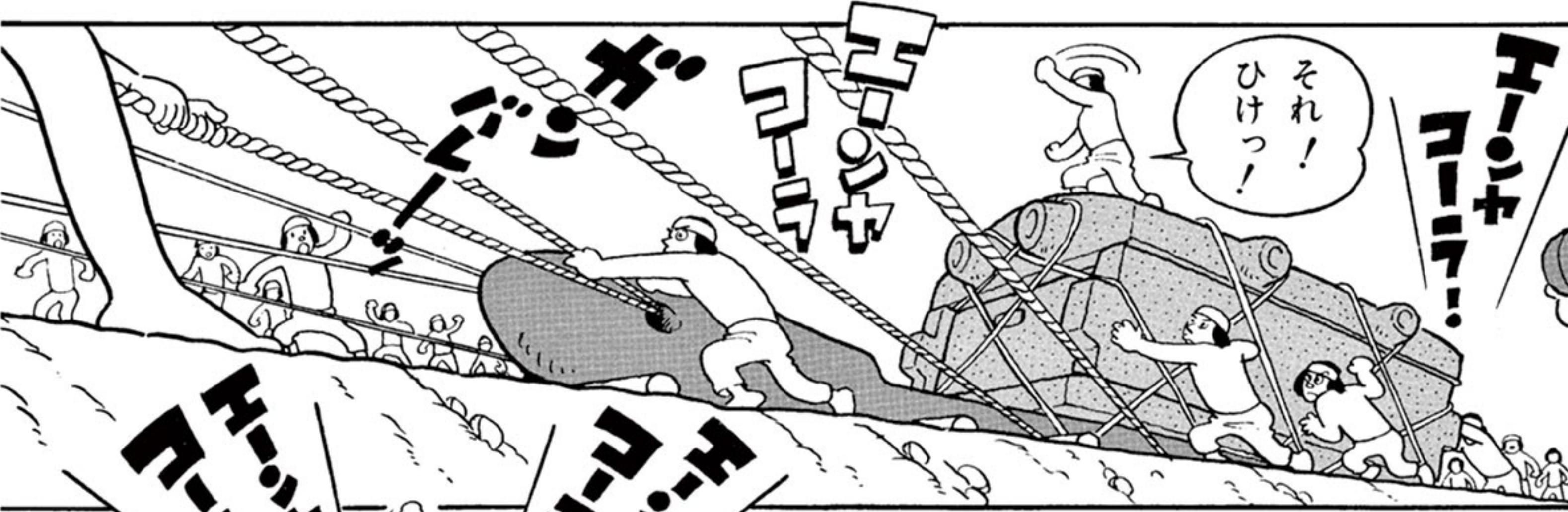
今度の
みささぎには、
二万個以上が
必要だとか…。

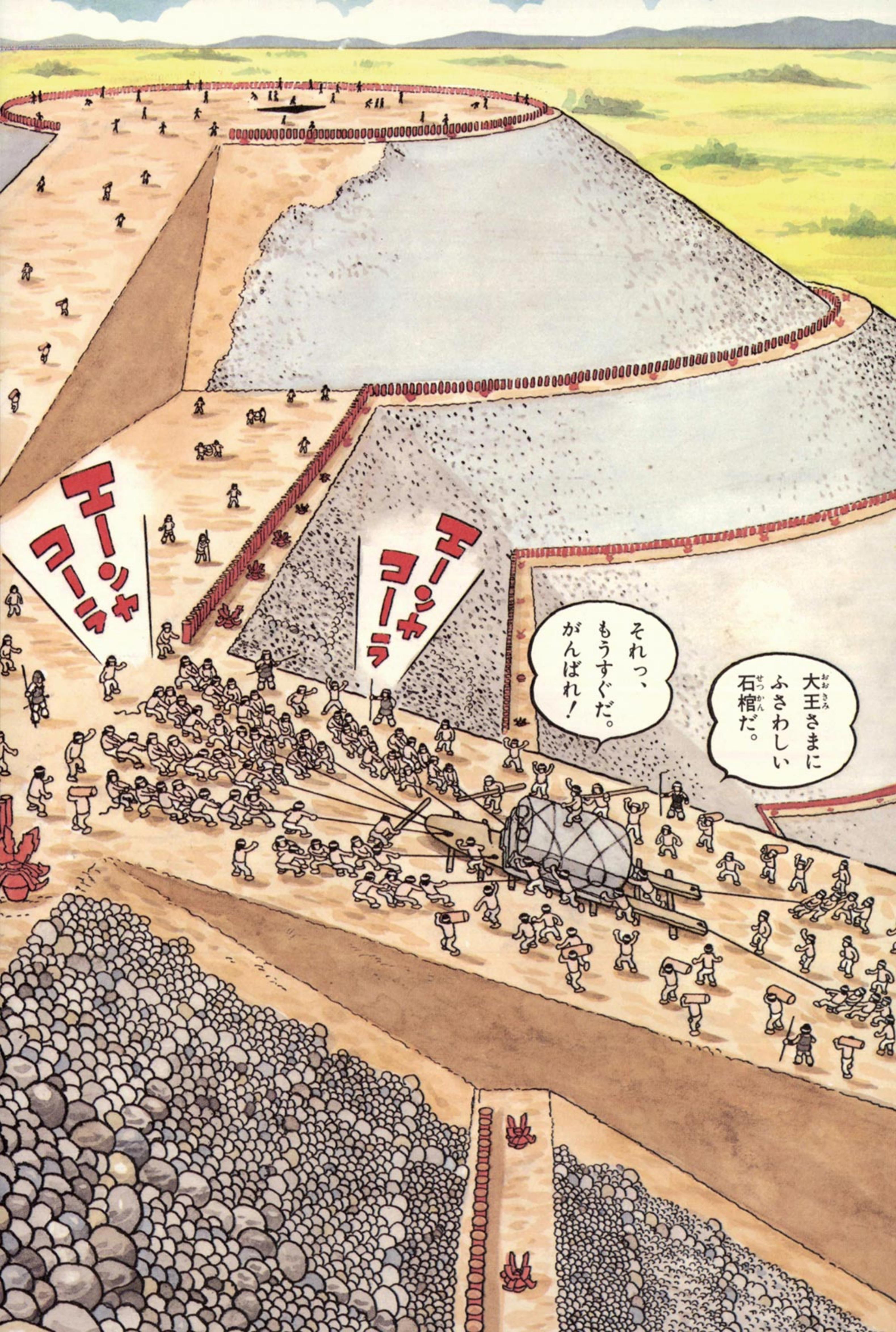
だいぶ作れ
ましたな。

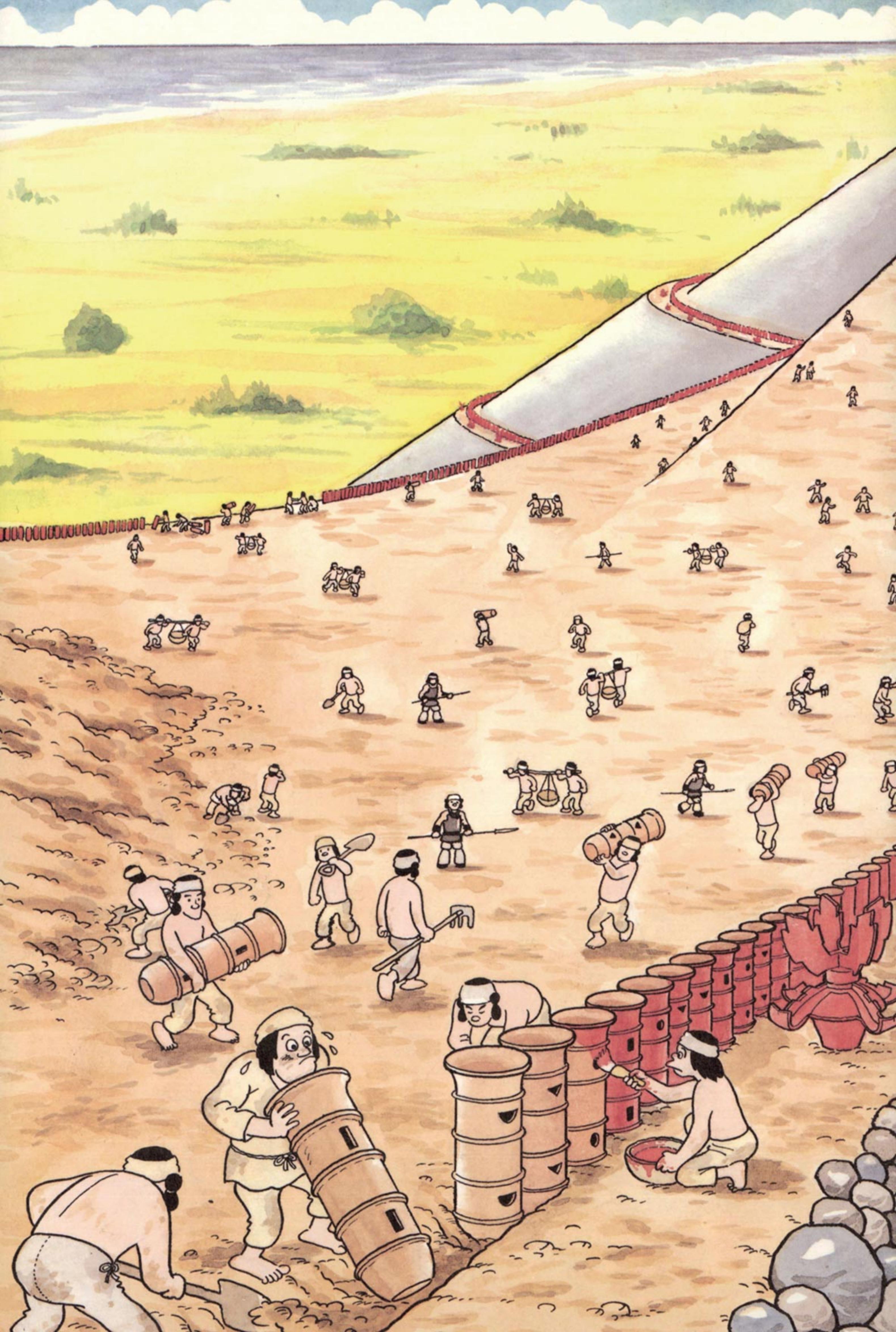
*もがり：高貴な人の死体をほうむる前に行う死者のための祭り。





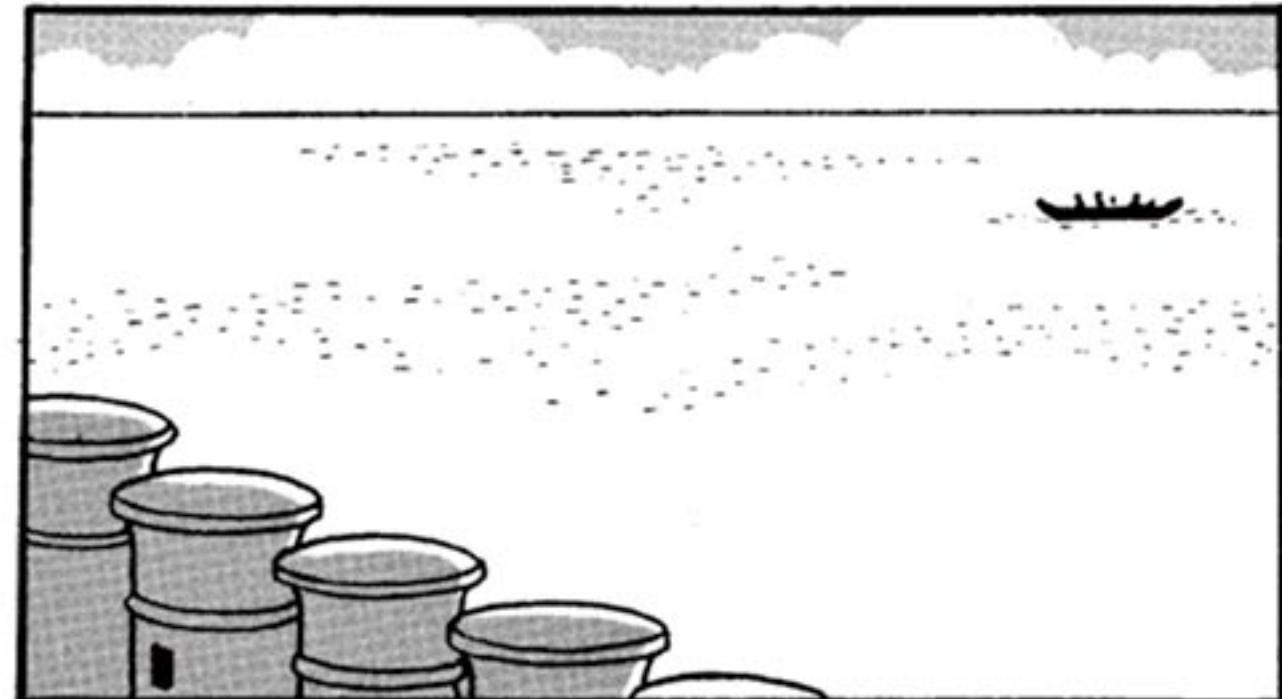


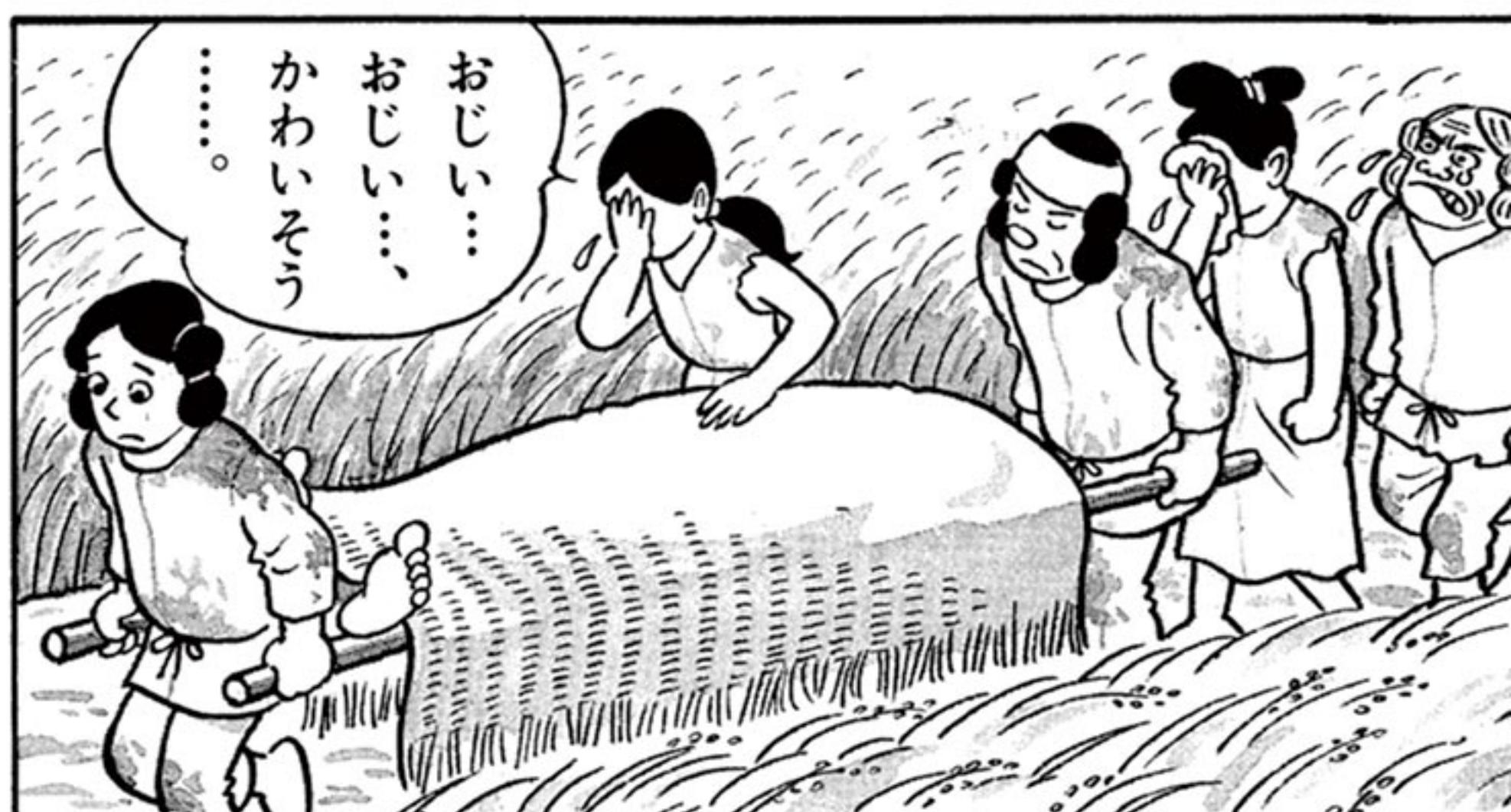




大王がしんで
一年後

設計図どおり、
できたかどうか
わかるのは、
ぼくだけさ。





*倭: 昔の日本のよび名。 *北: この場合、朝鮮半島南部のこと。

中国の歴史書には、五世紀の日本
の王として、讀、珍、濟、興、武と
いう名が出てきます。
これを、「倭の五王」とよんでいます。
五王の一人「武」は、次のような国書
(手紙)を中国の皇帝にあおりました。
「私の父や祖父は甲冑に身をかため、山川を歩き、休むひまなくたたかい、東は五十
五国、西は六十六国、海をわたり北は九十五
国をたいらげました。」

中国とつながりをもち、勢力を広げようとした倭の王たち…。その支配力を象徴するものが、巨大な古墳だつたのです。

倭の王は、諸国をおさめる将軍の称号がはじいのだな。

しばらく後
国内は王位をめぐる豪族同士の争いでみだれました。

ははつ。





* 越：北陸地方の古称

近江・滋賀県

* 大和・奈良県



われわれ一同、
男大迹王の
もとに、
したがうことを
ちかいます。



こうして、五六六年、男大迹王（継体天皇）は大和の磐余（奈良県桜井市）に新しい都をあきました。



*近江毛野臣：「おうみのけのののみ」ともいう。

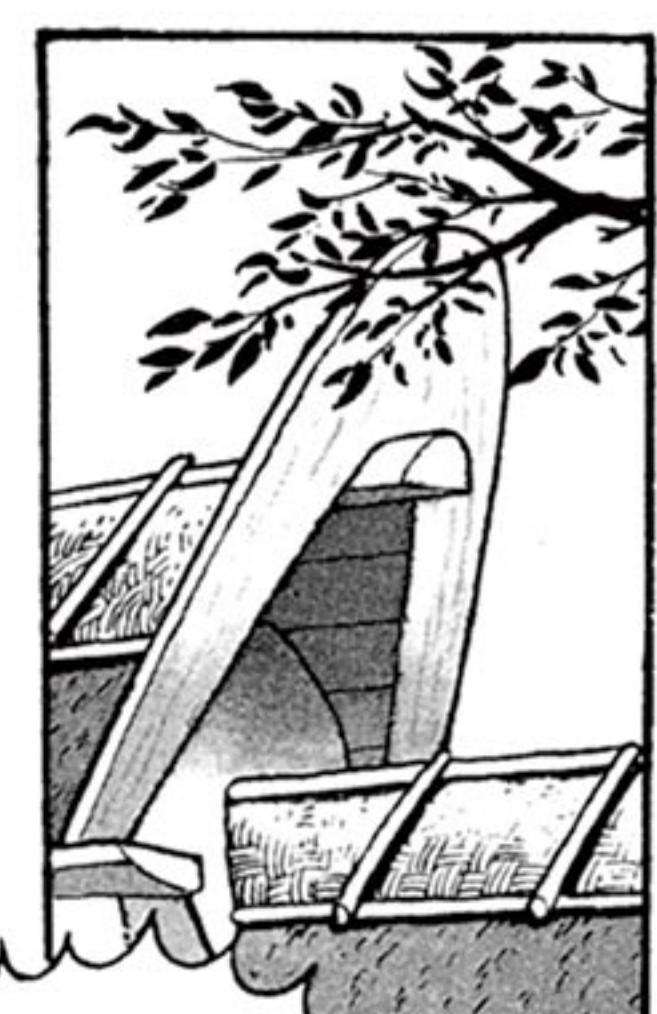


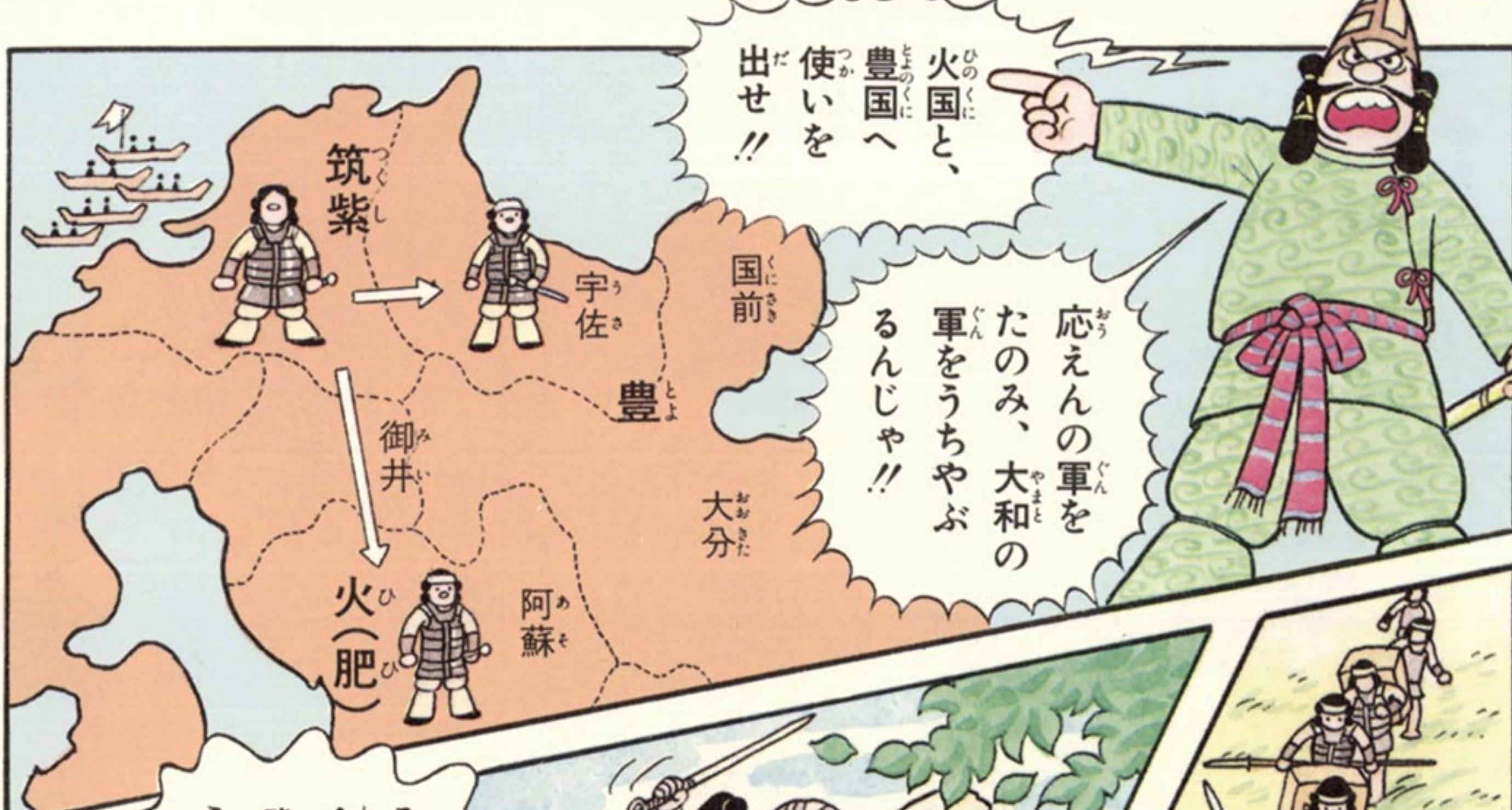
* 伽耶 : 伽羅ともい。最近の発掘で日本と深い交流があつたことが判明。

*筑紫：福岡県

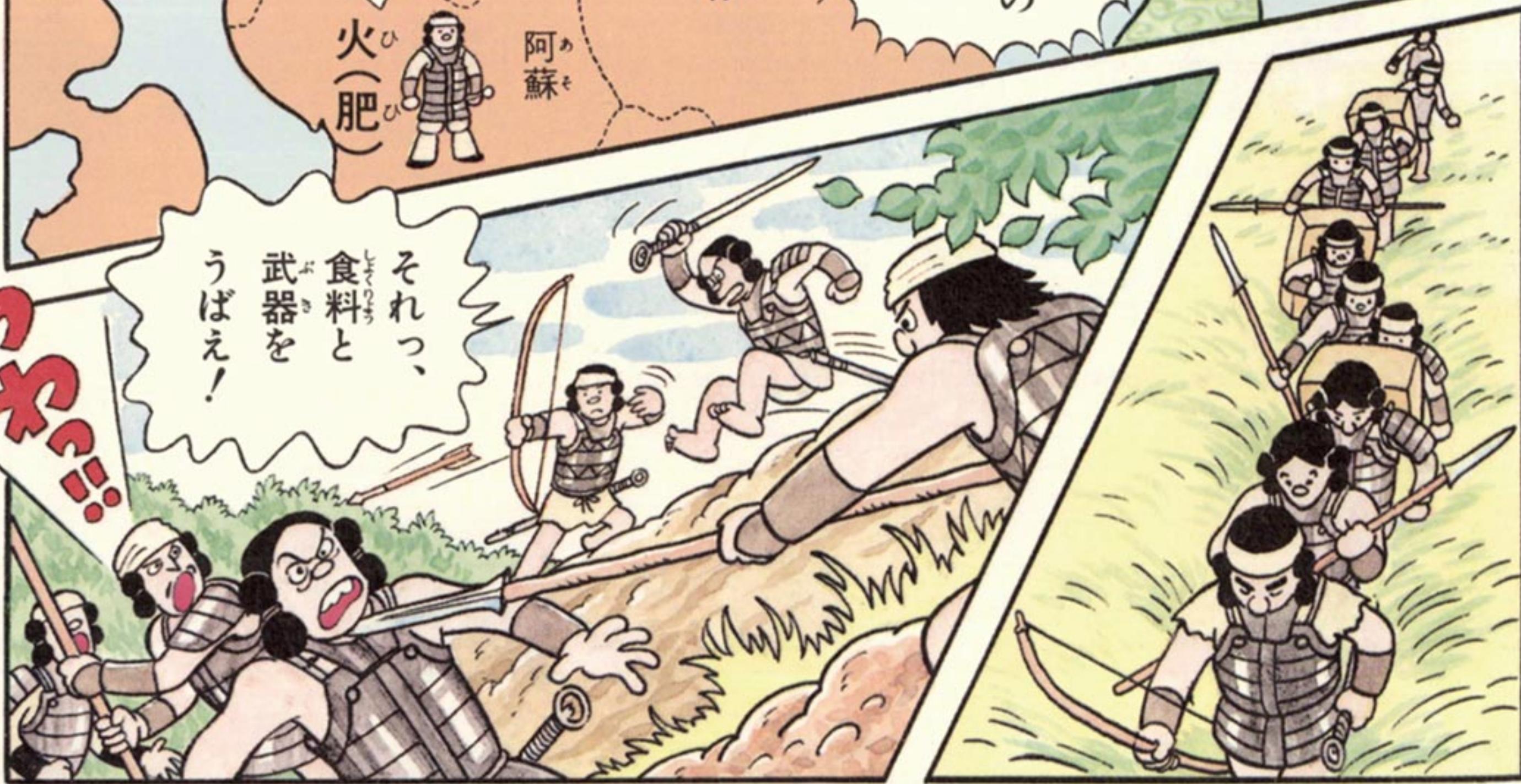
*国造：地方の政治をまかされた豪族。



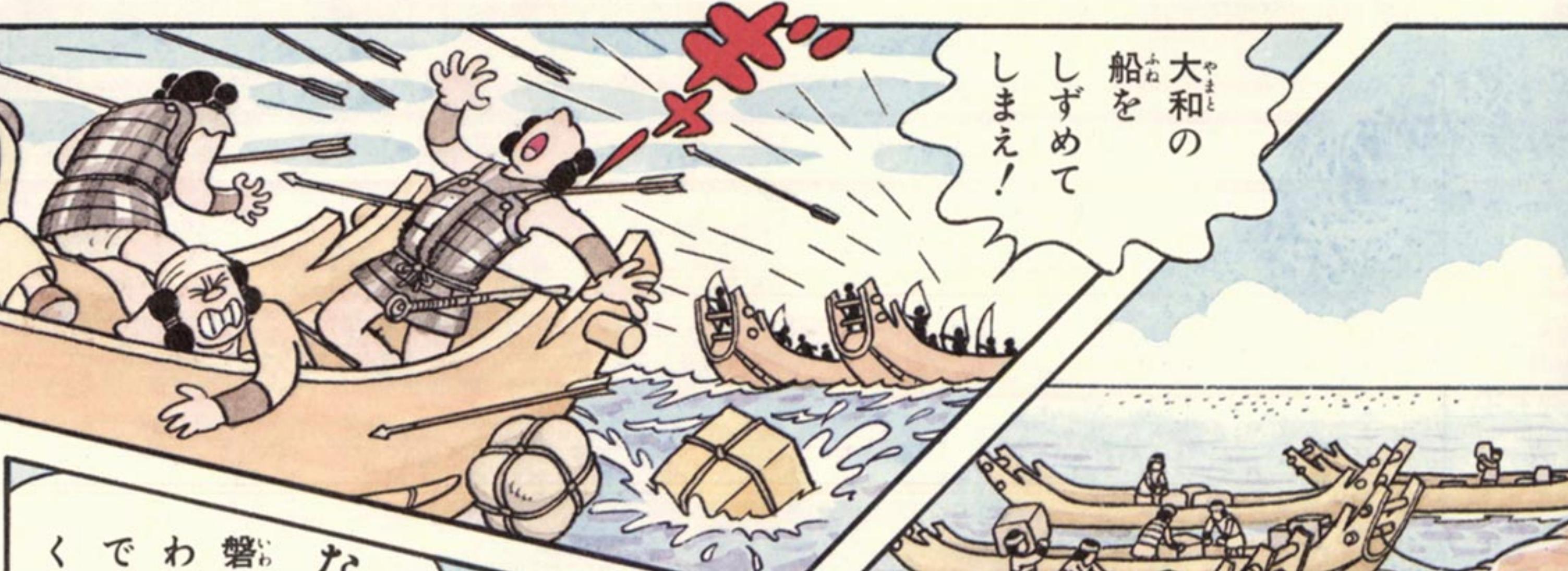




それつ、
武器と食料を
うばえ!

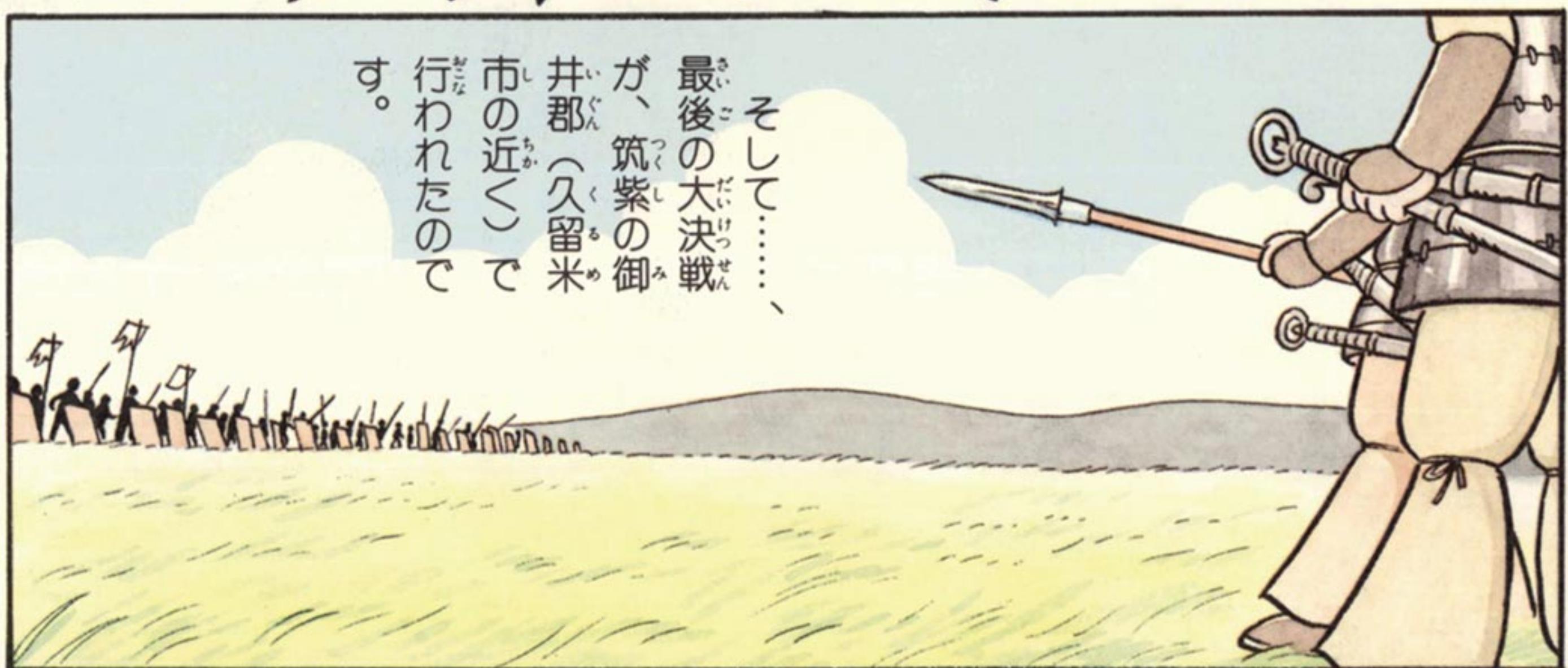
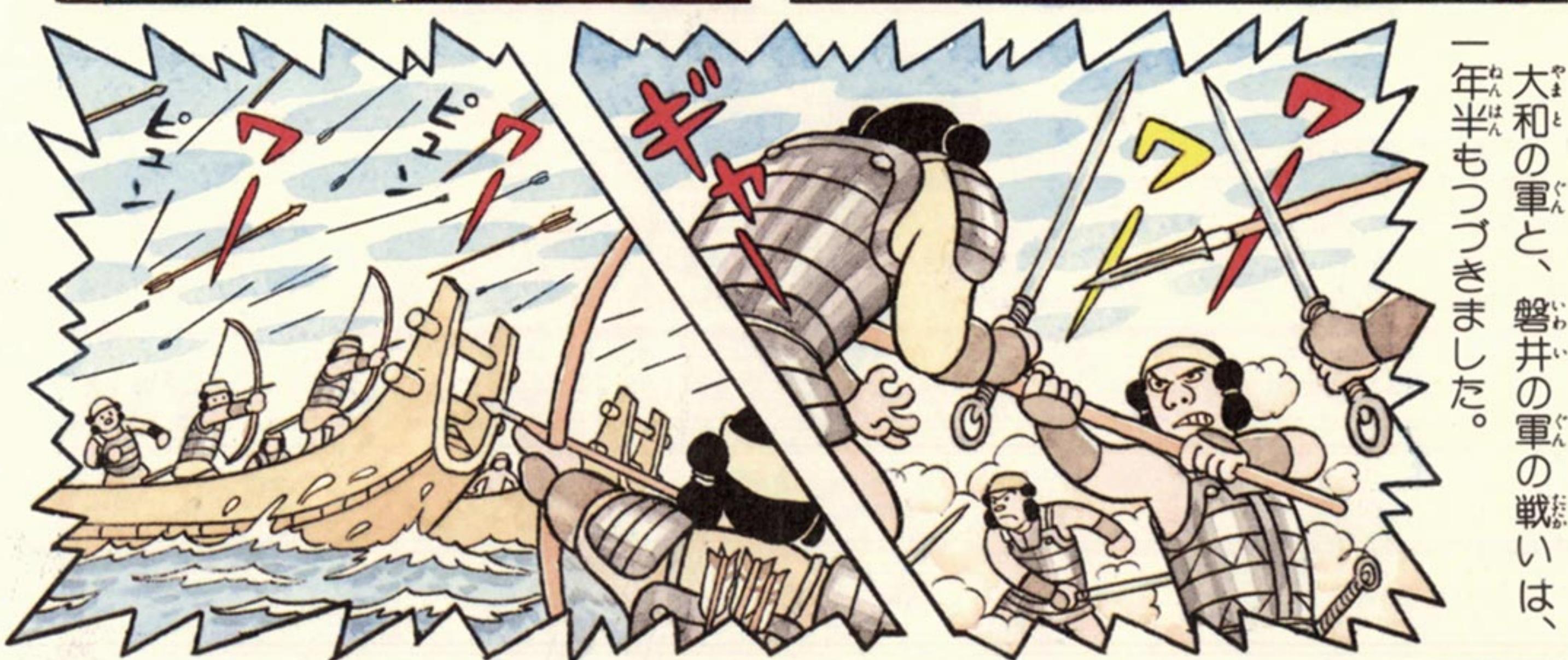
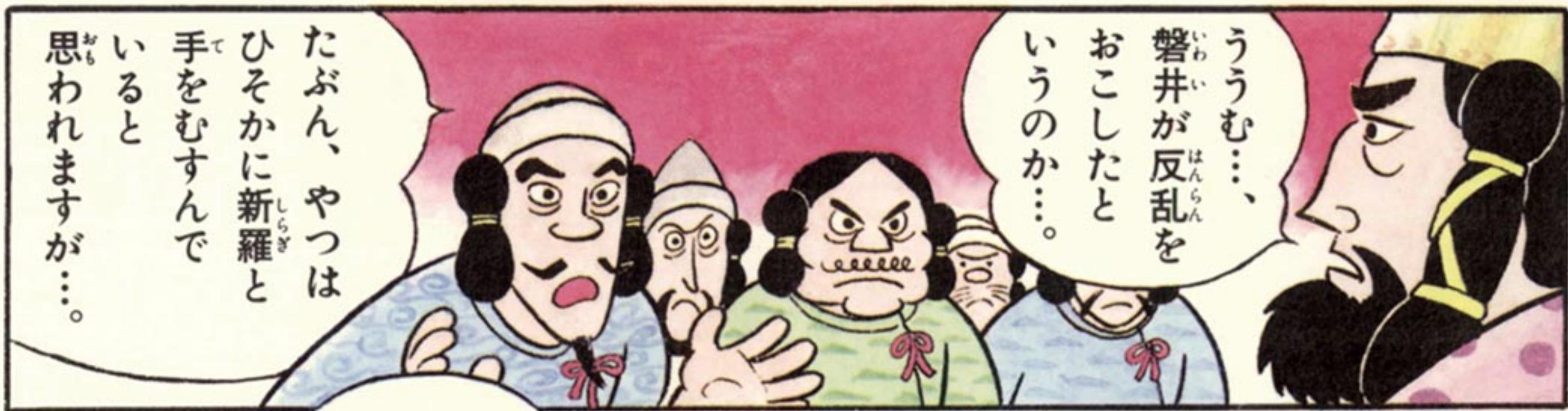


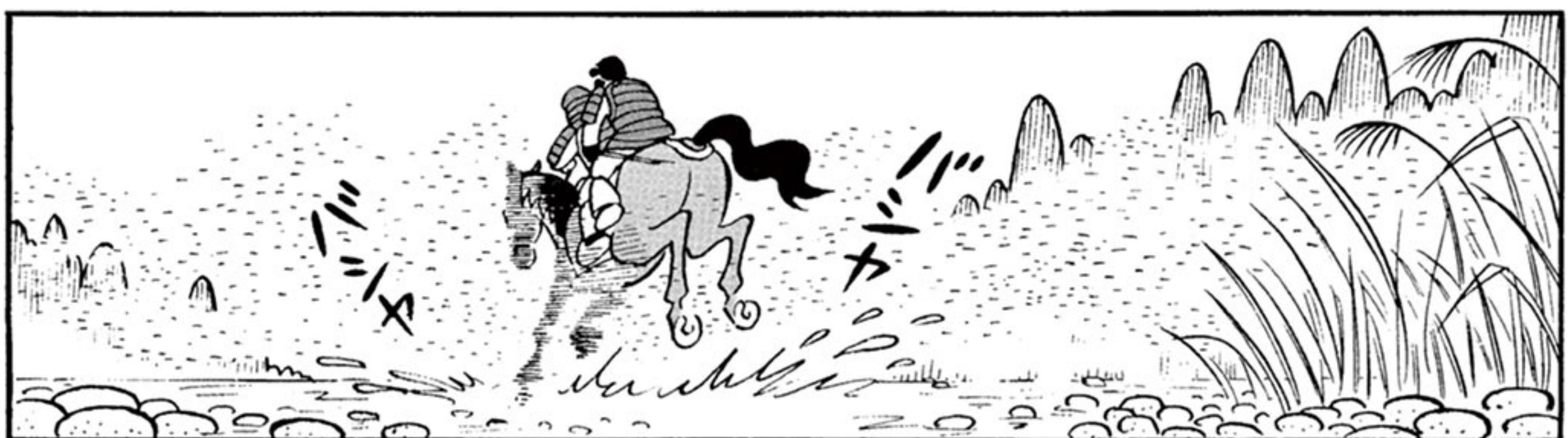
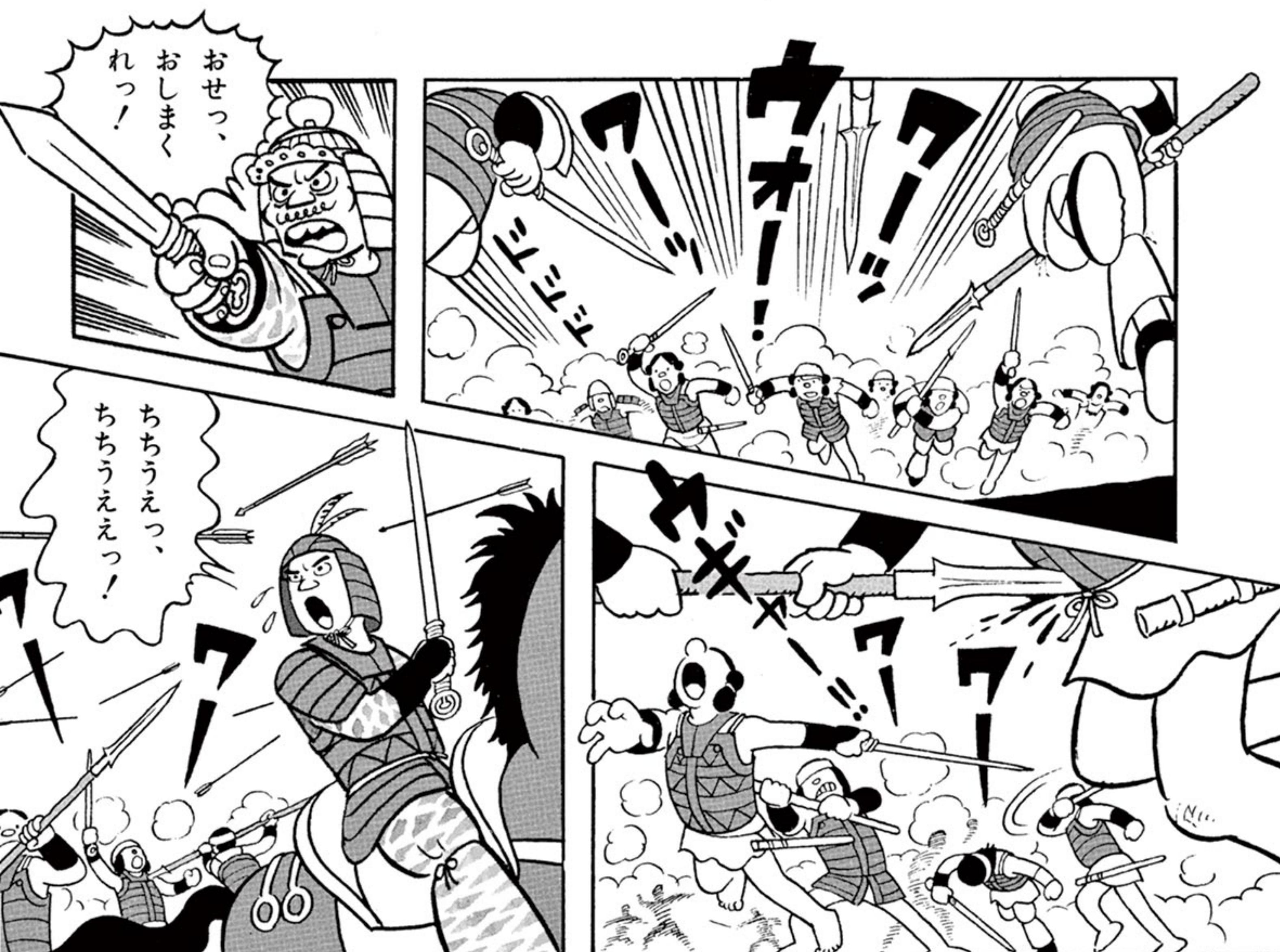
船を 大和の
しづめて
しまえ!

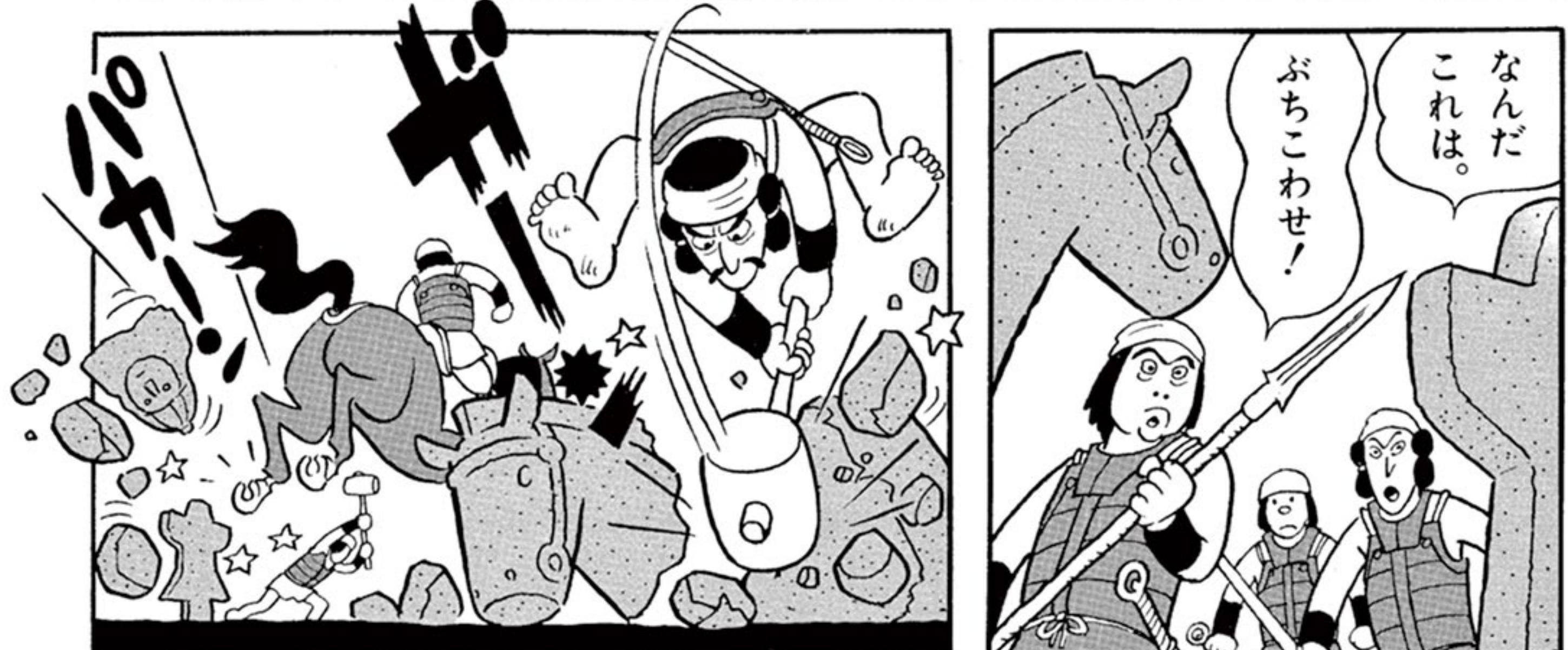
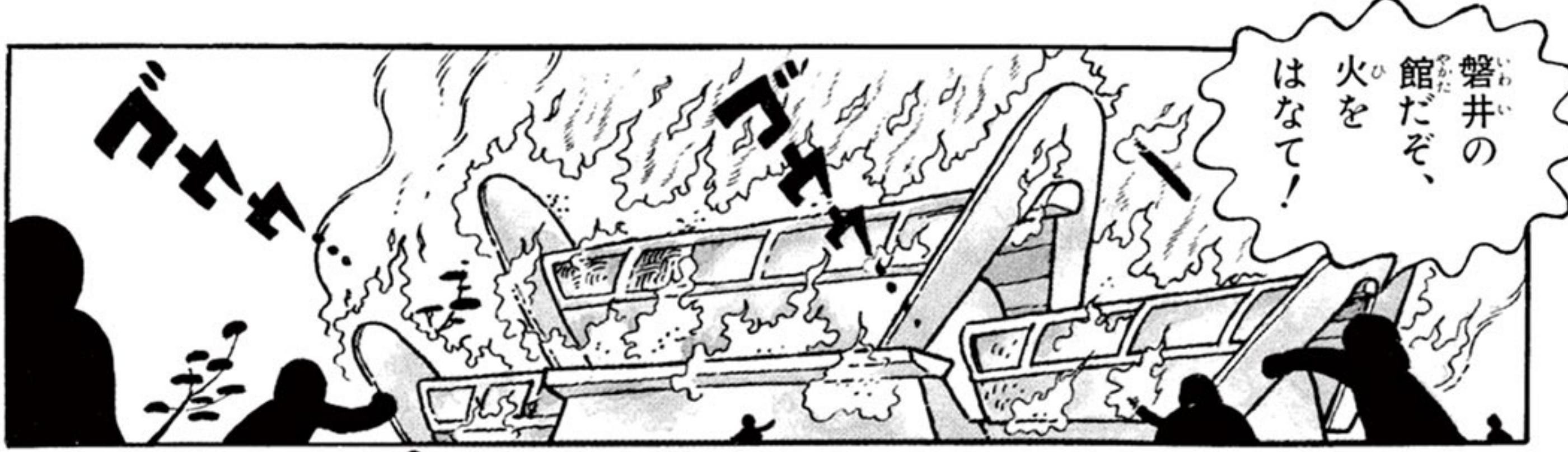


なんと!









こうして、北九州に大きな勢力をもつていた筑紫国造磐井の反乱はしづめられました。磐井はころされたとも、どこかへおちのびたともいわれています。磐井の子、葛子は自分の土地の一部を大和の大王にさし出すことにより、死をまぬがれました。

大和政権にとつて、磐井の反乱は、最後で最大の危機といえるものでした。

大和政権は、地方を支配していた豪族を制圧し、したがえることにより、国内統一の基礎をきずくことができたのです。



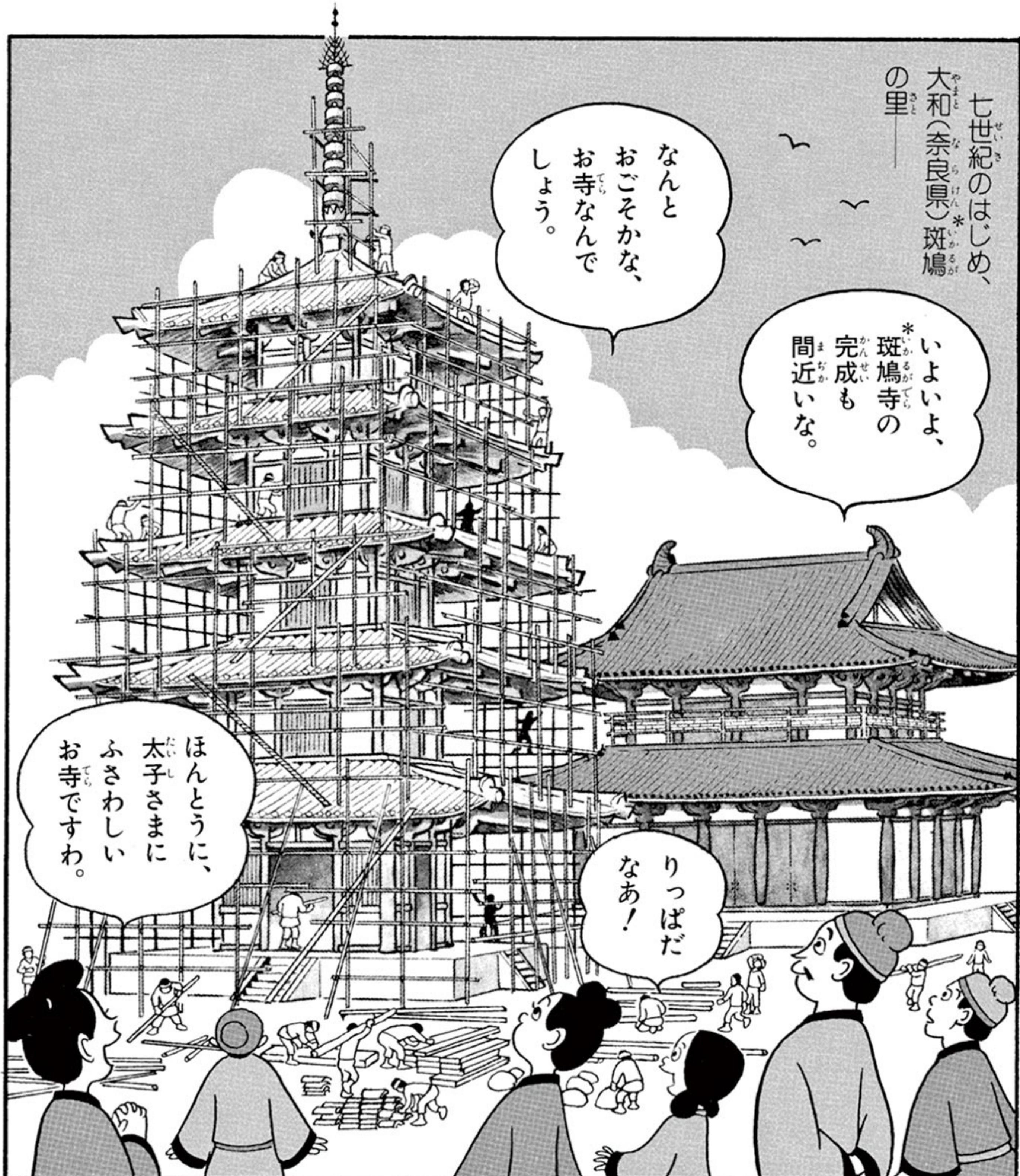
小学館 eBooks

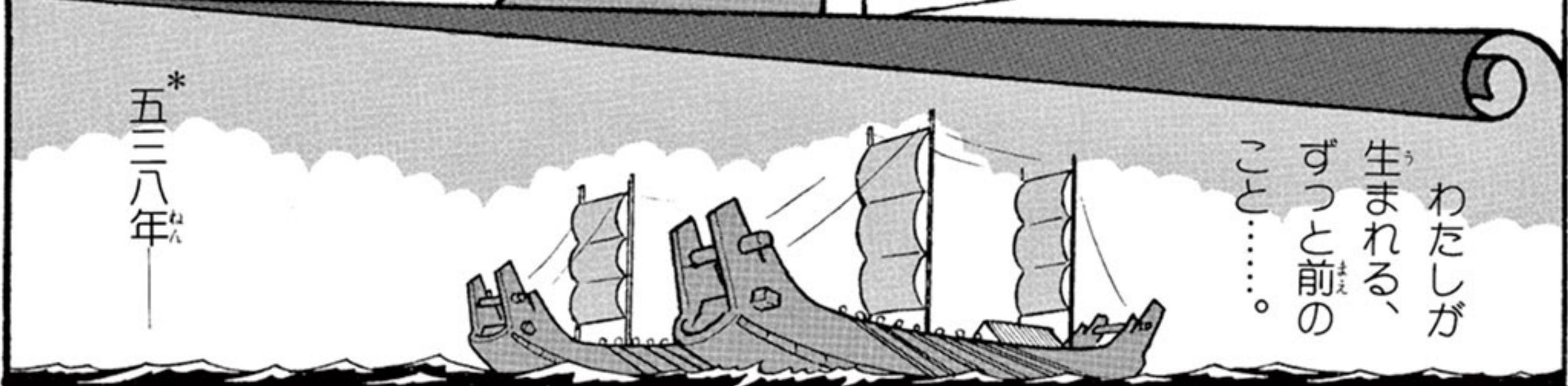
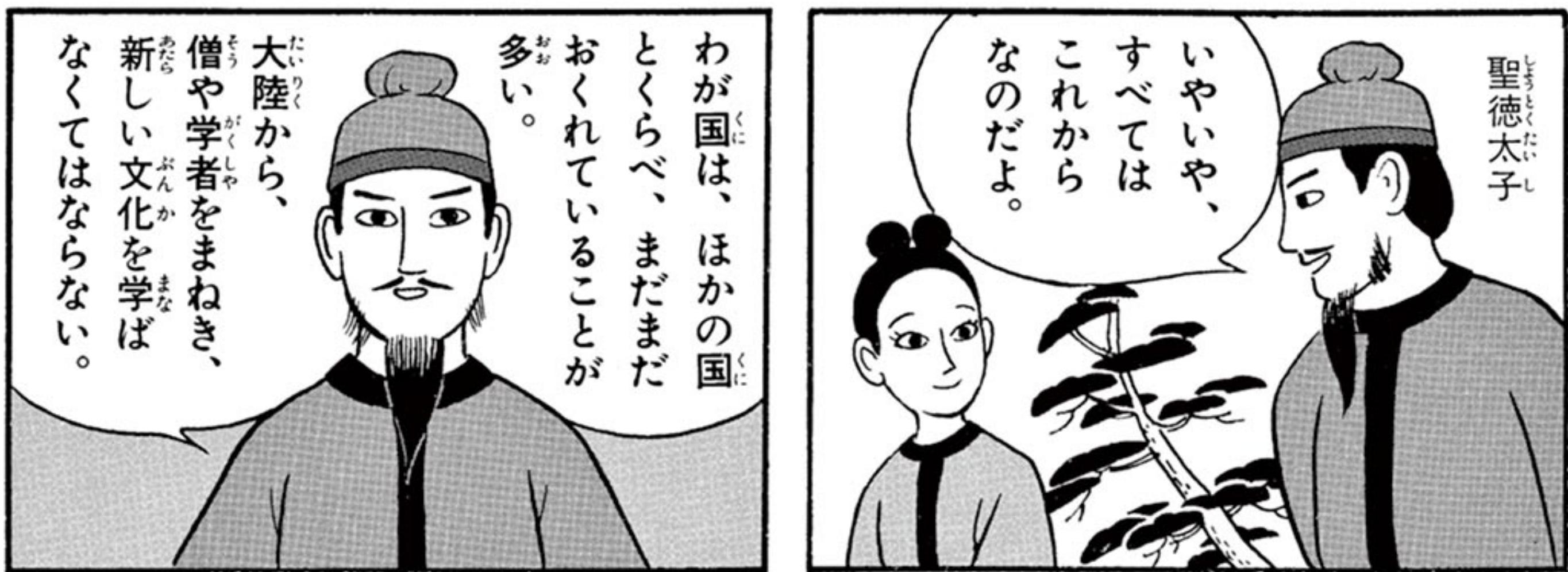
だい しょう
第二章

しよう とく たい し ぶつ きょう でん らい
聖徳太子と仏教伝来
あすか じ だい
—飛鳥時代—

* 斑鳩：現在の法隆寺付近。

* 斑鳩寺：法隆寺のこと。

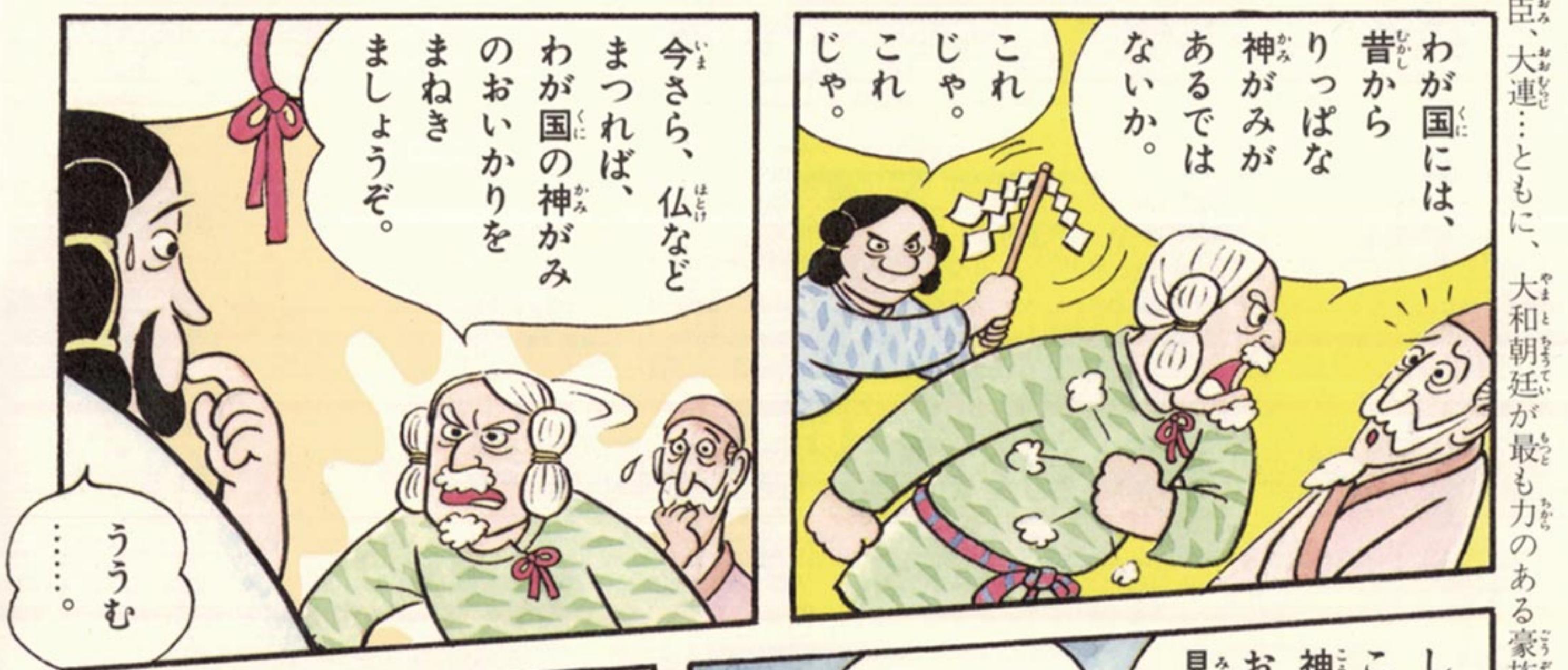




*五三八年：仏教がつたえられたのは五二一年、という説もあります。



*百濟：朝鮮半島南部にあつた昔の國の名。



*大臣、大連ともに、大和朝廷が最も力のある豪族にあたえた地位の名。次ページ参照。

このころの豪族は、

血のつながりのある
者同士で、集団を

つくりっていました。

これを「氏」と

いいます。有力な

「氏」は、朝廷での

地位によつて、臣、

連、宿禰、造といつた

称号をあたえられてい

ました。これを「姓」

といいます。

こうした政治のしくみを、「氏姓制度」とい

います。

宿禰 ○○氏

このふん、
石頭！

蘇我氏

開明的。
外交担当。

害関係で、た
かの位にあり、
あたがいの利
益を、蘇我氏と物部氏は、それ
ぞれ大臣、大連という、最高峰の位にあり、
びたび対立していました。

ちつ。

大臣

蘇我氏

大連

物部氏

造 ○×氏

保守的。
裁判担当。

物部氏

軍事や、
裁判担当。

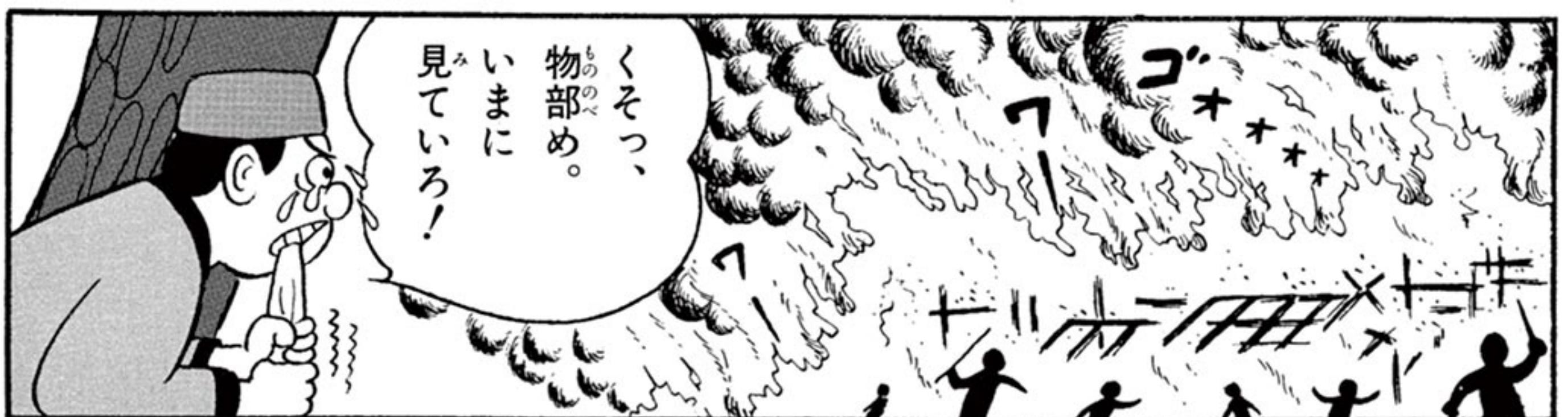
ううむ……、
稻目、そちに
このみ仏を
あづけよう。
こころみに、そち
がまつってくれ。

なにとぞ……
なにとぞ……
すばらしい。
光かがやいて、
いらっしゃる。
ありがたや、
ありがたや。

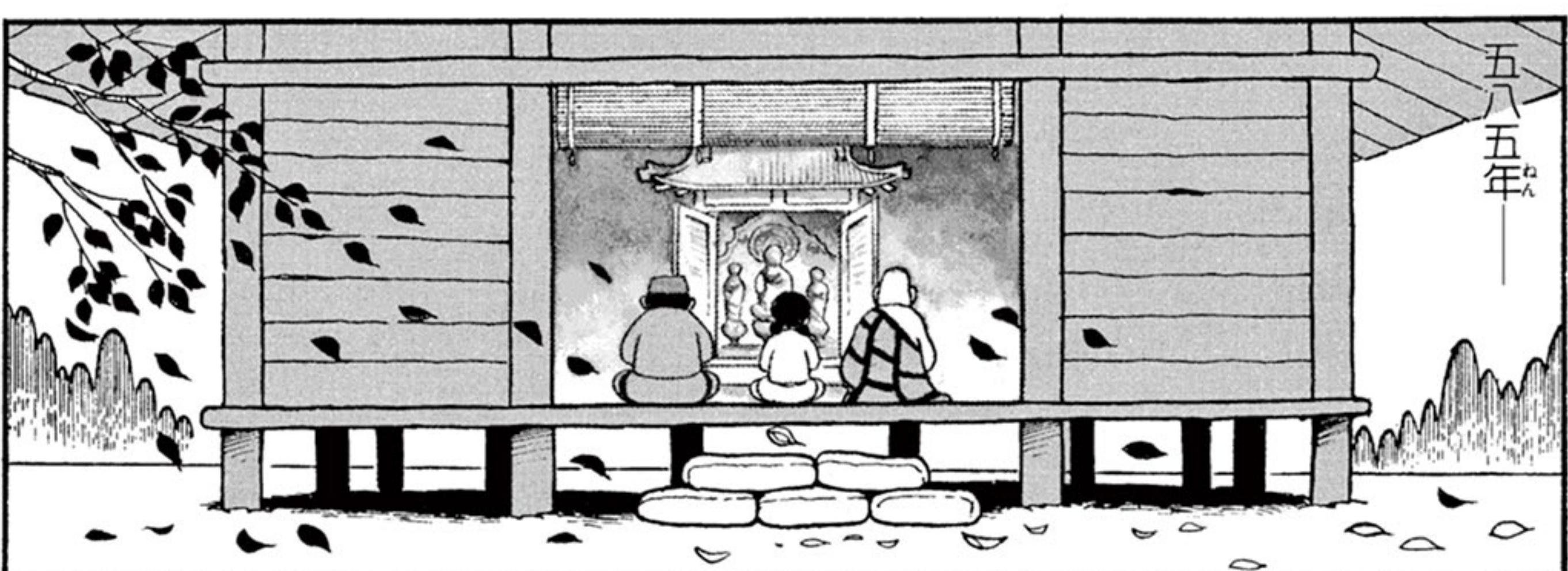
蘇我稻目は、仏像を自分の
家でまつりました。

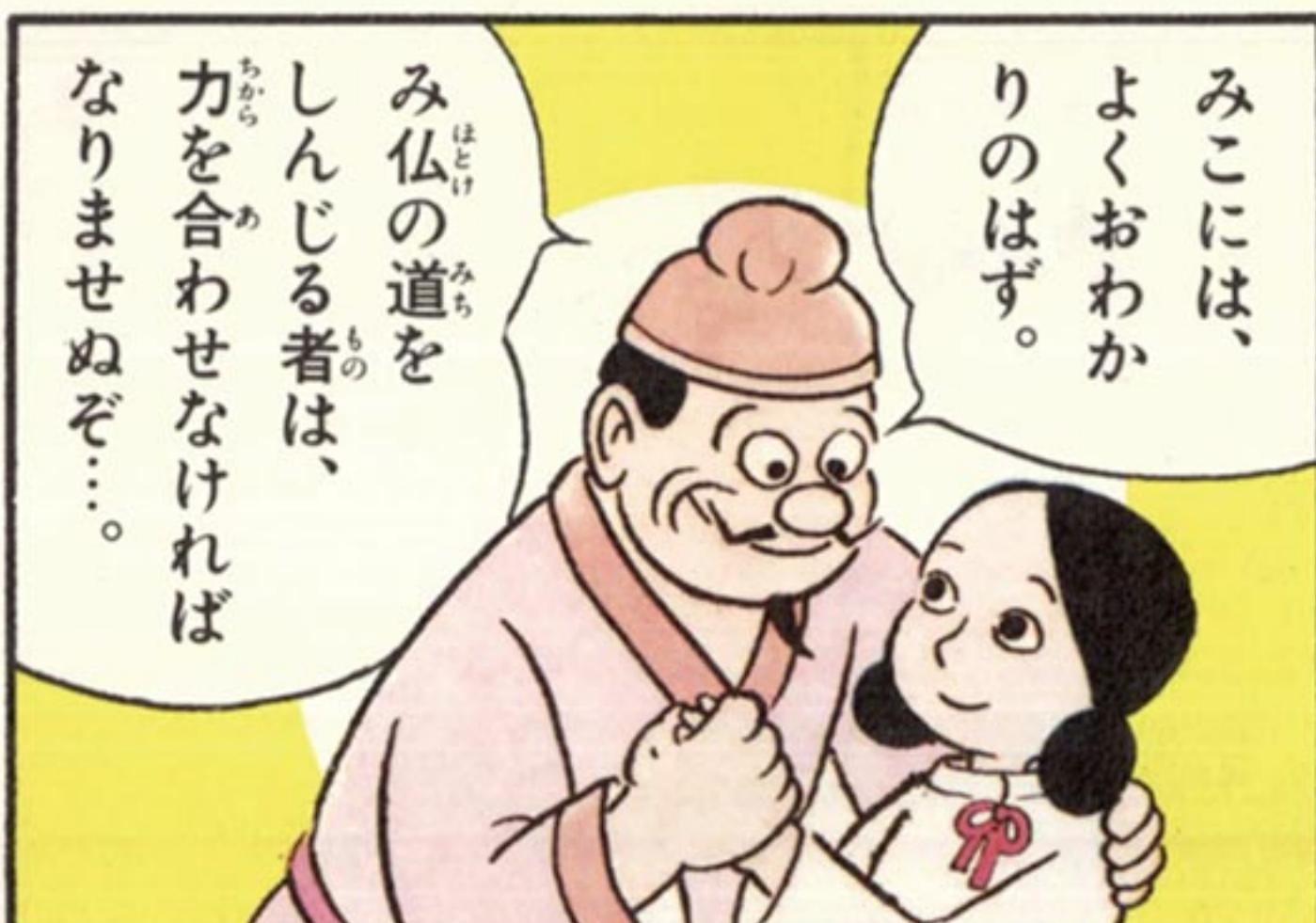
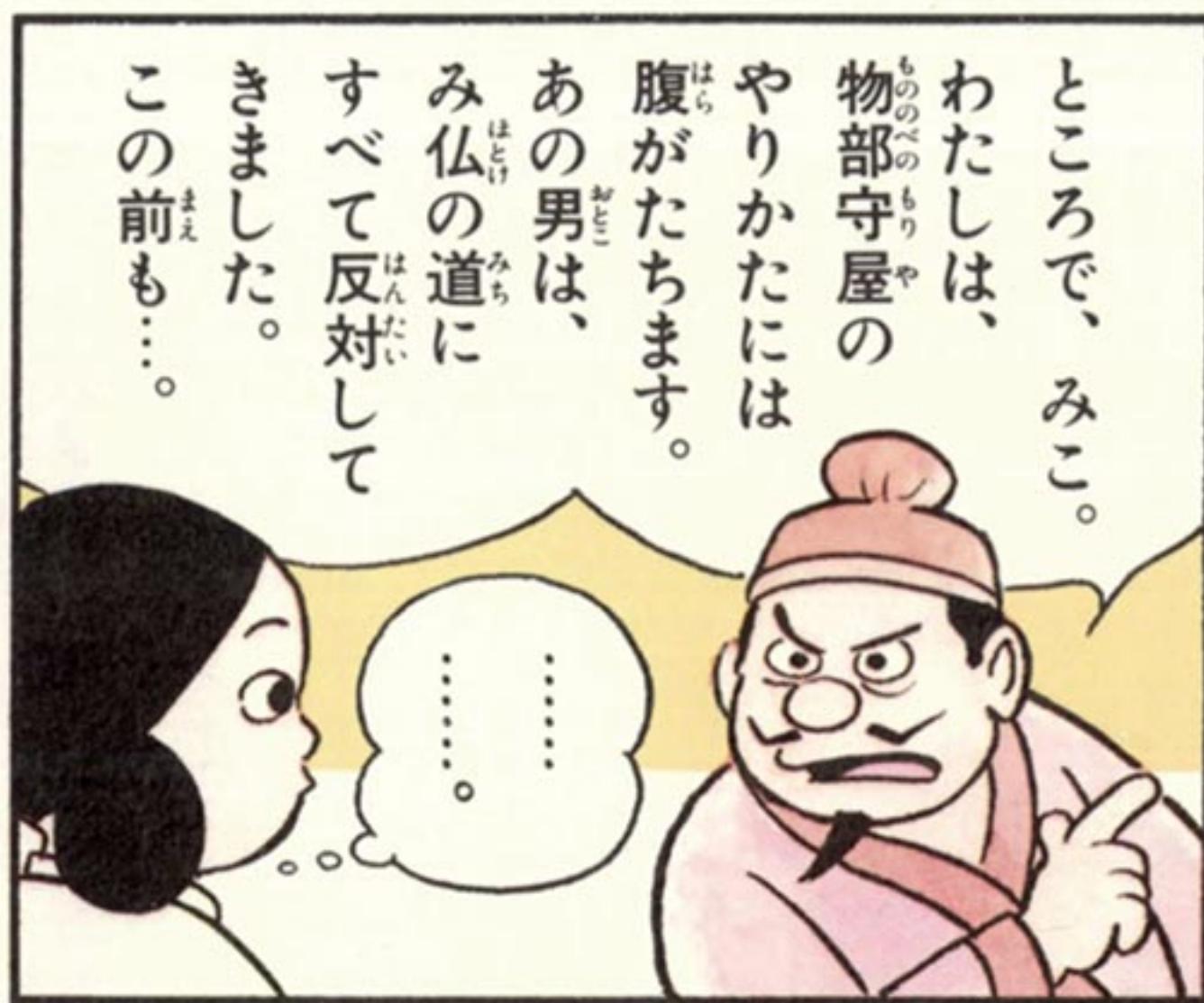
日本ではじめての寺です。
また、近くにある稻目の別
の家をきよめて寺としました。



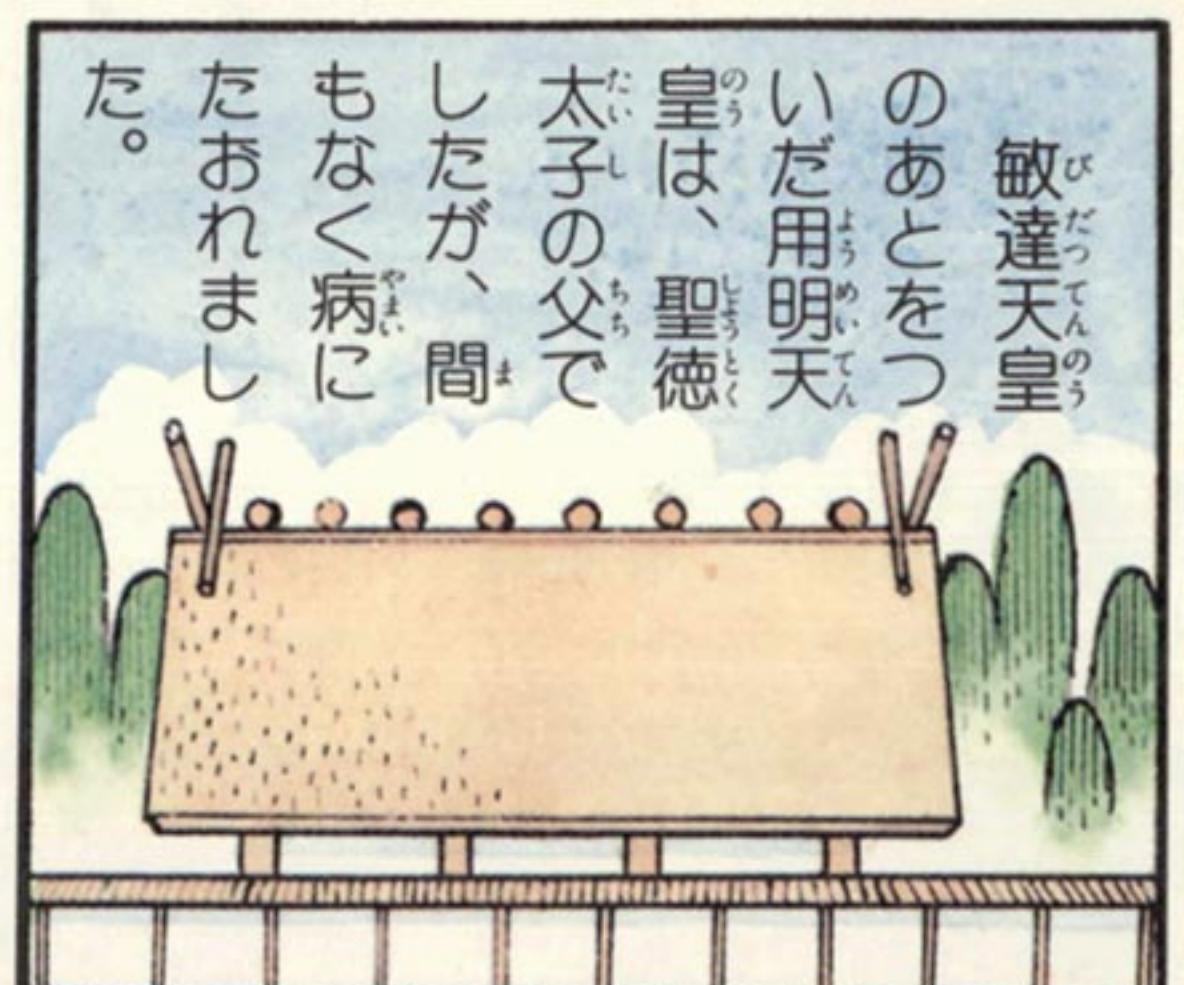
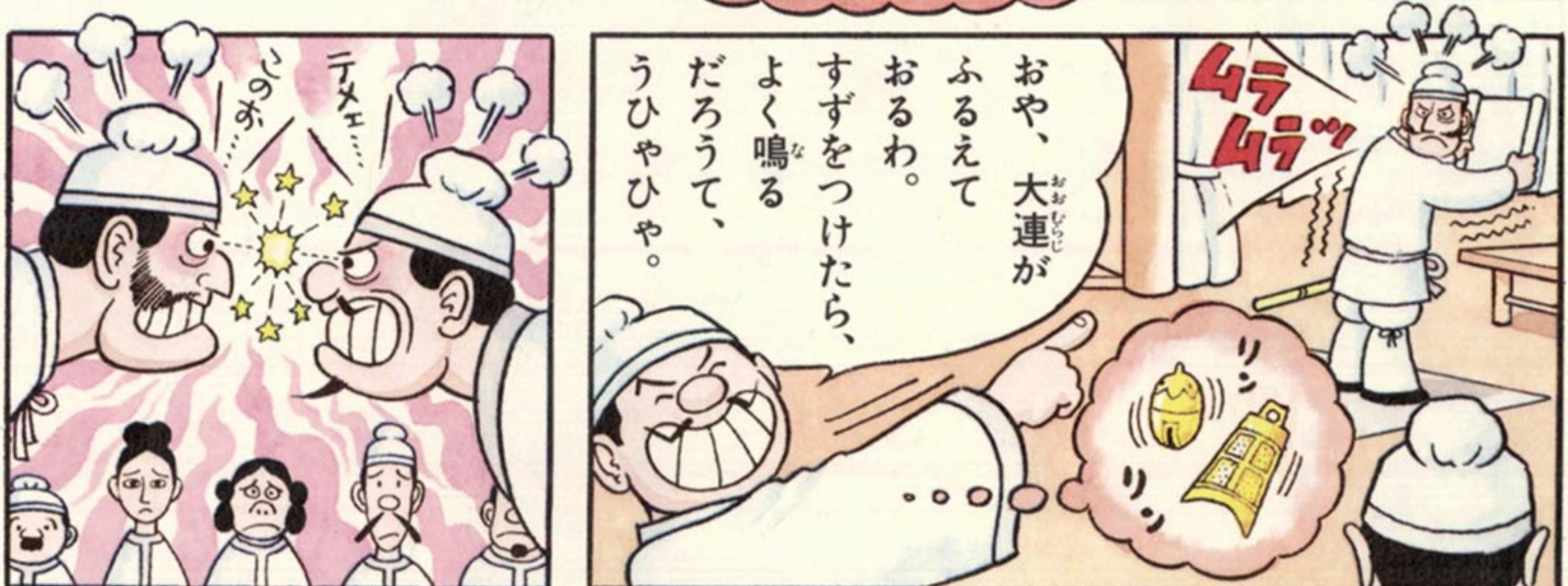
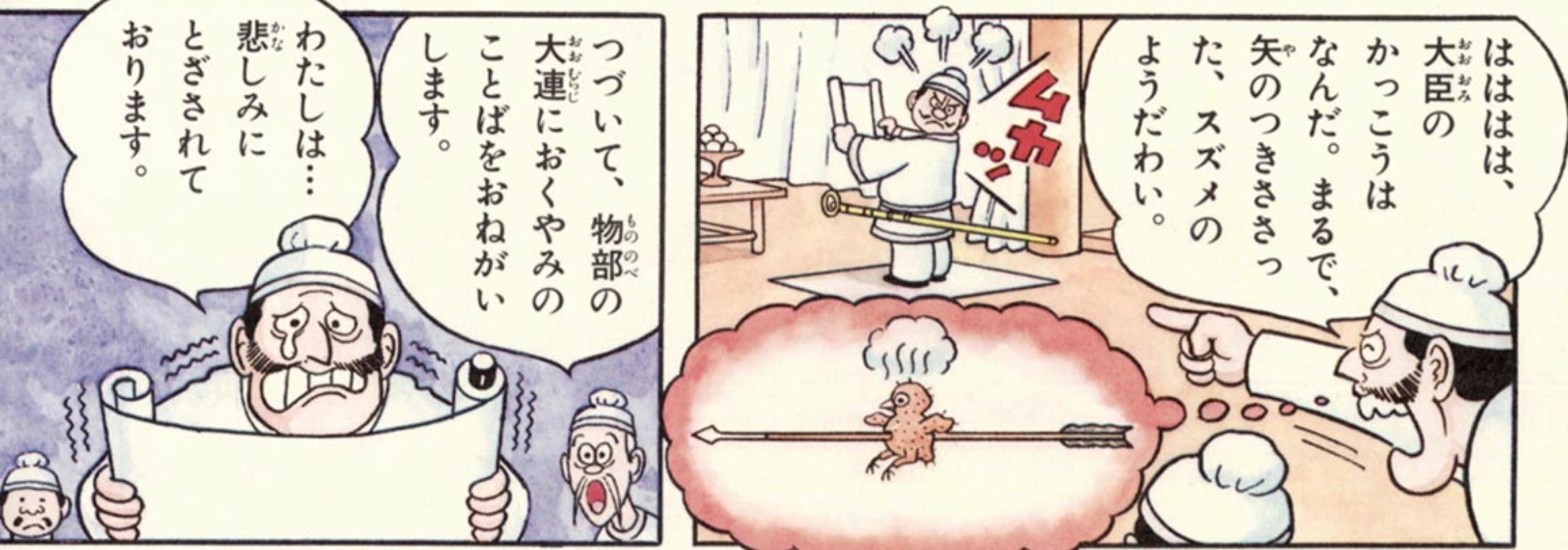


その後、仏教とともに、すぐ
れた文化がつたえられ、仏教を
しんじる豪族もふえました。

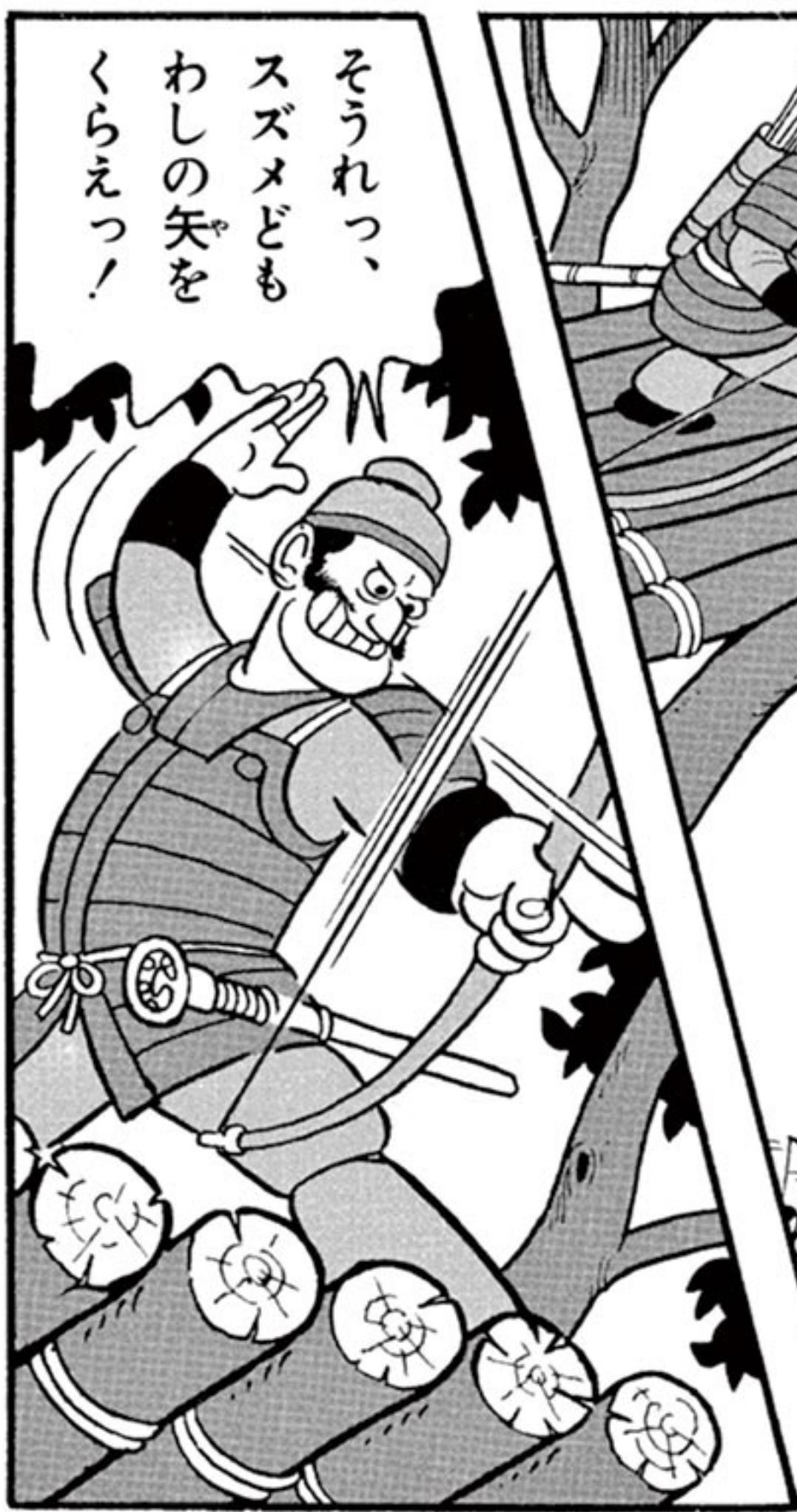


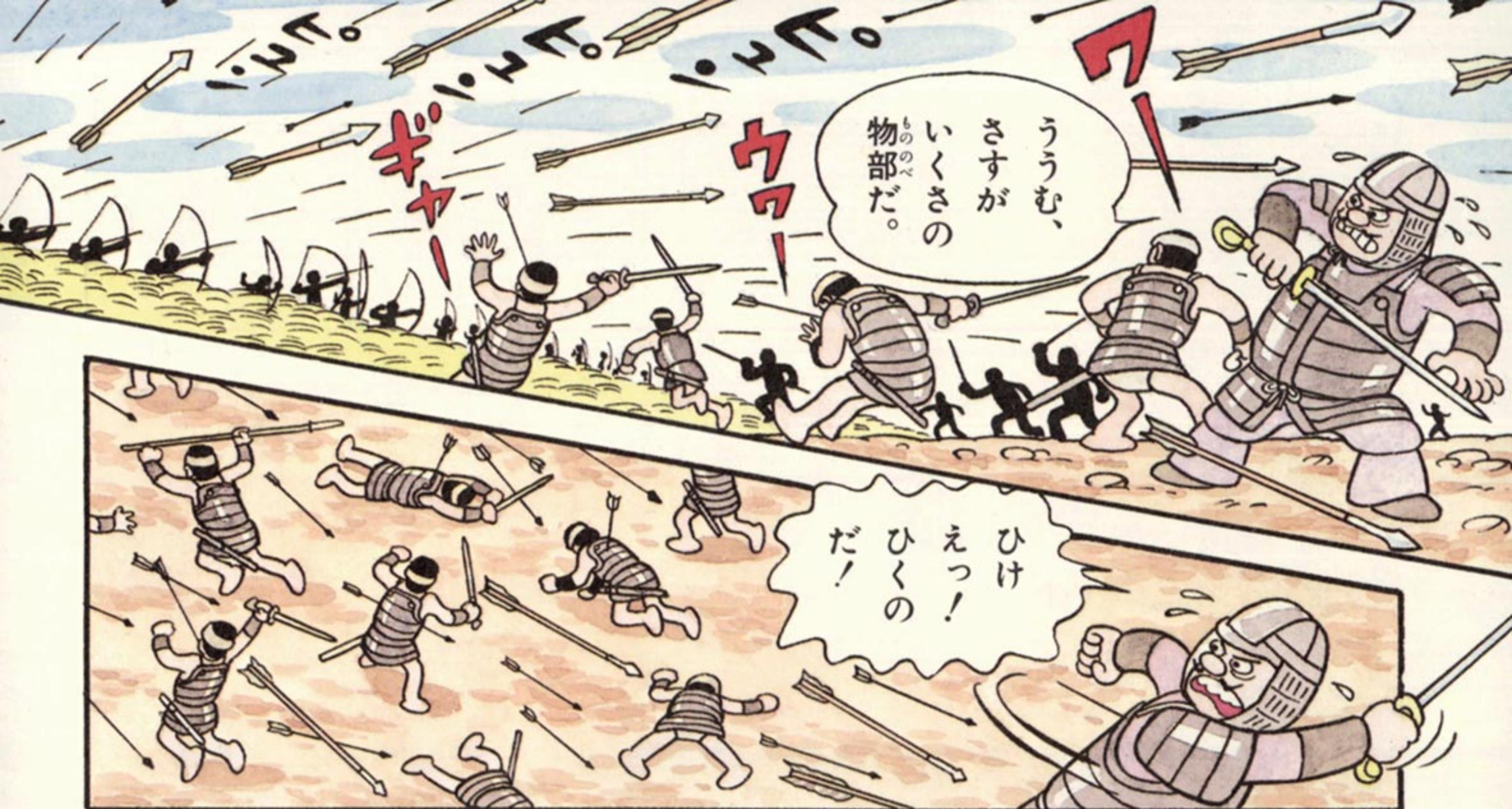


蘇我氏と物部氏は、五八年、敏達天皇の葬式のときでさえあらそいました。









ううむ、
さすが
いくさの
物部
だ。

ひけ
えつ！
ひくの
だ！



*四天王の
お姿を
きざんで
います。

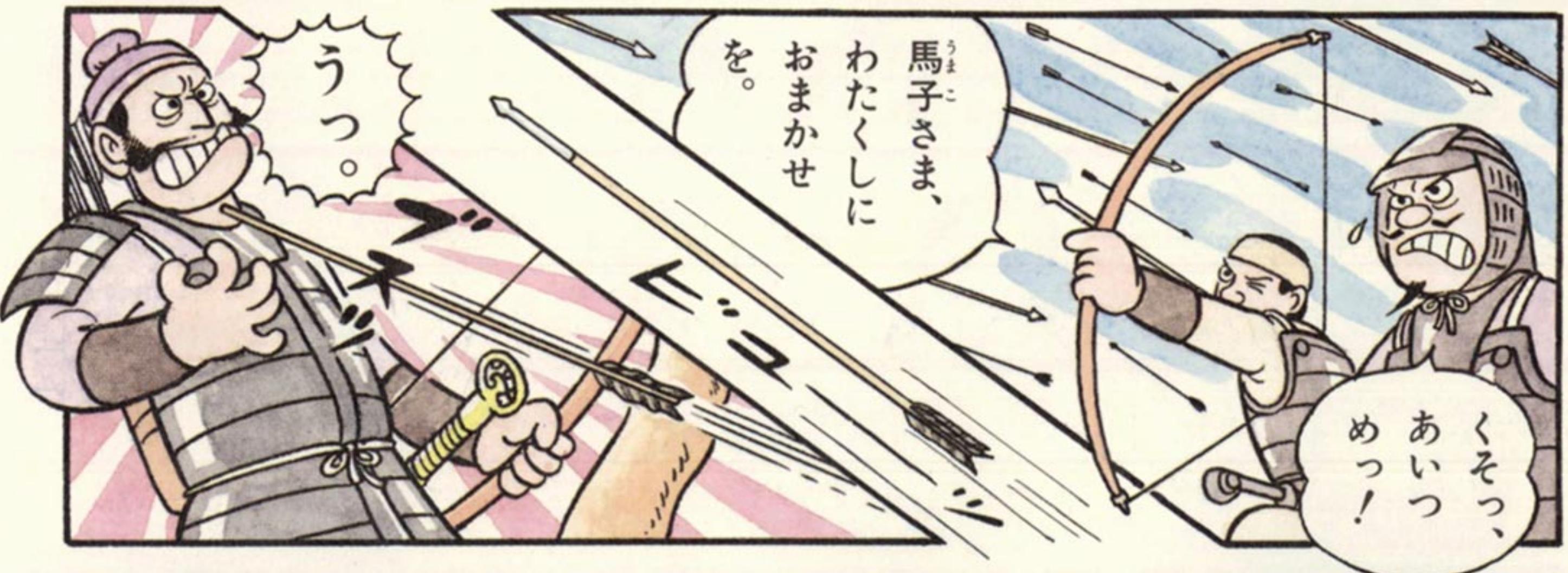
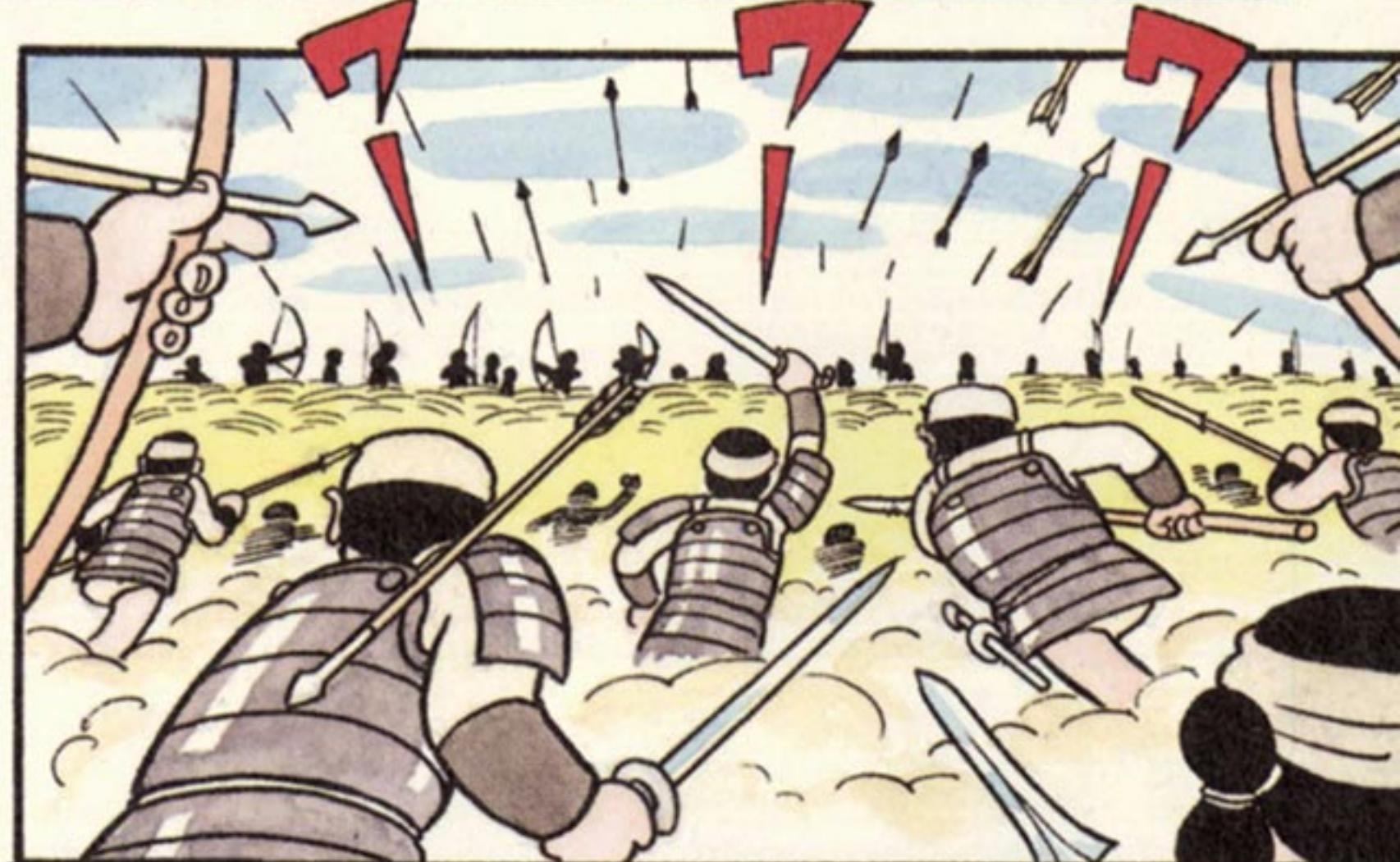
みこ、何を
お作りになつて
いるのです。

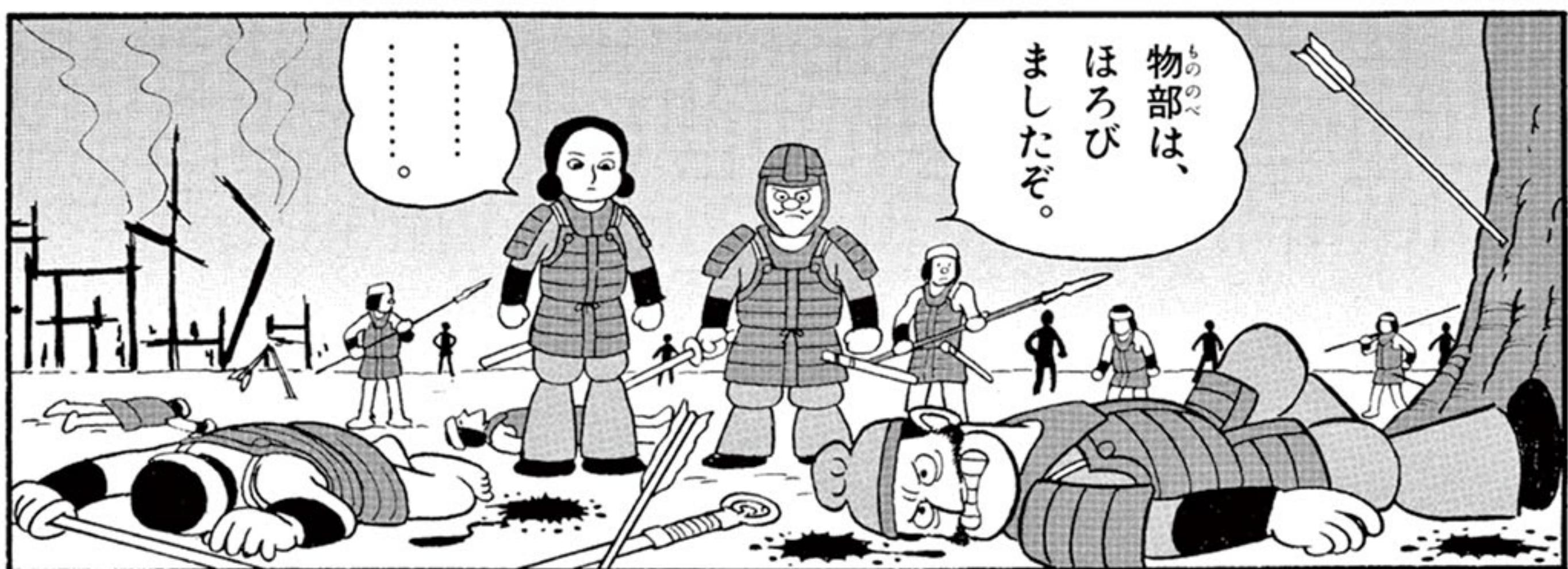


*四天王：
佛教で、
東西南北の四方をまもる神。

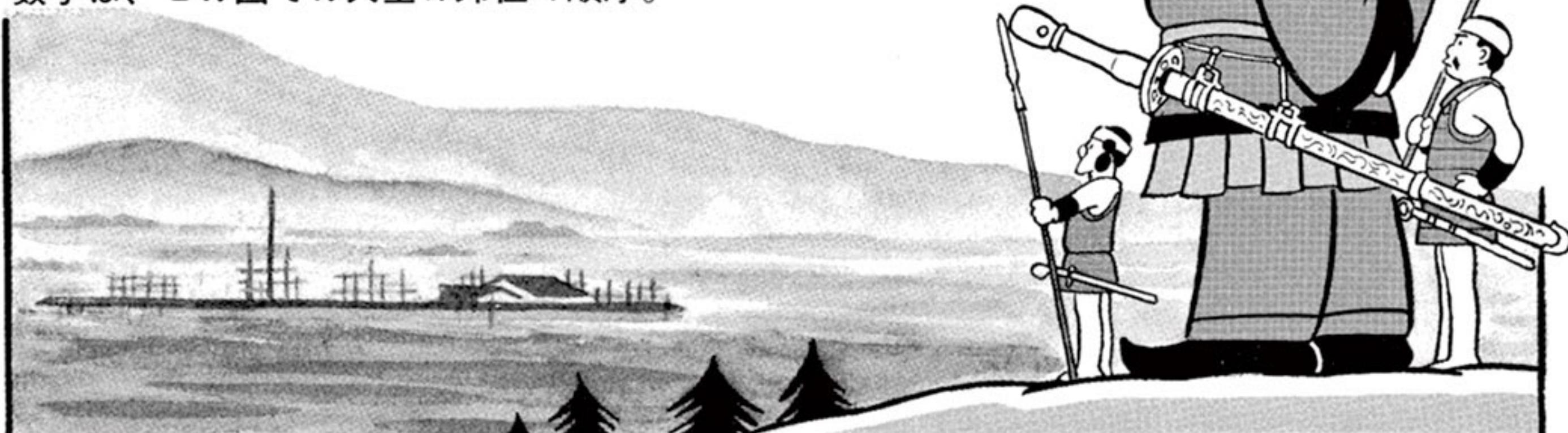
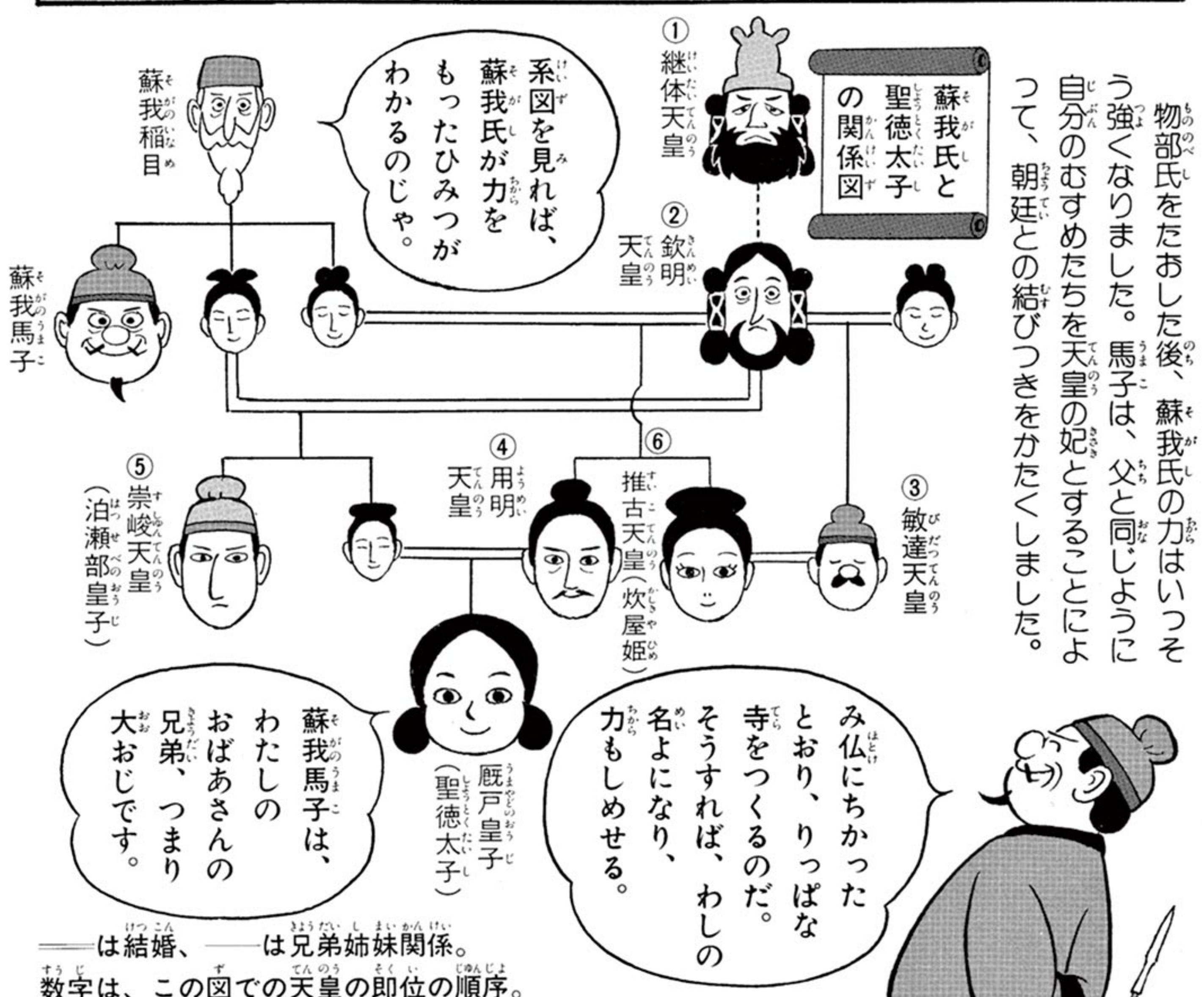
いくさに
かてるよう、
このみ仏に
おいのりを
するのです。
うむ、それは
りっぱな心がけ
ですな。







物部氏をたおした後、蘇我氏の力はいつそう強くなりました。馬子は、父と同じように自分のおすめたちを天皇の妃とするることによつて、朝廷との結びつきをかたくしました。



五九年、用明天皇につぐ
崇峻天皇のとき

ます。
もうしあげ
おおきな
イノシシが
とれましたの
で、ごらんを
ほほう。

馬子のやつ
おじのくせに、
天皇のわたしを
ないがしろに
しおつて……。

ううむ……。
こいつの首を
やつの首を
切れば
なあ……。

ふむ、
どうした
ものか。

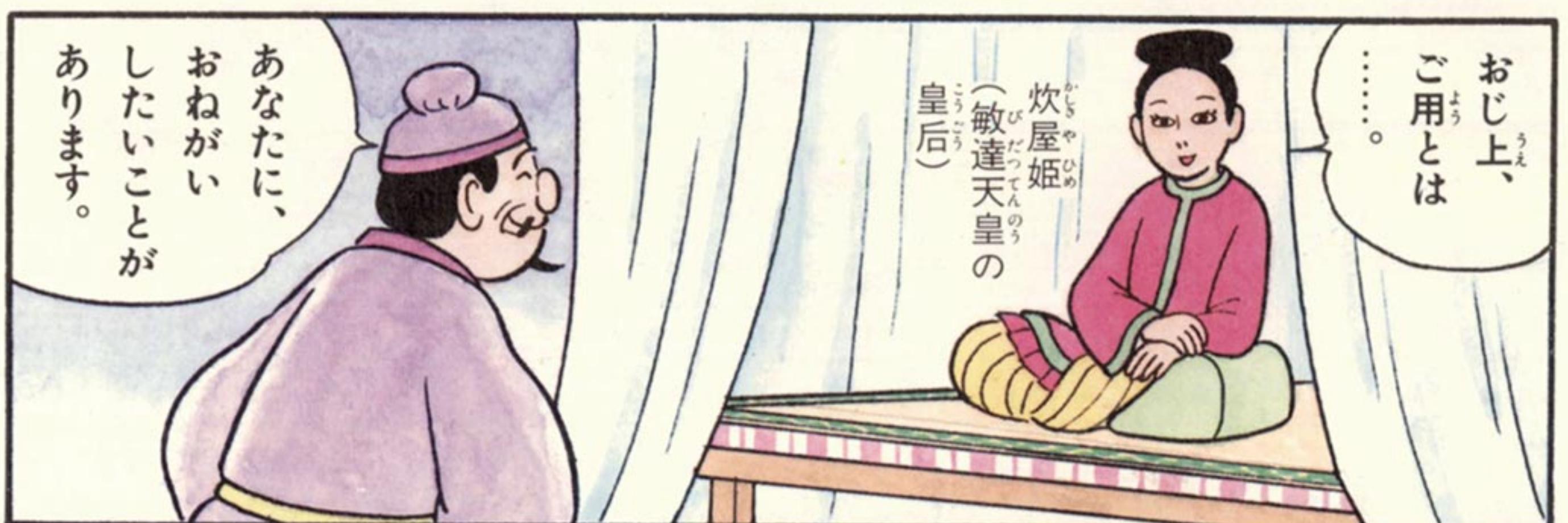
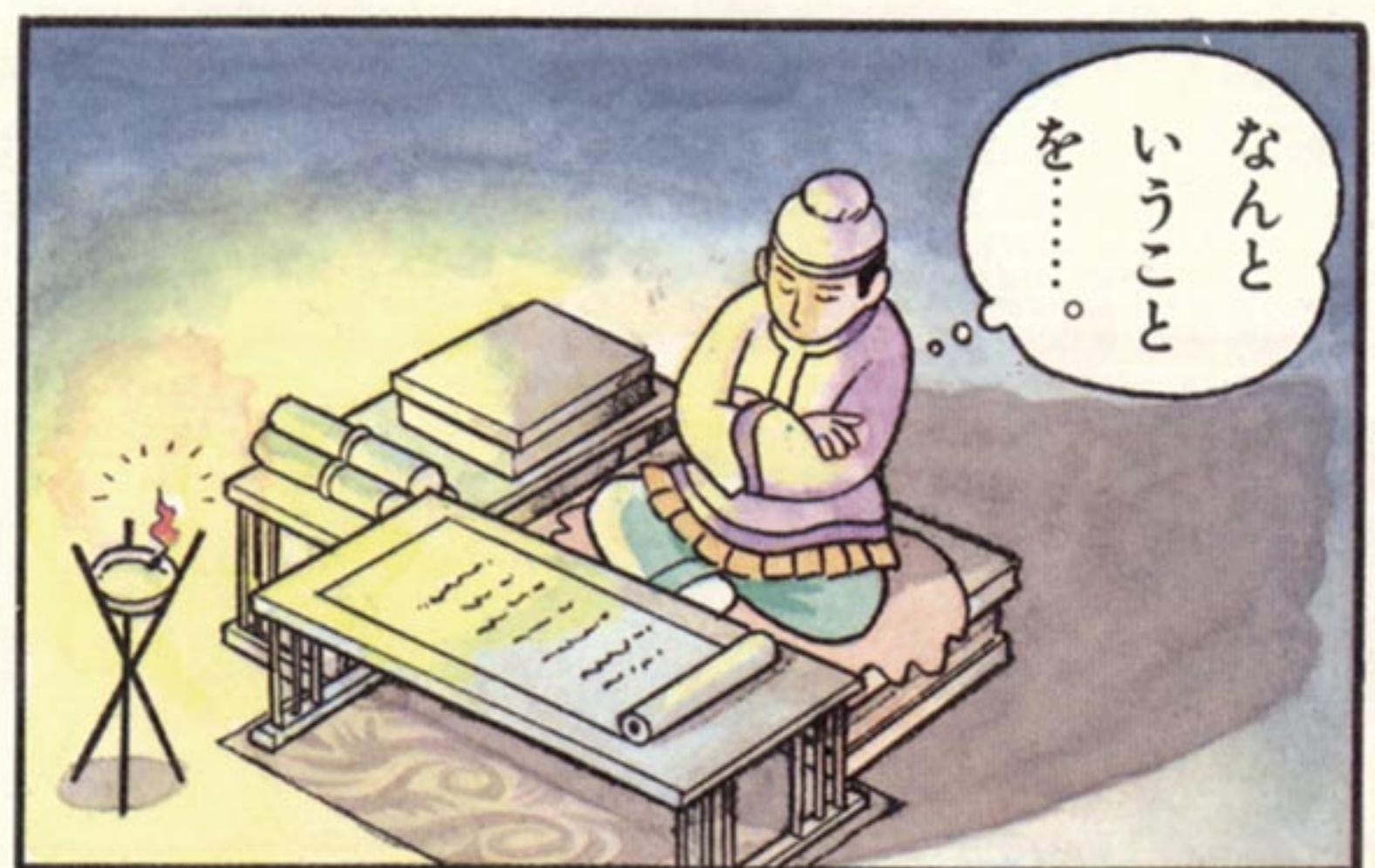
大王は、
すでに兵の用意
をなさって
いるとか。

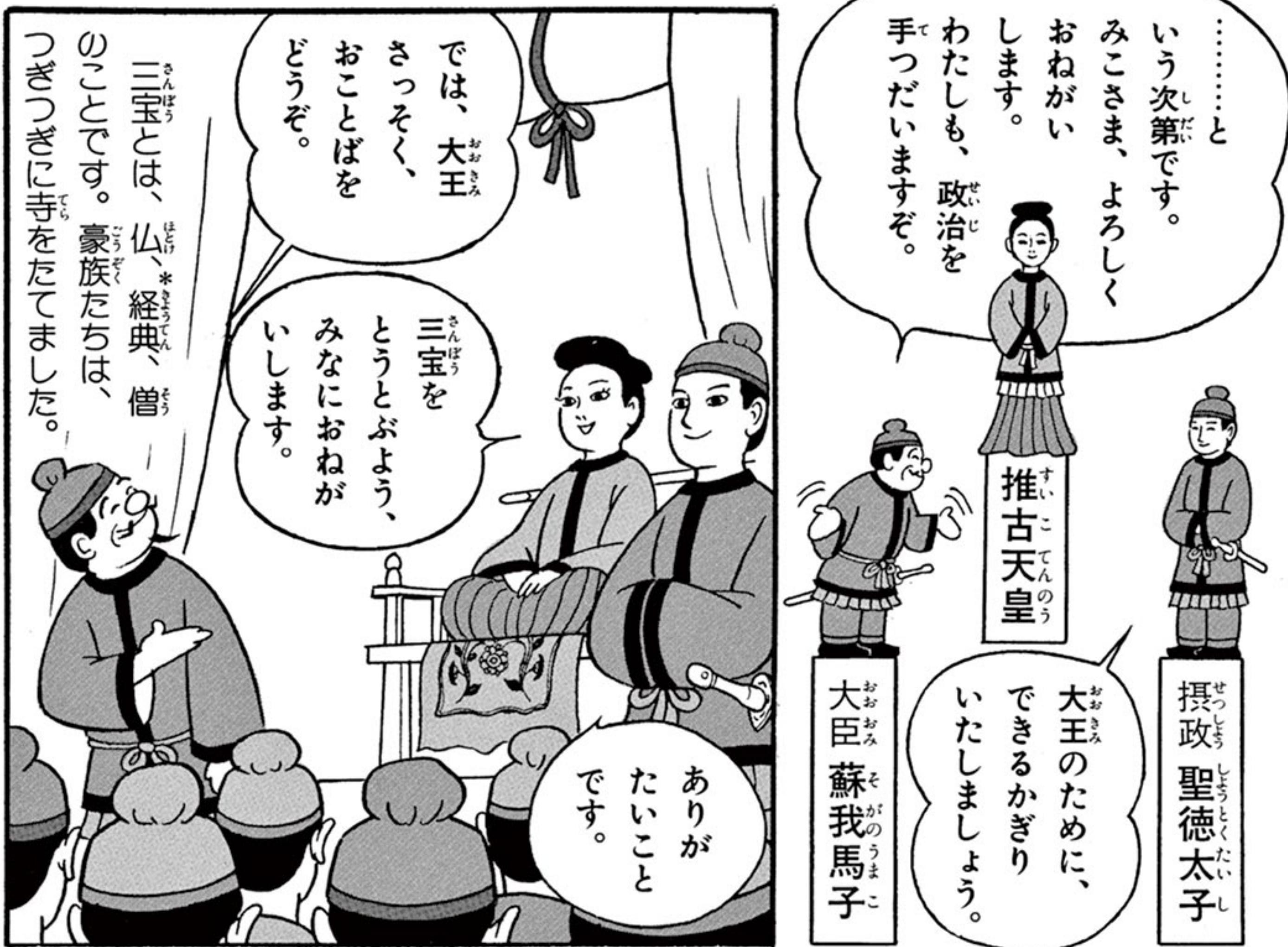
なにつ、
大王が
わしの首を、
ほんとうか!?

大王、
おかげ……。

このように、馬子は政治を
独裁し、天皇の地位をも左右
できるほど力がありました。

どう
なされ
ます。





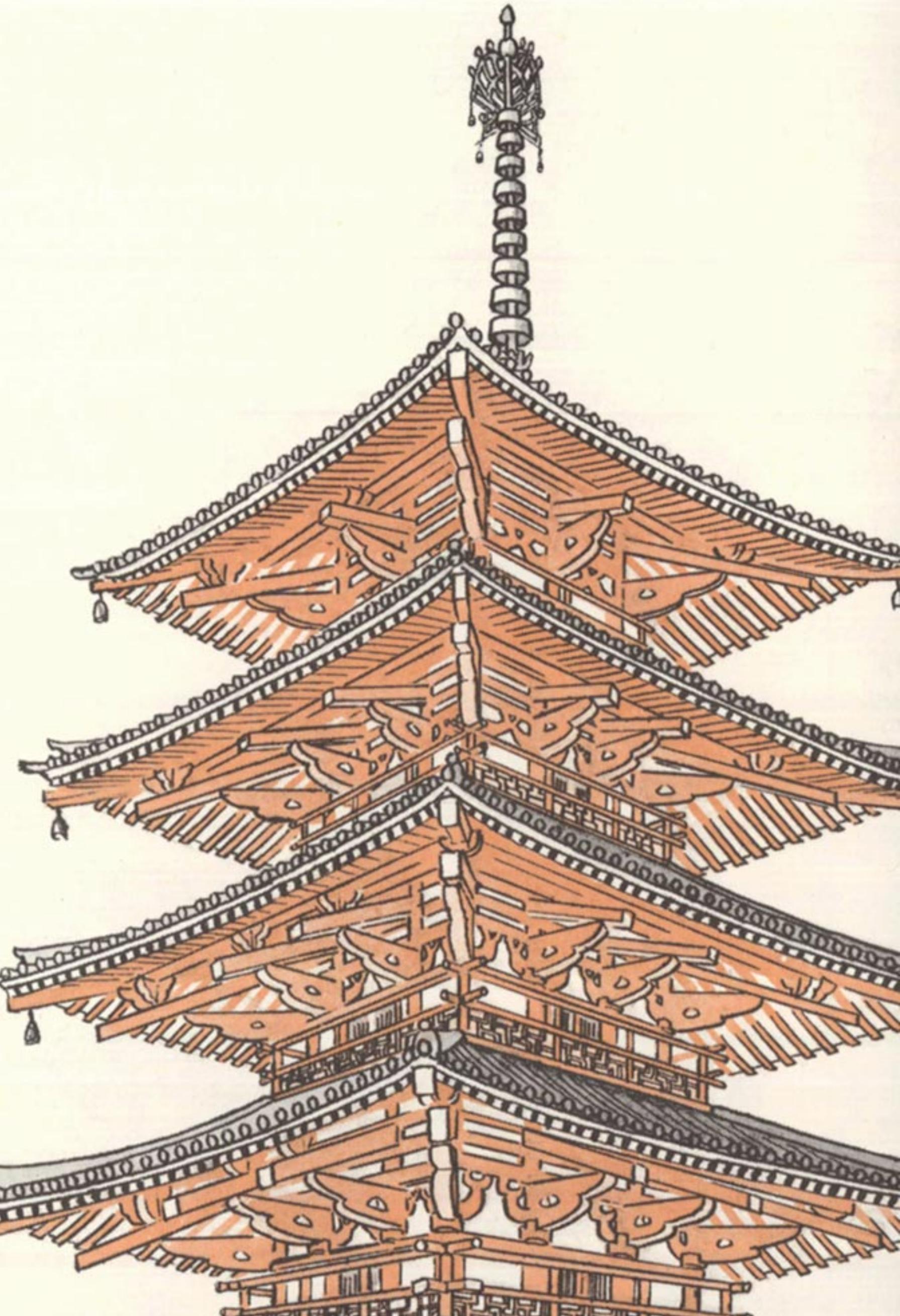
すごい、
この世の
ものとは
思えない。

蘇我の大臣の
力が、
みなぎつて
おるようじや。



*二尊仏：中心になる仏像と両わきの仏像。

六〇六年、鳥（止利）
仏師によつてつくられ
た仏像がこの寺にあさ
められました。
この二尊仏のうち釈迦如來は、補修されて、
今も「飛鳥大仏」として
親しまれています。高さは約三メートルです。



この中に、
み仏が
おわすのか。
ありがたい
ことじや。



* 聖德太子は、蘇我馬子



* 隋：五八一年から六一八年までつづいた中国の統一国家の名。

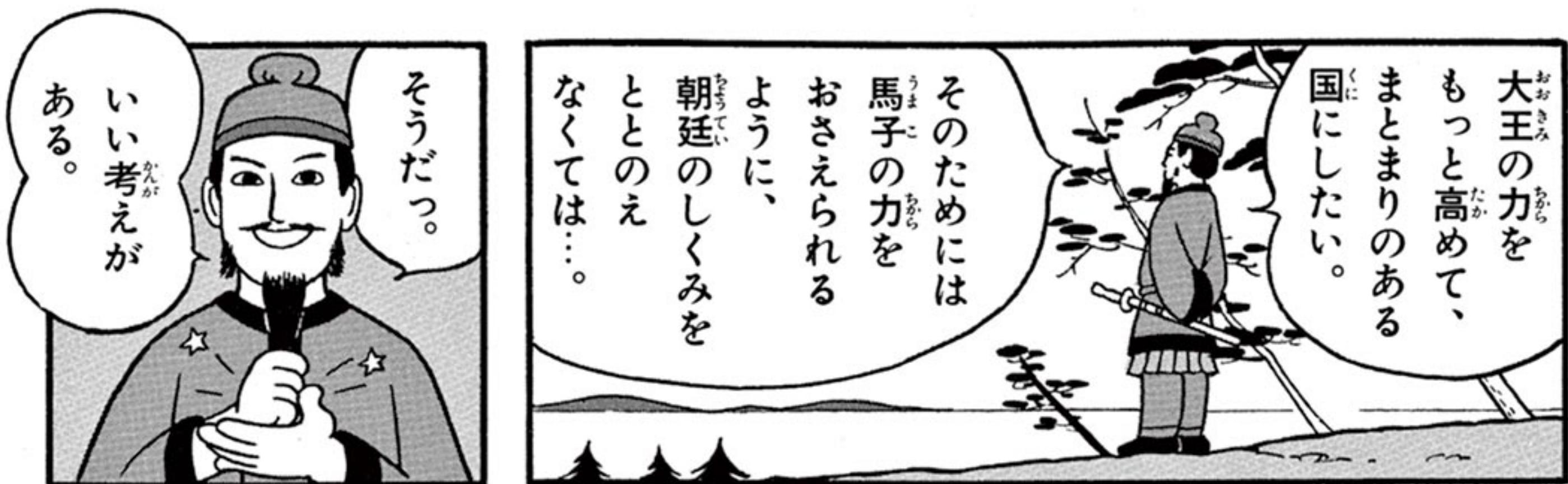


* 新羅：四世紀から九世紀までつづいた朝鮮半島南部の国。の名。



* 遣隋使：大和朝廷が隋へつかわした使節。





冠位十二階

	冠位	冠の色
1	大徳	紫
2	小徳	
3	大仁	青
4	小仁	
5	大礼	赤
6	小礼	
7	大信	黄
8	小信	
9	大義	白
10	小義	
11	大智	黒
12	小智	

六〇三年、冠位十一階の制度がさだめられました。

しかし、わたしには必要ありませんな。

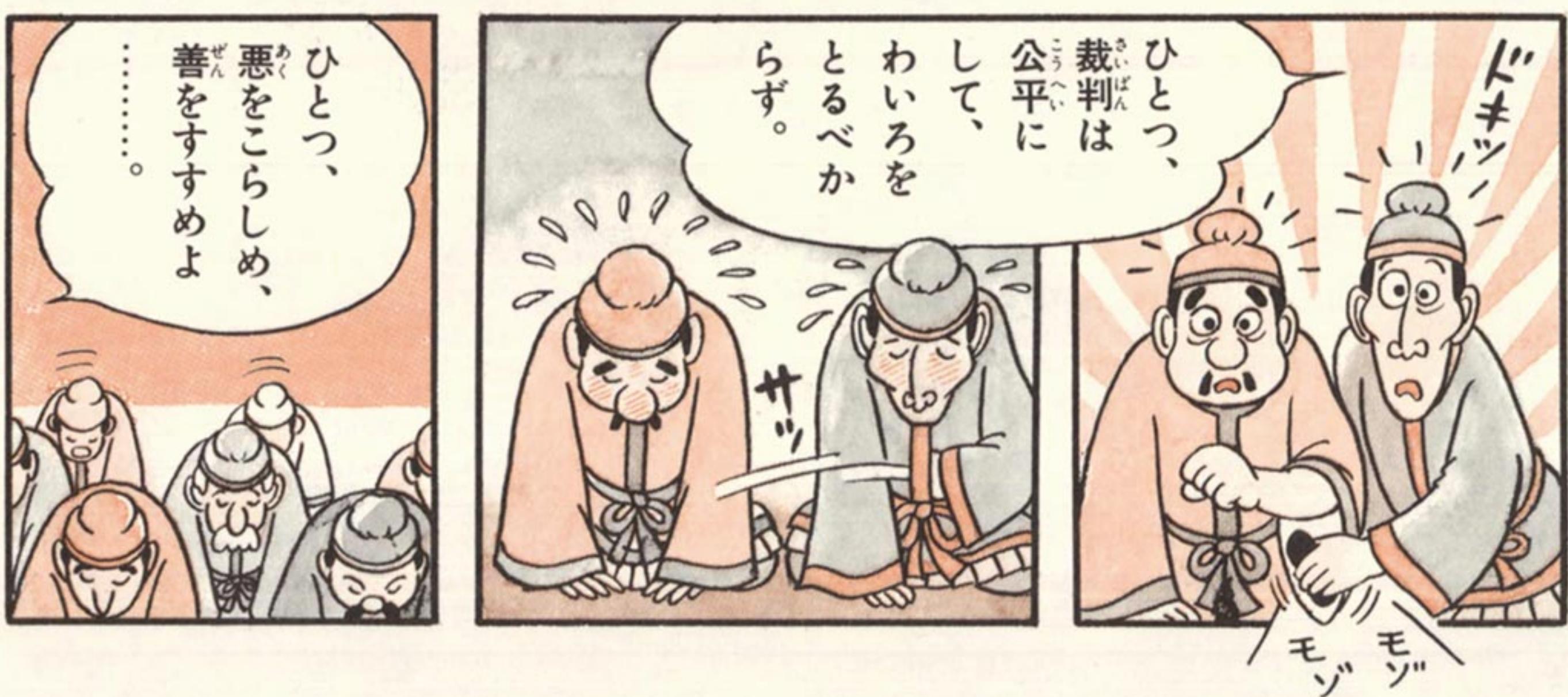
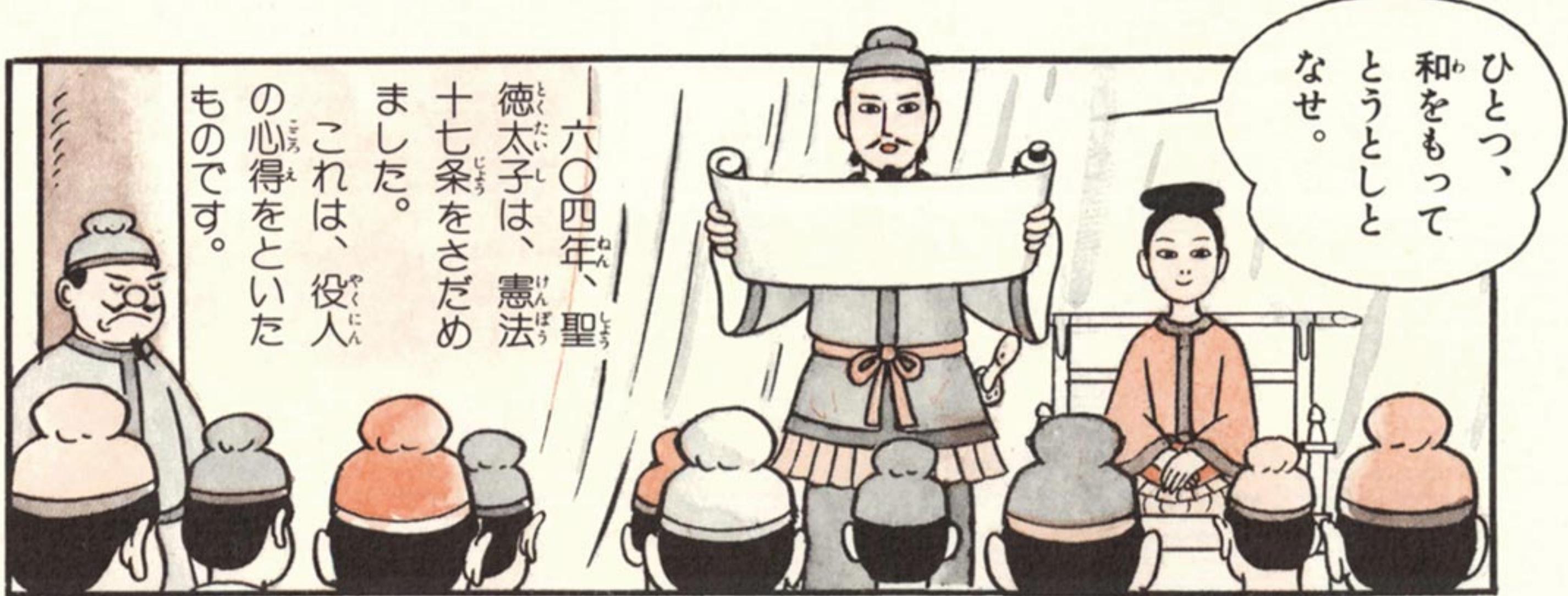
わかりました。

えつ！

おれ、小智。いちばんだめなのね…。

今まで、けつこうです。

わたしには、位などいらないというのです。

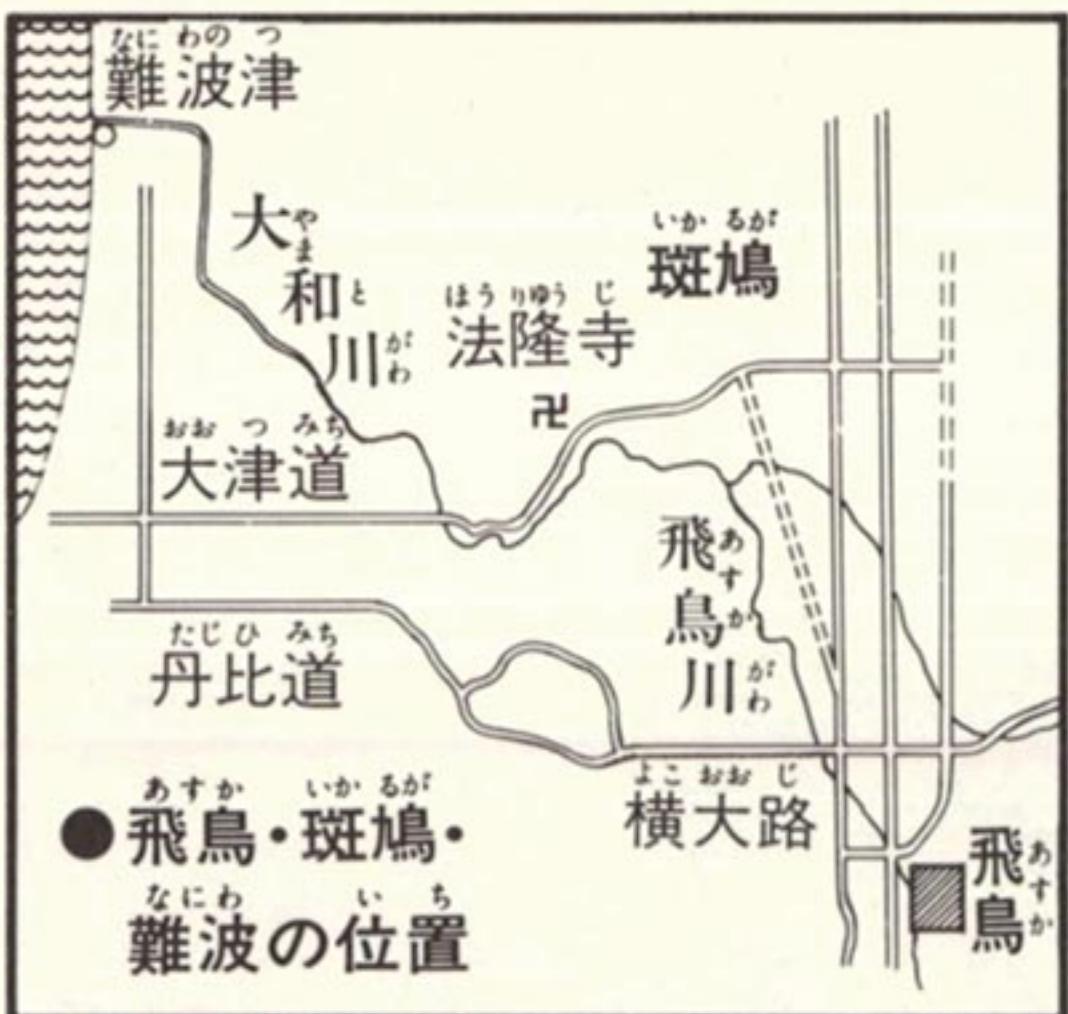


六〇五年

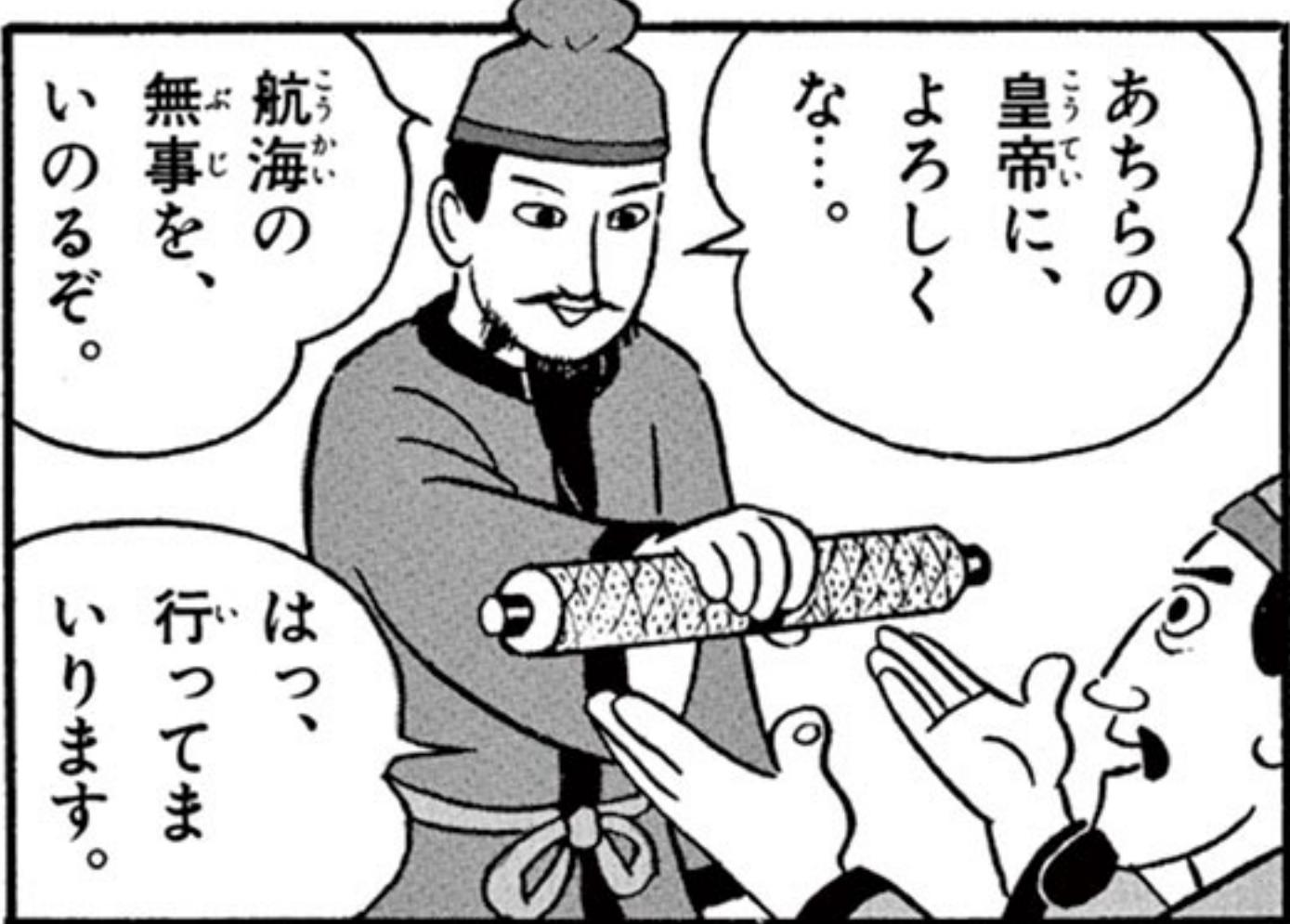
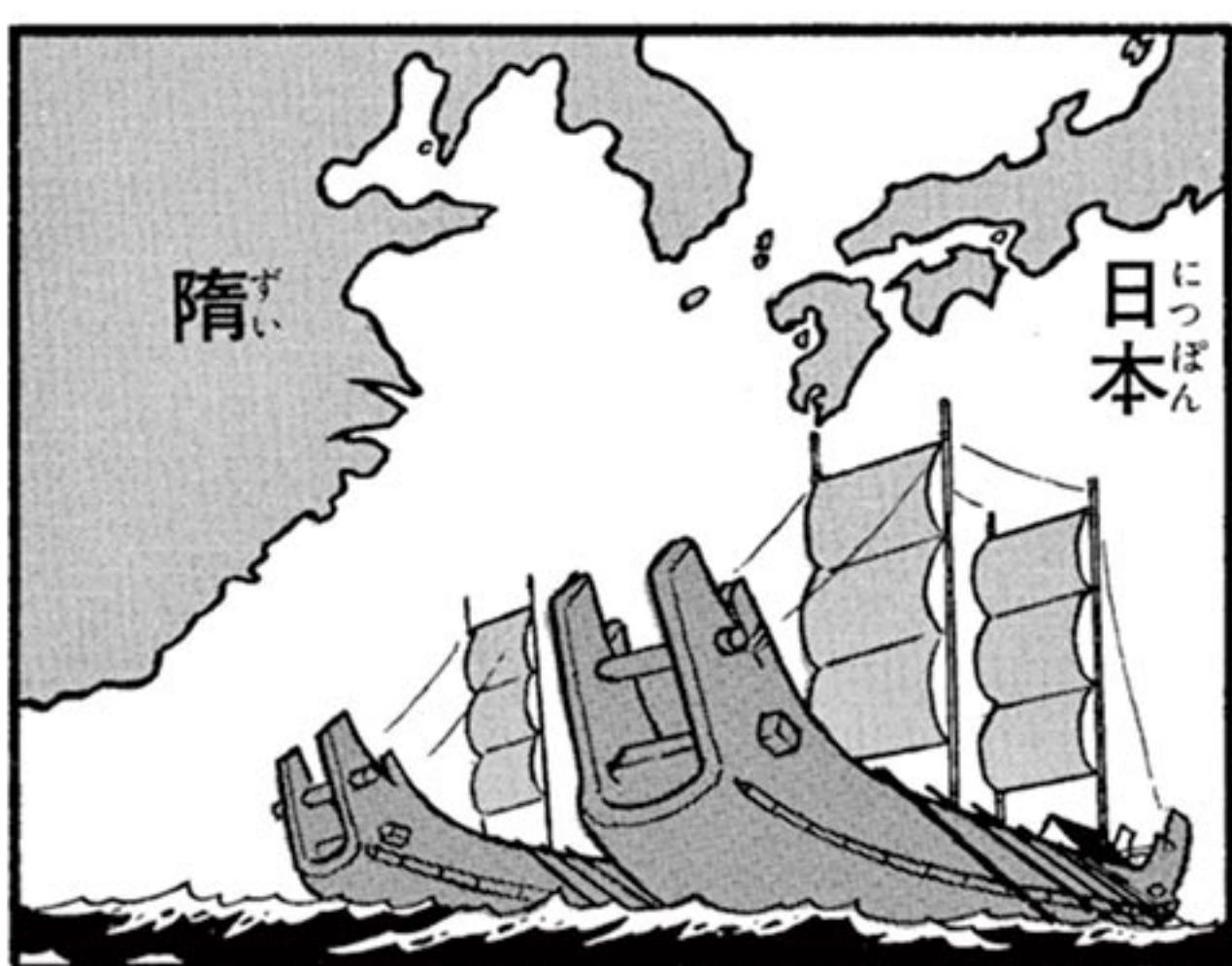
*法隆寺：現在の法隆寺は、一度焼失し、再建されたものだといわれています。

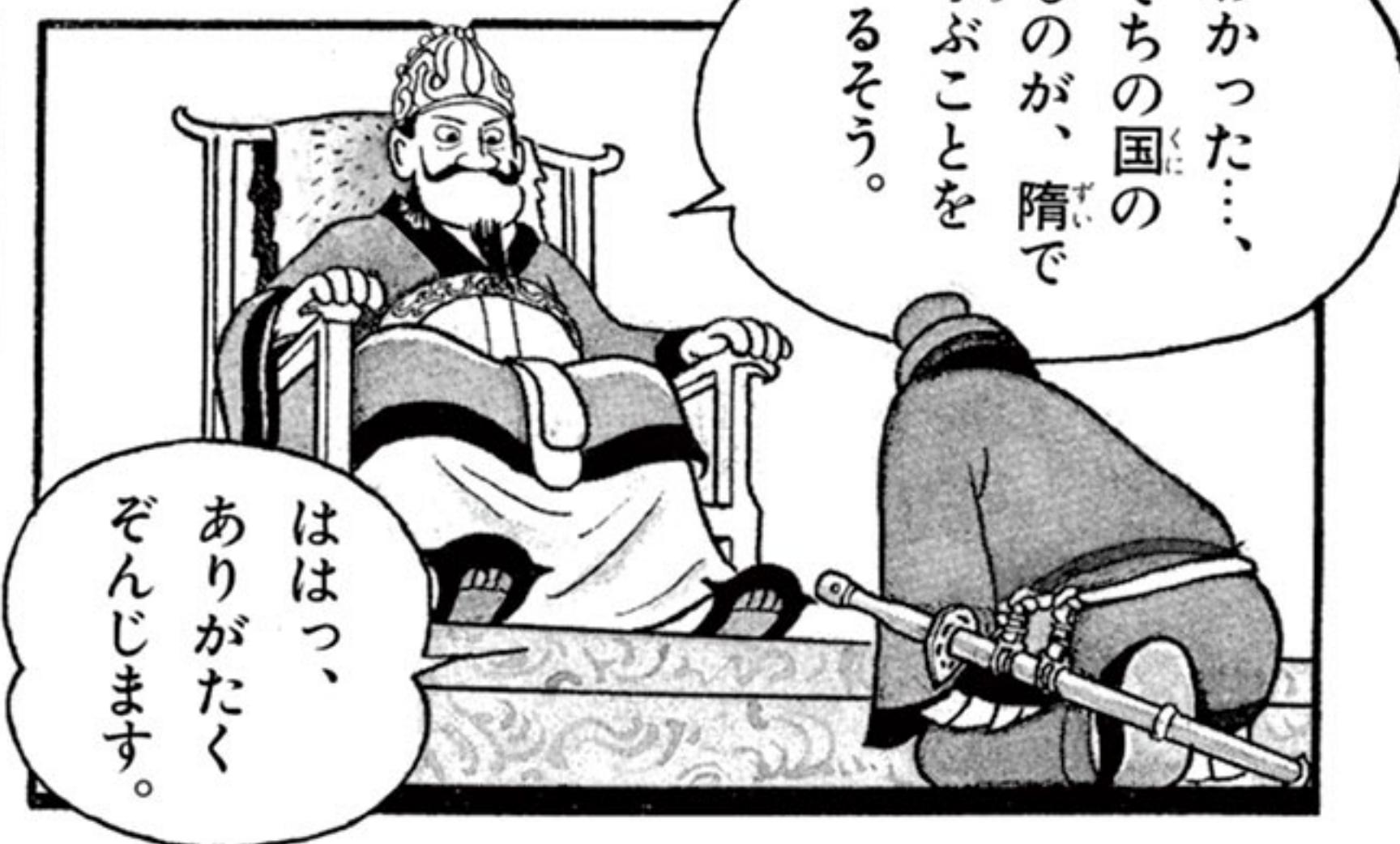
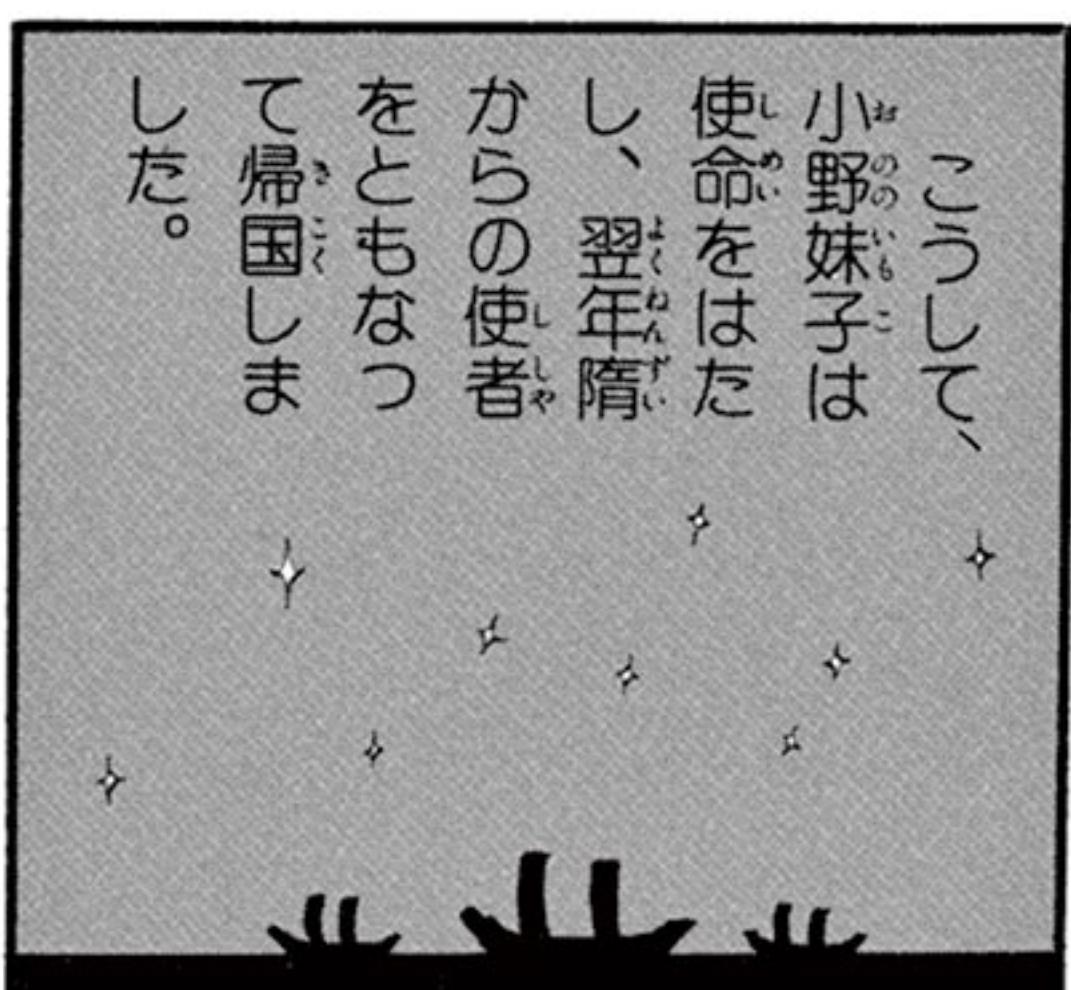


*難波津：大阪の港



六〇七年、第一回遣隋使渡航





隋の使者が帰国するとき、ふたたび小野妹子を代表として、第二回の遣隋使がおこられることになりました。

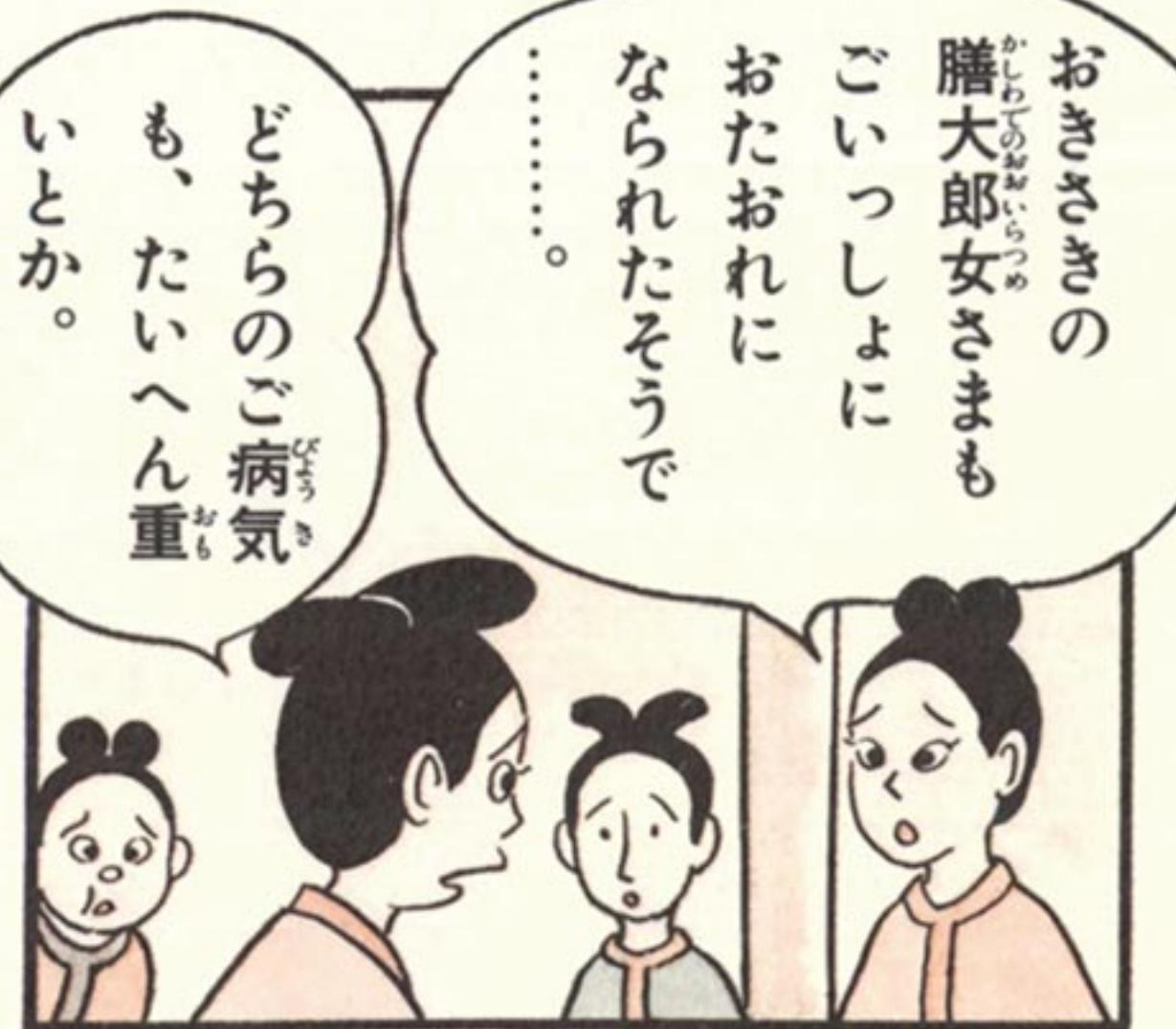


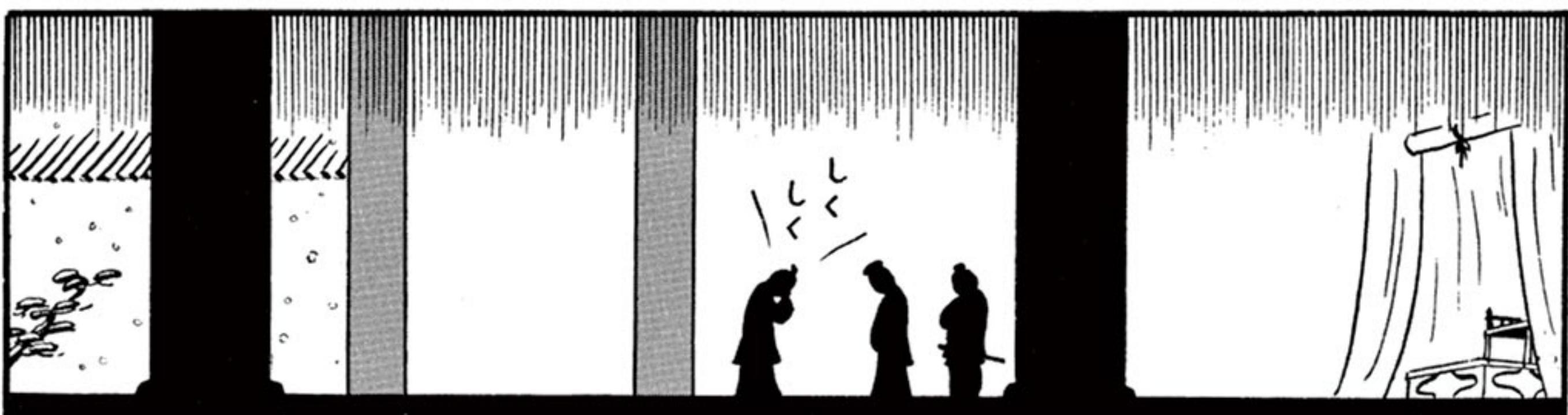
*法華經：仏教の經典の一つ。妙法蓮華經の略。



六二二年、一月
聖德太子は、病の
ところにつきました。

みこさまの
ご病気が、
一日も早く
おなおりに
なりますように。





聖德太子の理想は、天皇（大王）を中心とする国家をつくることでした。そこで、冠位十一階や憲法十七条によつて、新しい役人の制度や心得をさだめました。

また、隋との対等外交をめざし、天皇中心の歴史書の編さんをすすめたりしました。しかし、蘇我氏などの豪族の力は強く、まだまだ古い形のままでのこつていました。

人びとは、太子の死をかなしみました。
その人がらや業績は、後の世まで語りつがれ、やがて、伝説や信こうが生まれました。



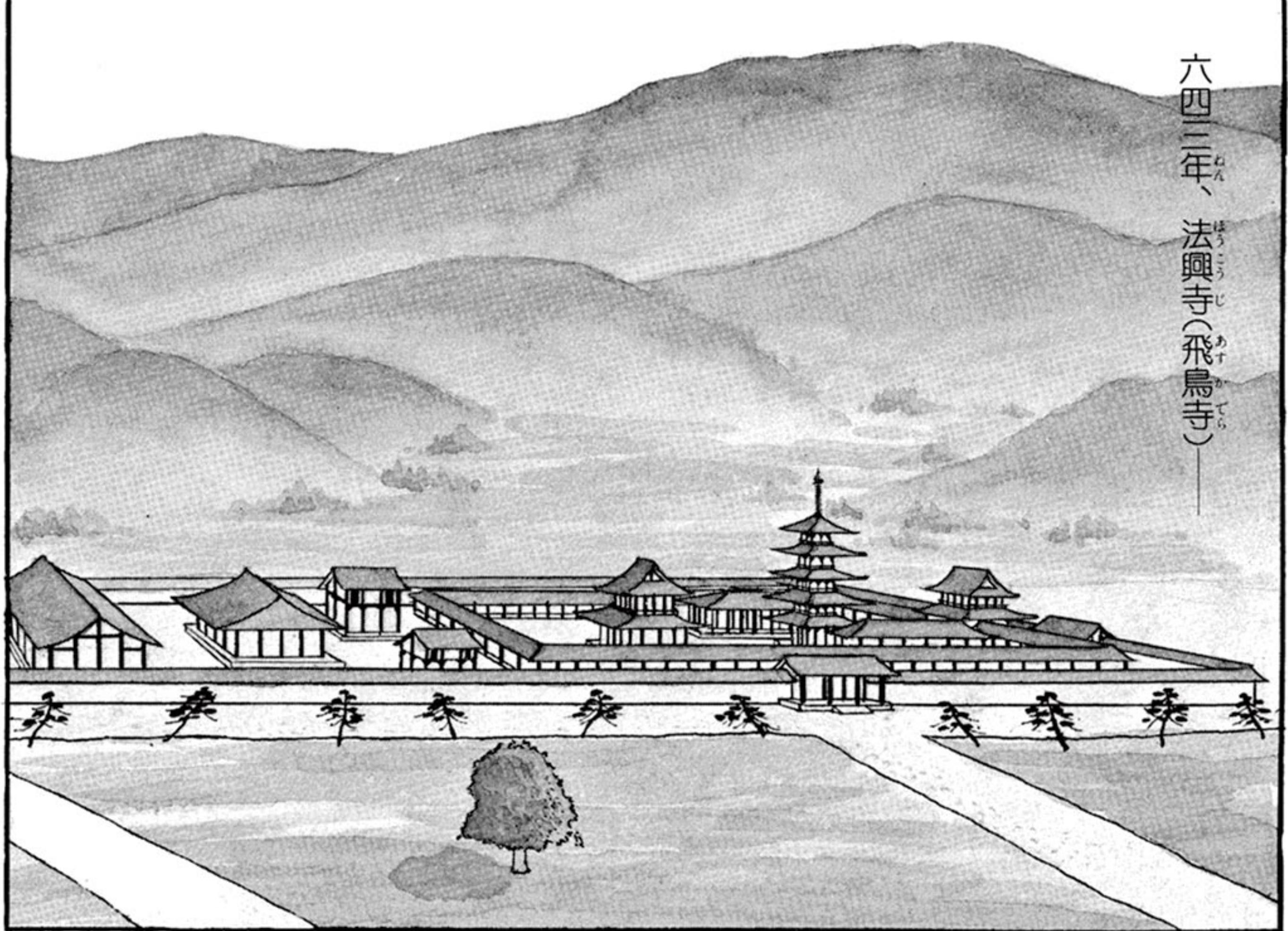
小学館 eBooks

だい しょう
第三章

たい か かい しん
大化の改新

あすか じ だい
—飛鳥時代—

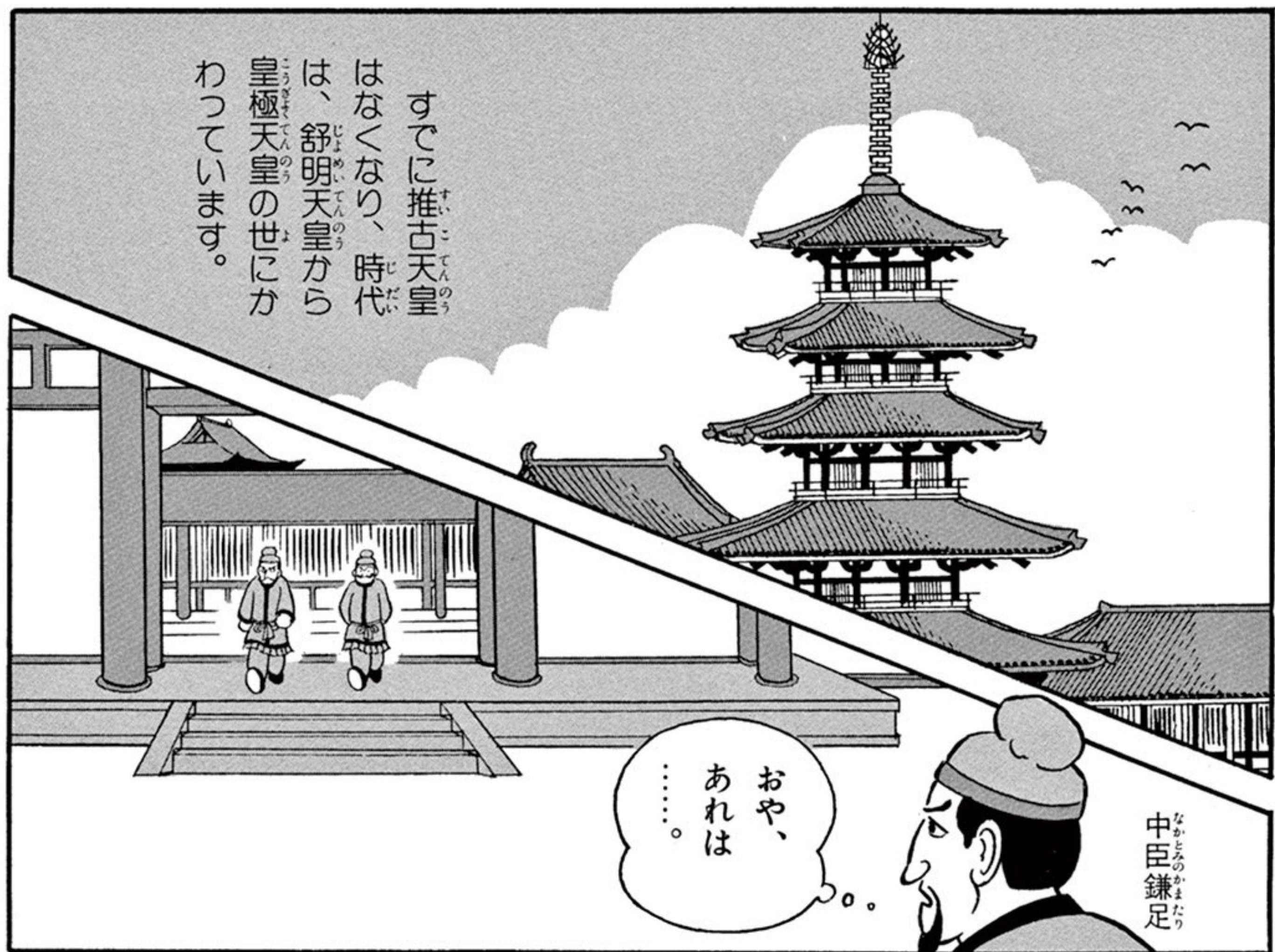
六四二年、法興寺（飛鳥寺）

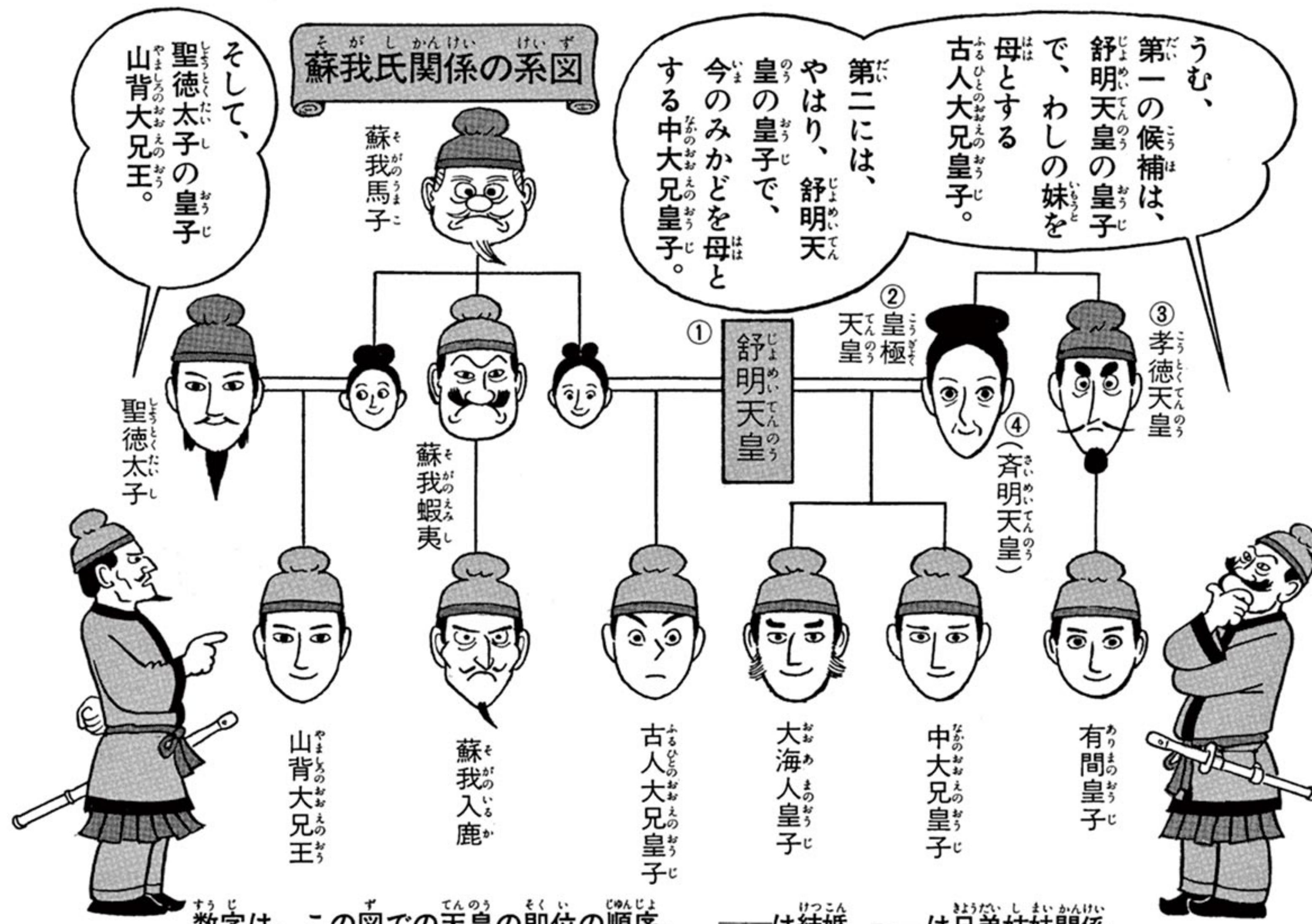
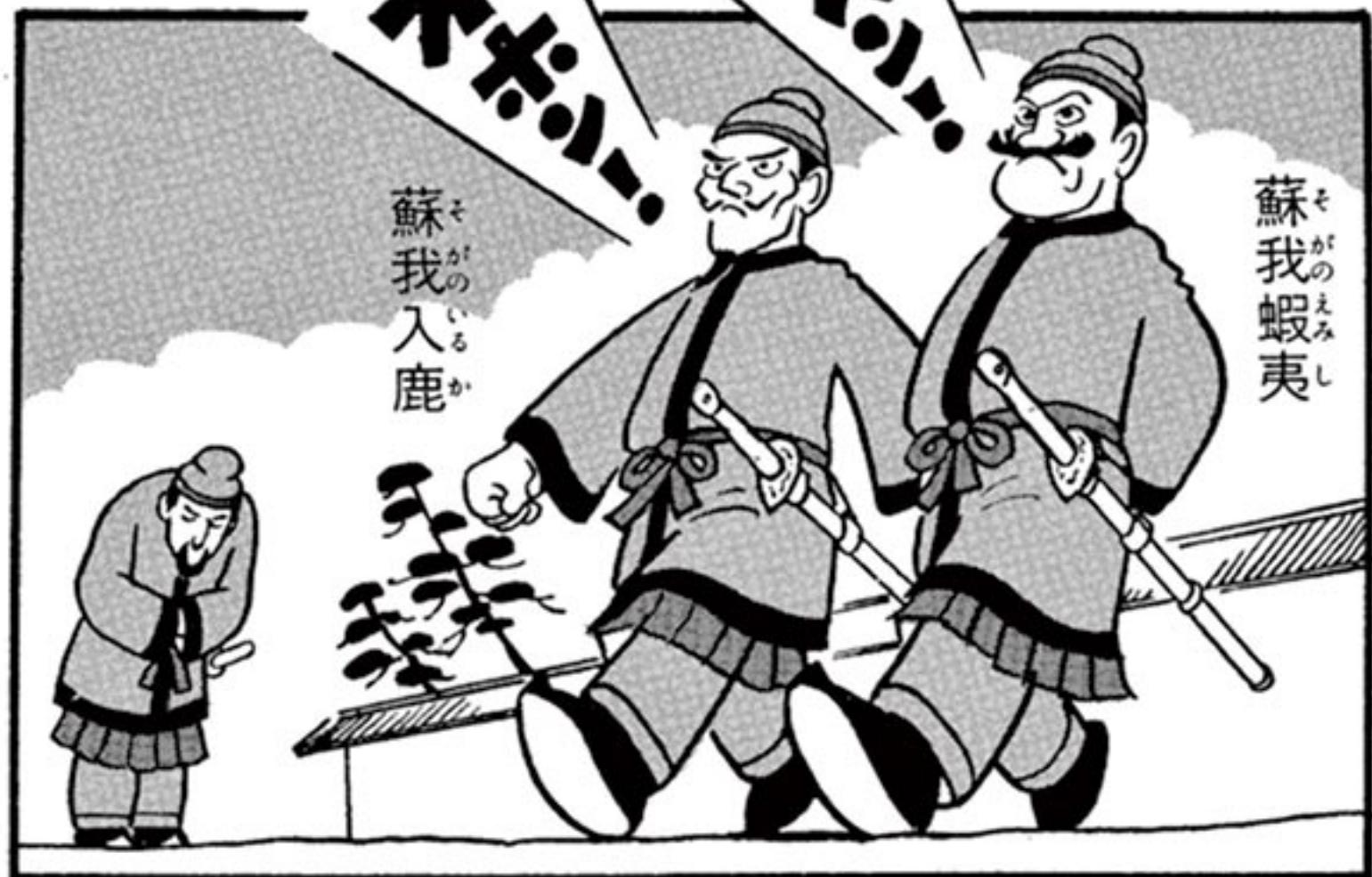


すでに推古天皇
はなくなり、時代
は、舒明天皇から
皇極天皇の世にか
わっています。

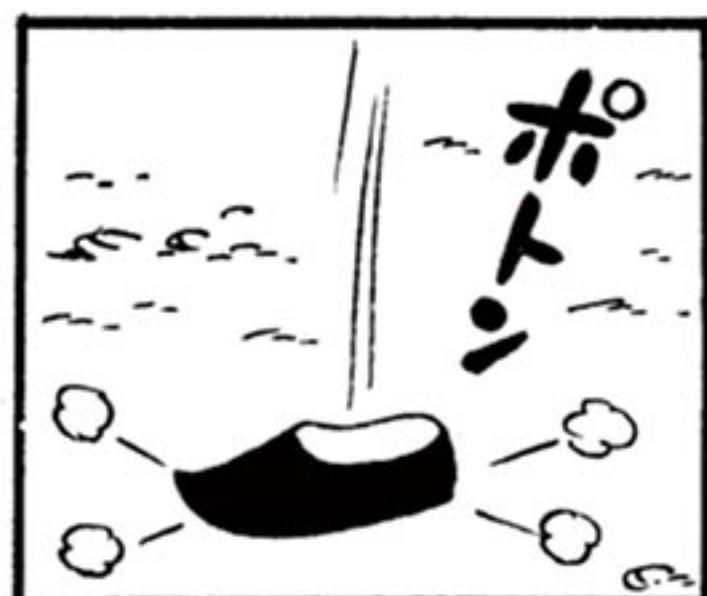
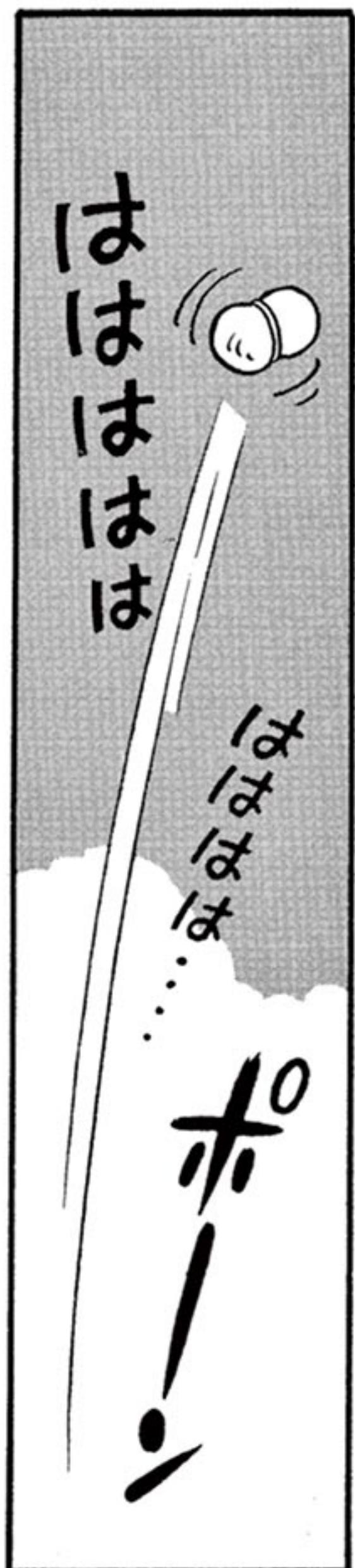
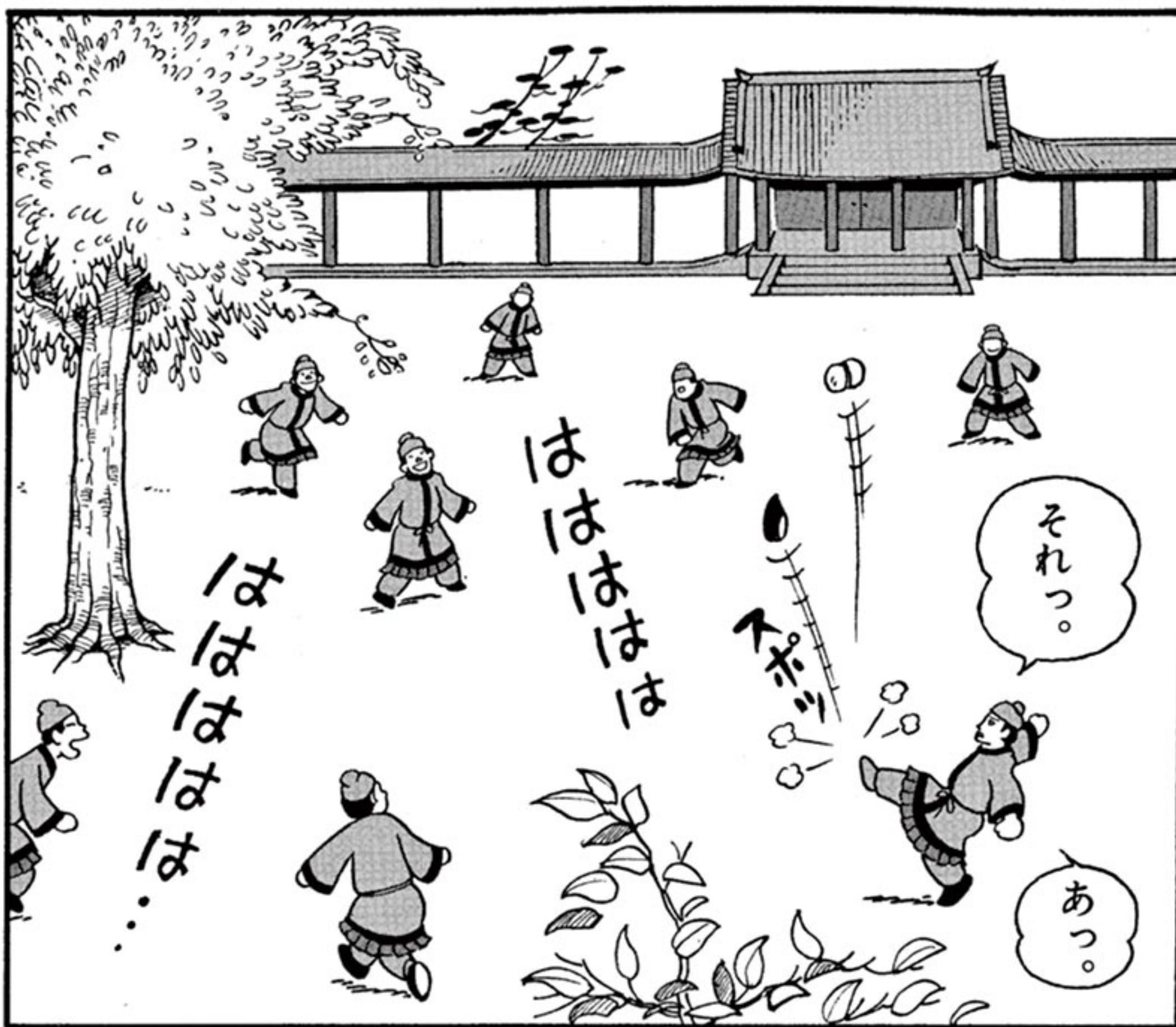
おや、
あれは

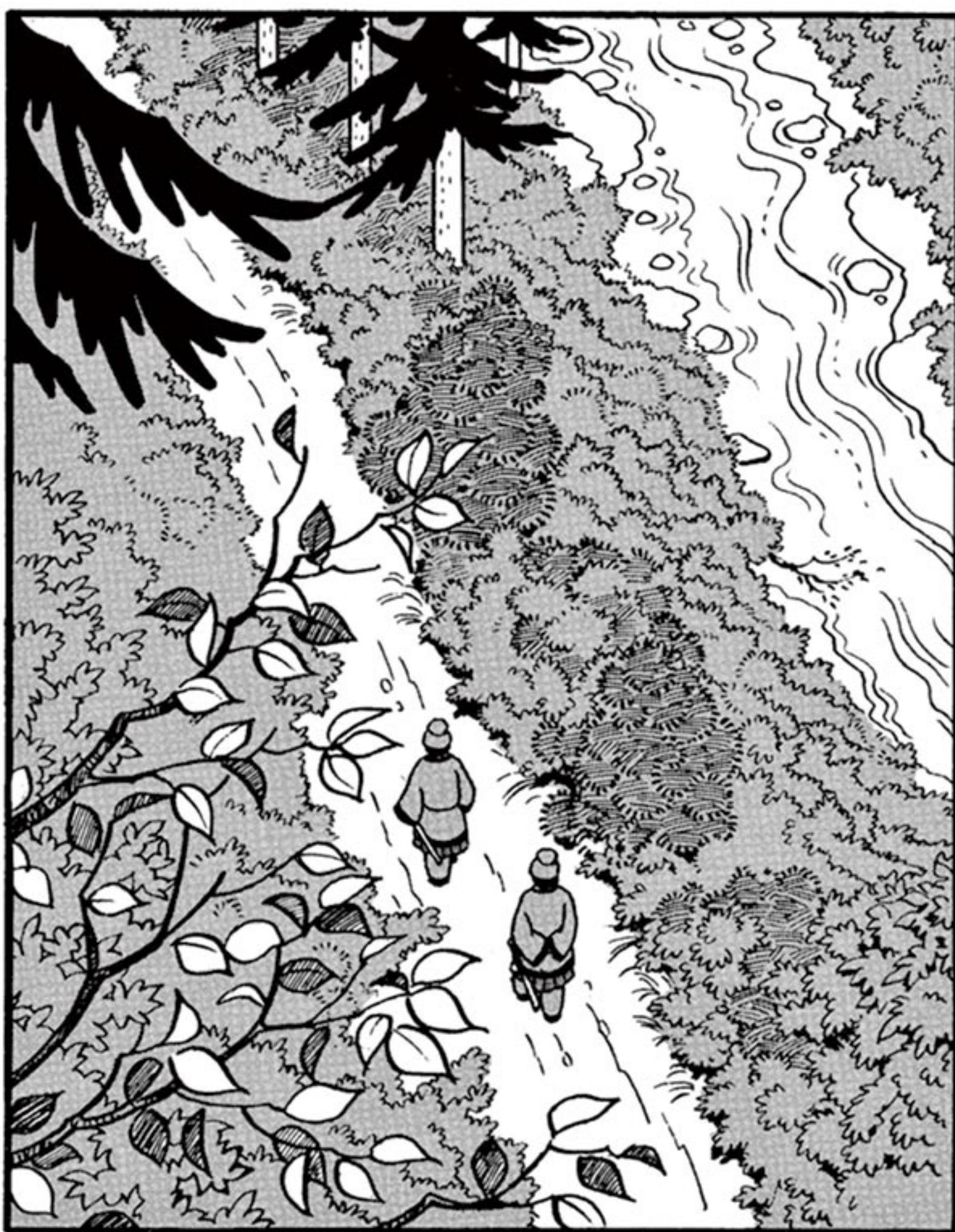
中臣鎌足







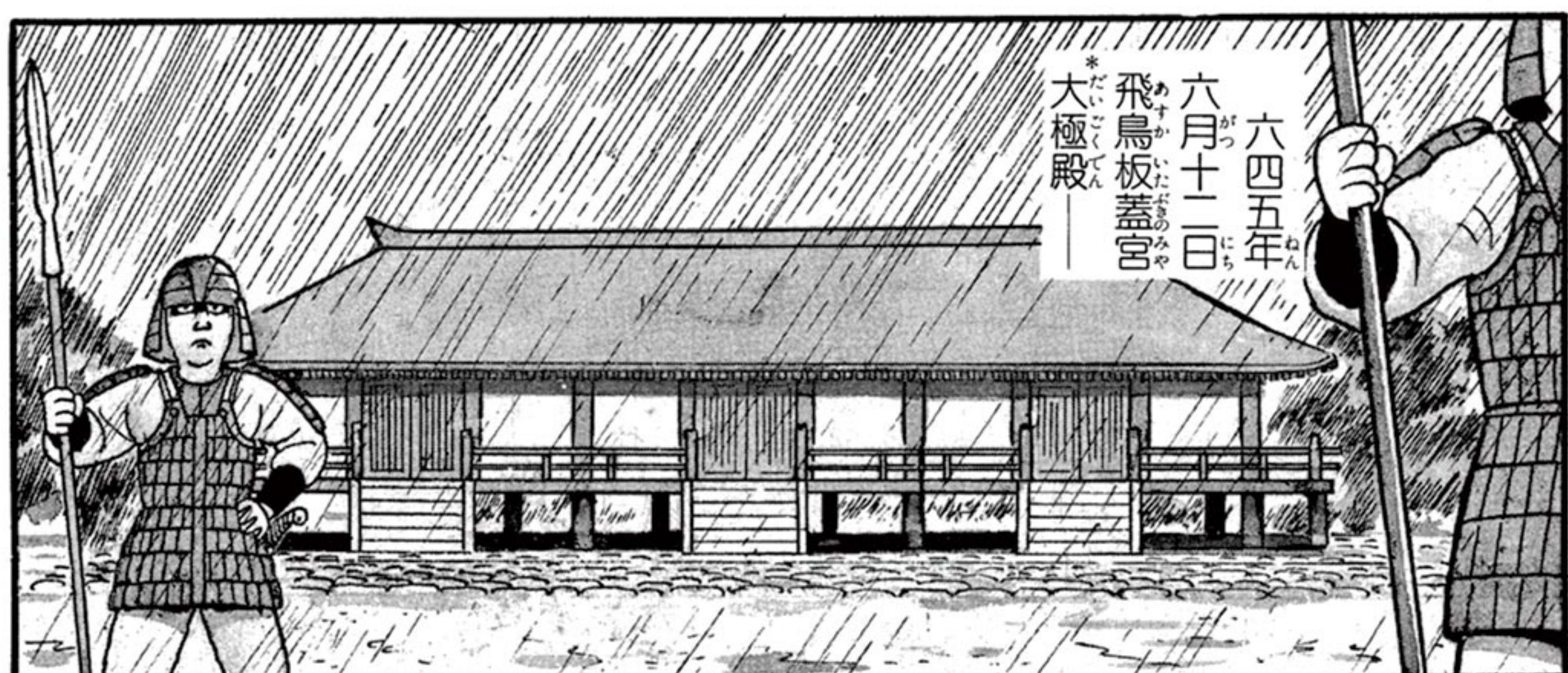




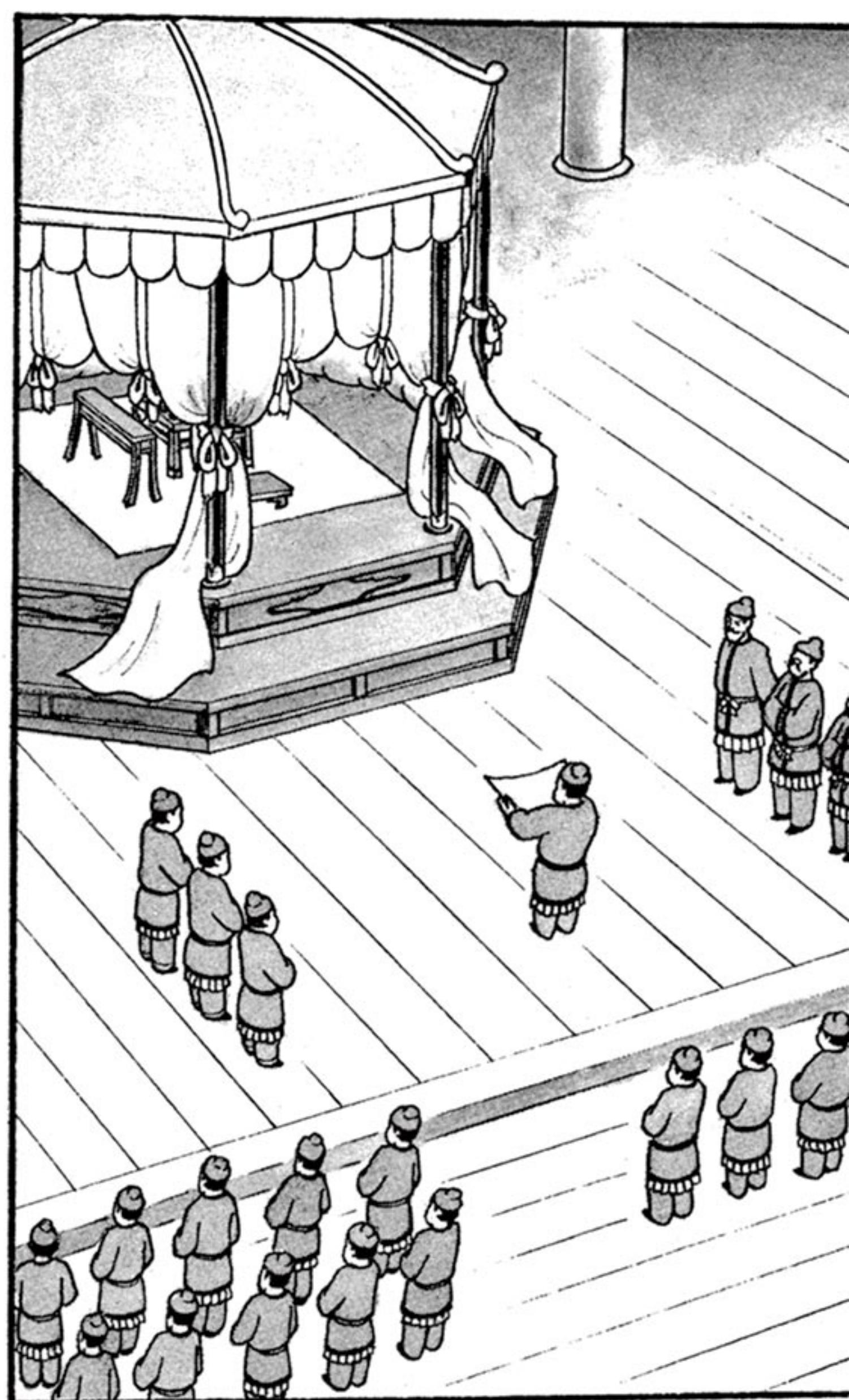


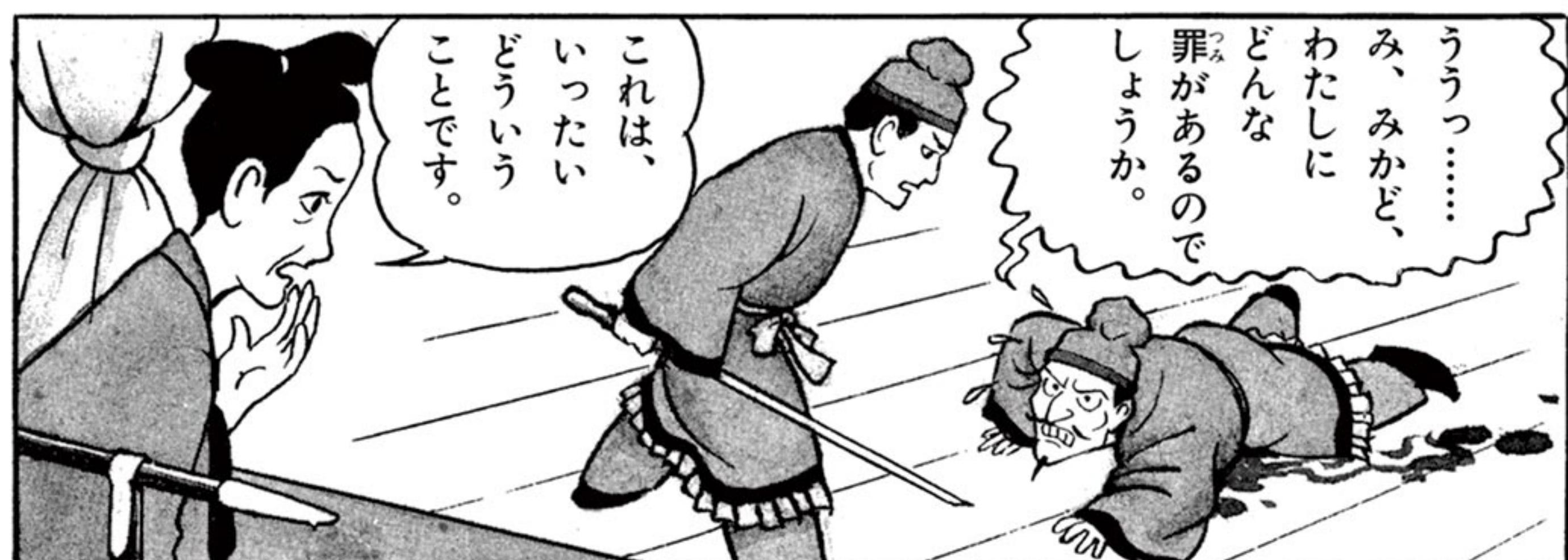


*三韓：昔、朝鮮半島にあつた高句麗、百濟、新羅の三国のこと。



*大極殿：天皇が政治などを行つた建物。



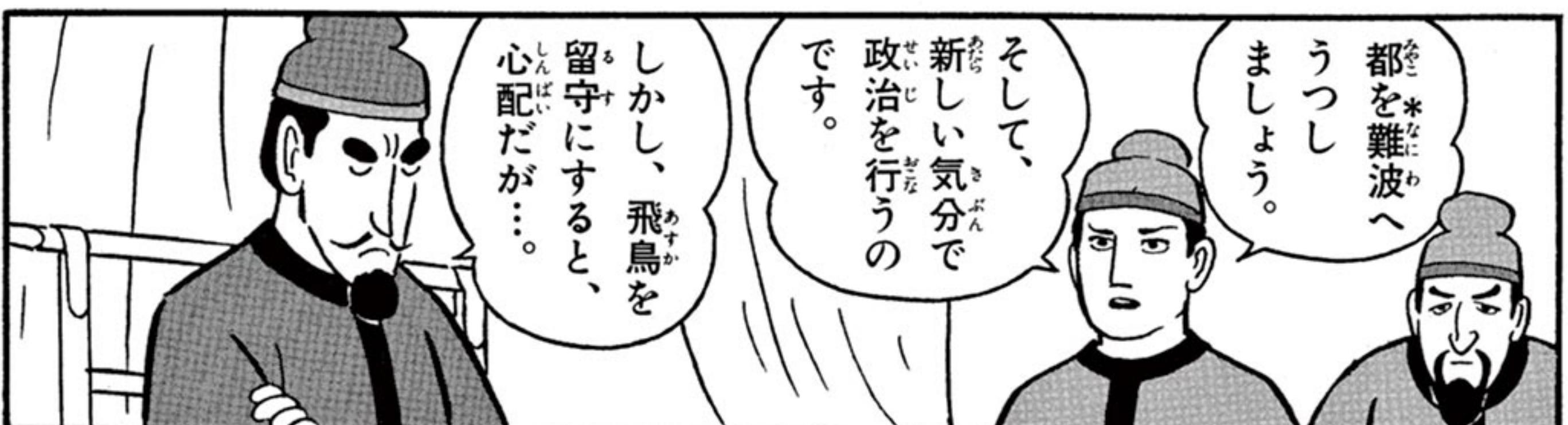
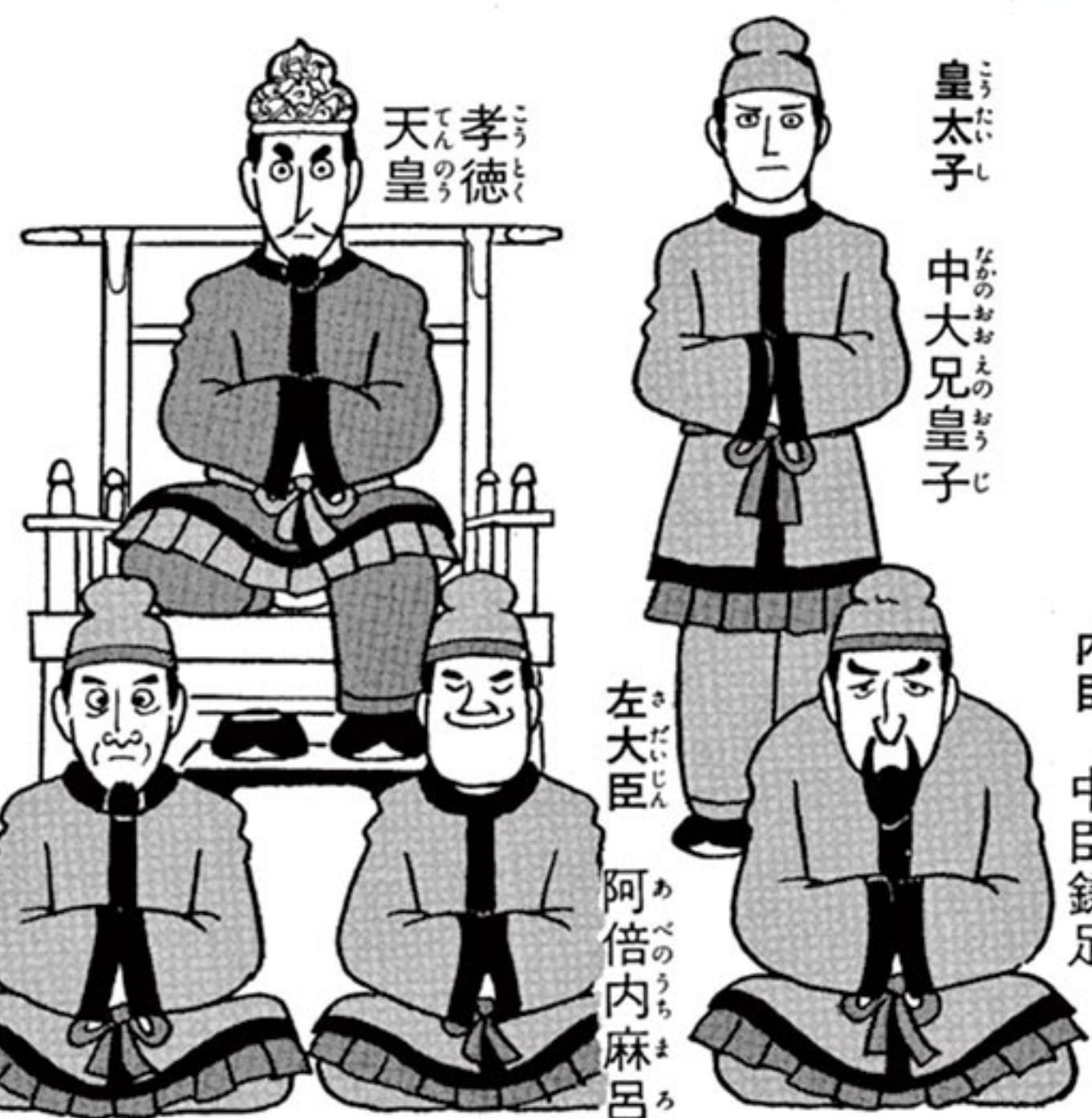


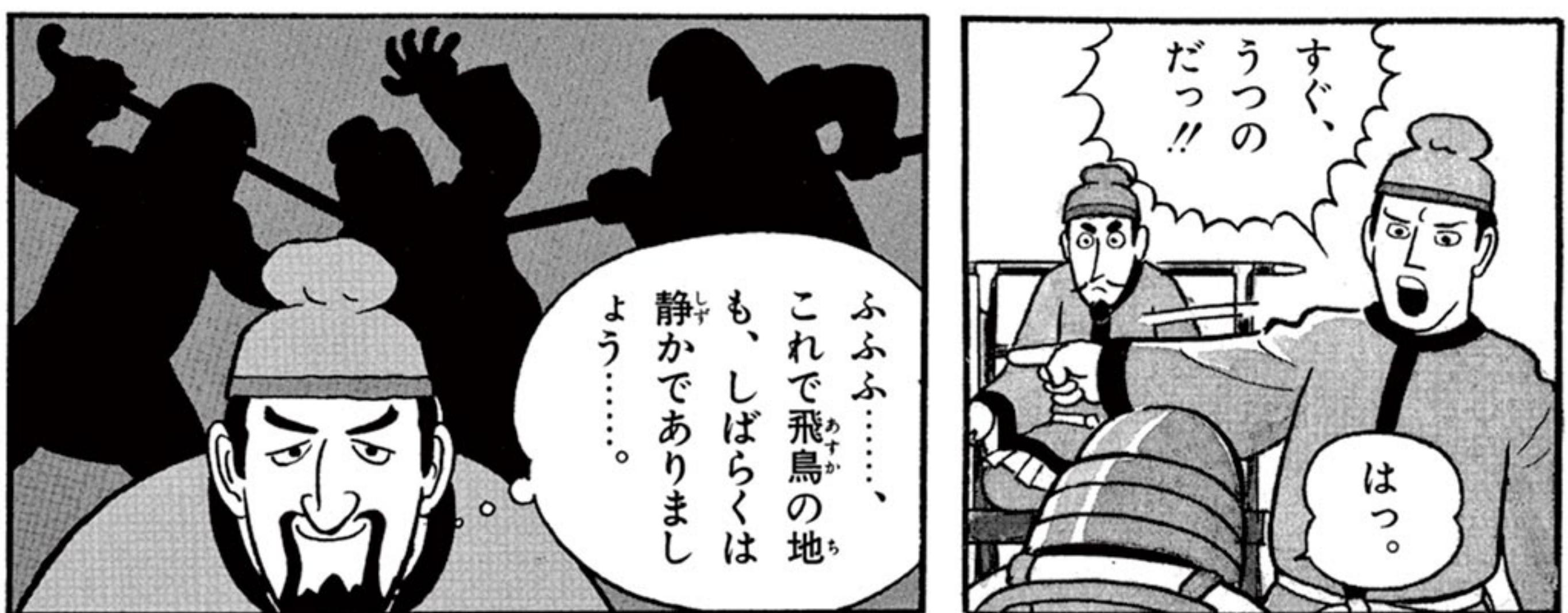
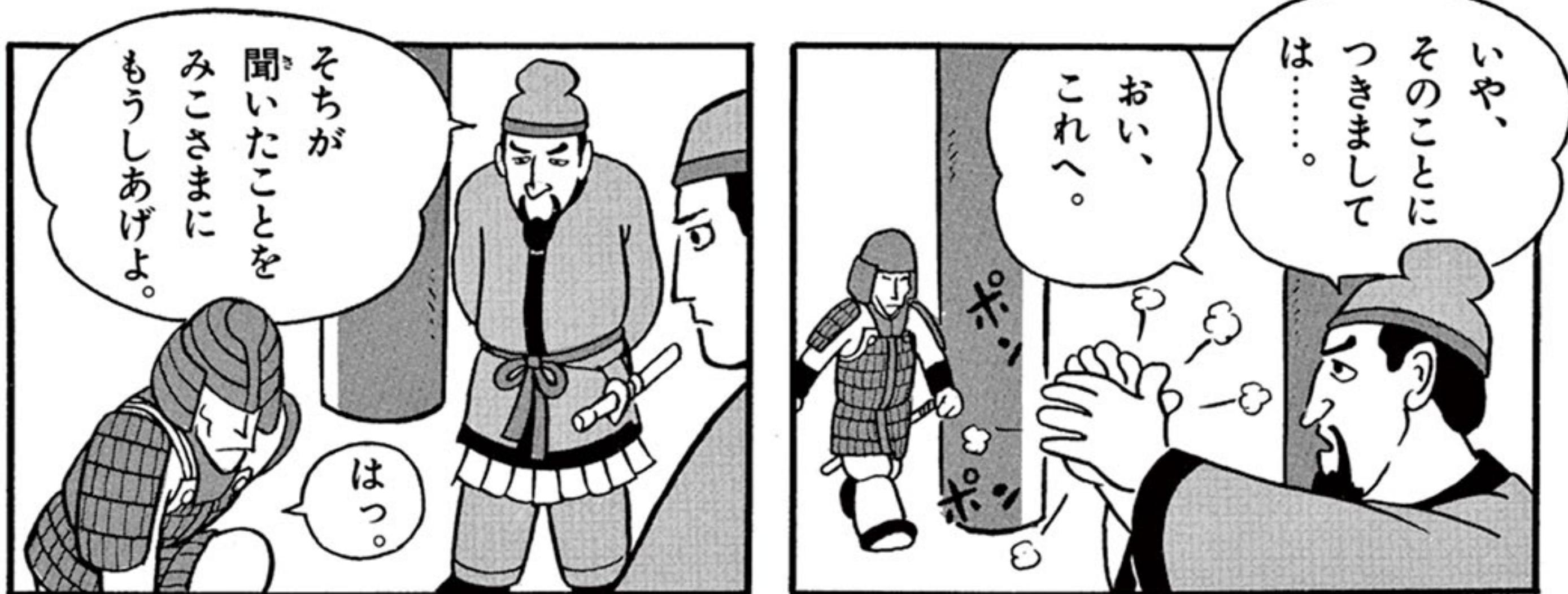


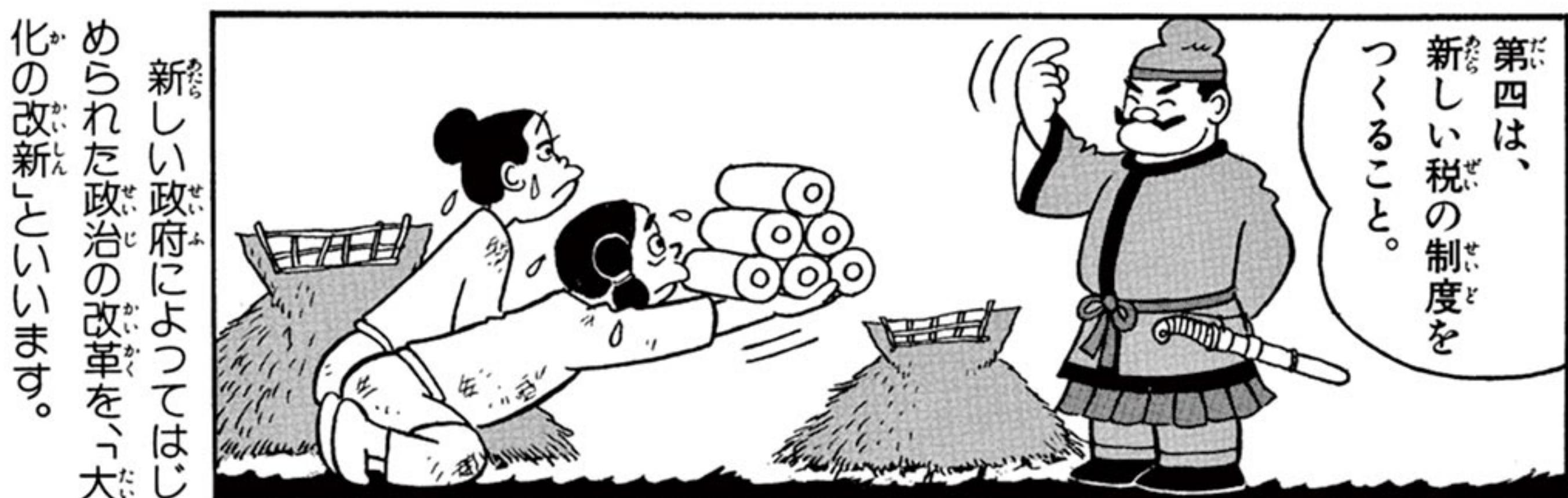
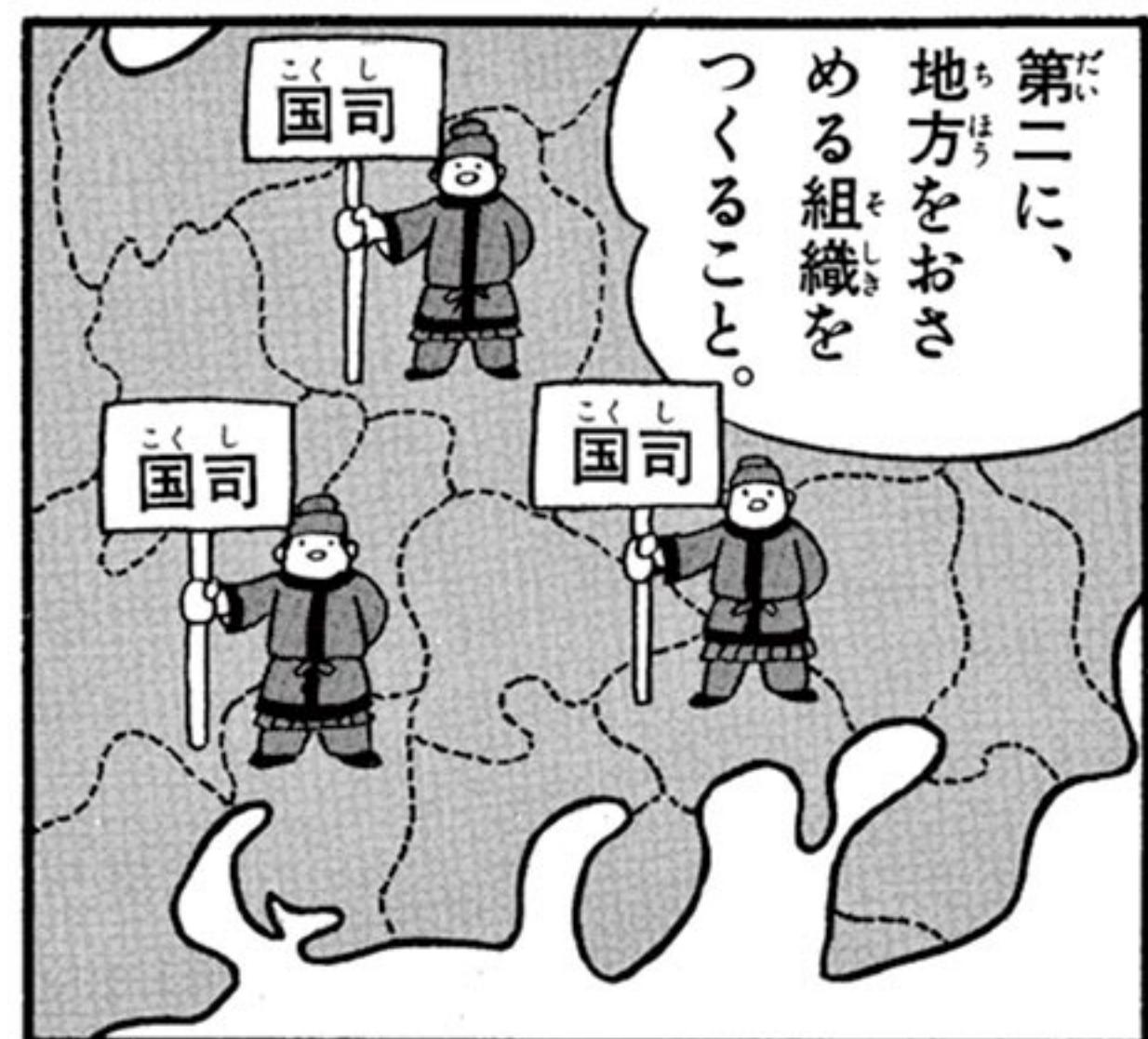


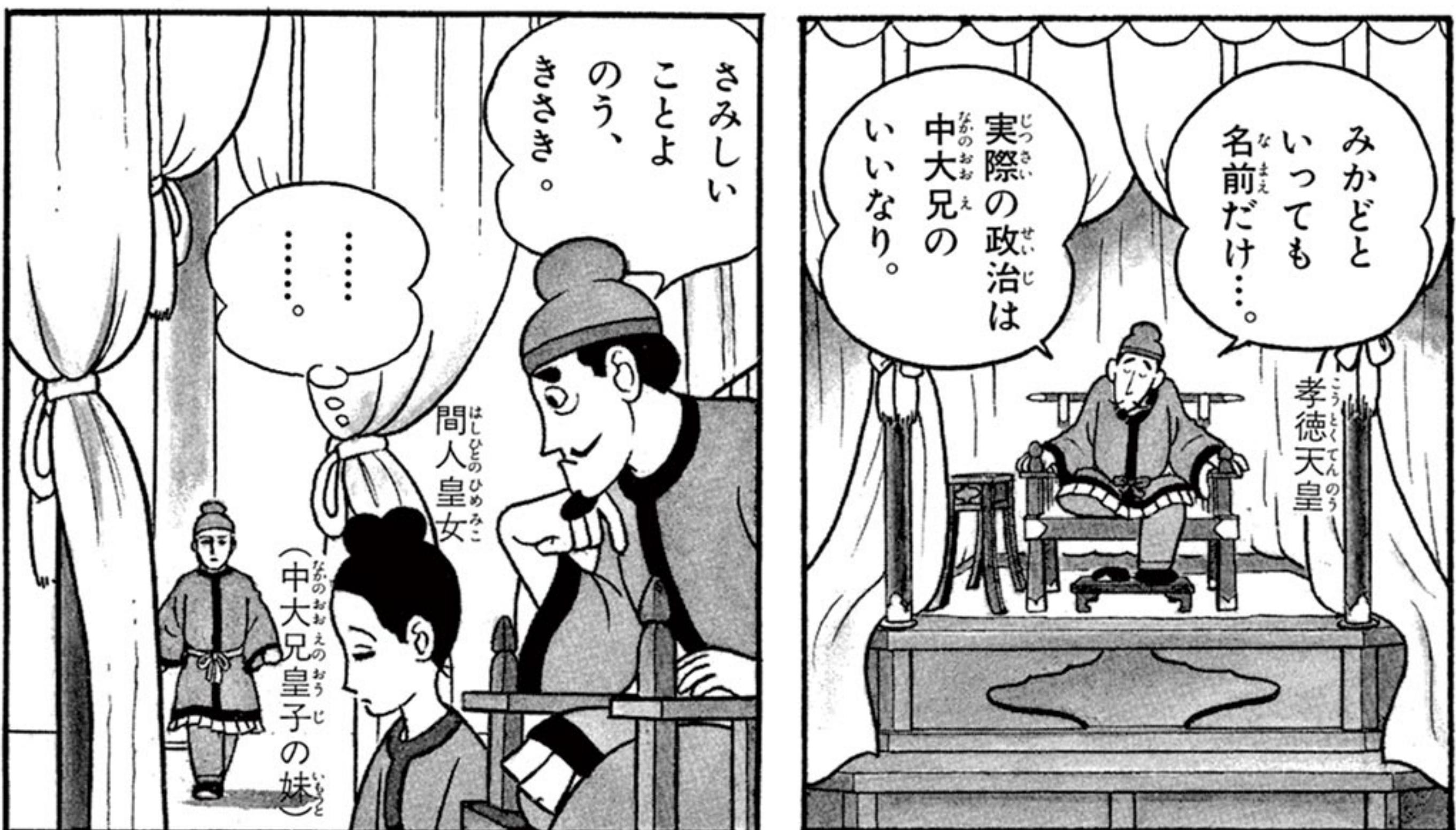
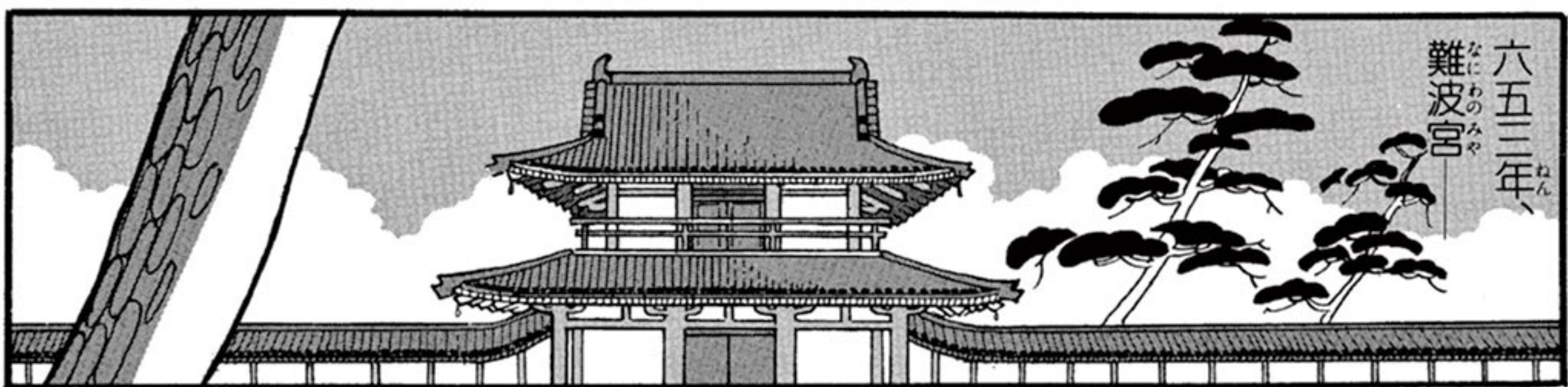
なるほど、
そのほうが
自由に腕を
ふるえますな。

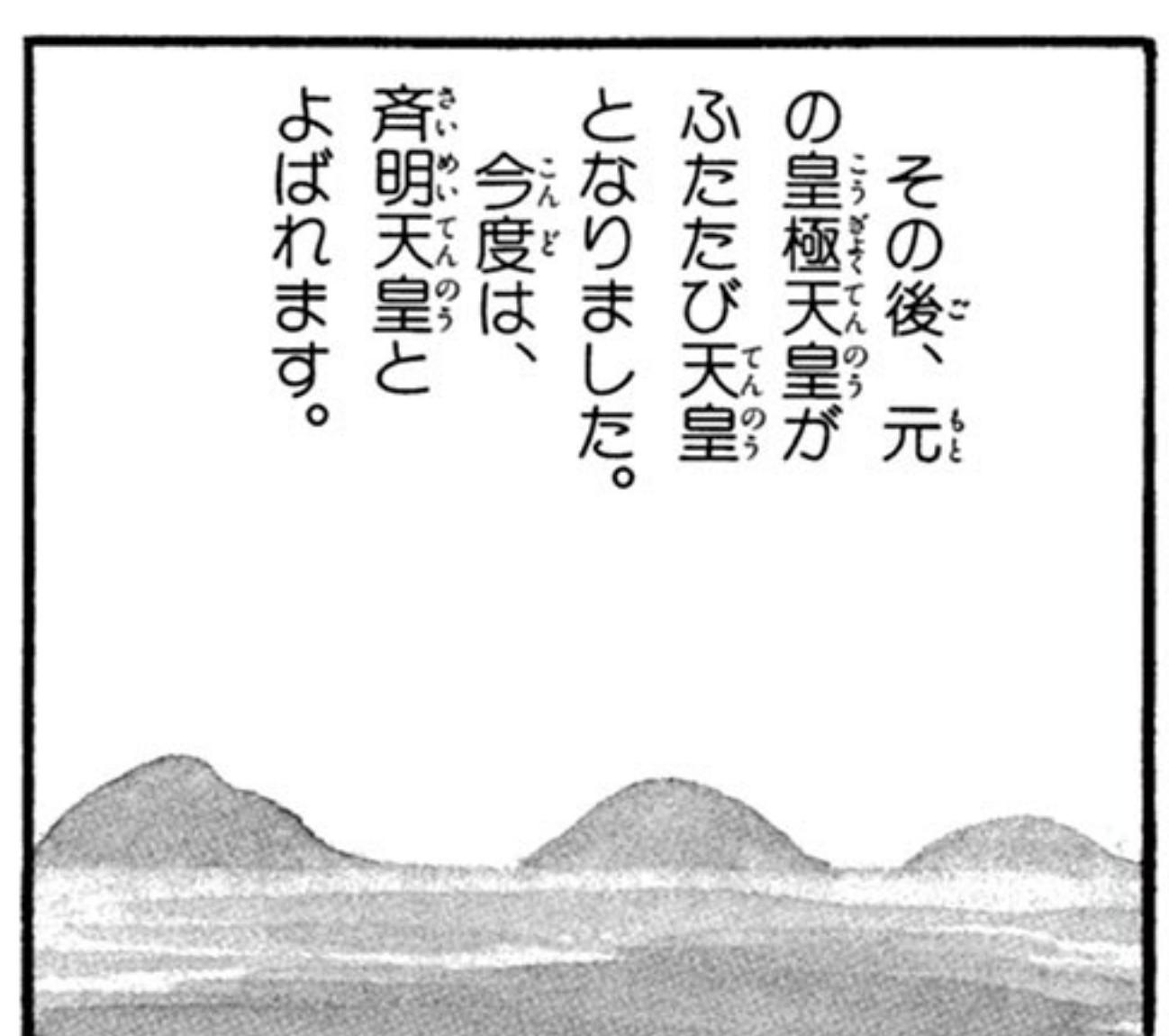
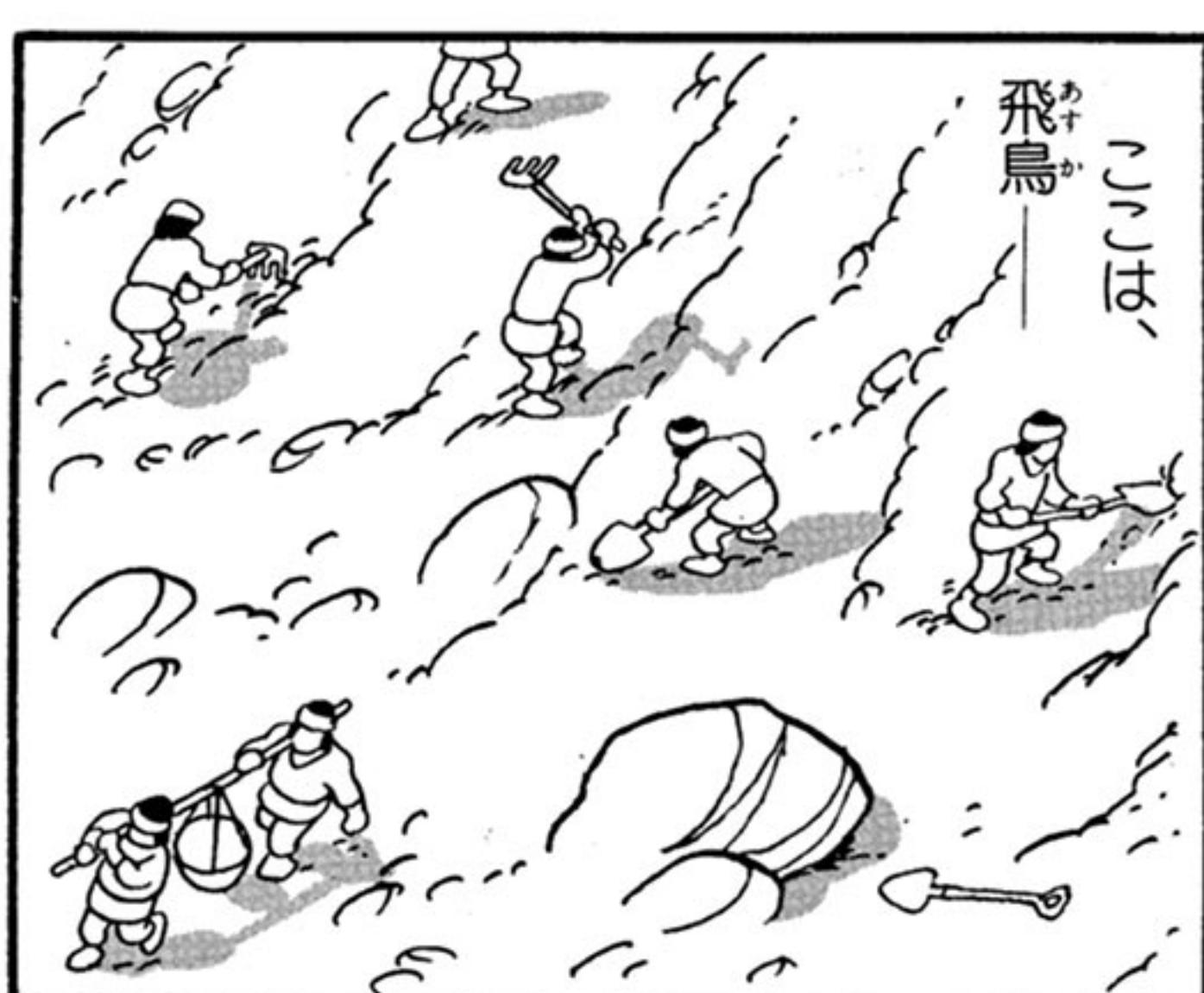
た。
そして、
はじめて年
号がさだめ
られ、「大
化」とつけ
られました。

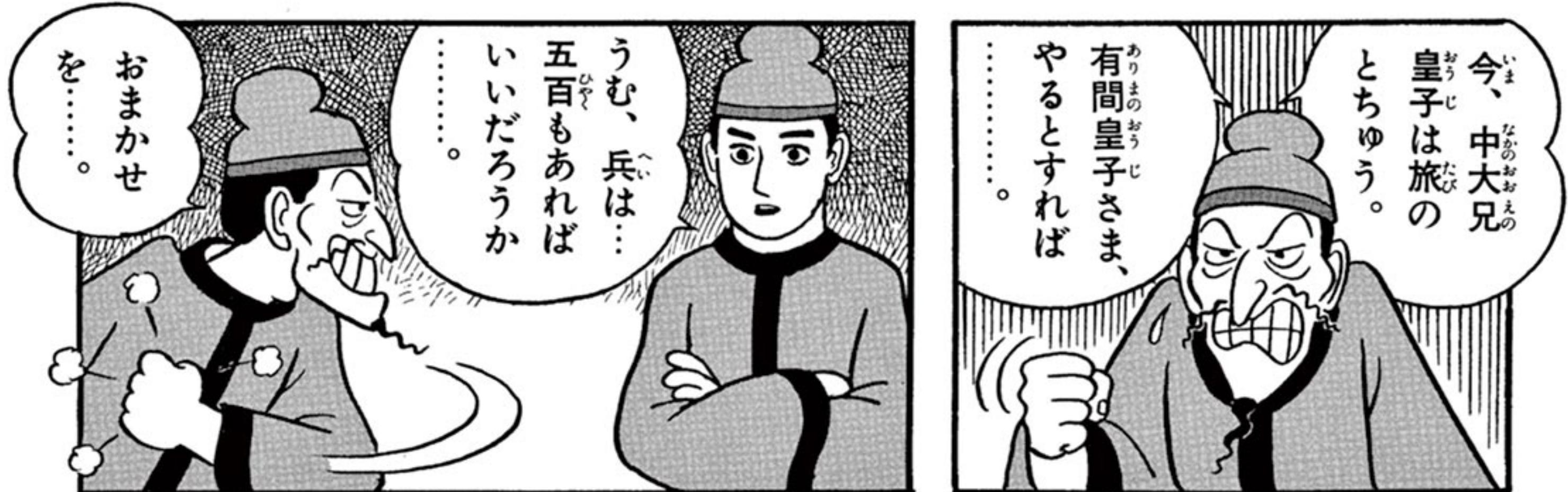
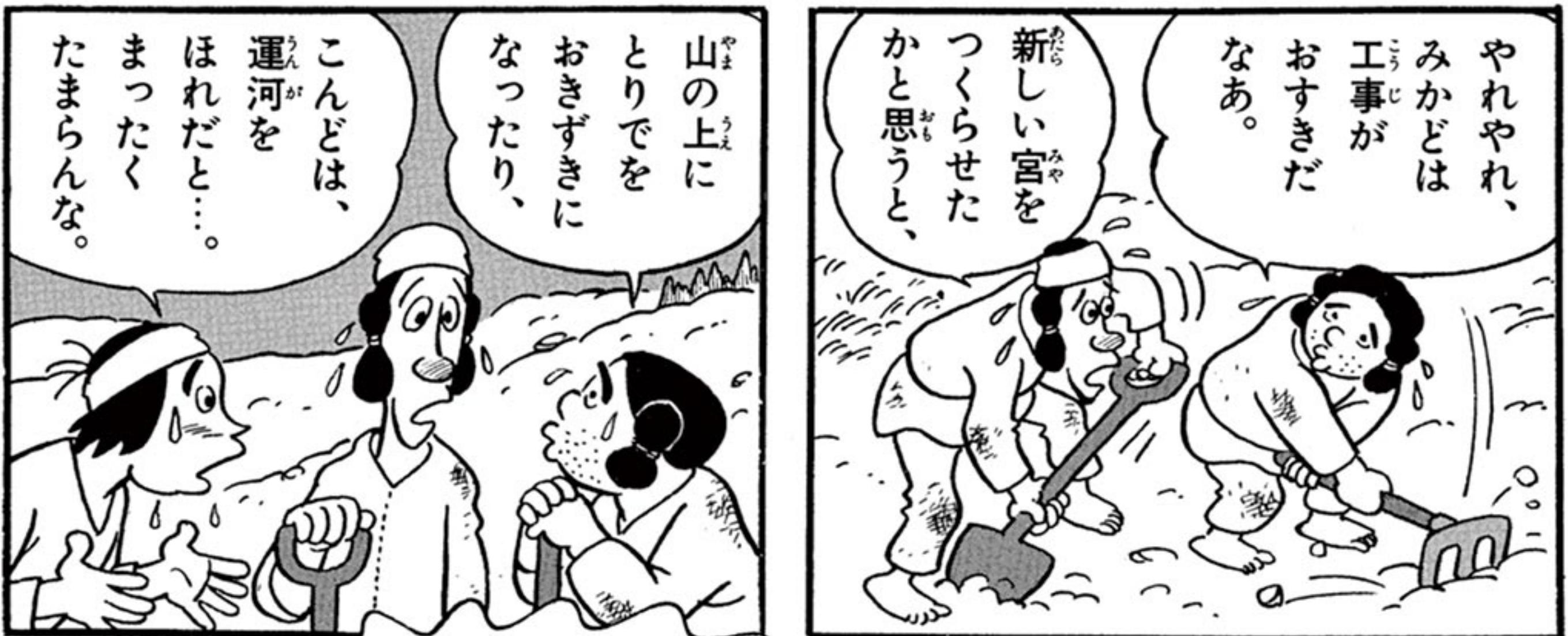


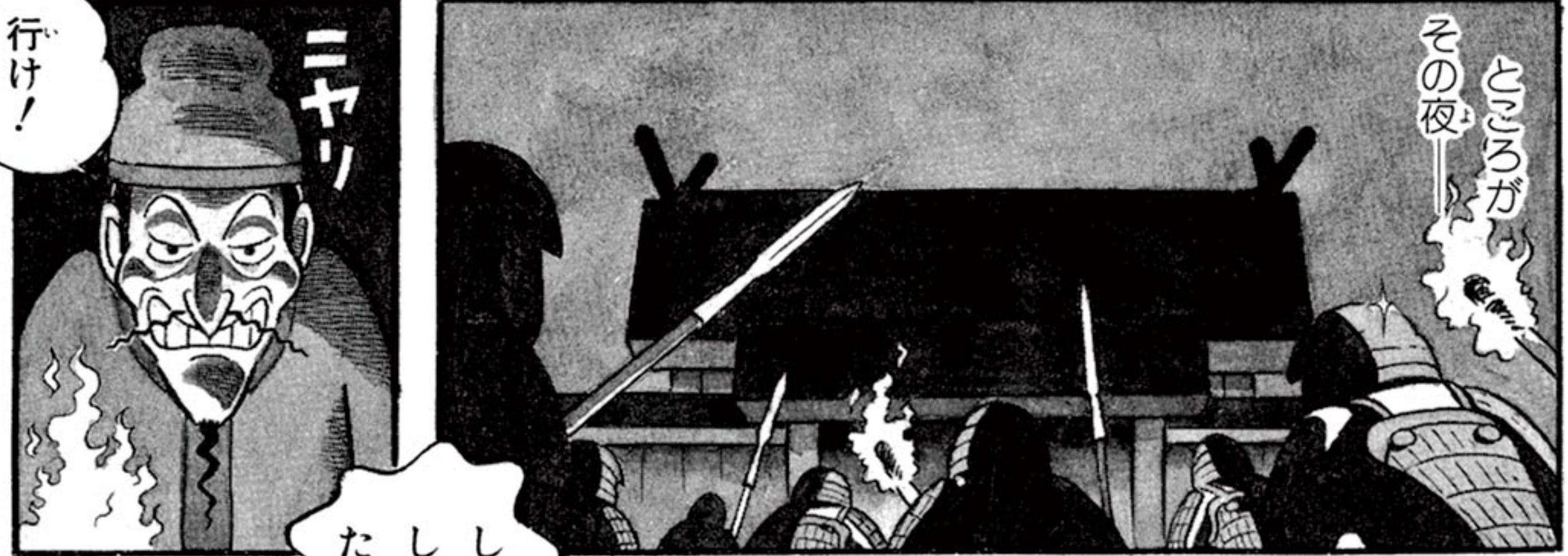


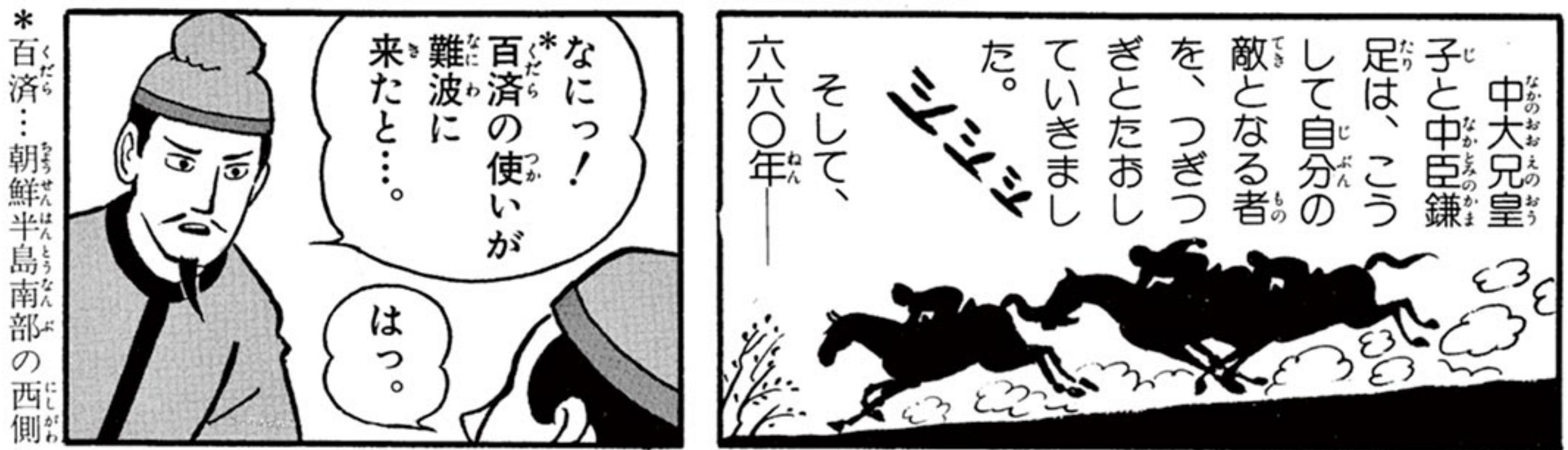




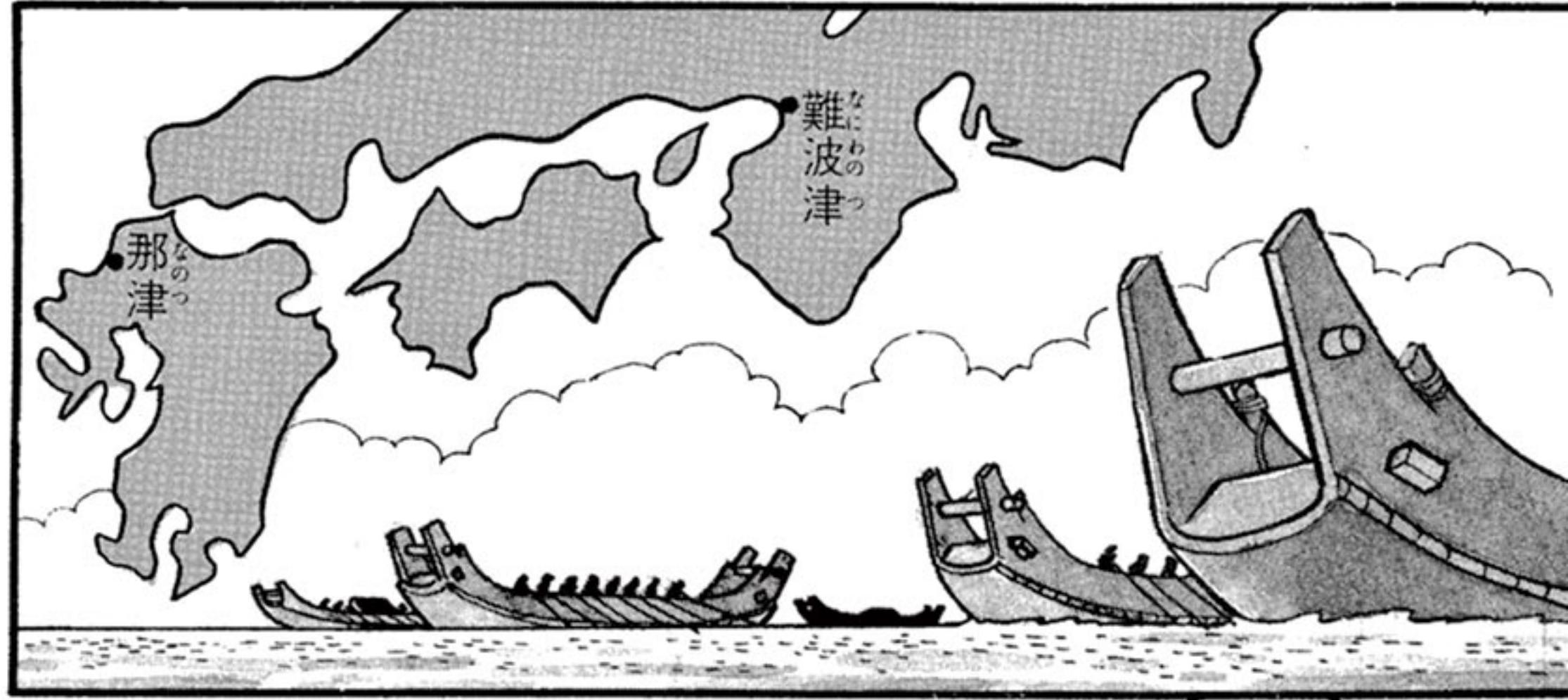






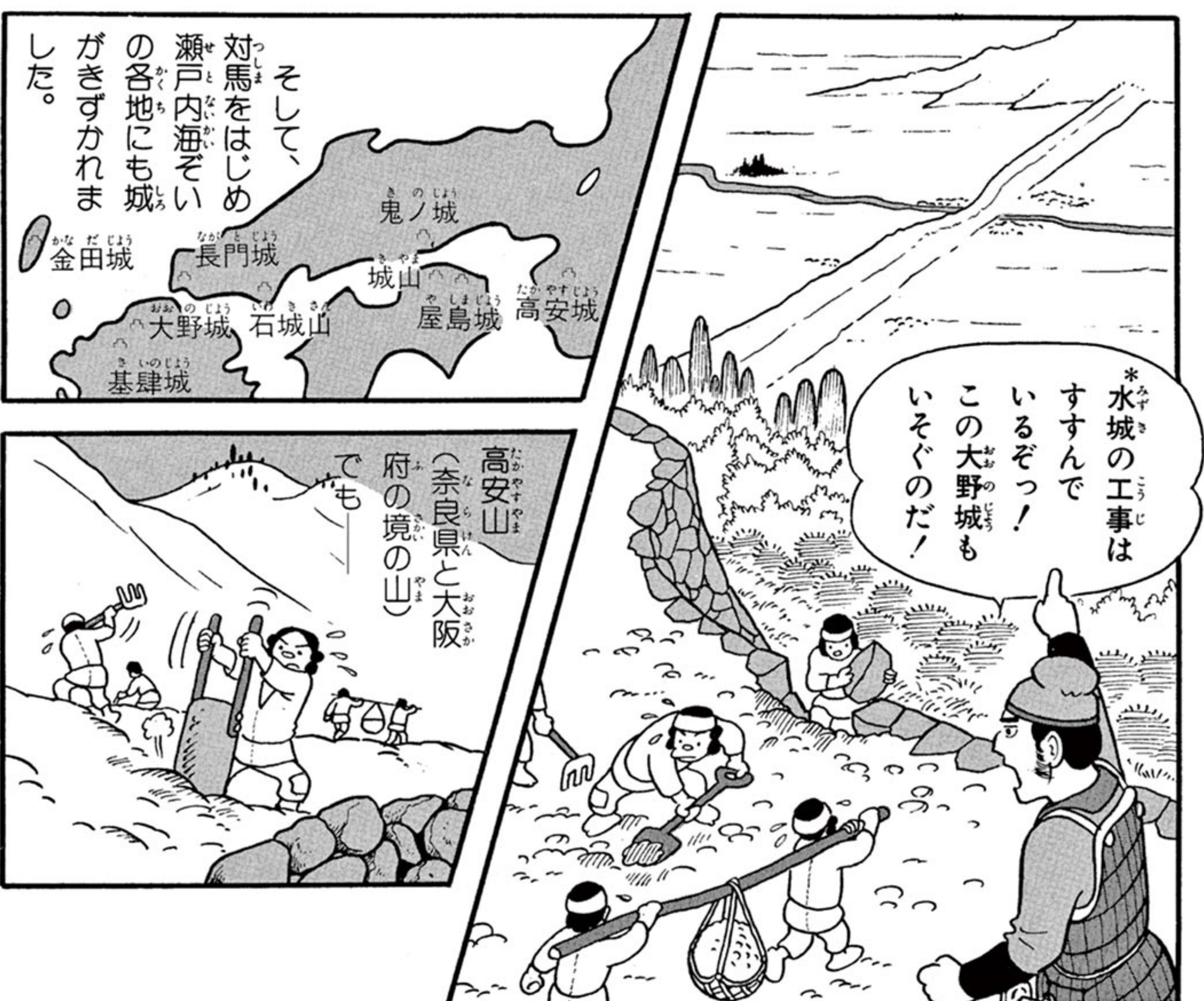


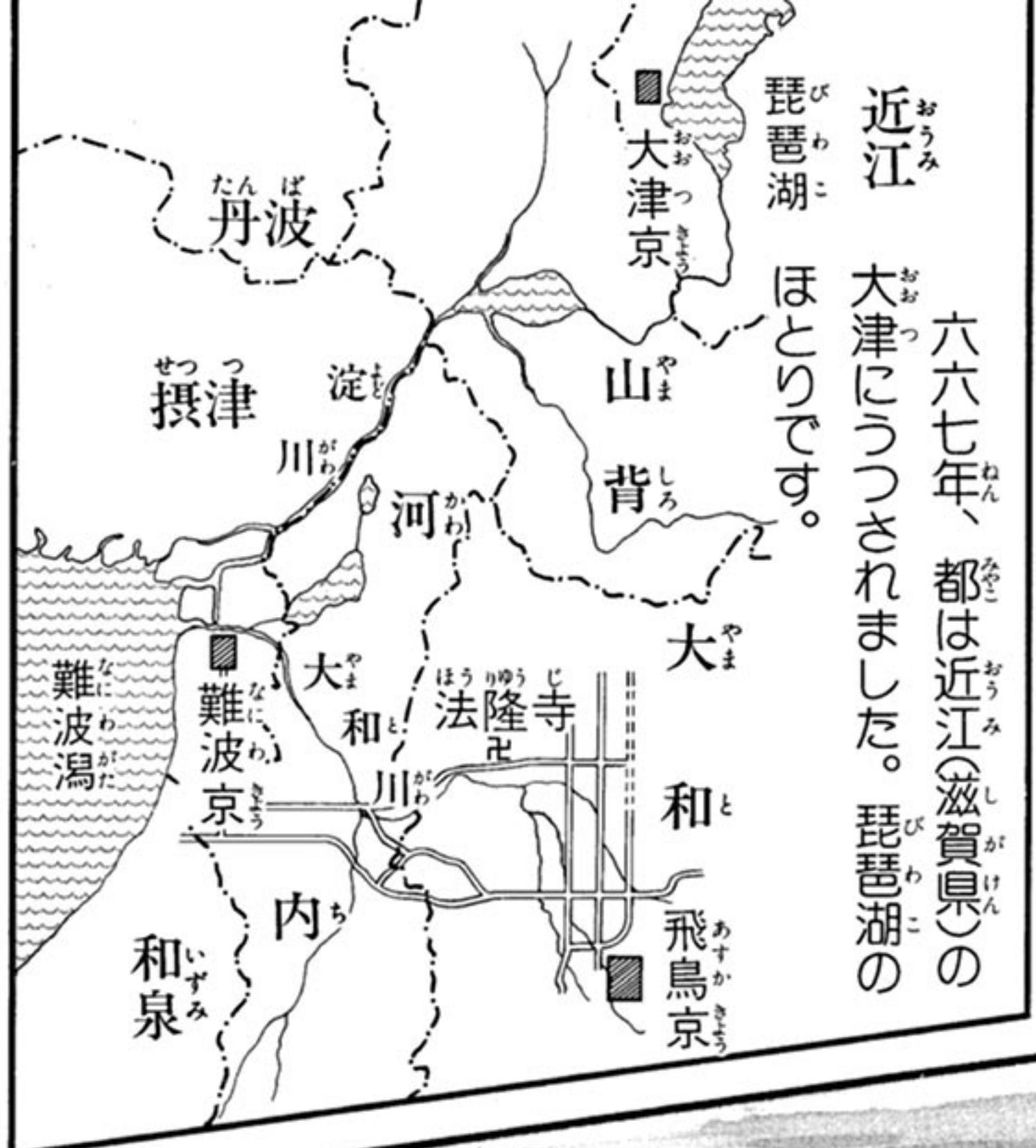
まもなく齊明天
皇子は九州でなくなりました。中大兄
ま天皇にかわつて
政治を行いました。



六六一年、えん軍は朝鮮半島
にむけて出発しました。



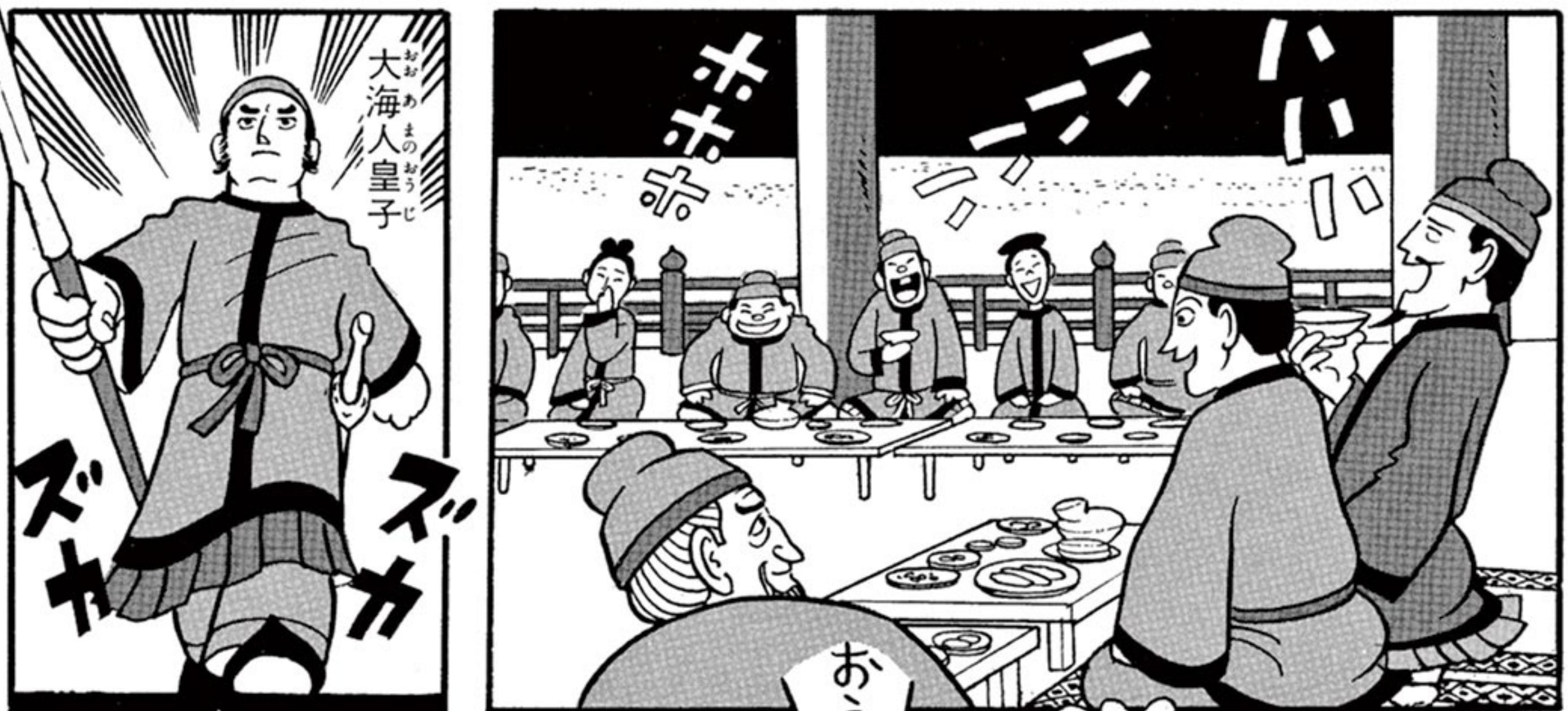
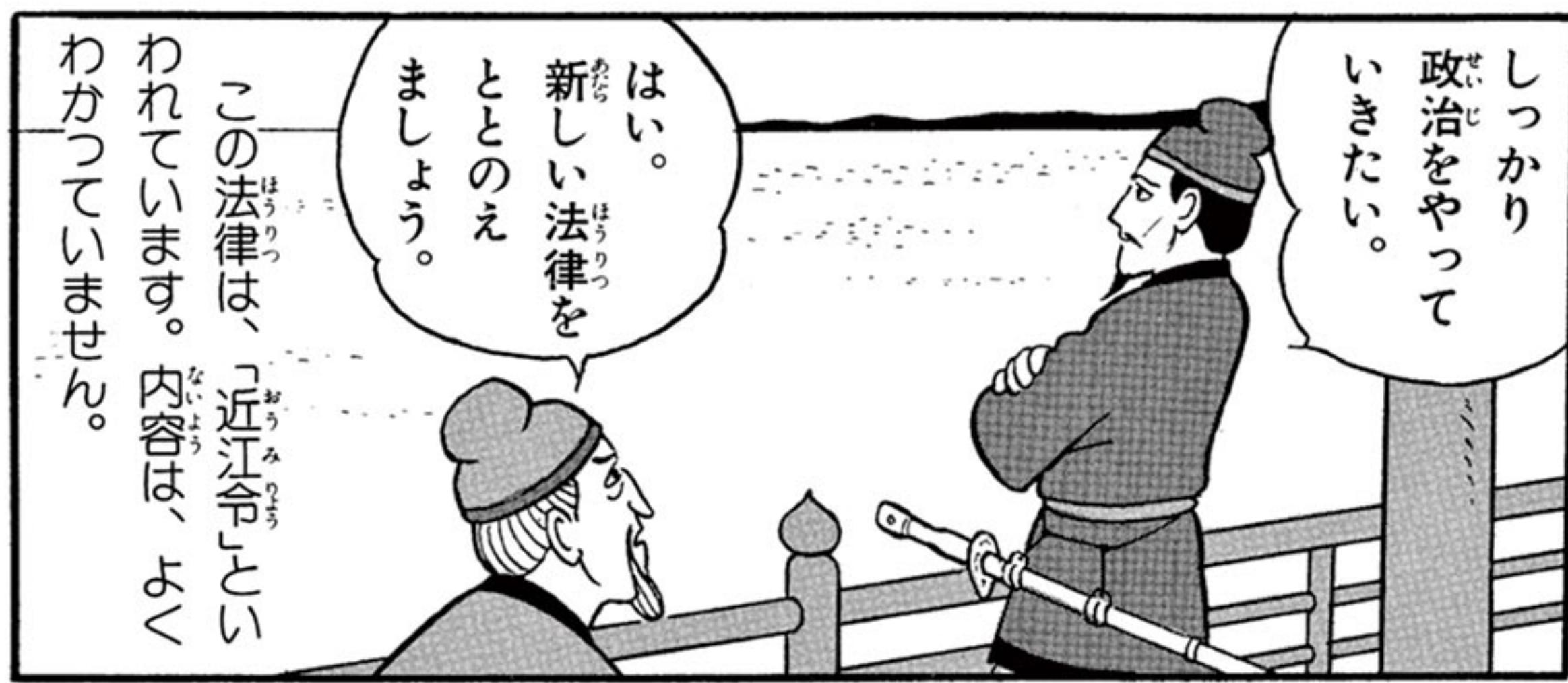


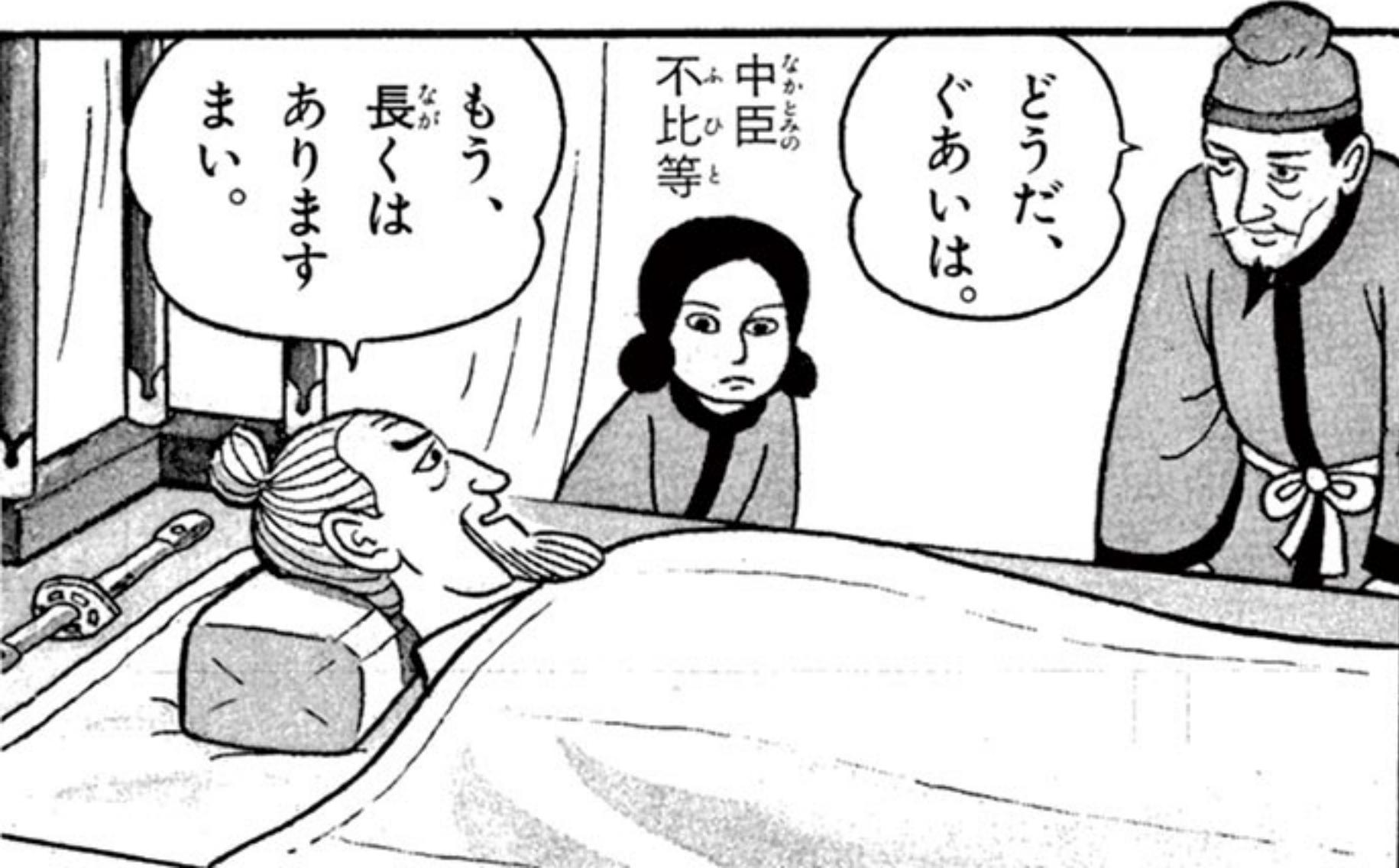
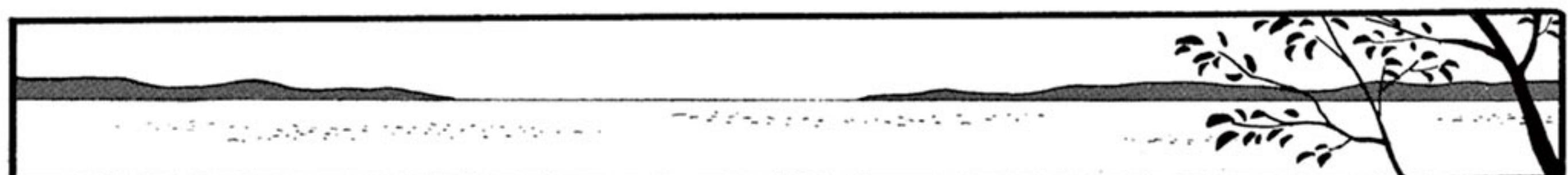


*三輪山：奈良県桜井市の東部にある山。飛鳥の人びとに親しまれた。

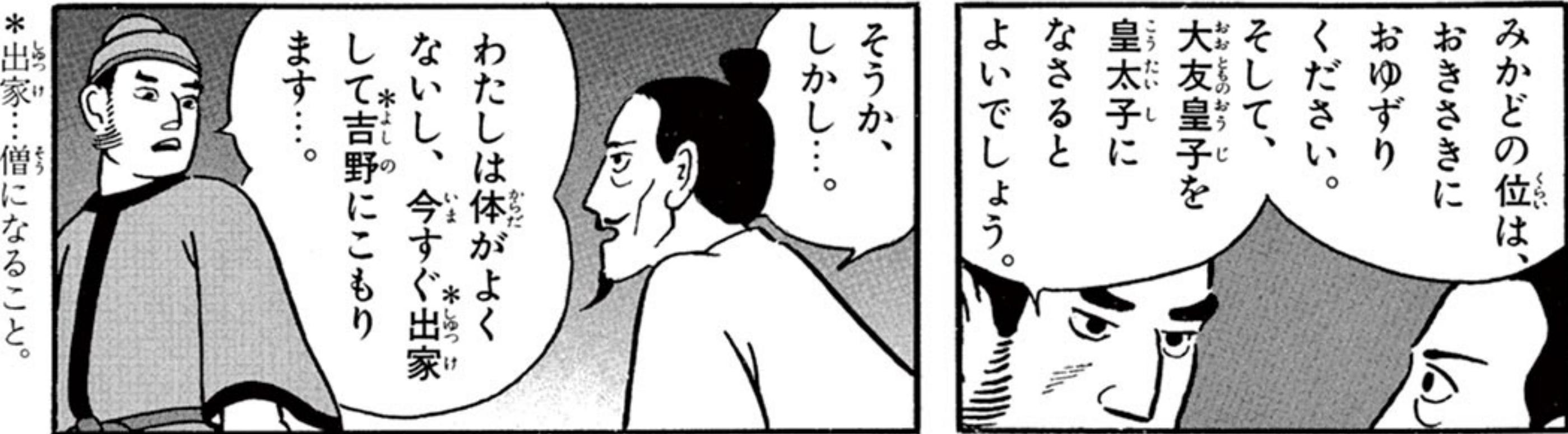


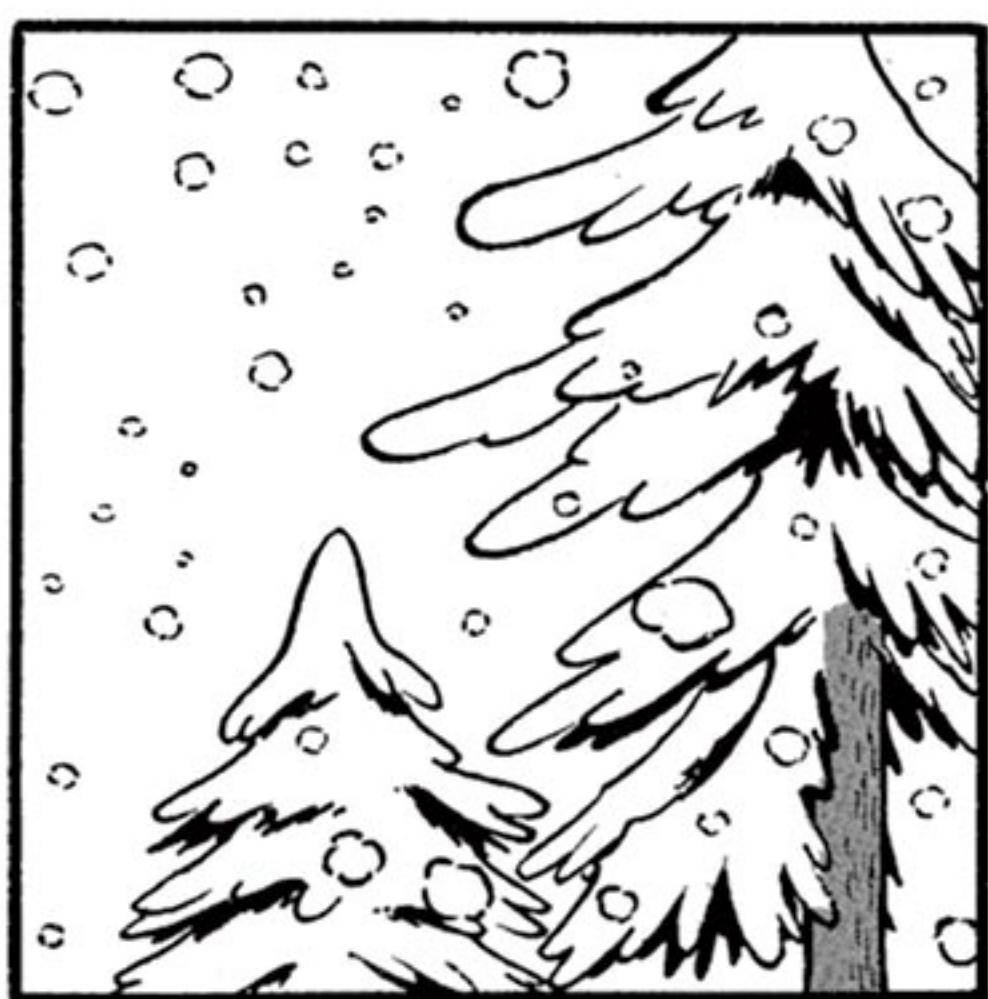
六六八年、中大兄皇子は、
大津宮で天皇の位につきました。
天智天皇といいます。







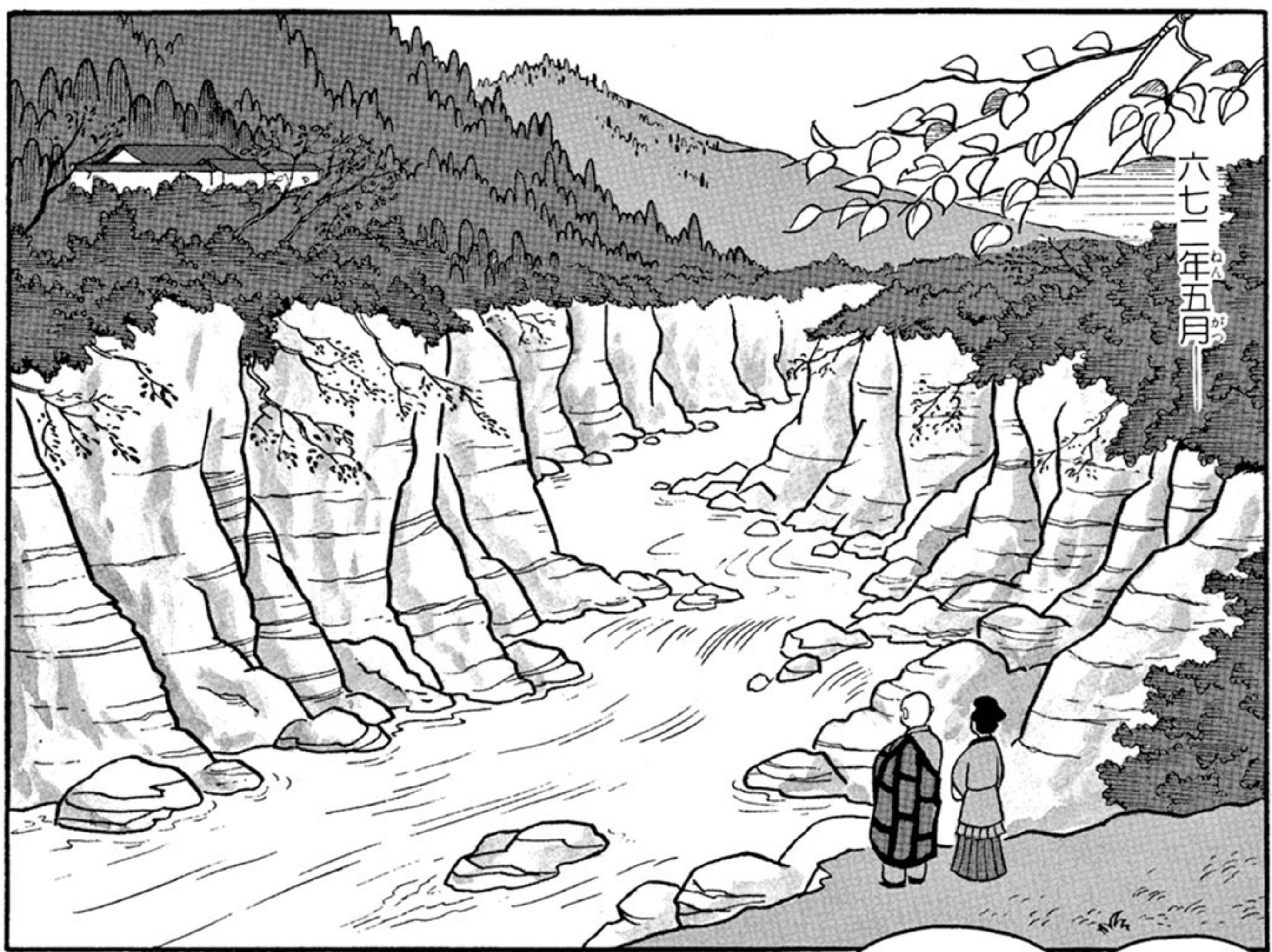


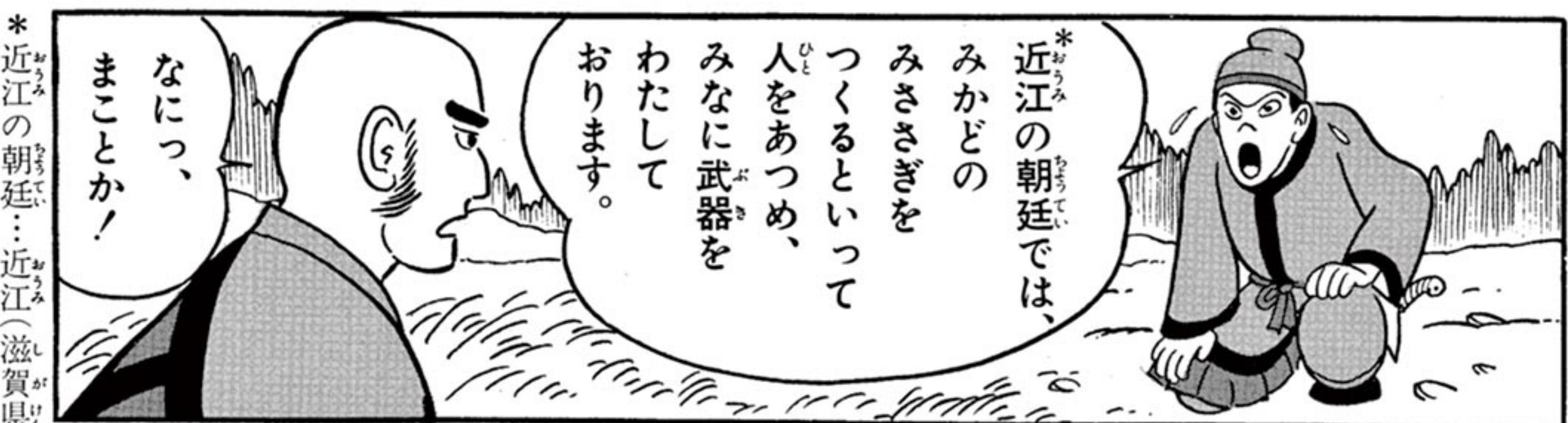


小学館 eBooks

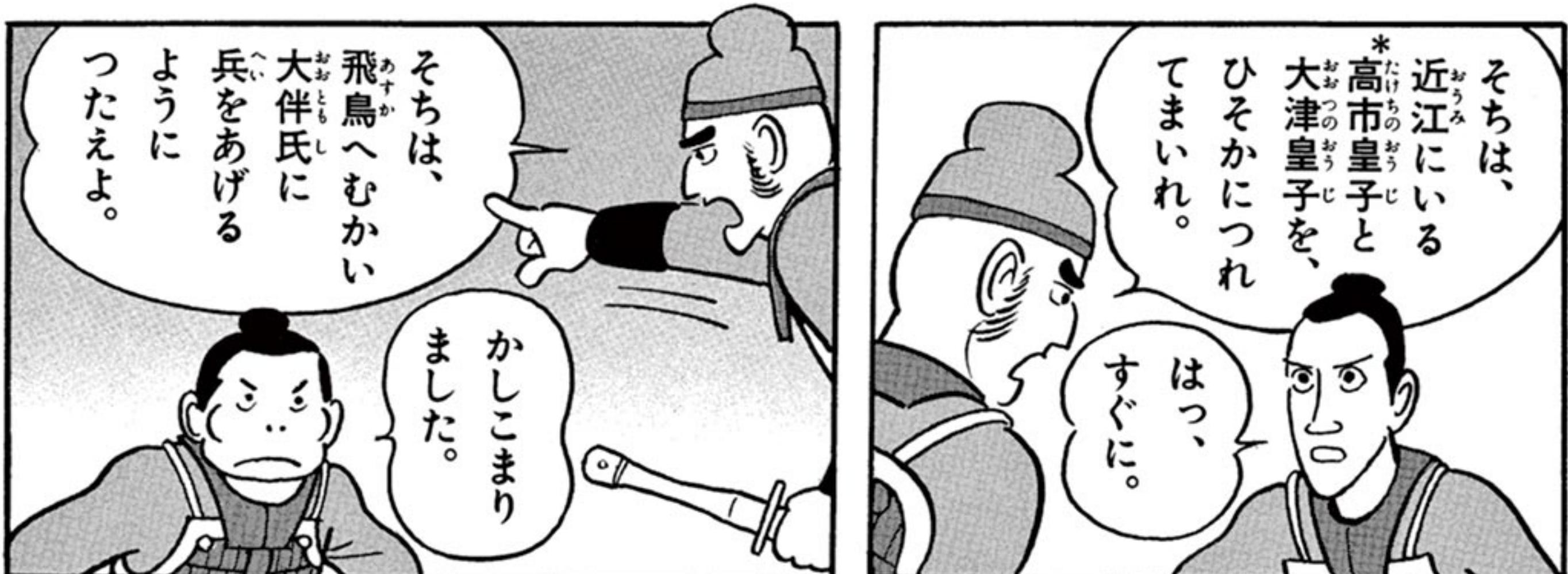
だい しょう
第四章

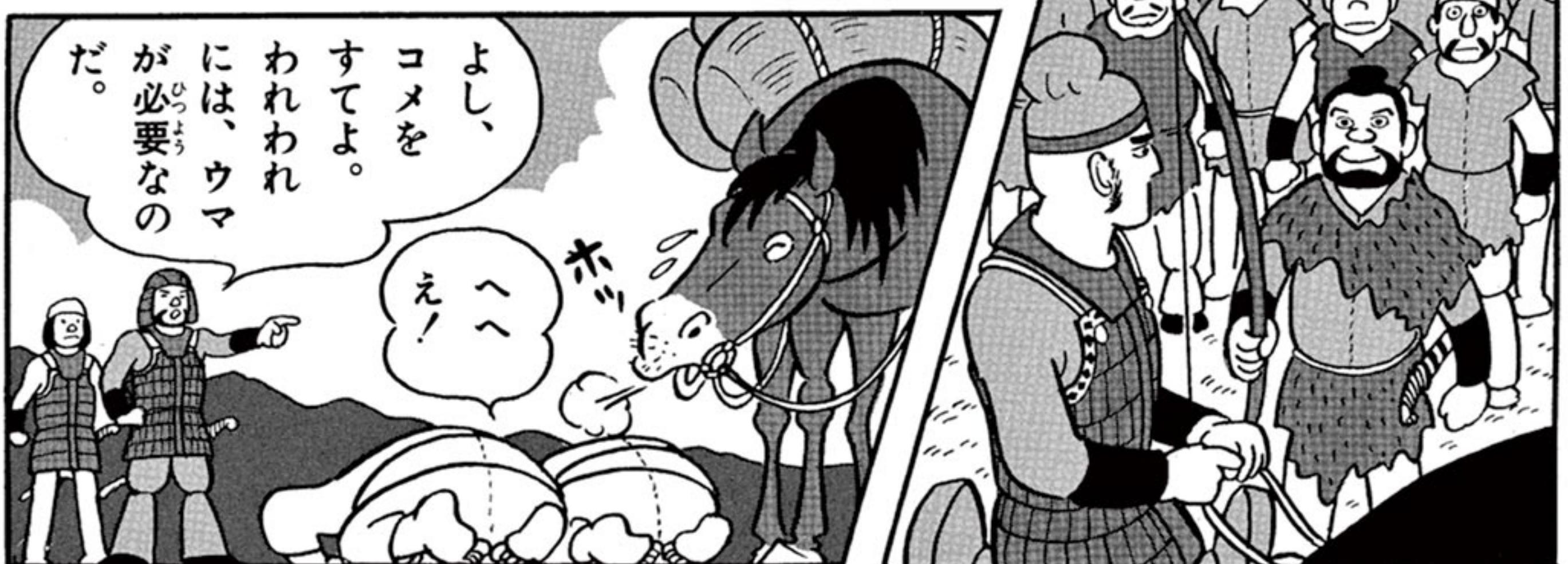
じん しん らん
壬申の乱
あすか じ だい
—飛鳥時代—





* 美濃：岐阜県

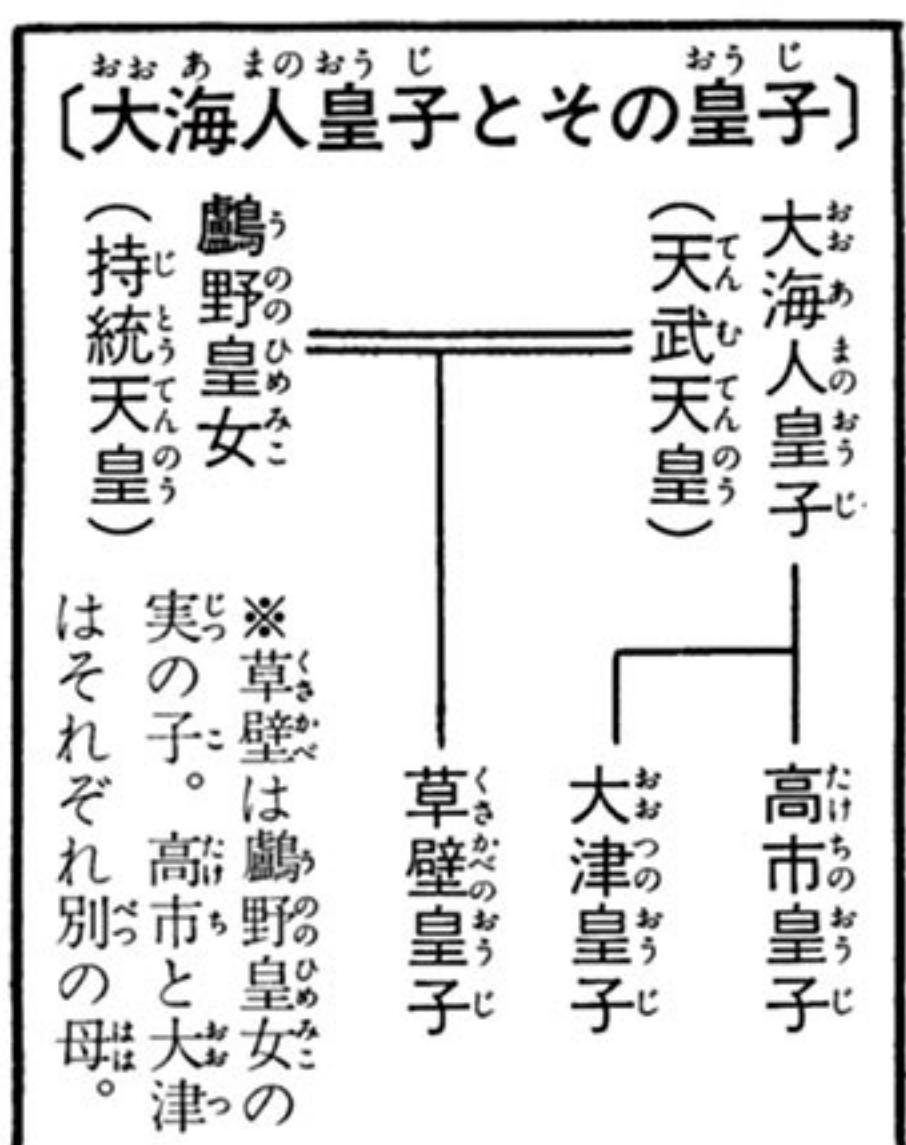
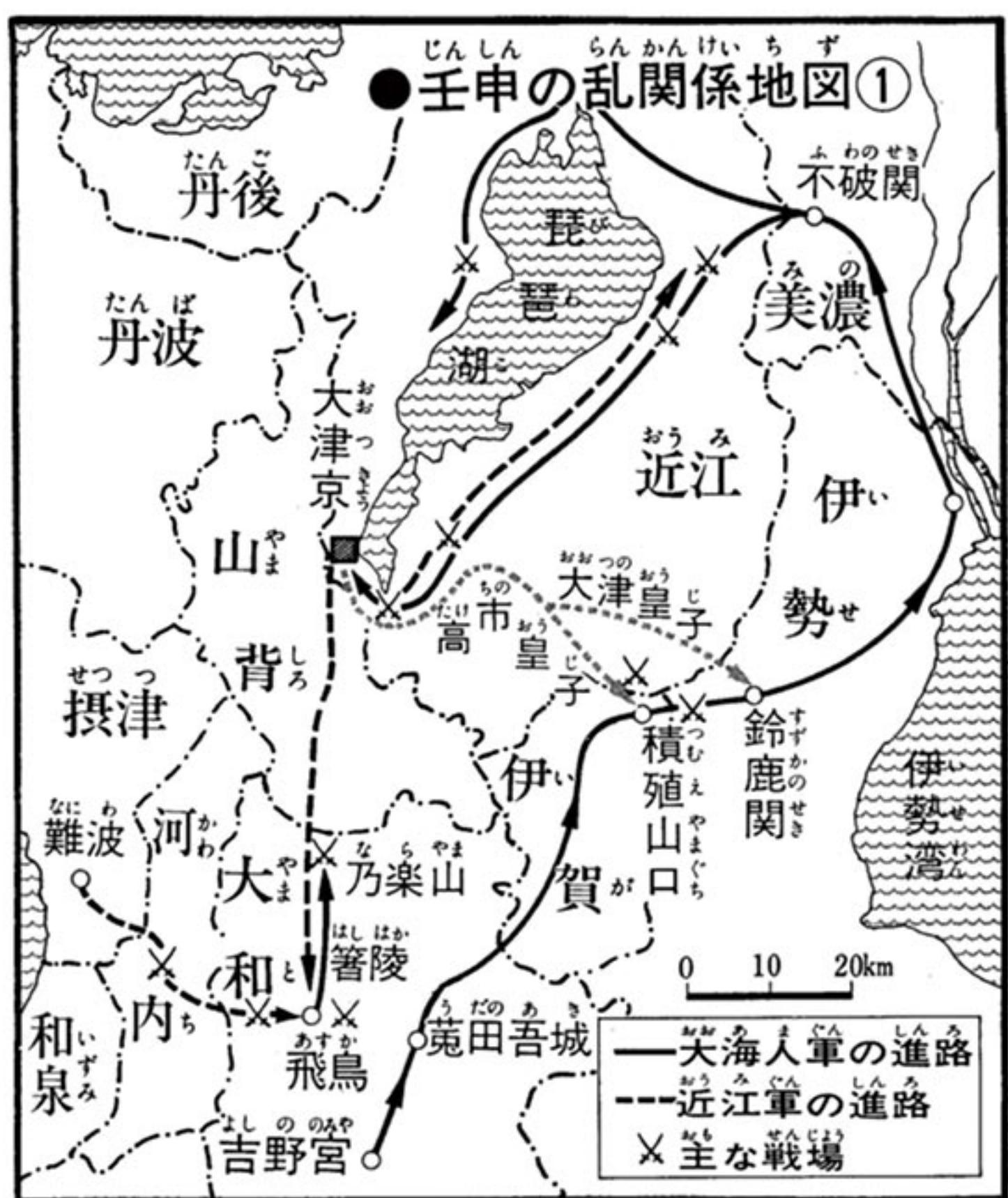






*鈴鹿関：伊勢(三重県)にある関所。

古代の重要な関所の一つ。



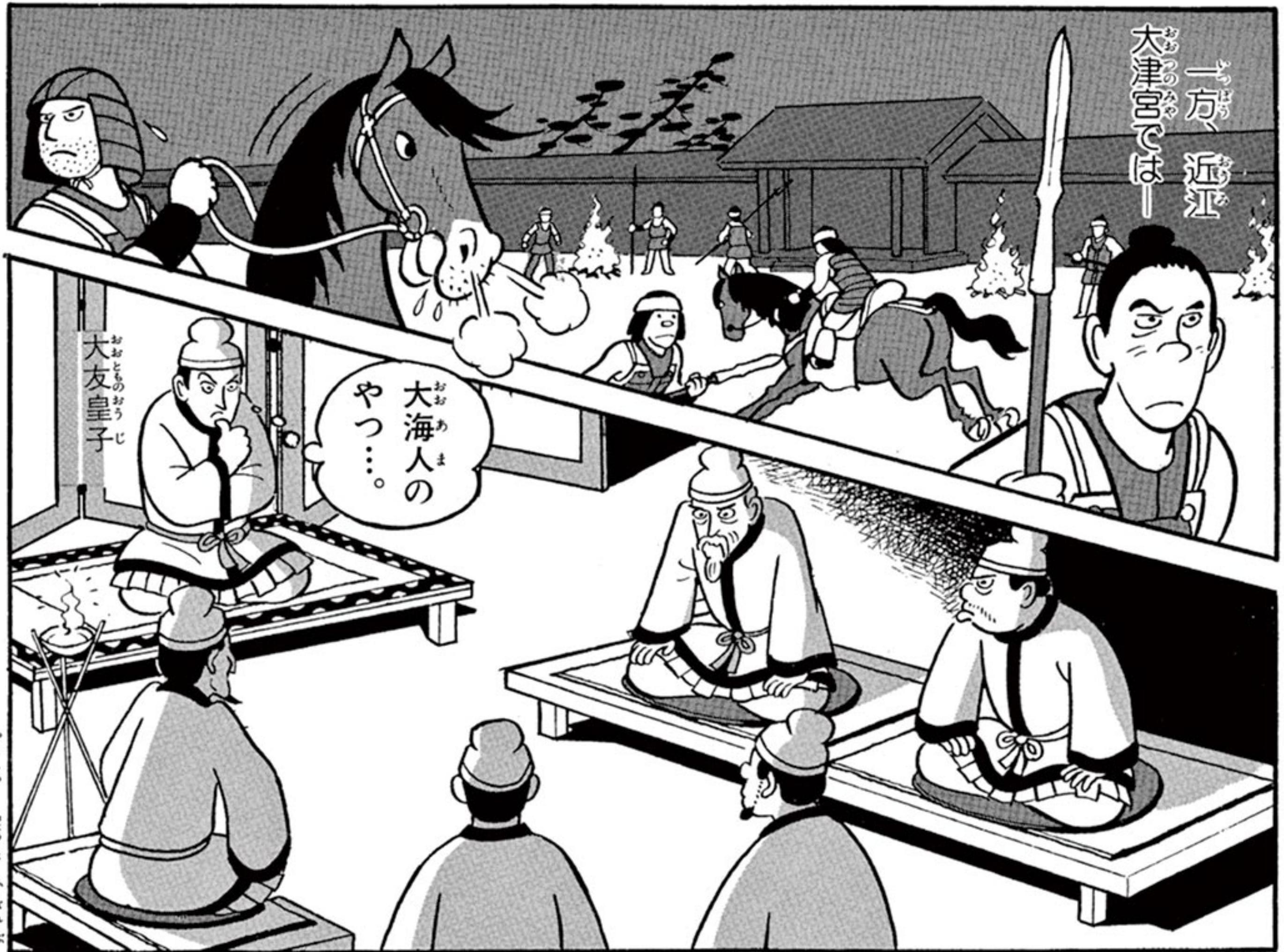


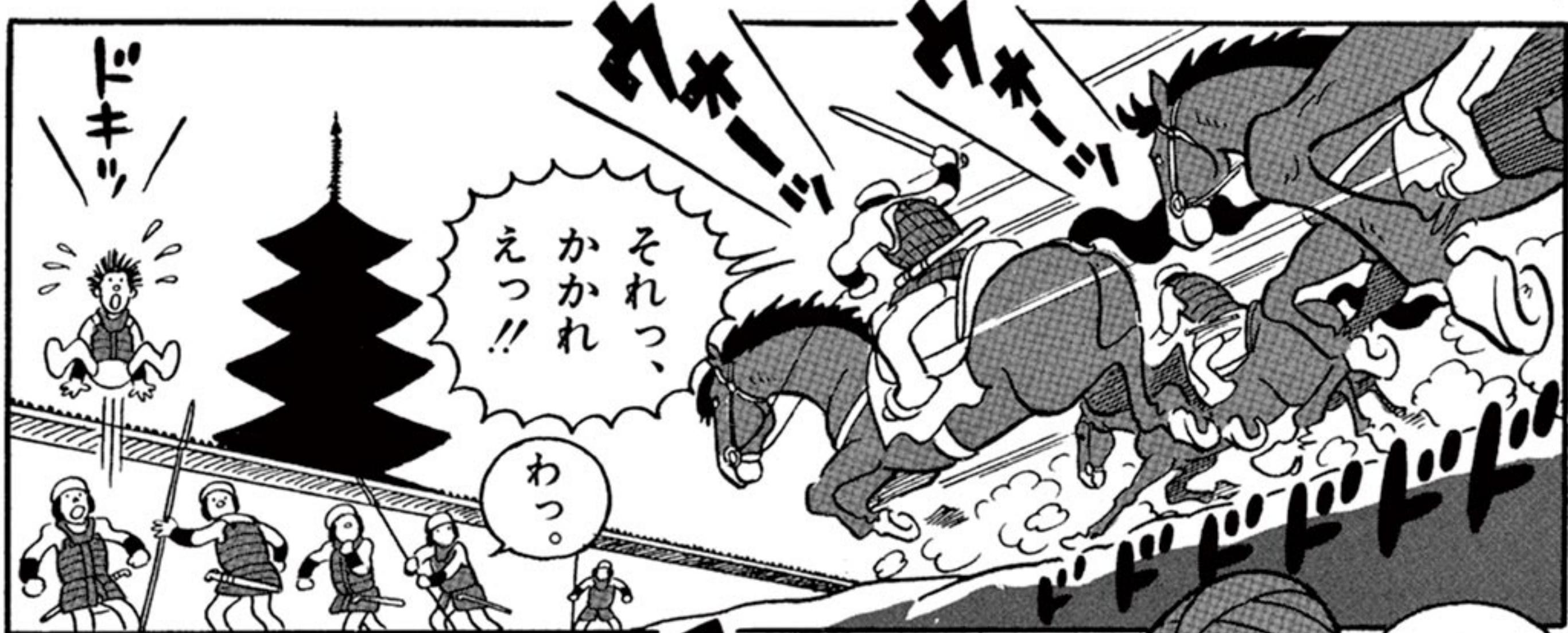
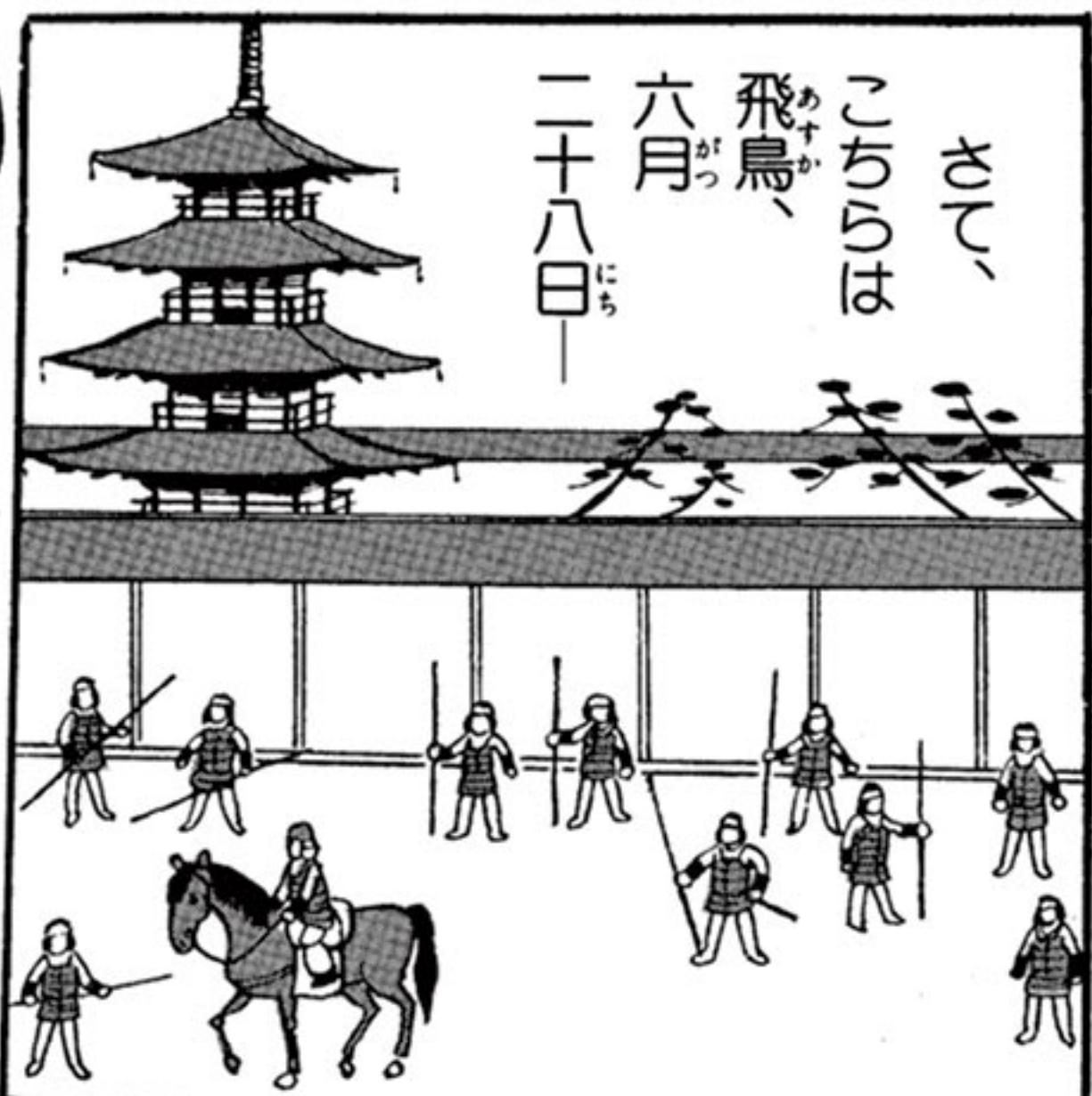
*不破関：近江（滋賀県）と美濃（岐阜県）の境にある関所。古代の重要な関所の一つ。

*伊勢：三重県東部

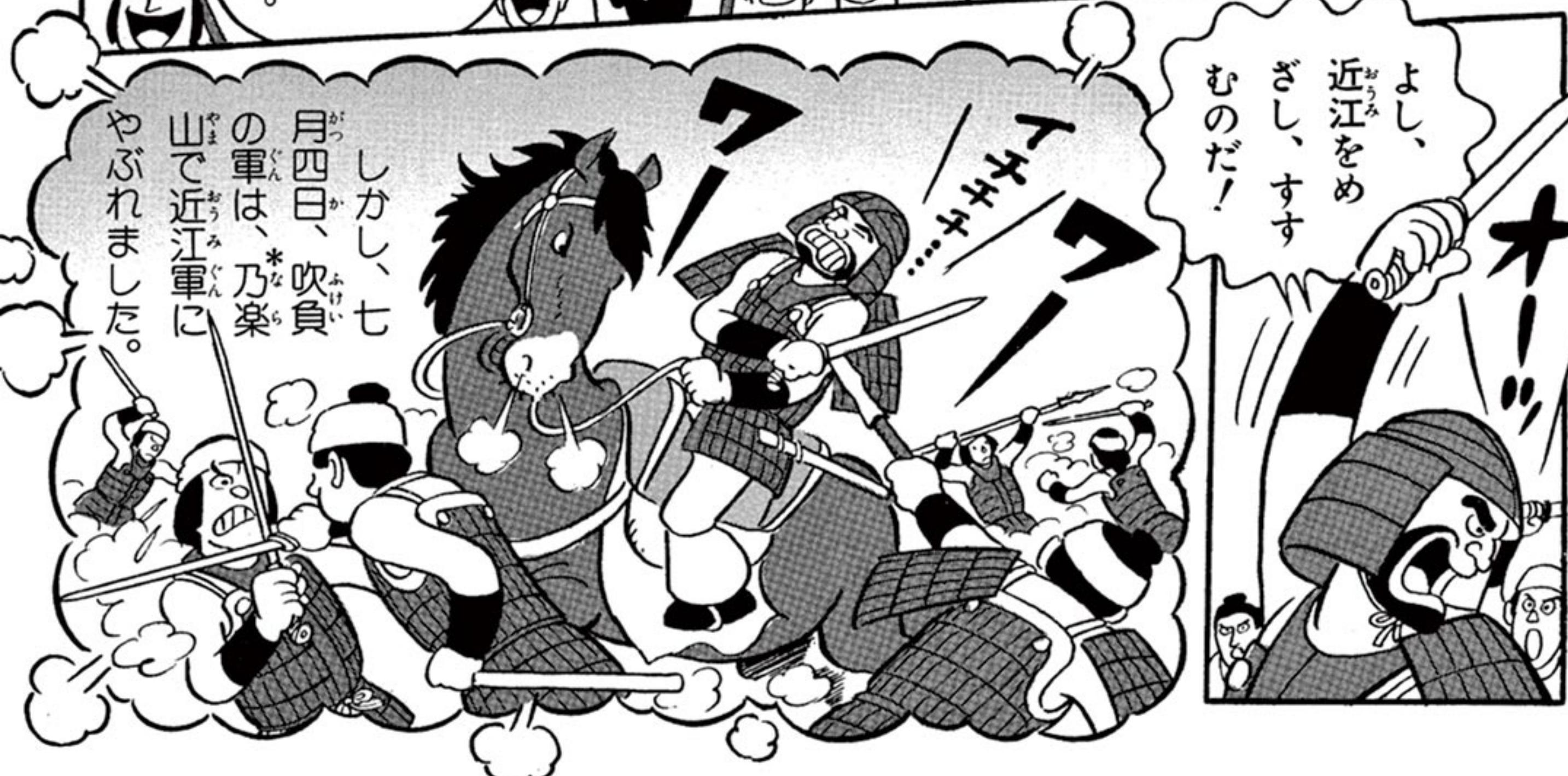
*尾張：愛知県西部





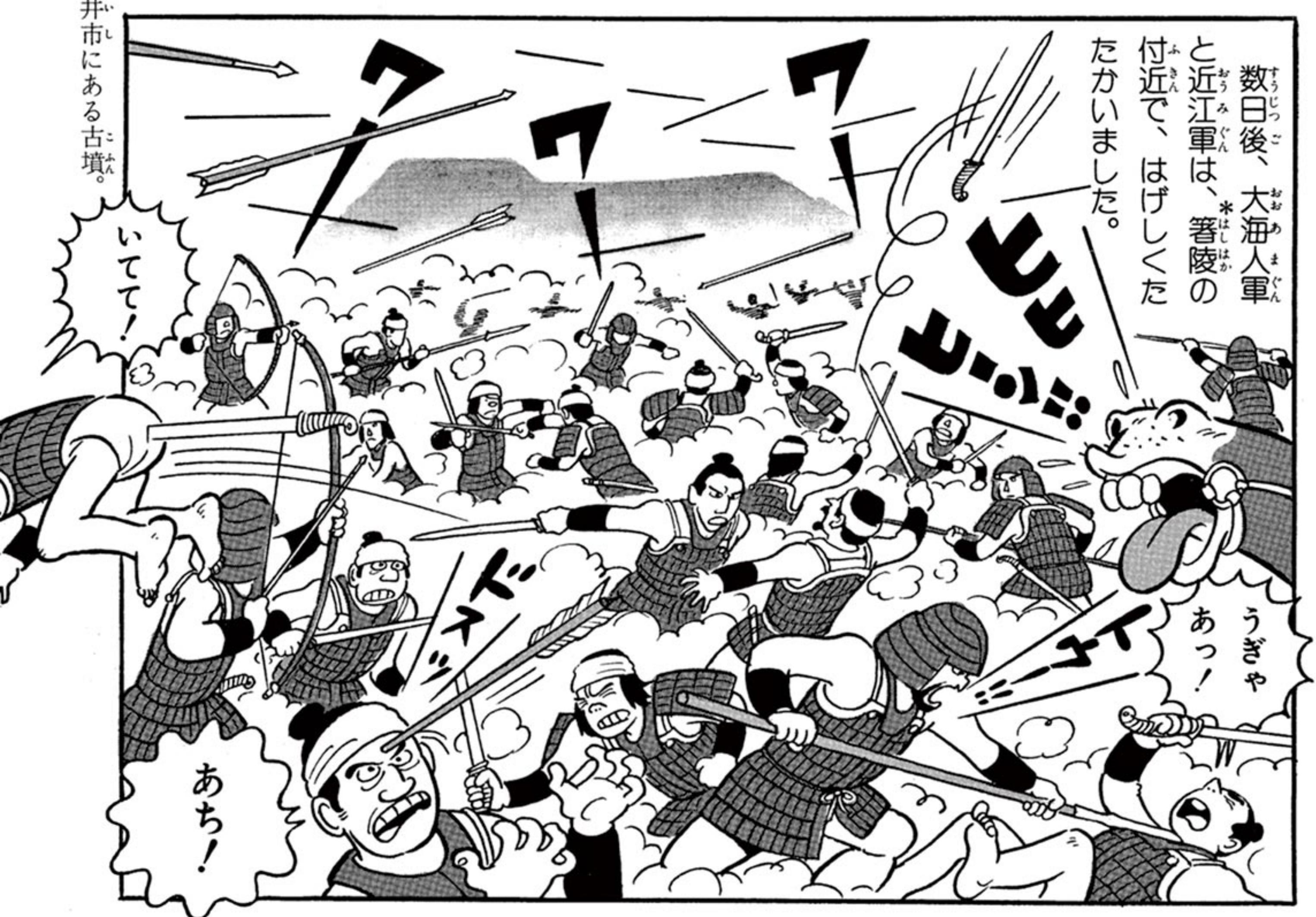


* 乃楽山：奈良市の北の山。





*箸陵
…奈良県桜井市にある古墳。



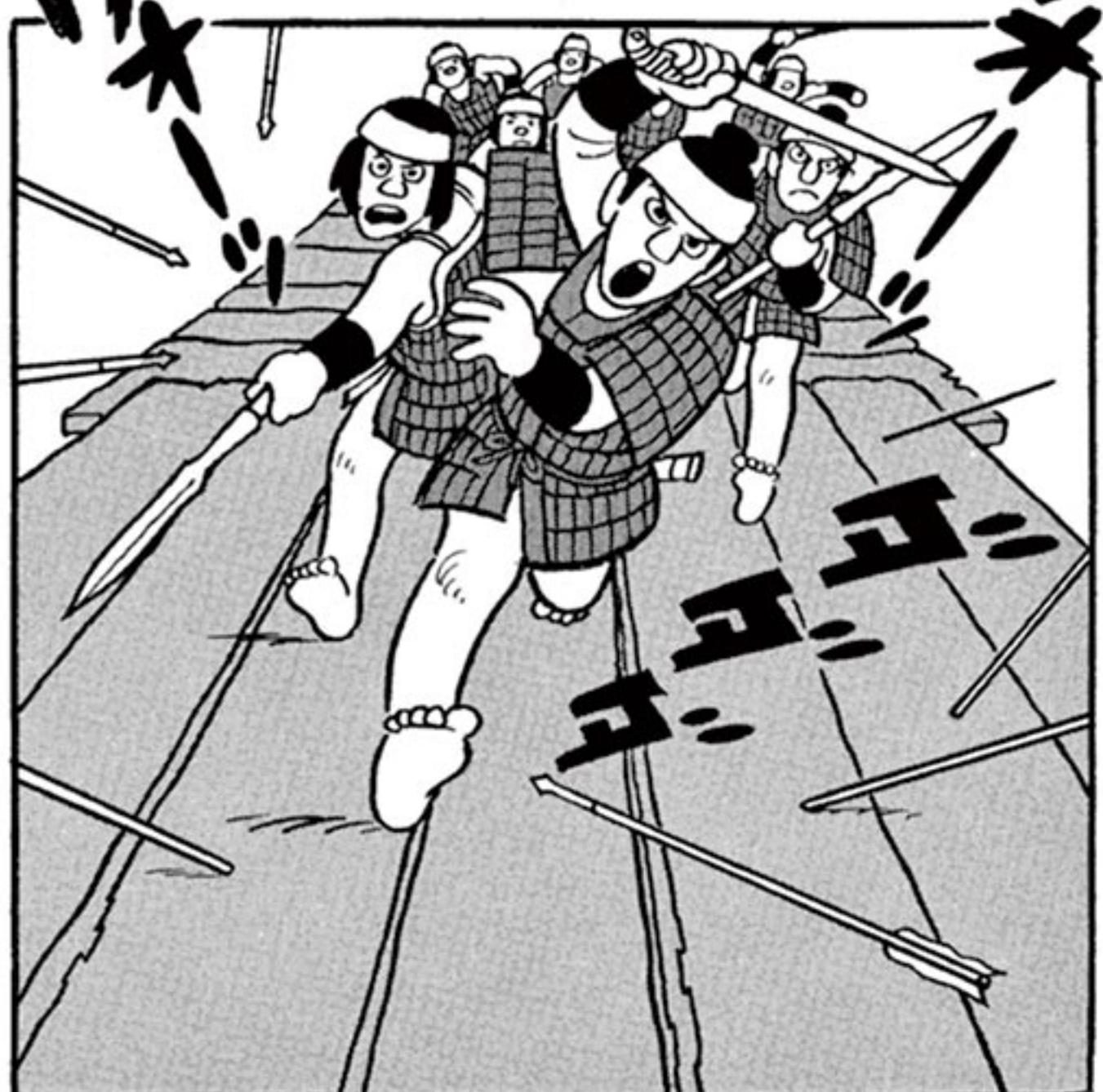
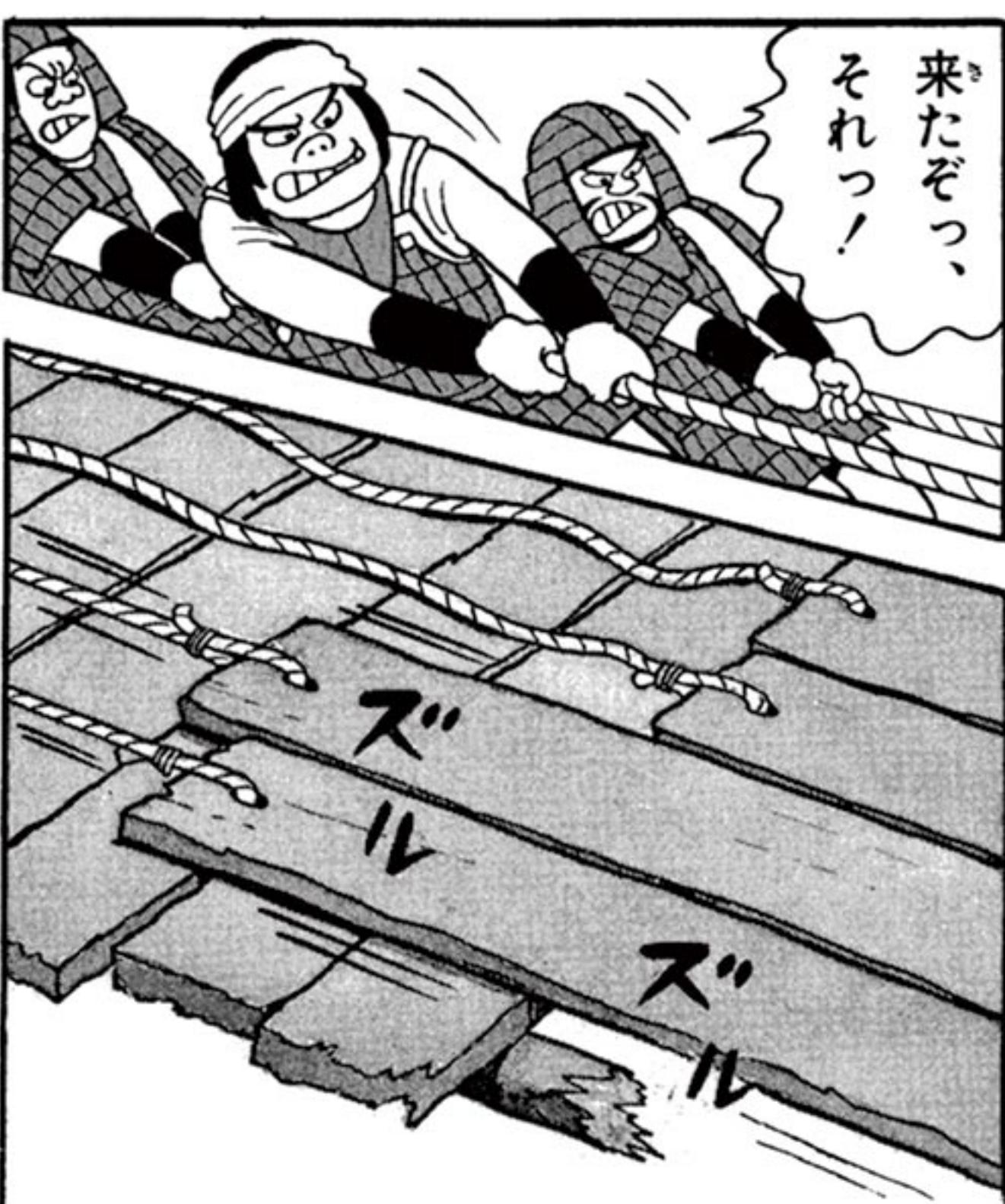
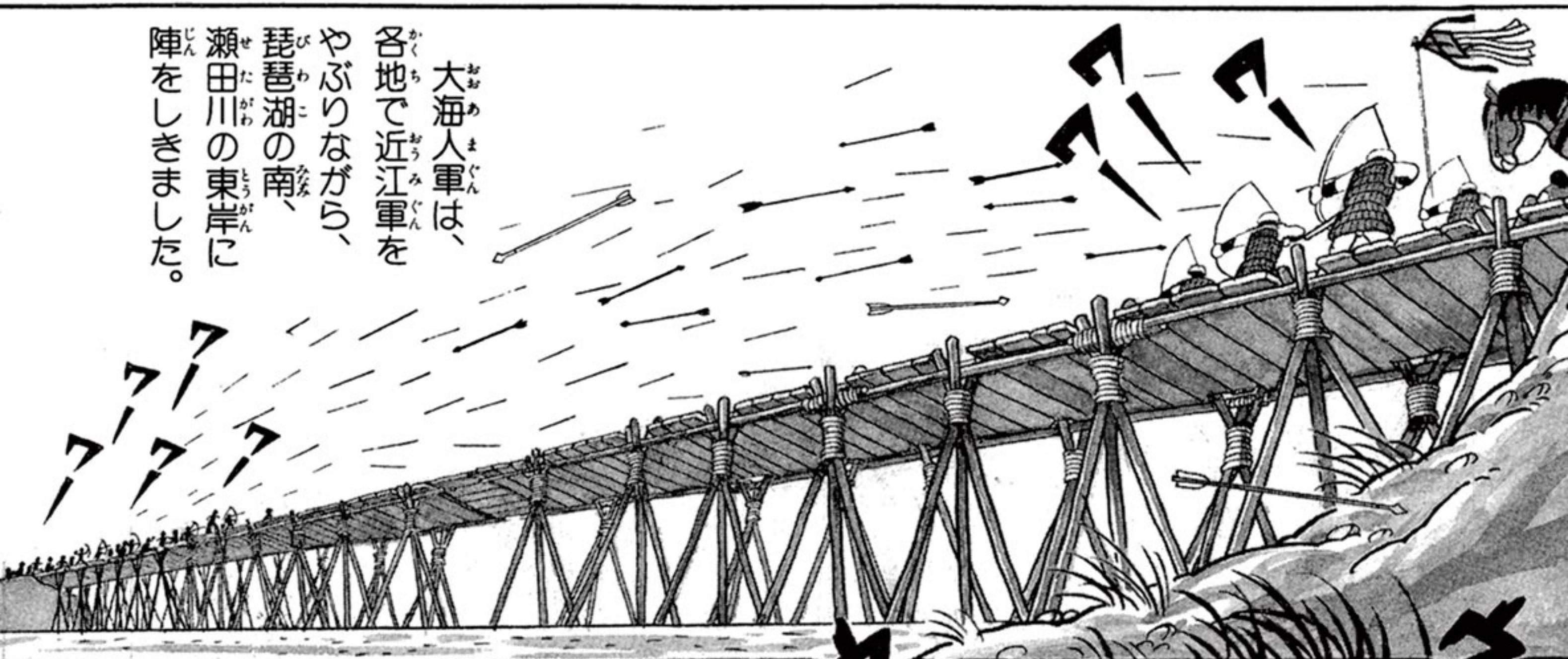


* 甲斐い・山梨県

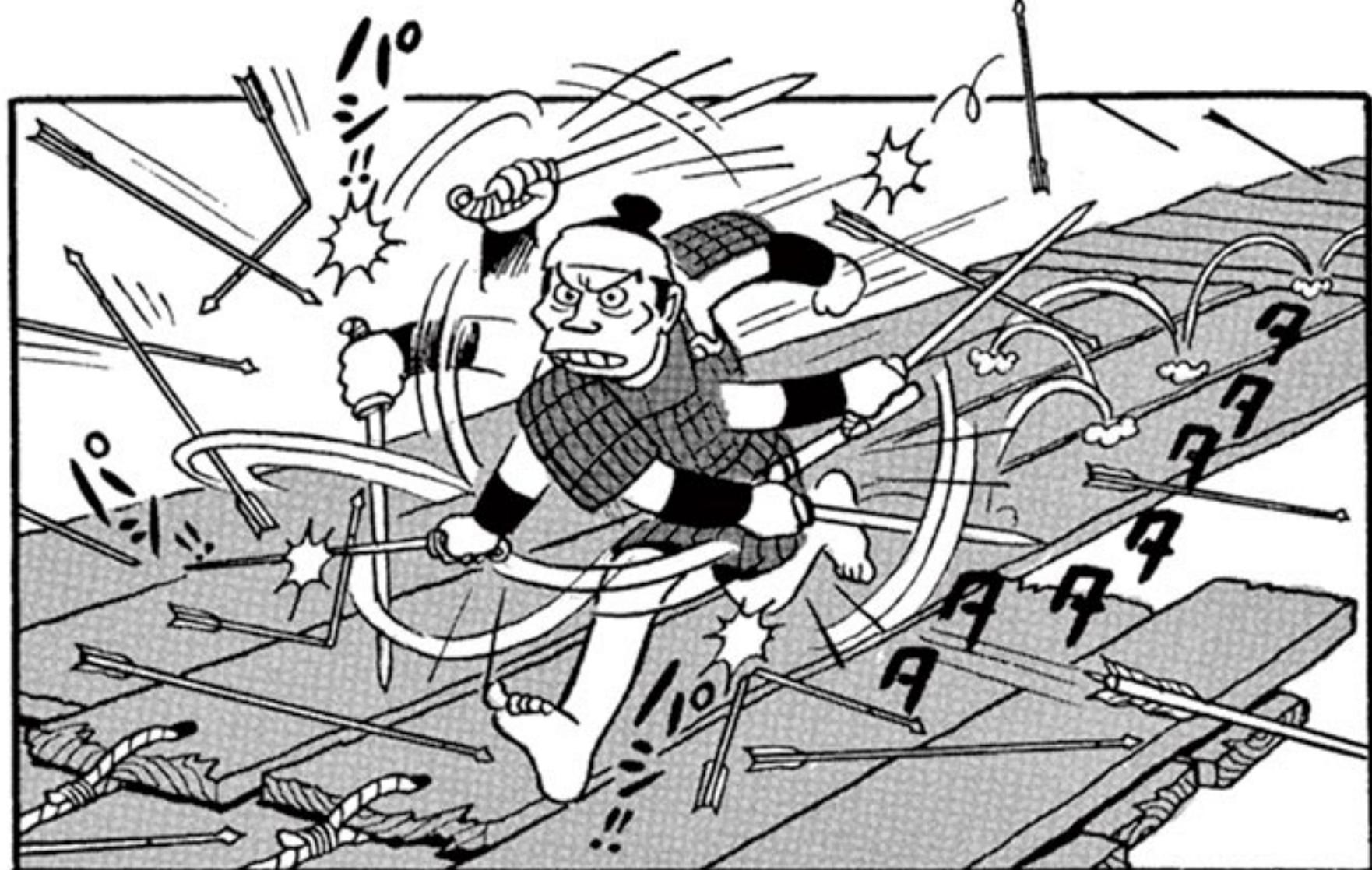




瀬田川の東岸に
陣をしきました。
各地で近江軍を
やぶりながら、
琵琶湖の南、
大海人軍は、







*壬申の年…中国の昔の暦による年および名。60年に一度同じおよび名の年が来る。
わずか一ヶ月ばかりの戦いで、大海人皇子は近江朝廷をたおしました。この戦いは、「壬申の乱」といいます。

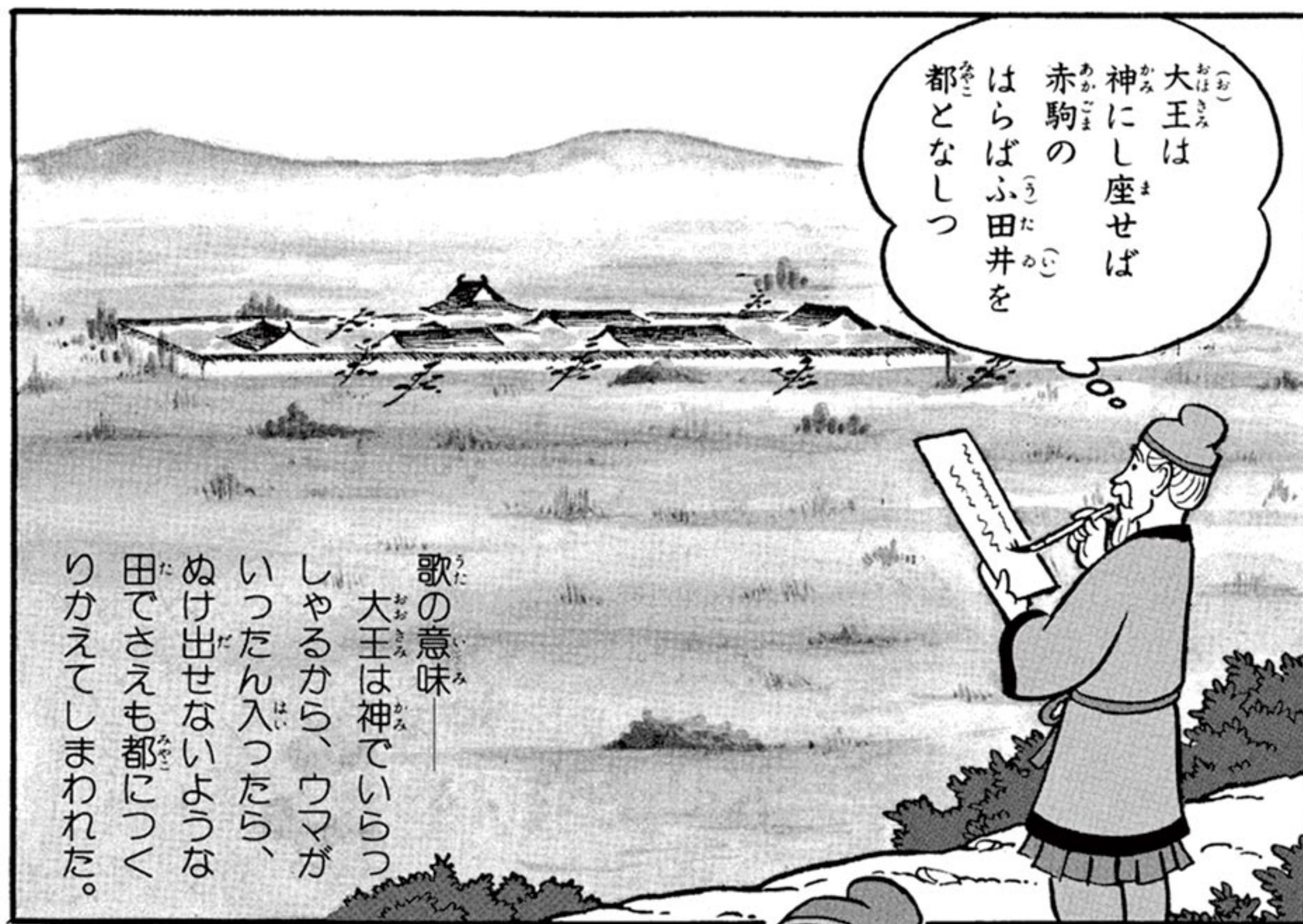


*壬申の年…中国の昔の暦による年および名。60年に一度同じおよび名の年が来る。

六七二年、大海人皇子は、飛鳥にもどり、新しい宮で天皇の位につきました。天武天皇といいます。

大王は神にし座せば
赤駒のらばふ田井を
都となしつ

歌の意味
大王は神でいらつ
しやるから、ウマが
いつたん入つたら、
ぬけ出せないような
田でさえも都につく
りかえてしまわれた。





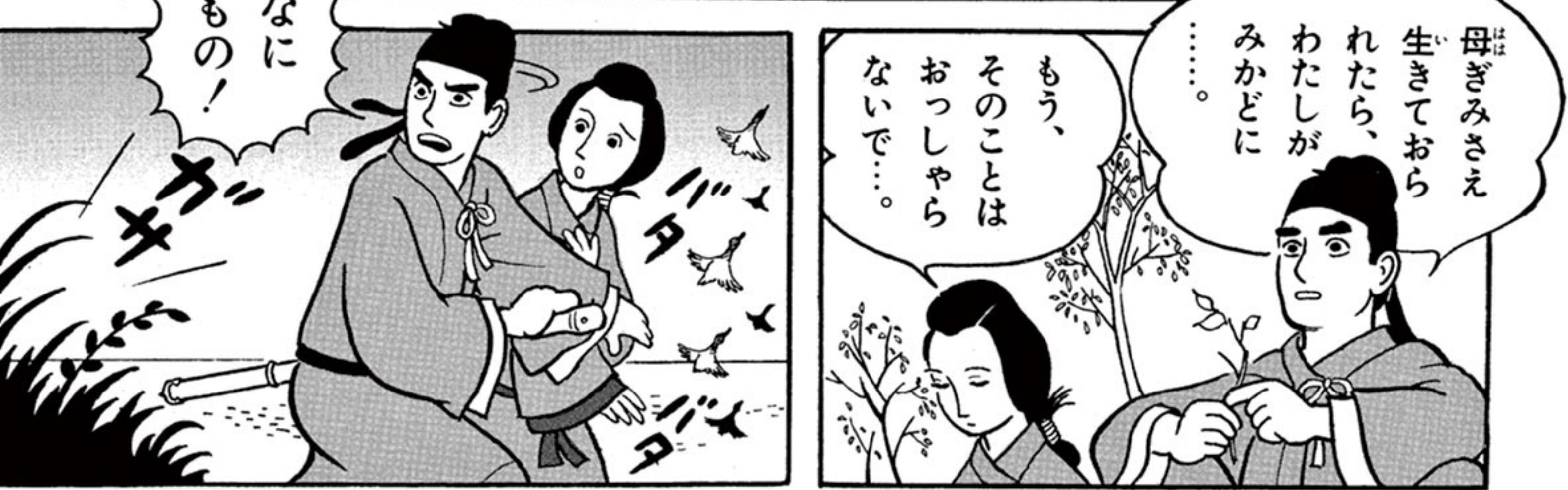
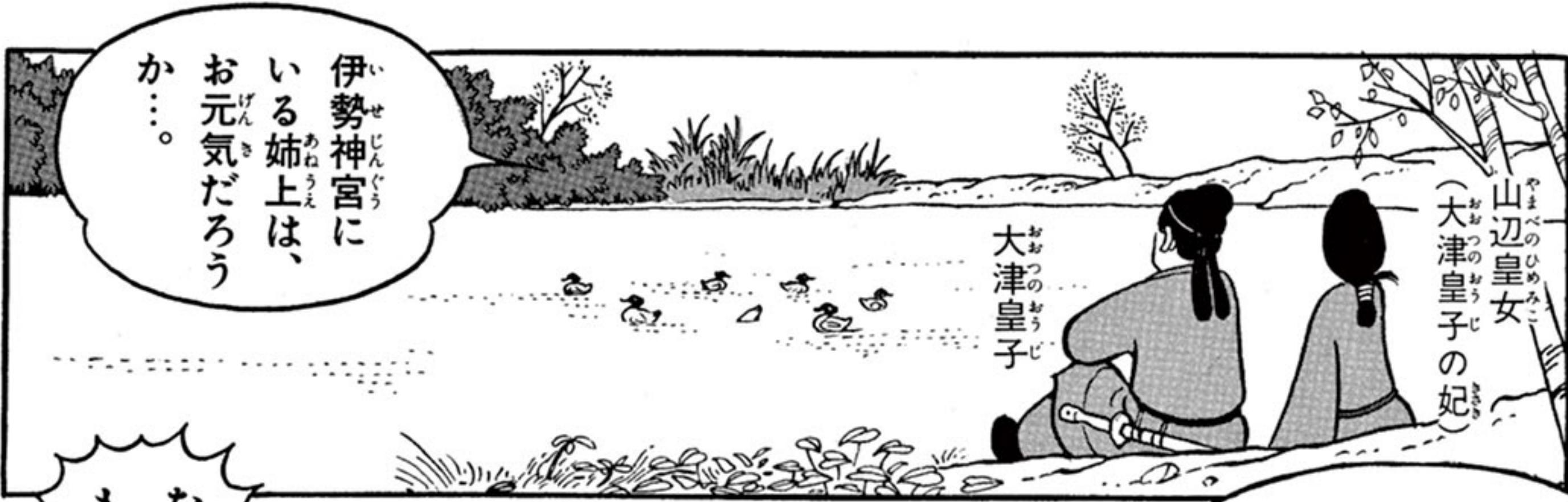
書紀」と「古事記」です。後になつて、これらの歴史書が完成します。「日本

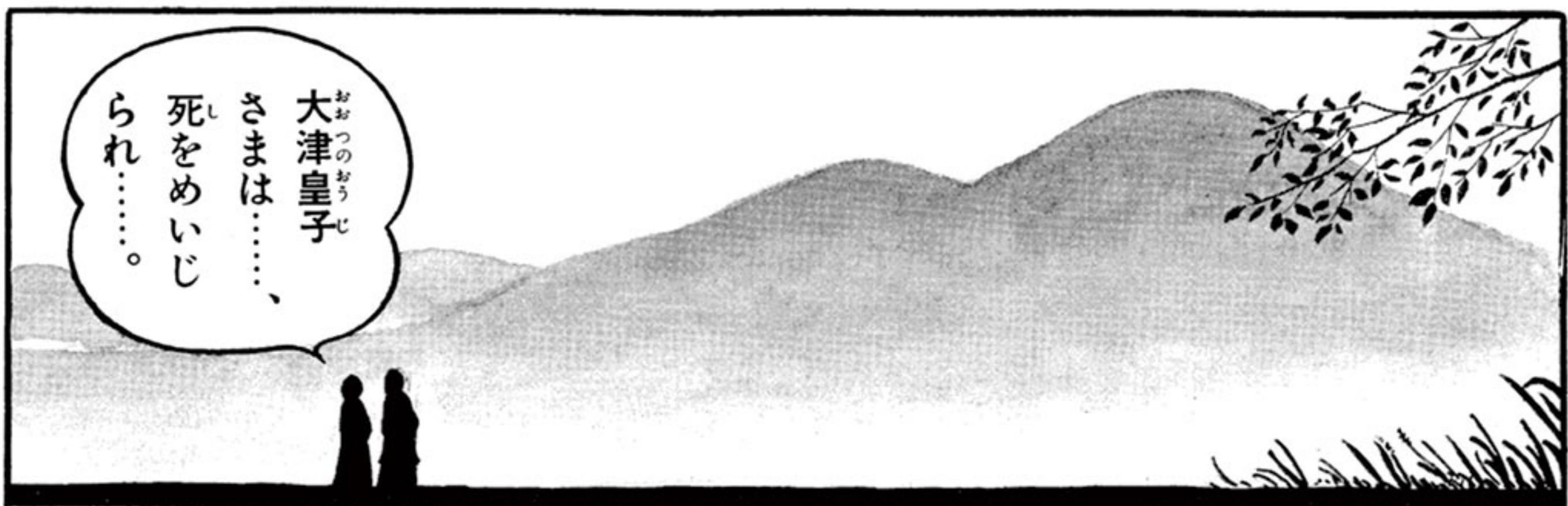
*語り部…古い言い伝えなどを記憶して語りつたえる人の集団。稗田阿礼は女性、という説もあります。

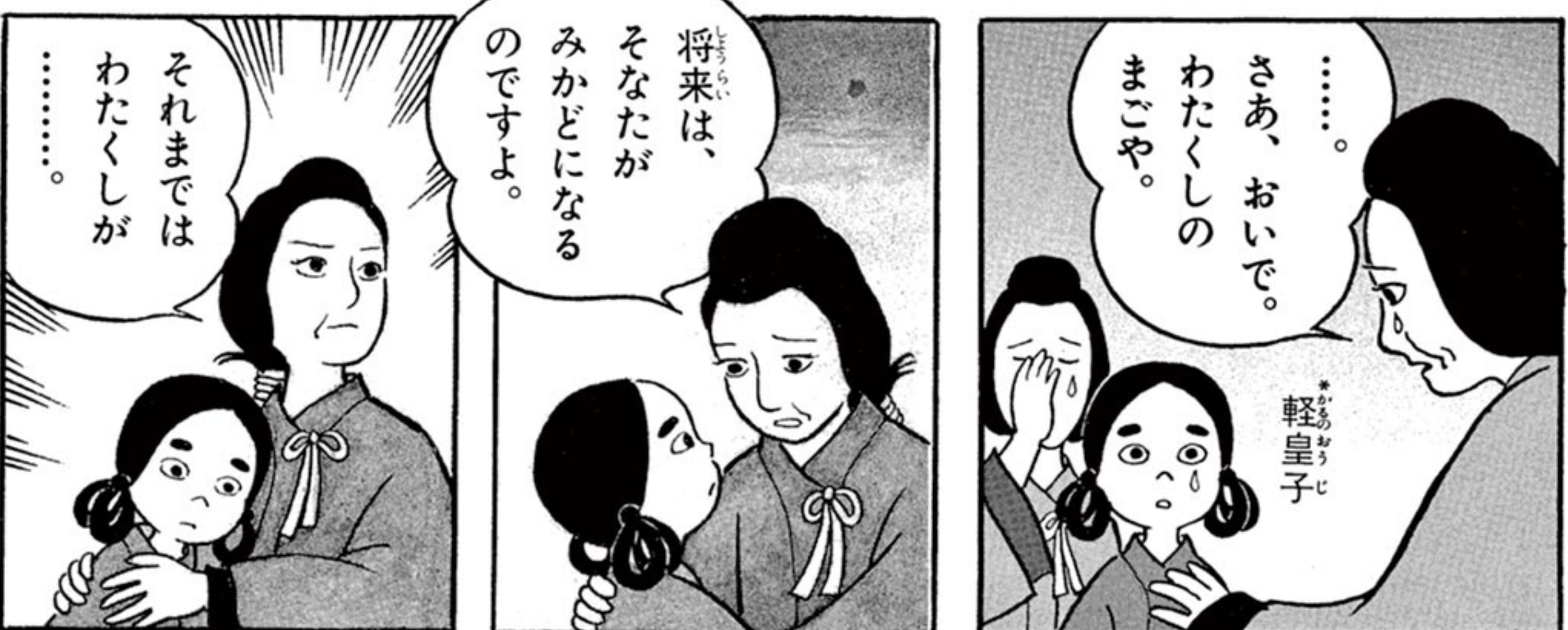
*天武天皇は683年、今後は銅銭を使うよう命じました。これを富本銭といい、

日本で最初に作られた貨幣であるともいわれています。





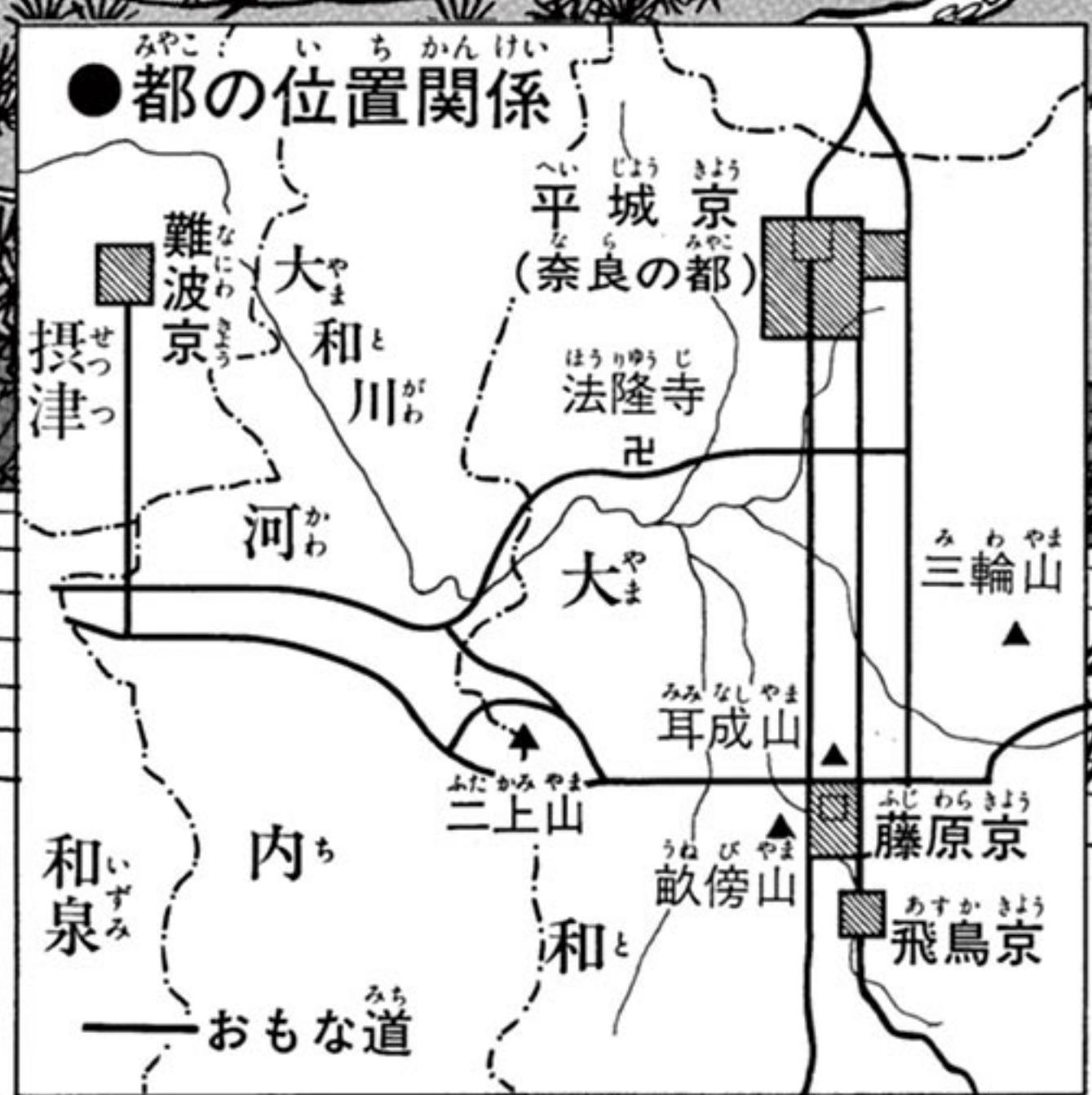




* 軽皇子…「珂瑠皇子」とも書く。



六九四年、これまでにない
りっぱな都が、中國の都にな
らつてつくられました。
「藤原京」といいます。



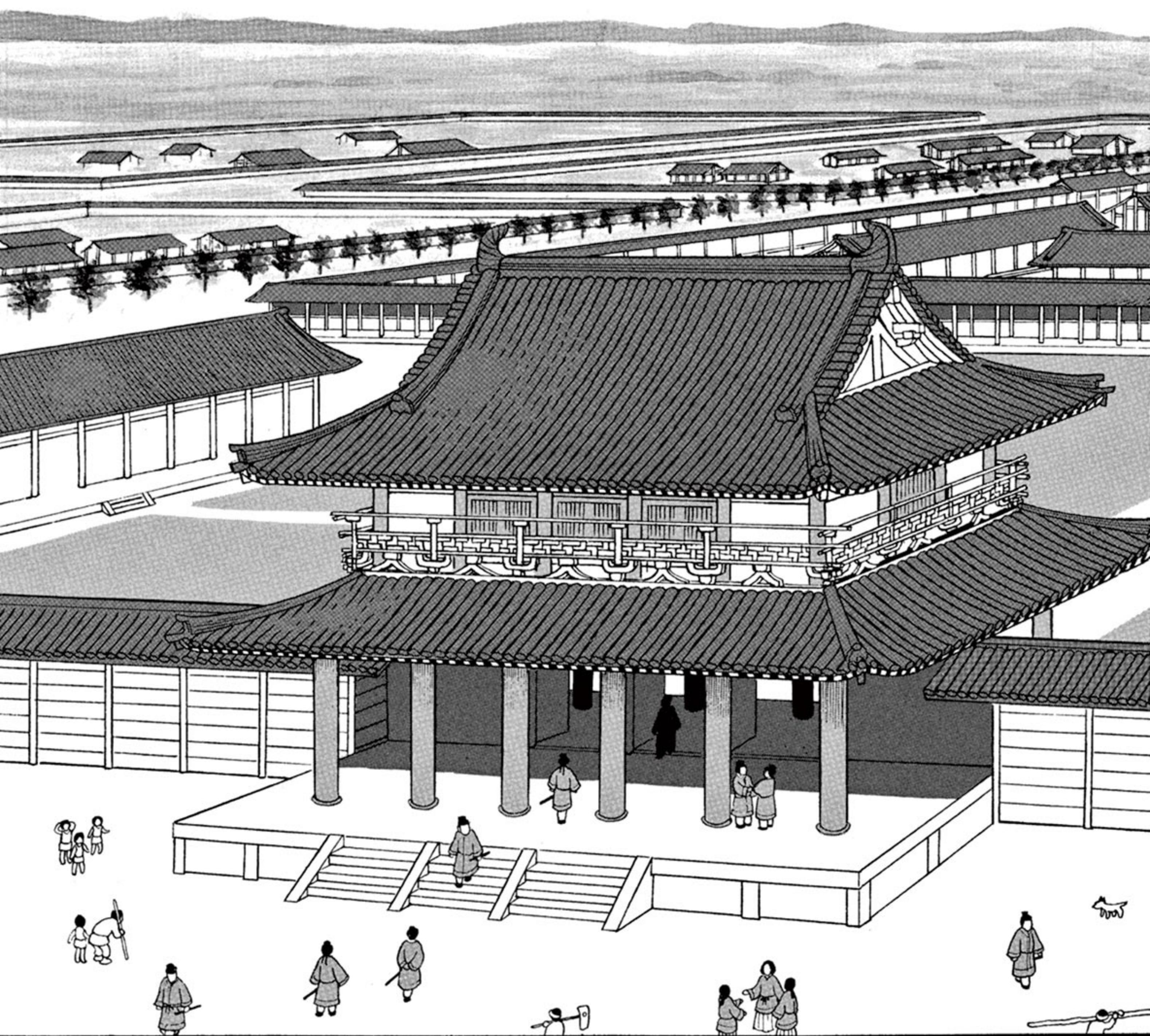
うほん！

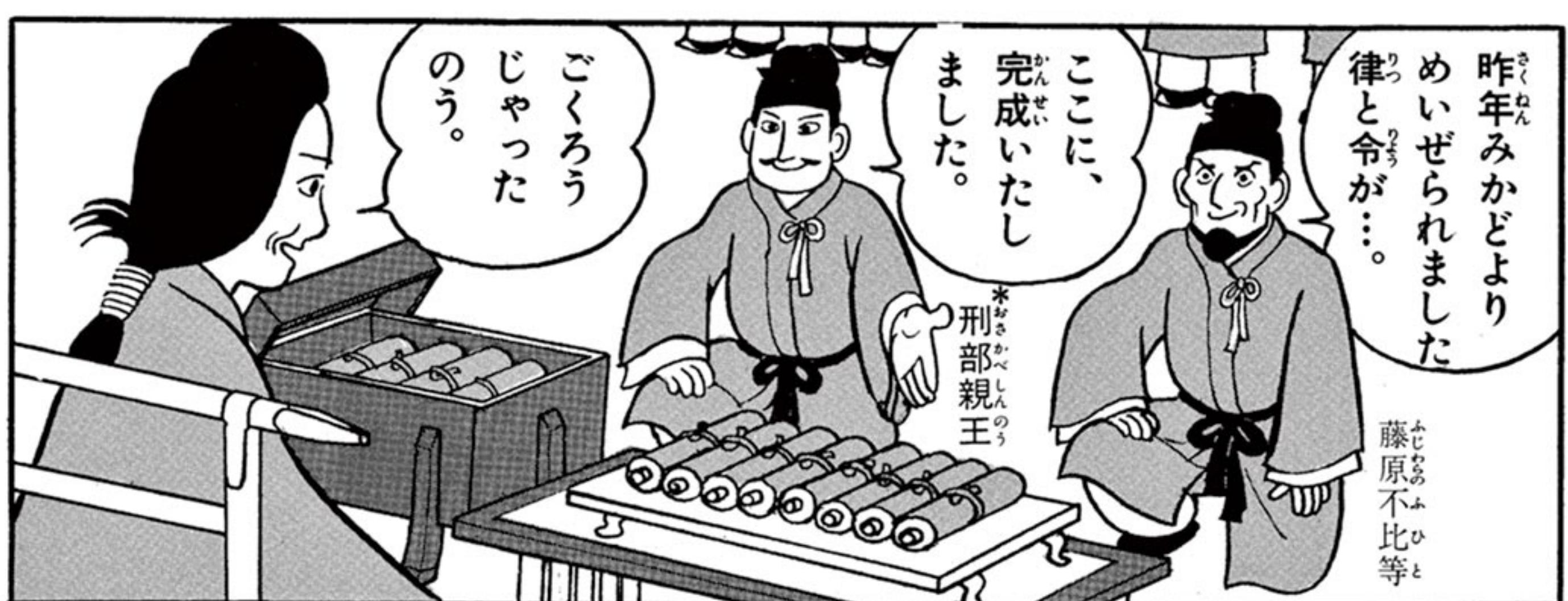
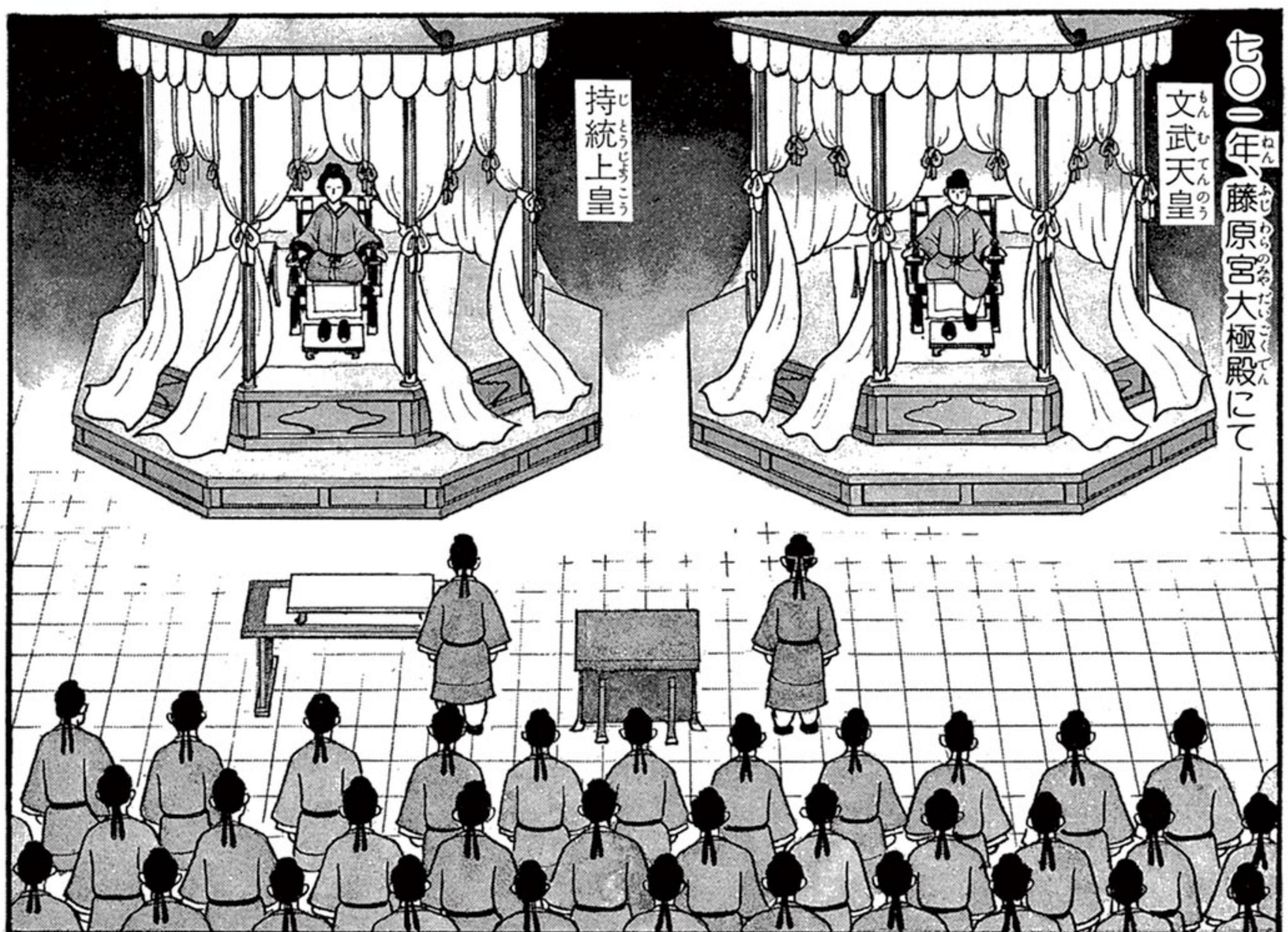
不比等
さまだ。

おつ。

*六九七年、持統天皇は、
文武天皇に位をゆずりました。
持統天皇は、
太上天皇（じとうてんのう）
となつて、わかい天皇の
後見役となりました。

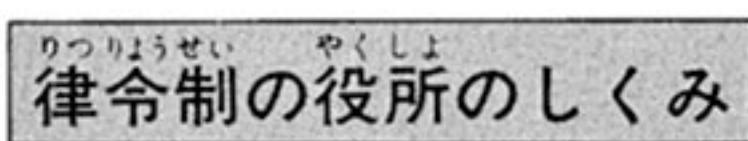
*太上天皇：位をしりぞいた天皇。



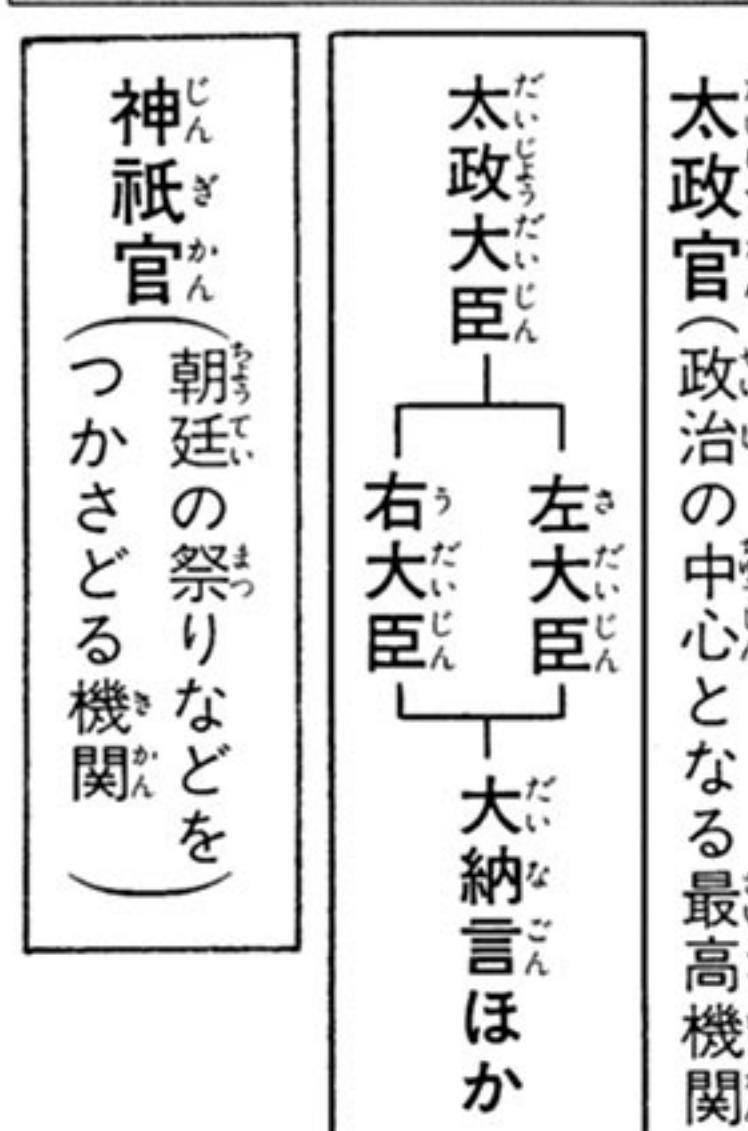


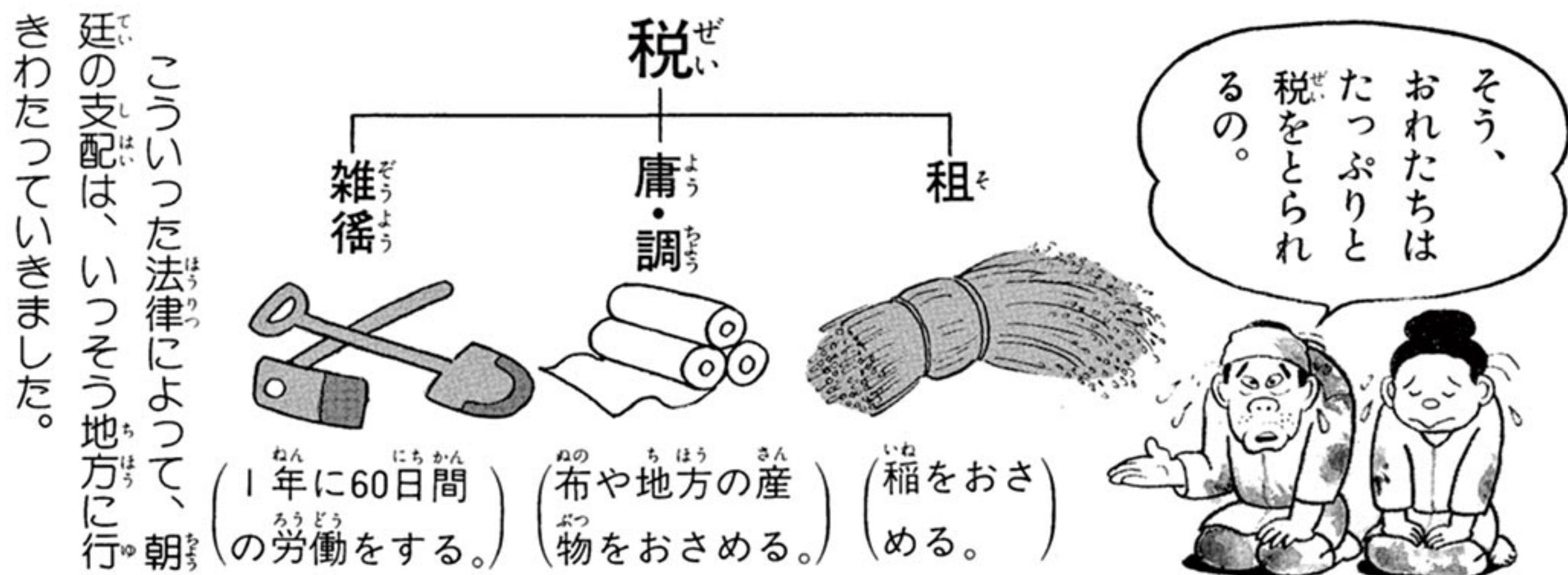
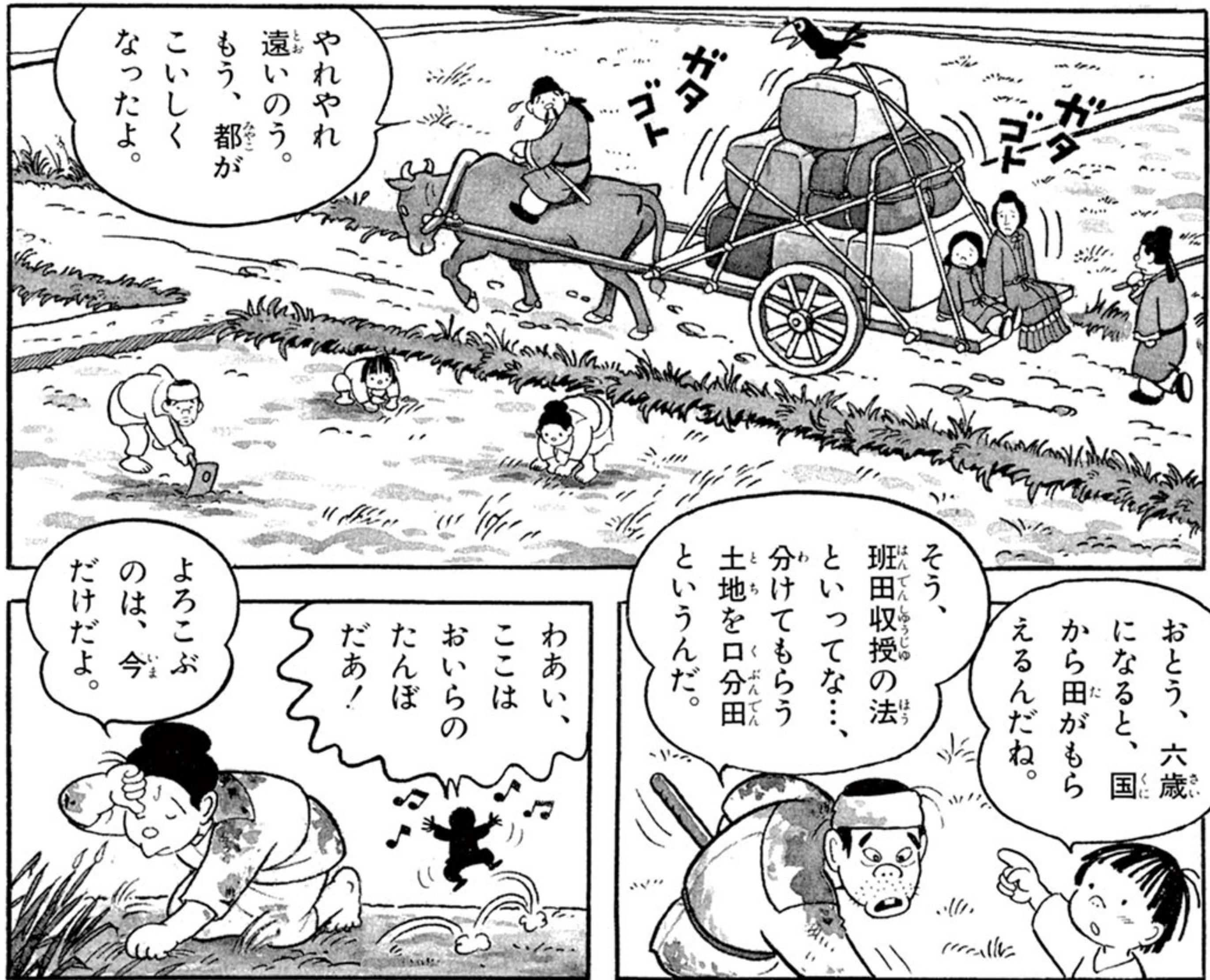
* 刑部親王：天武天皇の子。

高松塚古墳に葬られているという説がある。

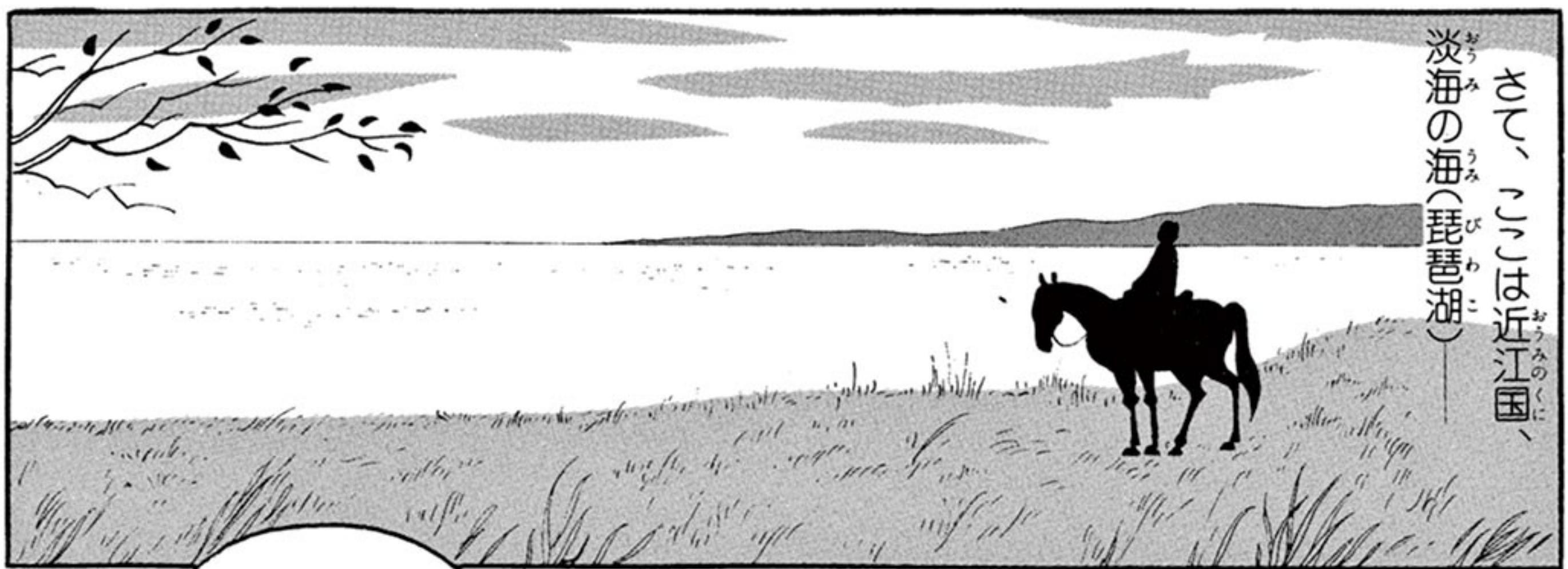


これを、「大宝律令」といい、前の「淨御原令」を基にすべかられたものです。その内容を少しみてみましょう。

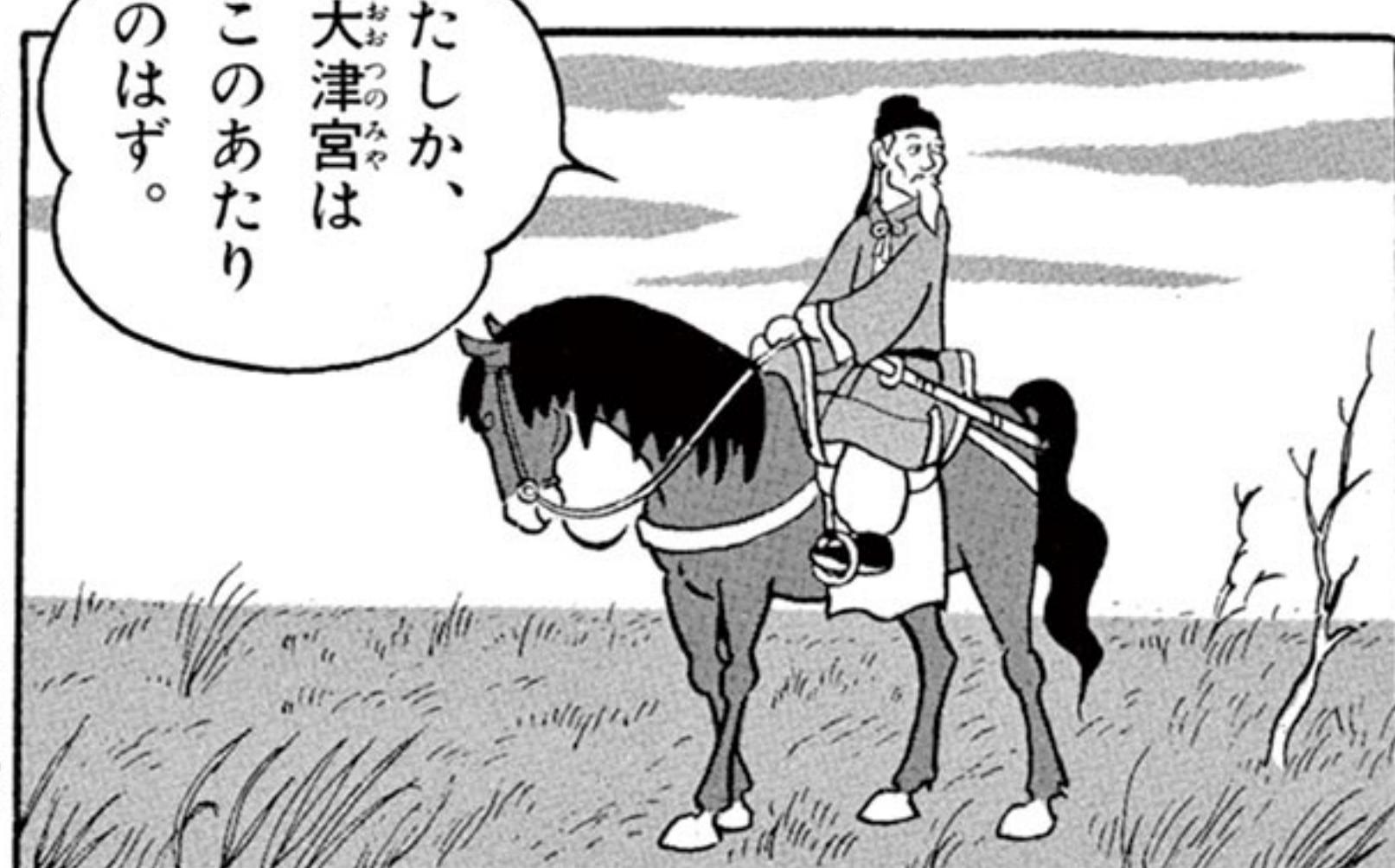




さて、ここは近江国、
淡海の海(琵琶湖)



つがえた、柿本人麻呂として、持統天皇に

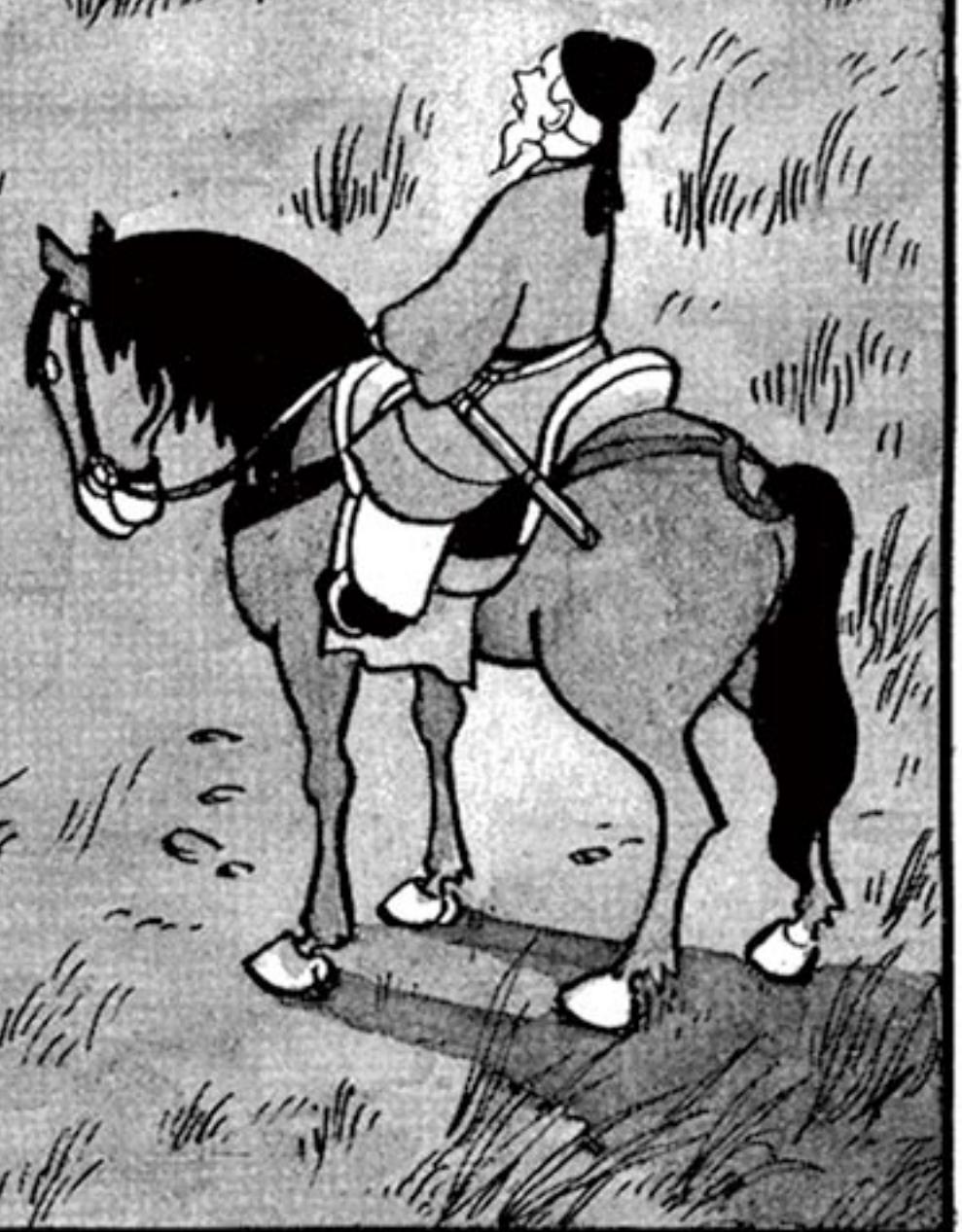




淡海の海
夕波千鳥
汝なが鳴けば
心もしのに
いにしへ思ほゆ

天智天皇の死後、天皇の位をめぐる争いからあこつた壬申の乱は、大きな戦いとなりましたが、近江朝廷に不満をもつ豪族たちの支持をえた大海人皇子（天武天皇）が勝利をえました。乱後、天武天皇は、大化の改新の考え方をおしすすめる方針で政治を行ひ、持統天皇がそれをうけつぎました。やがて、大宝律令をさだめることによつて、天皇中心の国の制度が完成したのです。

歌の意味
の夕ぐれの時と
鳥よ、あまえが鳴
遠い昔のことがしみじ
みと思ひ出される。



小学館 eBooks

おうちの方へ

飛鳥の朝廷

京都教育大学名誉教授

高山博之

壮大な古墳の築造の始まるこの巻は、謎の多い日本の古代国家成立の過程を描いています。

古墳時代と飛鳥時代（4世紀～8世紀初頭）に相当しますが、古墳時代は、各地に巨大な古墳が造られた特異な時代であり、大和政権が近畿地方を中心に国土統一を進めた時期でもあります。

6世紀末の飛鳥時代、聖徳太子のころから天皇を中心の国家体制が整いはじめ、大化の革新をへて中国にならつた律令制度に基づく古代国家が確立します。これらの過程を、人物の動きを中心、東アジア全体の視野でとらえさせてください。

●第1章 「大王と古墳」

巨大古墳がどのような方法で造られたか、まずその点に注目しましょう。古墳は3～7世紀

に各地で造られましたが、特に近畿地方には、4、5世紀の巨大な古墳が集中しています。

古墳の存在は、その地域にたくさんの人びとを労役にかりたてることができる強力な豪族がいたことを示しています。近畿地方では、大王とよばれる強大な豪族を中心に大和政権が生まれ、国土統一を進めていくのです。

国土統一の実体は、まだ不明な点が多くあります。遺跡の発掘は「記紀」の神話、中国史書などを手がかりに研究されていますが、史実と伝承の混同に注意し学習させることが大事です。

●第2章 「聖徳太子と仏教伝来」

仏教信仰が広がってきた6世紀後半は、氏姓制社会がゆきづまつて豪族の対立が激化し、朝鮮半島でも日本の勢力が後退するなど、内外とも動搖が大きくなつた時期です。仏教伝来をめ

ぐる蘇我・物部両氏の争いは、それらを象徴的に示した出来事です。

聖德太子の政治改革は、この混乱期に行われたもので、天皇の権威の確立、朝鮮問題への対処、中国との対等外交など多くの難問に取り組んで、古代国家の変革に先鞭をつけました。

太子は子ども達にも親しみやすい人物ですか
ら、その人間性に触れながら、時代の課題に立ち向かつた姿を理解させたいものです。

●第3章「大化の革新」

聖徳太子の死後、強大な権力を誇った蘇我氏を、中大兄皇子（後の天智天皇）らが倒し、新しい国家体制をめざして行つた変革が大化の革新です。中国の唐帝国の律令制度にならつた政治を目指とし、公地公民制を基礎に天皇中心の中央集権国家の体制が構想されたのです。

しかし、改革の道は平坦ではありませんでした。血なま臭い争いが続き、対外的には朝鮮半島で唐、新羅連合軍に日本軍が大敗するなど、

多くの困難な事態が次々に起こります。
たくさん的人物が登場しますが、中大兄皇子と中臣（藤原）鎌足を中心に整理してとらえ、変革の方向を大きく掘むよう配慮してください。

●第4章「壬申の乱」

天智天皇の死後に起こった古代における最大の内乱、壬申の乱を中心に展開し、乱後の天武・持統朝における天皇制確立に至るまでを描いています。改新政治によつて生じた不満や対立が皇位継承の争いとかかわつて爆発したのが壬申の乱ですが、勝つた天武天皇、皇后の持統天皇の二代にわたり律令政治が整えられ、文武天皇の七〇一年に大宝律令が完成し、天皇中心の中集権的な国家体制が確立します。

律令政治に基づく国家のかたち、天皇の地位などについて理解させるとともに、都の移り変わりや事件のあつた場所を地図で確かめるなどの学習もあつていいでしよう。最後の柿本人麻呂の姿や歌から何かを感じさせたいものです。

児玉幸多

Kouta Kodama



歴史を漫画で説明しようというのはかなり冒険である。しかし、文字で読んでも、耳から聞いても、人それぞれに頭の中ではその光景を絵に描いているのである。それが子供たちの頭の中で全くの絵空事にならないように、今の歴史研究の段階では、このくらいのところまでは漫画にすることができるのではないかという試みがこの企画である。

それぞれの専門研究家の指導によって一巻ごとの構成を決め、作図や文章表現も考慮しているので、誤った知識を得る恐れはないと思う。そして、多分、大人が読んでも、あるいは見ても、十分に楽しみながら日本歴史の学習ができるのではないかとも考えている。遺跡の発掘、奈良の大仏の铸造、天守閣の構築、それらの一つ一つにも、専門家の新しい研究成果が判りやすく盛りこまれているからである。楽しみながら正確な知識が得られることを願う次第である。

小学館 eBooks

学習まんが 少年少女 日本の歴史 第2巻 飛鳥の朝廷

2015年3月27日 電子書籍版発行

監修 児玉幸多

まんが あおむら 純

発行人 伊藤 護

発行所 株式会社 小学館

〒101-8001

東京都千代田区一ツ橋 2-3-1

s-ebook@shogakukan.co.jp

底本 2014年10月7日 増補版第29刷発行

©SHOGAKUKAN 2015 ISBN978-4-09-298102-7

※ご注意

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。

個人利用の目的以外での複製など違法行為、もしくは第三者への譲渡をしますと著作権法、その他関連法によって処罰されます。